

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第四十冊

坪井遺跡

2002. 3

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団
香 川 県 土 木 部

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第四十冊

坪井遺跡

2002. 3

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団
香 川 県 土 木 部



I区-③ 遺構検出状況



II区-① 作業風景



Ⅱ区一① SB07 全景



SR01 出土土器



SR06 出土土器



SR06 出土黑色土器

序 文

四国横断自動車道（津田～引田）の建設は、県内の高速道路網の早期完成を目指して、平成5年度の施行命令以後、継続して進められ、平成13年春に完成いたしました。

この道路の建設に伴い、香川県教育委員会では、平成8年度から埋蔵文化財の発掘調査を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して行ってまいりました。また、発掘調査と並行して、平成11年度からは出土品の整理業務を同センターに委託して実施いたしております。

このたび、「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四十冊」として刊行いたしますのは、大川郡大内町に所在する坪井遺跡についてであります。

坪井遺跡の調査では、弥生時代後期から近世にかけての遺構・遺物が検出され、特に奈良時代の中頃から後半にかけてのものがこの遺跡の主体を占めていることが判りました。中でも、大型の掘立柱建物の存在や、「王」字刻印の施された須恵器を含む文字資料の出土は、同時代の公的施設である官衙を考える上で貴重な資料となると考えられます。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、日本道路公団および関係諸機関並びに地元関係各位には多大な御援助と御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年3月

香川県教育委員会

教育長 折原 守

例 言

1. 本報告書は、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第四十冊で香川県大川郡大内町中山に所在する坪井遺跡（つばいいせき）の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が日本道路公団から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

予備調査 期間 平成8年

担当 大久保徹也，住野正和，高橋佳織里

期間 平成10年6月1日～平成10年7月31日

担当 木下晴一，香西 亮，中山尚子

期間 平成10年12月3・4日

担当 池田道雄，小野秀幸，山坂浩樹

本調査 期間 平成10年10月1日～平成11年3月31日

担当 中西 昇，島田英夫，池田道雄，小野秀幸，糸山 晋，山坂浩樹

4. 調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県土木部横断自動車道対策総室，同長尾土木事務所横断道対策課，大内町横断道対策室，四国横断自動車道建設大内町中山地区対策協議会，地元自治会・水利組合

国立歴史民俗博物館 平川 南

奈良国立文化財研究所（現 奈良文化財研究所）川越俊一

宮城県多賀城跡調査研究所 白鳥良一・古川一明・吾妻俊典

宮城県教育庁文化財保護課 村田晃一・佐藤憲幸

財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 大金宣亮・大橋泰夫・田代 隆・内山敏行

仙台市教育委員会 長島栄一・木村浩二・松本知彦

栃木県下都賀郡国分寺町教育委員会 山口耕一・木村友則

埼玉県比企郡鳩山町教育委員会 渡辺 一

5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆，編集は小野秀幸が担当した。

6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第Ⅳ系の北であり、標高はT. P. を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。なお、掘柱建物を構成する柱穴は、遺構略号SBの後にP01, P02……という形で記載する。

SB 掘立柱建物跡 SD 溝状遺構 SK 土坑 SP 柱穴
SX 不明遺構 SR 自然流路跡

7. 挿図の一部に国土地理院地形図 三本松 (1/25,000) を使用した。

8. 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値 (単位m) である。また、遺構断面図は、平面図上にある図化した断面のラインに対して平行する様に配置している。

9. 土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳1994年度版』を使用して表す。

本文目次

| | |
|-----------------|-----|
| 序文 | |
| 例言 | |
| 第1章 調査の経緯 | 1 |
| 第1節 調査にいたる経過 | 1 |
| 第2節 調査の経過と体制 | 1 |
| 1 調査の経過 | 1 |
| 2 発掘調査及び整理作業の体制 | 3 |
| 第2章 立地と環境 | 4 |
| 第1節 地理的環境 | 4 |
| 第2節 歴史的環境 | 4 |
| 第3節 予備調査 | 8 |
| 第4節 調査の方法 | 8 |
| 第3章 検出した遺構と遺物 | 10 |
| 第1節 調査区概要 | 10 |
| 第2節 遺構の概要 | 11 |
| 第3節 遺物の概要 | 31 |
| 第4章 まとめ | 63 |
| 第1節 遺構 | 63 |
| 第2節 遺物 | 70 |
| 挿図 | 77 |
| 土器観察表 | 165 |
| 石器観察表 | 213 |
| 木製品観察表 | 217 |
| 写真図版 | |
| 報告書抄録 | |
| 付図 2枚 | |

挿図目次

| | | | | | |
|------|--|-------|------|---|-----|
| 第1図 | 四国横断自動車道(津田~引田), 埋蔵文化財包蔵地 (遺跡名番号)..... | 79 | 第40図 | SK03 平・断面図(1/60)..... | 111 |
| 第2図 | 遺跡位置図(1)..... | 80 | 第41図 | SK04 平・断面図(1/60)..... | 112 |
| 第3図 | 遺跡分布図(1/50,000)..... | 81 | 第42図 | SK05 平・断面図(1/60)..... | 112 |
| 第4図 | 遺跡位置図(2)(1/4,000)..... | 82 | 第43図 | SK06 平・断面図(1/60)..... | 112 |
| 第5図 | 予備調査トレンチ配置図(1/2,500)..... | 83 | 第44図 | SK07 平・断面図(1/60)..... | 112 |
| 第6図 | 予備調査トレンチ土層断面図(1) (天地1/40, 左右1/160)..... | 84 | 第45図 | SK08 平・断面図(1/60)..... | 112 |
| 第7図 | 予備調査トレンチ土層断面図(2) (天地1/40, 左右1/160)..... | 85 | 第46図 | SE01 平・断面図(1/40)..... | 113 |
| 第8図 | 予備調査トレンチ土層断面図(3) (天地1/40, 左右1/160)..... | 86 | 第47図 | SD01 断面図(1/60)..... | 114 |
| 第9図 | I区 遺構平面図(1/400)..... | 87 | 第48図 | SD04 断面図(1/60)..... | 114 |
| 第10図 | I区 土層断面図(天地1/40, 左右1/160)..... | 89~90 | 第49図 | SD09 断面図(1/60)..... | 114 |
| 第11図 | II区 遺構平面図(1/400)..... | 91 | 第50図 | SD10 断面図(1/60)..... | 114 |
| 第12図 | II区 土層断面図(天地1/40, 左右1/160)..... | 93~94 | 第51図 | SD11, SD12, SD19 断面図(1/60)..... | 114 |
| 第13図 | III区 平・断面図(天地1/40, 左右1/160)..... | 95 | 第52図 | SD18 断面図(1/60)..... | 115 |
| 第14図 | III区 土層断面図(天地1/40, 左右1/160)..... | 97~98 | 第53図 | SD20 断面図(1/60)..... | 115 |
| 第15図 | SB01, SB02 平・断面図(1/80)..... | 99 | 第54図 | SD30 断面図(1/60)..... | 115 |
| 第16図 | SB03 平・断面図(1/80)..... | 100 | 第55図 | SD31 断面図(1/60)..... | 115 |
| 第17図 | SB04 平・断面図(1/80)..... | 101 | 第56図 | SD36, SD37, SD44 断面図(1/60)..... | 116 |
| 第18図 | SB05 平・断面図(1/80)..... | 102 | 第57図 | SD39 断面図(1/60)..... | 116 |
| 第19図 | SB06 平・断面図(1/80)..... | 103 | 第58図 | SD40 断面図(1/60)..... | 116 |
| 第20図 | SB07 平・断面図(1/80)..... | 104 | 第59図 | SD41 断面図(1/60)..... | 116 |
| 第21図 | SB08 平・断面図(1/80)..... | 105 | 第60図 | SD42 断面図(1/60)..... | 117 |
| 第22図 | SB09 平・断面図(1/80)..... | 106 | 第61図 | SD50 断面図(1/60)..... | 117 |
| 第23図 | SB10, SA01 平・断面図(1/80)..... | 107 | 第62図 | SD56 断面図(1/60)..... | 117 |
| 第24図 | SB11 平・断面図(1/80)..... | 108 | 第63図 | SD58, SD59 断面図(1/60)..... | 117 |
| 第25図 | SB12 平・断面図(1/80)..... | 109 | 第64図 | SD60 断面図(1/60)..... | 117 |
| 第26図 | SP09 断面図(1/60)..... | 110 | 第65図 | SD63 断面図(1/60)..... | 118 |
| 第27図 | SP25 断面図(1/60)..... | 110 | 第66図 | SD68 断面図(1/60)..... | 118 |
| 第28図 | SP30 断面図(1/60)..... | 110 | 第67図 | SD69, SD70 断面図(1/60)..... | 119 |
| 第29図 | SP36 平・断面図(1/60)..... | 110 | 第68図 | SD71, SD75, SD94 断面図(1/60)..... | 119 |
| 第30図 | SP37 断面図(1/60)..... | 110 | 第69図 | SD72, SD78, SD83, SD96 断面図(1/60)..... | 119 |
| 第31図 | SP43 断面図(1/60)..... | 110 | 第70図 | SD73, SD77, SD89, SD98 断面図(1/60)..... | 119 |
| 第32図 | SP58 断面図(1/60)..... | 110 | 第71図 | SD76 平・断面図(1/60) SD86 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第33図 | SP71 断面図(1/60)..... | 110 | 第72図 | SD79 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第34図 | SP77 断面図(1/60)..... | 110 | 第73図 | SD80 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第35図 | SP79 断面図(1/60)..... | 110 | 第74図 | SD82 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第36図 | SP87 断面図(1/60)..... | 110 | 第75図 | SD84 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第37図 | SP103 断面図(1/60)..... | 110 | 第76図 | SD93 断面図(1/60)..... | 120 |
| 第38図 | SP117 断面図(1/60)..... | 110 | 第77図 | SD99 平・断面図(1/20)..... | 121 |
| 第39図 | SK02 平・断面図(1/60)..... | 111 | 第78図 | SD103 断面図(1/60)..... | 121 |
| | | | 第79図 | SD104 断面図(1/60)..... | 121 |
| | | | 第80図 | SD113 断面図(1/60)..... | 121 |
| | | | 第81図 | SD115 断面図(1/60)..... | 121 |

| | | | | | |
|-------|---|-----|-------|---|-----|
| 第82図 | SD119 断面図 (1/60)..... | 121 | 第108図 | SD89・93・94・96・98・99・103・104・113・115・ 117 出土遺物..... | 142 |
| 第83図 | SD124, 126 断面図 (1/60)..... | 121 | 第109図 | SD119・124 出土遺物..... | 143 |
| 第84図 | SR01 断面図 (1/40)..... | 122 | 第110図 | SR01 (1) 出土遺物..... | 144 |
| 第85図 | SR03 断面図 (1/40)..... | 123 | 第111図 | SR01 (2) 出土遺物..... | 145 |
| 第86図 | SR06 断面図 (1/40) 平面図1 (1/20)..... | 124 | 第112図 | SR01 (3) 出土遺物..... | 146 |
| 第87図 | SR06 平面図2 (1/20)..... | 125 | 第113図 | SR01 (4) 出土遺物..... | 147 |
| 第88図 | SX01 平・断面図 (1/60)..... | 126 | 第114図 | SR01 (5)・SR03 (1) 出土遺物..... | 148 |
| 第89図 | SX05 平・断面図 (1/60)..... | 126 | 第115図 | SR03 (2)・SR05・SR06 (1) 出土遺物..... | 149 |
| 第90図 | SX06 平・断面図 (1/60)..... | 126 | 第116図 | SR06 (2) 出土遺物..... | 150 |
| 第91図 | SX09 平・断面図 (1/60)..... | 126 | 第117図 | SX07・SX04 (1) 出土遺物..... | 151 |
| 第92図 | SX10 平・断面図 (1/60)..... | 126 | 第118図 | SX04 (2)・SX05・溜池状遺構出土遺物..... | 152 |
| 第93図 | SX04 平・断面図 (1/60)..... | 127 | 第119図 | I区包含層 (1) 出土遺物..... | 153 |
| 第94図 | SX07 遺物出土状況 (1/10)..... | 128 | 第120図 | I区包含層 (2) 出土遺物..... | 154 |
| 第95図 | SB・SP 出土遺物..... | 129 | 第121図 | I区包含層 (3) 出土遺物..... | 155 |
| 第96図 | SE01・SE03 出土遺物..... | 130 | 第122図 | I区包含層 (4) 出土遺物..... | 156 |
| 第97図 | SK01・02・04・08 出土遺物..... | 131 | 第123図 | I区トレンチ掘削, II区包含層 (1) 出土遺物 | 157 |
| 第98図 | SD01・04・09・10・11・12 出土遺物..... | 132 | 第124図 | II区包含層 (2) 出土遺物..... | 158 |
| 第99図 | SD18・20・30・31 出土遺物..... | 133 | 第125図 | II区包含層 (3)・III区包含層 出土遺物..... | 159 |
| 第100図 | SD36・37 出土遺物..... | 134 | 第126図 | 出土石器 (1)..... | 160 |
| 第101図 | SD39~41, 42 (1) 出土遺物..... | 135 | 第127図 | 出土石器 (2)..... | 161 |
| 第102図 | SD42 (2)・SD44 (1) 出土遺物..... | 136 | 第128図 | SE01出土木製品..... | 162 |
| 第103図 | SD44 (2) 出土遺物..... | 137 | 第129図 | 遺跡周辺地割図及び旧状地割図..... | 163 |
| 第104図 | SD50・56・58・60・63・68~71, 72 (1) 出土遺物..... | 138 | 第130図 | 坪井遺跡出土黒色土器集成図..... | 164 |
| 第105図 | SD72 (2)・73・76・77 出土遺物..... | 139 | 第131図 | 坪井遺跡・川津川西遺跡出土刻印須恵器 刻印部実測図及び拓本 (1/1)..... | 72 |
| 第106図 | SD78~80, 82~84 出土遺物..... | 140 | | | |
| 第107図 | SD86 出土遺物..... | 141 | | | |

巻頭図版目次

| | | | |
|--------|------------------|--------|----------------|
| 巻頭図版 1 | 1. I区-③ 遺構検出状況 | 巻頭図版 3 | 4. SR01 出土土器 |
| | 2. II区-① 作業風景 | | 5. SR06 出土土器 |
| 巻頭図版 2 | 3. II区-① SB07 全景 | 巻頭図版 4 | 6. SR06 出土黒色土器 |

図版目次

| | | | |
|------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 図版 1 | 1. I区-① 全景 | 8. I区-① 南半部 全景 (北東上から) | |
| | 2. I区-② 全景 | 図版 5 | 9. I区-② 南半部 全景 (東から) |
| 図版 2 | 3. I区-③ 全景 | | 10. I区-② 北半部 全景 (東から) |
| | 4. II区-①・III区-① 全景 | 図版 6 | 11. I区-③ 遺構検出状況 (東から) |
| 図版 3 | 5. II区-② 全景 | | 12. I区-③ 北半部 全景 (西から) |
| | 6. III区-② 全景 | 図版 7 | 13. I区-③ 南半部 全景 (北西から) |
| 図版 4 | 7. I区-① 南西部 全景 (東上から) | | 14. I区-③ 南半部 全景 (西から) |

- 図版8 15. II区-① 全景(南から)
16. II区-① 全景(西から)
- 図版9 17. II区-② 全景(南上から)
18. II区-② 北半部 全景(南上から)
- 図版10 19. III区 全景(西から)
20. III区 全景(南西から)
- 図版11 21. III区-② 全景(西から)
22. III区-② 全景(南から)
- 図版12 23. I区-① 西壁土層(東から)
24. I区-① 西壁土層(東から)
- 図版13 25. I区-① 中央トレンチ西壁土層(東から)
26. I区-① 中央トレンチ東壁土層(西から)
- 図版14 27. I区-② 予備調査Cトレンチ東壁土層(西から)
28. I区-② 予備調査トレンチ東壁土層(西から)
- 図版15 29. I区-② 東壁土層(西から)
30. I区-② 東壁土層(西から)
- 図版16 31. I区-② 予備調査Bトレンチ西壁追加土層(東から)
32. I区-② 予備調査Bトレンチ西壁追加土層(東から)
- 図版17 33. I区-③ 東壁土層(西から)
34. I区-③ 東壁土層(西から)
- 図版18 35. II区-② 西壁(東から)
36. II区-② 西壁(東から)
- 図版19 37. III区-② 東壁土層(西から)
38. III区 予備調査Bトレンチ西壁(東から)
- 図版20 39. III区-② 西壁側溝トレンチ(東から)
40. III区-① 深掘トレンチ(北東から)
- 図版21 41. I区-① SB01P04(北東から)
42. I区-① SB01(南から)
- 図版22 43. I区-③ SB05(東から)
44. I区-③ SB05(南から)
- 図版23 45. I区-③ SB06(東から)
46. II区-① SB07(東から)
- 図版24 47. II区-① SB07(東から)
48. II区-② SB07(左)・08(右)(南上から)
- 図版25 49. II区-② SB07(左)・08(右)(西から)
50. II区-① SB09, SD71・75(西から)
- 図版26 51. III区 SB10(南西から)
52. III区-② SB11・12(西から)
- 図版27 53. II区-② SP36(西から)
54. II区-② SP77 遺物出土状況(南から)
- 図版28 55. I区-② SE01(北東から)
56. I区-② SE01(東から)
57. I区-② SE01 掘方完掘(南から)
58. I区-② SE01 掘方完掘(南から)
59. I区-② SE01 掘方完掘(東から)
60. I区-② SE01 根固め礫除去(東から)
61. I区-② SE01 根固め礫除去(南から)
62. I区-② SE01 完掘状況(南から)
- 図版29 63. I区-② SK02 半裁状況(東から)
64. I区-② SK03(南西から)
65. II区-② SK04(南西から)
66. II区-② SK05(北東から)
67. II区-① SK07(南西から)
68. II区-① SK08(北西から)
69. II区-① SK08 完掘(東から)
70. II区-① SK08 完掘(南から)
- 図版30 71. I区-① SD01(北から)
72. I区-① SD01 北(南から)
73. I区-① SD01 南(北から)
- 図版31 74. I区-① SD04(北から)
75. I区-① SD09(西から)
76. I区-① SD10(東から)
- 図版32 77. I区-① SD11(右)・12(左)(東から)
78. I区-① SD11(東から)
79. I区-① SD12(東から)
- 図版33 80. I区-① SD19(東から)
81. I区-① SD20(南から)
82. I区-② SD30(北から)
- 図版34 83. I区-② SD44(左)・37(右)(東から)
84. I区-③ SD37 完掘(西から)
85. I区-③ SD68(北から)
- 図版35 86. I区-③ SD68(南から)
- 図版36 87. II区-① SD71 全景(西から)
88. II区-② SD82 遺物出土状況(北から)
89. II区-② SD85(北から)
- 図版37 90. II区-① SD99 遺物出土状況(南から)
91. III区 SD119(西から)
92. III区 SD124(右)・126(左)(東から)
- 図版38 93. I区-① SR01(東から)
94. I区-① SR01 遺物出土状況(西から)
95. I区-③ SR03 完掘(西から)
- 図版39 96. I区-③ SR03(西から)
97. I区-③ SR04(東から)
98. II区-② SR06 遺物出土状況(西から)
- 図版40 99. I区-① 溜池状遺構南東隅(南から)
100. I区-① 溜池状遺構南東隅(東から)
101. I区-③ SX01(南東から)

- | | | | | | |
|------|---------------|-------------------|------|----------------|------------|
| | 102. Ⅲ区 | SX04 (南から) | | 147. SR01 | 出土土器 |
| | 103. Ⅲ区 | SX05 (南から) | | 148. SR01 | 出土土器 |
| | 104. Ⅲ区 | SX07 遺物出土状況 (西から) | | 149. SR01 | 出土土器 |
| | 105. Ⅲ区 | SX07 遺物出土状況 (南から) | 図版45 | 150. SR01 | 出土土器 |
| | 106. Ⅲ区 | SX09 (北東から) | | 151. SR01 | 出土土器 |
| 図版41 | 107. SB05-P11 | 出土土器 | | 152. SR01 | 出土土器 |
| | 108. SP36 | 出土土器 | | 153. SR01 | 出土土器 |
| | 109. SE01 | 出土土器 | | 154. SR01 | 出土土器 |
| | 110. SE01 | 出土土器 | | 155. SR01 | 出土土器 |
| | 111. SE01 | 出土土器 (内面) | | 156. SR01 | 出土土器 |
| | 112. SE01 | 出土土器 (外面) | | 157. SR01 | 出土土器 |
| | 113. SK01 | 出土土器 | | 158. SR01 | 出土土器 |
| | 114. SK08 | 出土土器 | | 159. SR01 | 出土土器 |
| | 115. SD01 | 出土土器 | 図版46 | 160. SR01 | 出土土製品 |
| | 116. SD12 | 出土土器 | | 161. SR03 | 出土土器 |
| 図版42 | 117. SD18 | 出土土器 | | 162. SR03 | 出土土器 |
| | 118. SD18 | 出土土器 | | 163. SR03 | 出土土器 |
| | 119. SD18 | 出土土器 | | 164. SR03 | 出土土器 |
| | 120. SD37 | 出土土器 | 図版47 | 165. SR06 | 出土土器 |
| | 121. SD41 | 出土土器 | | 166. SR06 | 出土土器 |
| | 122. SD44 | 出土土器 | | 167. SR06 | 出土土器 |
| | 123. SD44 | 出土土器 | | 168. SR06 | 出土土器 |
| | 124. SD44 | 出土土器 | | 169. SR06 | 出土土器 |
| | 125. SD44 | 出土土器 | | 170. SR06 | 出土土器 |
| | 126. SD44 | 出土土器 | | 171. SR06 | 出土土器 |
| | 127. SD44 | 出土土器 (内面) | | 172. SR06 | 出土土器 |
| | 128. SD44 | 出土土器 (外面) | | 173. SR06 | 出土土器 |
| 図版43 | 129. SD71 | 出土土器 | | 174. SR06 | 出土土器 |
| | 130. SD73 | 出土土器 | 図版48 | 175. SR06 | 出土土器 |
| | 131. SD86 | 出土土器 | | 176. SR06 | 出土土器 |
| | 132. SD86 | 出土土器 | | 177. SR06 | 出土土器 |
| | 133. SD86 | 出土土器 | | 178. SR06 | 出土土器 (上から) |
| | 134. SD86 | 出土土器 | | 179. SR06 | 出土土器 (横から) |
| | 135. SD86 | 出土土器 | | 180. SX04 | 出土土器 |
| | 136. SD86 | 出土土器 | | 181. SX04 | 出土土器 |
| | 137. SD99 | 出土土器 | | 182. SX04 | 出土土器 (上から) |
| | 138. SD99 | 出土土器 | | 183. SX04 | 出土土器 (横から) |
| | 139. SD113 | 出土土器 | | 184. SX04 | 出土土器 |
| 図版44 | 140. SR01 | 出土土器 | | 185. SX04 | 出土土器 |
| | 141. SR01 | 出土土器 | | 186. SX04 | 出土土器 |
| | 142. SR01 | 出土土器 | 図版49 | 187. I区包含層出土遺物 | |
| | 143. SR01 | 出土土器 | | 188. I区包含層出土遺物 | |
| | 144. SR01 | 出土土器 | | 189. I区包含層出土遺物 | |
| | 145. SR01 | 出土土器 | | 190. I区包含層出土遺物 | |
| | 146. SR01 | 出土土器 | | 191. I区包含層出土遺物 | |

| | | | |
|------|--------------------|------|-----------------|
| | 192. I区包含層出土遺物 | | 217. ヘラ記号 |
| | 193. I区包含層出土遺物 | | 218. 線刻 |
| | 194. I区包含層出土遺物 | | 219. 刻印 |
| | 195. I区包含層出土遺物 | | 220. 刻印 |
| | 196. I区包含層出土遺物 | 図版53 | 221. 調整 (内面) |
| 図版50 | 197. I区包含層出土遺物 | | 222. 調整 (外面) |
| | 198. I区包含層出土遺物 (表) | | 223. 調整 |
| | 199. I区包含層出土遺物 (裏) | | 224. 調整 |
| | 200. II区包含層出土遺物 | | 225. 調整 |
| | 201. II区包含層出土遺物 | | 226. 調整 |
| | 202. II区包含層出土遺物 | | 227. 調整 |
| | 203. II区包含層出土遺物 | | 228. 調整 |
| | 204. II区包含層出土遺物 | 図版54 | 229. 調整 |
| 図版51 | 205. ヘラ記号 | | 230. 調整 |
| | 206. ヘラ記号 | | 231. 調整 |
| | 207. ヘラ記号 | | 232. 調整 |
| | 208. ヘラ記号 | | 233. 調整 |
| | 209. ヘラ記号 | | 234. 調整 |
| | 210. ヘラ記号 | | 235. 調整 |
| | 211. ヘラ記号 | 図版55 | 236. 出土石器 |
| | 212. ヘラ記号 | | 237. 出土石器 |
| 図版52 | 213. ヘラ記号 | 図版56 | 238. 出土石器 |
| | 214. ヘラ記号 | | 239. 出土石器 |
| | 215. ヘラ記号 | | 240. SE01 出土木製品 |
| | 216. ヘラ記号 | | |

表 目 次

| | | | | | |
|-----|-------------------------------------|-----|-----|------------------|----|
| 第1表 | 調査の体制 | 2 | 第5表 | 掘立柱建物柱間距離による類型一覧 | 64 |
| 第2表 | 四国横断自動車道(津田～引田)建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧 | 6・7 | 第6表 | 掘立柱建物類型一覧 | 66 |
| 第3表 | 中山地区予備調査トレンチャー一覧表 | 9 | 第7表 | 溝状遺構類型試案 | 67 |
| 第4表 | 掘立柱建物一覧 | 63 | 第8表 | 時期別遺構一覧 | 68 |

第1章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経過

四国横断自動車道津田～引田間の建設については、平成5年度に建設大臣から日本道路公団総裁に対して建設の施工命令が下され、平成6年度には路線の中心杭の打設が行われた。

これに伴う埋蔵文化財保護については、平成4年度から県教育委員会と日本道路公団高松建設局とで事前協議が開始された。平成7年6・7月には県教育委員会が国庫補助事業として分布調査^{*i}を行い、津田～引田間については22地区について埋蔵文化財の保護に配慮する必要があることを日本道路公団に通知した。日本道路公団は、県教育委員会の意見を踏まえ、平成7年10月文化庁と協議を行った結果、平成8年1月文化庁から「工事の施工に先だって発掘調査を実施すること」等の回答がなされた。これにより、平成4年度からの事前協議は終了し、平成8年4月、県教育委員会と日本道路公団とで埋蔵文化財発掘調査についての委託契約が締結され、さらに県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターとで発掘調査の委託契約が締結された。

一方、県教育委員会では、明石大橋開通にあわせた津田～引田間の高速道路の整備は香川県の緊急かつ重要な課題であることから、平成8年度及び9年度に文化財専門職員を新規採用し、調査体制の充実を図ることで対応した。

津田～引田間22地区の調査対象地区のうち、大内町では11地区ある。平成8年度からは、この調査対象地区の具体的な遺跡の内容を把握するため、用地買収の進捗にあわせて予備調査を実施し、随時本調査の範囲を確定した。

平成13年度現在の遺跡位置及びその遺跡内容は第1図及び第1・2表のとおりである。

坪井遺跡は、前記の平成7年度の県教育委員会による大内町中山地区の分布調査の後、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターによって、平成8年度に分布調査を行った後、平成10年6・7月に予備調査を行い、本調査範囲の確定を行った。

第2節 調査の経過と体制

1. 調査の経過

今回報告する坪井遺跡は大内町中山80-1番地外に所在する遺跡である。調査の原因は、四国横断自動車道（津田引田間）建設事業である。平成10年6月の試掘調査を行った結果、古代の遺構・遺物が検出されたことから事前の発掘調査が必要であるとの判断がなされ、同年9月から翌平成11年3月までの6ヶ月間で、4,930㎡の面積を発掘調査する事となった。しかし、調査途上で一部調査対象地外へ遺構が延びることが判明したため、平成10年12月3・4両日で道路建設予定地内で再度予備調査を行った。その結果、1,000㎡の調査区を追加することとなった。ただ、期間の変更が不可能であったため、急遽1班の応援を受け、上記の期間内で5,930㎡の調査を行った。調査の方法は調査員6名により直営方式で実施した。整理作業は平成13年4月1日～平成13年9月30日に、調査員1名、整理作業員8名の体制で実施した。

* i 『埋蔵文化財試掘調査報告Ⅹ国道バイパス等事業予定地内の調査』1996.3 香川県教育委員会

| 香川県教育委員会 文化行政課 | | |
|--------------------|----------------|----------------|
| | 平成10年度 | 平成13年度 |
| 総括 | 課長 小原 克己 | 課長 北原 和利 |
| 総務 | 課長補佐 北原 和利 | 課長補佐 小国 史郎 |
| | 副主幹兼係長 西村 隆史 | 副主幹 中村 禎伸 |
| | 係長 中村 禎伸 | |
| | 主査 三宅 陽子 | |
| | | |
| | | |
| 埋蔵文化財 | 副主幹 渡部 明夫 | 副主幹 大山 眞充 |
| | 係長 西村 尋文 | 主任 西岡 達哉 |
| | 主任技師 塩崎 誠司 | 文化財専門員 古野 徳久 |
| | | 文化財専門員 宮崎 哲治 |
| 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター | | |
| 総括 | 所長 菅原 良弘 | 所長 小原 克己 |
| 総務 | 次長 小野 善範 | 次長 川原 裕章 |
| | 副主幹兼係長 田中 秀文 | 副主幹 大西 誠治 |
| | 係長 新 一郎 | 係長 多田 敏弘 |
| | | |
| | (6.1～) | |
| | 主任主事 西川 大 | |
| | | |
| | (～5.31) | |
| 調査 | 主任文化財専門員 大山 眞充 | 主任文化財専門員 真鍋 昌宏 |
| | | 文化財専門員 片桐 孝浩 |
| | 文化財専門員 中西 昇 | |
| | 文化財専門員 島田 英夫 | |
| | | |
| | 技師 池田 道雄 | |
| | 技師 小野 秀幸 | 主任技師 小野 秀幸 |
| | 調査技術員 糸山 晋 | |
| | 調査技術員 山坂 浩樹 | |

第1表 調査の体制

発掘調査の概要は、調査の途中経過を概報及び年報^{*ii}ですでに報告している。

2. 発掘調査及び整理作業の体制

発掘調査の体制は第1表の通りである。

その他、日々雇用職員として発掘調査に携わった方々は以下のとおりである。

現場整理作業員 高澤由紀子，川畑妙子

普通作業員

大野 勲，桶川義博，開出利彦，鴻池正春，小山貴司，篠原密夫，菅 誠司，高木輝男，田坂吉正，
多田敏夫，田中 忠，富田英三，中川輝雄，丸山豊一，三宅 強，山下重光

軽作業員

荒駒美穂，糸目八重子，内海信子，岡田カネ子，岡部恵子，鎌田富美江，清川ハツコ，串田光子，清
水節子，鈴木民子，高木ミチ子，高橋美佐子，高本マス子，田中和子，田中真知子，谷口睦子，土居
智江子，所 公子，中村芳子，長山キミエ，平山寿子，福光辰子，藤井サヨ子，間嶋直恵，水田昭子，
三好シマエ，向井房子，元山富子，百生享子，山下八千代，渡辺康子

整理作業に携わった方々は以下の通りである。

整理員 岡崎江伊子

整理補助員 前田好美，鈴木菜穂子

整理作業員 藤川洋代，東川真希子，白川智子，藤井麗子，土屋実加

* ii 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成10年度』1999 香川県教育委員会，財団法人香川
県埋蔵文化財調査センター，日本道路公団四国支社，建設省四国地方建設局，香川県土木部
『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成10年度』1999

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

香川県は四国北東部に位置する。当県の北側には瀬戸内海を隔てて岡山県が、南は阿讃山脈を隔てて徳島県が、西は愛媛県がそれぞれ立地する。面積は全国最小で、山地と平野がほぼ半分ずつを占める。比較的平野が占める面積は大きいものの、平野そのものの面積が少ないうえ山地の裾が平野部へ伸び、若干の傾斜が生じる。また、河川は長さが短いものが多く、平野部での滞水は少ない。そのため、県内の至るところに溜池が構築され、全国でも有数の溜池保有量を誇る。この状況は、遺跡の立地する大内平野でも概ね同様の状況を呈している。

大内町は香川県東部に位置し、北側には播磨灘が広がるほか、西・南・東の三方は阿讃山脈の裾が迫る。この山地に端を発するそれぞれの小河川によって形成された沖積平野が大内平野となっている。遺跡の立地はこの大内平野の西端部にある。

遺跡の周辺地形についてみる。遺跡の北側には西から東へと延びる丘陵が存在し、さらにその丘陵から南へ向けて派生する尾根筋が存在する。これらの尾根筋の間には浅い南北方向の谷が存在し、南に開口する。遺跡に北接する丘陵は、本来もう少し南へ延びていたことが予想されるが、この裾部分ですでに古代を中心とする遺構を検出していることを考えると、現地形に限りなく近い状況がすでに古代において形成されていたものと考えられる。また、南側には阿讃山脈の裾にあたる丘陵が延びてきてる。両者の間には二級河川北川が東西方向に流れ、些少な谷底平野を形成している。

第2節 歴史的環境

大内町は全体的に既知の遺跡数が少なく、大半が町東部に偏っており、本遺跡の立地する大内町西部は既往の調査事例を含めても数はわずかである。近隣の遺跡のみを紹介するに留め、東部の歴史的環境は平成12年度刊行の『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第36冊 金毘羅山遺跡 I』と平成13年度刊行予定の『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第39冊 原間遺跡 I』を参照されたい。

旧石器・縄文時代

旧石器時代の遺物については特に認められない。縄文時代は当遺跡出土の石器の一部が当該期のものと想定できるほか、晩期の土器が土居遺跡^{*iii}で確認されている。

弥生時代

後期の溝あるいは自然流路の一部とそれに伴う少量の土器片が当遺跡で出土しているほか、本遺跡の

* iii 『大内町史』1985 大内町史編さん委員会

* iv 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成11年度』2000

香川県教育委員会、財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター、日本道路公団四国支社、建設省四国地方建設局、香川県土木部

南南東約800mで平成11年度に調査を行った三殿出口遺跡^{*iv}でもわずかながら当該期の遺物の出土が認められる。さらに、坪井遺跡の東方約900mでは土居遺跡^{*v}が立地する。地表下約3mの青色細砂層から多数の遺物が出土したと報告されている。

古墳時代

大内町誌によると、当遺跡の北側丘陵上に善光坊古墳と称する古墳があるとされるが、実態については不明である。坪井遺跡では自然流路及び包含層から古墳時代前期から中期の土師器高坏が出土しているほか、後期に属すると考えられる須恵器蓋坏がごくわずかに出土している。近隣に当該期の遺跡が存在する可能性が考えられる。

古代（飛鳥～奈良時代）

当遺跡で奈良時代中頃から終わり頃の掘立柱建物・溝状遺構・自然流路を多数検出している。また、当遺跡の北東約800mに所在する王子の谷遺跡で、奈良時代のものと想定される建物がほぼ主軸方位を揃えた状態で5棟検出されているほか、当該期の遺物が大量に出土している^{*vi}。また、大内平野内を東西に横切る旧南海道が現国道11号線北側に想定されており、これを延伸したラインが坪井遺跡の近隣を通る。

平安時代

当遺跡では自然流路が埋没した後に井戸が掘られている。また、遺構の上面を被う包含層の時期も出土遺物の時期から、概ねこの頃と想定できる。

中世

当遺跡で鎌倉時代の性格不明遺構を検出している他、室町時代の性格不明遺構を検出している。また、三殿出口遺跡で掘立柱建物1棟・火葬墓1基・土坑1基を検出している。王子の谷遺跡では室町時代前半の建物群と溝が検出されているほか、鍛冶遺構も検出されている。また、それに伴い大量の土師質土器が出土している^{*vii}。

近世以降

当遺跡で江戸時代に埋没したと見られる溜池状遺構や、明治時代以降のものと見られる井戸を検出した。また、三殿出口遺跡では砂糖製造用の竈が検出されている。

* v 前掲 iii

* vi 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成8年度』香川県教育委員会 1998

* vii 前掲 vi

| 遺跡名 | 地区名 | 所在地 | 調査面積(m ²) | 調査期間 | 遺構 | 遺物 | 備考 |
|-----------|-------|-------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------|--------------------|-------------------------|
| 1 中谷遺跡 | 中谷 | 大川郡津田町鶴羽 | 518 | 8.10.1～9.1.31 | 中世：柱穴 | 瓦器，土師器 | |
| 2 大山遺跡 | 大山 | 大川郡津田町鶴羽 | 2,113 | 8.10.1～9.1.31 | 弥生：溝，中世：柱穴・土坑・溝・土城臺 | 弥生土器，瓦器，土師器 | |
| ③ | 馬篠A～D | 大川郡大内町馬篠 | 620 | 9.7.1～9.8.31 | (予備調査) | | 平成9年度概報で報告完了 |
| ④ | 小砂 | 大川郡大内町小砂 | 100 | 9.6.1～9.6.30 | (予備調査) | | 平成9年度概報で報告完了 |
| 5 坪井遺跡 | 中山 | 大川郡大内町中山 | 6,566 | 10.9.1～11.3.31 | 奈良：掘立柱建物跡 | 刻印付き須恵器，土師器，黒色土器 | 平成13年度「坪井遺跡」として報告書刊行 |
| 6 三殿出口遺跡 | 三殿 | 大川郡大内町三殿 | 135 | 11.7.1～11.7.31 | (予備調査) | | 平成11年度概報で報告完了 |
| | | | 6,370 | 11.4.1～11.6.30 11.11.1～11.11.30 | 近世：砂糖竈 | 弥生土器，土師器，須恵器 | |
| ⑦ | 町田 | 大川郡大内町町田 | 69 | 10.9.1～10.9.30 | (予備調査) | | 平成10年度概報で報告完了 |
| 8 楠谷遺跡 | 楠谷A | 大川郡大内町水主楠谷 | 1,000 | 11.3.1～11.3.31 | (予備調査) | | 平成11年度概報で報告完了 |
| | B | | 1,578 | 9.7.1～10.3.31 | 弥生：掘立柱建物跡・溝・川 | 弥生土器 | 平成9年度概報で報告完了 |
| | C | | 460 | 8.12.1～8.12.31 | (予備調査) | | |
| ⑨ | 高原 | 大川郡大内町水主高原 | 11 | 9.9.1～9.9.30 | (予備調査) | | 平成9年度概報で報告完了 |
| 10 金毘羅山遺跡 | 下屋敷 | 大川郡大内町水主下屋敷 | 446 | 8.11.1～8.11.30 | (予備調査) | | 平成12年度「金毘羅山遺跡Ⅰ」として報告書刊行 |
| | | | 100 | 10.3.1～10.3.31 | (予備調査) | | |
| | | | 3,600 | 10.4.1～10.8.31 | 弥生：竪穴住居跡，土器棺 古墳：竪穴住居跡 | 縄文土器，弥生土器，土師器，扶状耳飾 | |
| | | | 1,300 | 11.12.1～11.12.31 | 弥生：土器棺，竪穴式石室 | 弥生土器，青銅鏡 | |
| 11 塔の山南遺跡 | 別所 | 大川郡大内町川東杖の端 | 15 | 9.9.1～9.9.30 | (予備調査) | | 平成12年度「塔の山南遺跡」として報告書刊行 |
| | | | 1,300 | 11.1.1～11.3.26 | 弥生：墳墓群 | 土師器 | |
| 12 西谷遺跡 | 杖の端 | 大川郡大内町川東西谷 | 2,092 | 9.6.1～10.3.31 | 弥生：溝，中世：掘立柱建物 | 弥生土器，土師器 | 平成9年度概報で報告完了 |
| 13 原間遺跡 | 原間 | 大川郡大内町川東原間 | 500 | 9.2.1～9.2.28 | (予備調査) | | 平成13・14年度「原間遺跡」として報告書刊行 |
| | | | 19,254 | 9.4.1～10.3.31 | 弥生：竪穴住居跡・掘立柱建物跡，古墳：古墳 | 弥生土器，須恵器，土師器 | |
| | | | 24,243 | 10.4.1～11.3.31 | | | |

| 遺跡名 | 地区名 | 所在地 | 調査面積(m ²) | 調査期間 | 遺構 | 遺物 | 備考 |
|-------------|-----|----------------|-----------------------------------|---|---|--------------------------------|------------------------------|
| 14 榎端遺跡 | 榎端 | 大川郡白鳥町 西藤井 | 3,590 1,647 | 10.12.1～11.3.31 11.9.1～11.10.31 | 弥生：墳墓，古墳：古墳 (予備調査) | 弥生土器，須恵器， 耳環，鉄鏃，青銅鏡 | 平成14年度 「榎端遺跡」 として報告書刊行 |
| 15 成重遺跡 | 成重 | 大川郡白鳥町 白鳥成重 | 1,500 14,650 6,543 4,192 | 9.2.1～9.2.28 9.4.1～10.3.31 10.4.1～11.3.31 11.6.1～12.3.31 | 弥生：集石・方形周溝墓， 竪穴住居跡，壺棺 古墳：竪穴住居跡，古墳 奈良：掘立柱建物跡， 土坑 | 弥生土器，石器，土 師器，陶磁器，銅銭 | |
| 16 谷遺跡 | 谷 | 大川郡白鳥町 白鳥谷 | 111 2,741 900 | 10.7.1～10.7.31 11.9.1～12.3.31 12.4.1～12.8.31 | (予備調査) 中世：掘立柱建物跡 近世：陶器窯 | 陶磁器 | |
| 17 善門池西遺跡 | 池の奥 | 大川郡白鳥町 白鳥谷 | 3,566 2,500 1,050 | 9.11.17～10.3.31 10.4.1～11.3.31 11.7.1～11.8.31 | 弥生：竪穴住居跡，古墳：竪穴住居跡， 中世：掘立柱建物跡 | 弥生土器，石器，土 師器，須恵器，備前 焼，銅銭 | |
| 18 池の奥遺跡 | 池の奥 | 大川郡白鳥町 白鳥谷 | 8,700 | 10.6.1～11.3.26 | 弥生：竪穴住居跡・土坑 | 弥生土器，磨製石剣 | |
| ⑲ 法月 | | 大川郡白鳥町/帰来 | 510 | 10.1.1～10.1.31 | (予備調査) | | 平成9年度概報で 報告完了 |
| 20 天王谷遺跡 | 塩屋 | 大川郡引田町 引田中山 | 1,200 1,475 | 11.1.22～11.3.24 11.7.1～11.8.31 | 中世：掘立柱建物跡・瓦窯 | 土師器，瓦 | |
| 21 川北遺跡 | 塩屋 | 大川郡引田町小海 | 6,038 | 10.8.1～11.3.31 | 奈良：掘立柱建物跡 | 土師器，須恵器 | |
| 22 迹田石垣遺跡 | 迹田 | 大川郡引田町 引田迹田 | 554 2,300 | 10.4.1～10.5.31 11.4.1～11.6.30 | (予備調査) 中世：掘立柱建物跡 | 土師器，陶磁器 | |
| 23 迹田谷川下池遺跡 | 迹田 | 大川郡引田町 引田迹田 | 1,450 | 10.12.1～10.1.29 | 弥生：竪穴住居跡 | 弥生土器，石器 | |
| 24 鹿庭遺跡 | 鹿庭 | 大川郡引田町吉田 | 310 3,800 | 9.7.1～9.10.31 10.4.6～10.8.31 | (予備調査) 弥生：土坑，中世：掘立柱建物跡 | 弥生土器，石器，須 恵器，土師器 | |
| 25 庵の谷遺跡 | 黒羽 | 大川郡引田町 黒羽下内 | 3,978 | 9.10.1～10.3.31 | 弥生：竪穴住居跡，土坑 | 弥生土器，石器 | |
| 合 計 | | | 145,724 | | | | |

第2表 四国横断自動車道(津田～引田)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧

(○囲みは、第1図不掲載)

第3節 予備調査

坪井遺跡は、大川郡大内町中山地区における平成10年度の2回にわたる予備調査の結果、本調査範囲及び方法が確定した。ここでは、中山地区の予備調査の結果を報告しておく。

平成10年度の6～7月に対象面積23,400㎡について調査を実施した。中山地区は北川によって形成された谷底平野に立地するD地区と、その北側の丘陵上に立地するA～C地区に分けられる。調査対象範囲及びトレンチ配置図は第5図のとおりである。また、各トレンチの内容は第3表のとおりであり、断面図は第6～8・14図のとおりである。調査の結果、A地区は表土直下で花崗岩盤が検出されるか間層に現代の客土が認められ、遺構・遺物が確認できなかったため本調査対象としなかった。B・C地区、及びD地区1・4・6～9の各トレンチは、上面の削平・削剥などにより遺構・遺物の検出はほとんど認められず、本調査対象とはしなかった。D地区3トレンチでは柱穴・溝状遺構を検出したが、遺構の密度は低く、分布も北側に偏っていることから未退去家屋の用地北限で調査区を括った。D地区2・5・10の各トレンチでは旧耕作土直下で褐灰色砂質土の堆積が認められる。この層のさらに下で黒褐色粘質土の堆積が認められる。この2層の上面から遺構が掘り込まれていることが確認され、部分的に遺構面が2面になることが予測された。遺構面からは溝状遺構・ピットなどが検出されたため、本調査対象とした。この時点での調査対象面積は4,930㎡であった。

9月から本調査を開始したが、12月に入り、Ⅱ区-②の調査途上で調査区南壁断面に掘立柱建物を構成すると見られるピットが発見された。そのため、急遽、対象地外としていたⅡ区南側の農道を越えた部分の四筆を対象にトレンチ調査を行った。その結果、各地筆北側を中心にピット・溝状遺構を検出したため、1,000㎡を本調査対象地として括りなおした。以上より、本調査対象面積は5,930㎡となり、3月末日の調査終了が困難になることが想定されたため、一班分の調査員・作業員を増員して調査を行った。

第4節 調査の方法

基準杭は国土座標を用いた。

調査区の区割りは、北側の集落への南北の進入路が存在したため、これを基準に西側をⅠ区・東側をⅡ区とした。また、調査区割は調査対象地内に農道及び周辺の宅地への進入路が存在したため、これらの道路をもって大きく3調査区に分割した。西側の調査区をⅠ区、東側の調査区をⅡ区とし、さらに追加予備調査を行ない、本調査を行なうことにしたⅡ区南側の調査区をⅢ区とした。さらに西から順に、Ⅰ区は①～③、Ⅱ・Ⅲ区は①・②の小調査区に分割した。結果、Ⅰ区の小調査区は南北方向に長い短冊形を呈する格好になった。調査の着手は、排土置き場と掘削機械などの進入路の確保のため、Ⅰ区については西側から、Ⅱ区については東側からそれぞれ順に行った。

| 地区名 | トレンチ番号 | 規模(m) | 地 形 | 遺 構 | 遺 物 |
|-----|--------|----------|-----------|--------------|---------|
| A地区 | A-1 | 29×2 | 丘陵尾根上南斜面 | 無し | 無し |
| A地区 | A-2 | 12×2 | 南西方向尾根上 | 無し | 無し |
| B地区 | B-1 | 18×2 | 尾根頂部 | 無し | 無し |
| B地区 | B-2 | 14×2 | 東方向尾根背部 | 無し | 無し |
| B地区 | B-3 | 20×2 | 南方向尾根背部 | 無し | 無し |
| C地区 | C-1 | 50×1.5 | 丘陵上平坦部 | 無し | 無し |
| D地区 | 1 | 9×1.5 | 丘陵端部 | 無し | 無し |
| D地区 | 2-N | 12×2 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構・土坑・柱穴など | |
| D地区 | 2-S | 9×2 | 谷底平野の段丘面上 | 素掘り溝 | |
| D地区 | 3 | 28×2 | 谷底平野の段丘面上 | 柱穴・溝状遺構 | |
| D地区 | 4 | 26×2 | 谷底平野の段丘面上 | 無し | 無し |
| D地区 | 5-N | 5×2 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構 | |
| D地区 | 5-S | 11×2 | 谷底平野の段丘面上 | 柱穴 | |
| D地区 | 6 | 43×2 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構・土坑 | |
| D地区 | 7 | 30×2 | 谷底平野の段丘面上 | 無し | 無し |
| D地区 | 8 | 27×2 | 谷底平野の段丘面上 | 無し | 無し |
| D地区 | 9-N | 18×1.5 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構 | 無し |
| D地区 | 9-S | 7×1.5 | 谷底平野の段丘面上 | 旧河道 | 無し |
| D地区 | 9-W | 18×1.5 | 谷底平野の段丘面上 | ピット状遺構 | 無し |
| D地区 | 10-N | 16×1.5 | 谷底平野の段丘面上 | | 須恵器・土師器 |
| D地区 | 10-S | 36×1.5 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構・土坑・柱穴 | 須恵器・土師器 |
| D地区 | 11 | 17×2 | 谷底平野の段丘面上 | 柱穴 | 無し |
| Ⅲ区 | ① | 44.8×2 | 谷底平野の段丘面上 | 土坑・柱穴・溝状遺構 | 無し |
| Ⅲ区 | ①′ | 16×2 | 谷底平野の段丘面上 | 無し | 無し |
| Ⅲ区 | ①″ | 7.2×2 | 谷底平野の段丘面上 | 無し | 無し |
| Ⅲ区 | ② | 10.2×8.8 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構・柱穴 | 無し |
| Ⅲ区 | ③ | 42.4×2 | 谷底平野の段丘面上 | 溝状遺構 | 無し |

第3表 中山地区予備調査トレンチ一覧表

第3章 検出した遺構と遺物

第1節 調査区概要

1. I区の概要

本遺跡西側の調査区である。旧地目は全て田であるが、調査前は畑・温室・ビニールハウスとして利用されていた。地筆は南北方向に長い短冊形のもので四筆存在しており、東側の三筆はほとんど平坦化していたが、西側の一筆のみ一段高い位置に存在した。中央の二筆は、大内JAが「新技術実証指導ほ施設」として建設したFRA温室の跡地となっており、基礎および地下埋設施設が遺存していた。この施設基礎は遺構面以下に達していたほか、内部地下に東西方向に巡らされた温水循環用のパイプ埋設溝（幅・深さ0.50m）が各遺構を著しく損壊させていた。さらに埋設溝中には、内部に3mm前後の太さの針金をらせん状に挟み込んだ6cm前後の二重構造のビニールパイプが各4本ずつ埋設されていた。その結果、機械掘削中に重機の爪にパイプの針金が掛かり、これらを除去しながらの掘削となったため、非常に時間がかかったほか、この針金を除去する際に周辺の遺構をさらに破壊する原因となってしまった。

基本土層序は耕作土・床土の下に2層以上の包含層が存在し、それを除去すると北側では黄褐色混粗砂粘質土の地山が認められる。また、調査区の西辺中央付近から東辺中央北寄りにかけては黒色土の堆積が認められるほか、南側では茶褐色の混粗砂粘性細砂が認められる。これらを遺構面として、後述する遺構が掘り込まれる。ただし、先述した黒色土の堆積する範囲は全体的にややレベルが下がっており、南北両側がやや盛り上がる傾向にある。この範囲は後世まで低地帯として存在していた可能性がある。この低地帯とほぼ同じ範囲内に、遺構面直下で認められる水平堆積層が存在する。

本調査区で検出した遺構は、掘立柱建物6棟・井戸2基・土坑3基・溝状遺構68条・自然流路2本・性格不明遺構1基である。掘立柱建物は調査区西辺中央やや南よりに2棟・北辺中央に1棟・中央やや東寄りに1棟・南東隅に2棟分布する。井戸は北辺中央に1基・東辺中央に1基分布する。溝状遺構は調査区ほぼ全面に分布するが、中でも中央より北側に分布が偏る傾向にある。東西方向と南北方向のものが存在し、その主軸方位は大きく3つに分かれ、西偏するもの・真北を向くもの・東偏するものが認められる。自然流路は調査を行なったものが2本、掘削の対象外としたものが1本存在する。対象外としたものは先述した調査区を東西に横断する黒色土を埋土に持つもので、各遺構のベースとなっている。調査終了後に数ヶ所でトレンチを開けているが、ほとんど遺物の出土は見なかった。

2. II区の概要

本遺跡の東側の調査区である。旧地目は全て田である。調査地内は三筆に分割されており、相互に約0.20mのレベル差を持っている。ほぼ平坦化された状態であった。旧地表はI区東端付近に比べ、1mほど低い状態である。I区とII・III区を隔てる道路を境とした東側では、農業構造改善事業に伴い、旧状が若干変更されている。

基本土層序は耕作土・床土の下に包含層を一枚介在して遺構面に至る。後世の削平・削剥が著しく、遺構面はやや凹凸を呈する。特に、調査区南東隅へ向けて緩やかに落ち込んでゆく様子が確認でき、新相の堆積物が遺構面を覆う。この調査区もI区同様に中央部分がやや低く、南北両側に緩やかな盛り上がりが見られる。

本調査区で検出した遺構は、掘立柱建物3棟・井戸1基・土坑5基・溝状遺構50条・自然流路2本である。掘立柱建物は調査区北西隅に1棟と南東隅に2棟分布する。井戸は南壁際やや西寄りに分布する。溝状遺構は調査区北2/3に集中して分布し、残り1/3には浅い名残がわずかに認められるのみである。自然流路は無遺物と考えられるものと遺物が比較的大量に包含されるものを検出している。

3. III区の概要

II区の南側に位置する調査区である。旧地目は全て田である。調査地内は二筆であったが、II区で述べた農業構造改善事業以前は四筆に分割されていたようである。

基本土層序は耕作土・床土直下で遺構面が検出された。基盤整備の影響を大きく受けたためか、いずれの遺構もやや新しい時期に属するものと想定できる。この調査区の遺構面は、I区で確認した遺構面直下に存在する水平堆積層に相当し、I区の遺構面の時期と大きなギャップが存在する。III区西端とI区東端のレベル差は約0.60mにおよび、I区から続くであろうと想定していた遺構がいずれも十分に検出できなかった。同面に存在する遺構はほとんどが新相であるため、比較的古い段階で大きく旧状の改変がなされていたことが想定できる。

本調査区で検出した遺構は掘立柱建物3棟・溝状遺構17条・性格不明遺構7基である。

第2節 遺構の概要

掘立柱建物

SB01

I区西辺中央付近で検出した2間×2間の掘立柱建物である。桁行5.30m×梁行5.40mを測る。主軸方位はN5°Eを測る。柱穴は円形あるいは楕円形を呈し、検出面での直径は約0.60mを測る。深さは0.50～0.30mとややばらつきがある。南側の柱穴がやや深い傾向にある。南西隅の柱穴には直径約0.10mの柱材がかなり腐食した状態で遺存していた。周辺に黒灰色粘質土が堆積していることから、柱材そのものはもう少し径が大きかったと想定できる。この状況から、建物が遺棄された状態であったものと想定できる。建物の平面形はややいびつな形状を呈しており、掘立柱建物として機能していたのかどうか若干疑問が残る。北の柱穴がやや浅いことから、本来もう少し北へ伸びる可能性がある。出土遺物がわずかなうえ、細片がほとんどで時期は不明である。

SB02

SB01の西壁とほぼ重複した状態で検出した掘立柱建物である。東壁に相当する3間の柱列のみの検出で柵列の可能性も想定したが、南北ともに延長できる要素が認められなかったため、掘立柱建物とした。本体は調査区外へ伸びる。現存長で約7.20mを測り、主軸方位はN4.5°Eを測る。柱穴は楕円形を呈し、長軸0.40～0.60m・短軸0.30～0.40mを測る。深さは0.10～0.40mとややばらつきがある。両端の柱穴内には約0.10mの柱材が腐食した状態で遺存していた。また、P02・03の2基の底部には根固めと考えられる石が認められる。この建物も出土遺物はわずかに細片が出土しただけで、所属時期については不明である。また、SB01との先後関係も不明である。

なお、第15図で検討すると、SB01P01～04とSB02P01～04が柱筋が揃うことから、一見この8基の柱

穴で1棟の建物が成り立ち、SB01P05・06は建物を構成しない単独のピットとして認識することも可能である。これは、遺構検出面が黒色粘質土であり、柱穴埋土も同様の色調を呈していたために、数基のピットが後追いで検出されたことに起因する。この2棟の掘立柱建物については調査時の所見に基づいて報告したが、検討を要する。

SB03

I区北辺中央付近で検出した4間×1間(以上)の掘立柱建物である。検出できたのは南壁と東西両壁の一部の柱列である。西壁の柱は隣接する自然流路SR01を切っており、北壁はSR01の埋土上に存在していたものと考えられ、SR01掘削に伴い、削平してしまった可能性がある。現存規模は桁行8.10m×梁行2m(以上)を測る側柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN1°Eを測る。柱穴は直径約0.30mの円形を呈し、深さは0.30~0.60mを測る。深さにはややばらつきが認められる。出土遺物はP01から須恵器坏身・蓋の小片が出土している(第95図1・2)が、SR01との関連から同流路埋土からの混入である可能性が考えられ、時期比定の要素とはしがたい。

SB04

I区中央やや東寄りで検出した3間×2間の掘立柱建物である*ⁱ。北壁と東壁の一部は試掘トレンチなどで削平され、検出できなかった。現存規模は桁行5.40m×梁行3.70mを測る側柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN6.50°Eを測る。柱穴は直径約0.20~0.30mの円形を呈し、深さは約0.05~0.30mとばらつきが認められる。他の建物に比べ、遺存状況は不良である。出土遺物もほとんど無く所属時期は不明であるが、柱穴埋土の色調がI区における他の建物と異なることから、時期が異なる可能性がある。

SB05

I区南東隅付近で検出した5間×2間の掘立柱建物である。現存規模は桁行11.9m×梁行4.80mを測る側柱の東西棟として復元できる。柱穴の中心を結んだ平面プランを見ると、北側がやや西に寄る矩形を呈する。主軸方位は桁行方向でN1.80°Wを測る。柱穴の平面形状は方形で、サイズにバリエーションが認められる。深さは約0.40~0.70mと比較的深いものが多い。断面では柱根が認められるものは無いが、柱穴底部に直径約0.40mの窪みが認められるものがあり、柱の接地痕の可能性が考えられる。P02では基底部にほぼ同規模のピットが存在し、調査時には下層遺構である土坑の認識で調査を進めたが、本来は、土坑としたものが建物の柱穴で、P02としたものは柱の抜き取り痕であった可能性もある。出土遺物はP04から須恵器坏蓋の小片が、P11埋土1・2層境から土師器皿が、P13から土師器甕の小片がそれぞれ出土している(第95図3~5)。概ね8世紀代の遺構であると考えられる。

SB06

I区南東隅付近で検出した4間×2間の掘立柱建物である。現存規模は桁行7.60m×梁行5mを測る総柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN1.40°Eを測る。柱穴の平面形状は方形・円形で、概ねサイズは揃う。深さは約0.20~0.80mとばらつきはあるが、深いものも多く、P03では柱痕が確認できる。

* i 概報段階ではこの建物の規模について誤った記載を行っている。ここで訂正しておく。

また、SB05同様に直径約0.20～0.40mの窪みが認められる。この窪みの部分をかけて建物の推定壁ラインを引くと、概ね各壁が直交することから、柱痕と見ても差し支えないであろう。出土遺物はP11から須恵器皿（第95図8）、P12から土師器坏（同9）、P08からは棒状土錘（同6・7）がそれぞれ出土している。概ね8世紀段階の遺構であると考えられる。

SB07

Ⅱ区南辺中央やや東寄りで検出した4間×2間の掘立柱建物である*ⁱⁱ。現存規模は桁行7.70m×梁行4.30mを測る側柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN6°Eを測る。柱穴の平面形状は円形・楕円形を呈し、深さは約0.10～0.50mとばらつきが認められるが約0.30m前後のものが中心である。P01～03・06・09で柱痕が認められる。出土遺物はP09・11から須恵器坏などが出土している（第95図10～13）。細片のため詳細は不明であるが、8世紀代のものと想定できる。これにより、SB07の時期は同時期のものと考えるが、若干検討の余地を残す。

SB08

Ⅱ区南辺中央東寄りで検出した3間×1間の掘立柱建物である*ⁱⁱⁱ。現存規模は桁行7.30m×梁行3.70mを測る側柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN5.6°Eを測る。柱穴の平面形状は長軸約0.30m前後の楕円形を呈し、深さは約0.20～0.30mを測る。明瞭な柱痕は確認できなかった。P07がSB07P02を切っていることから、SB08が後出することが判る。出土遺物はP03から須恵器坏蓋が出土している（第95図14）。細片のため詳細は不明であるが、8世紀代のものと想定できる。これにより、SB08の時期は同時期のものと考えるが、若干検討の余地を残す。

SB09

Ⅱ区北西隅で検出した3間×2間の掘立柱建物である。現存規模は桁行4.80m×梁行4.20mを測る側柱の東西棟として復元できる。主軸方位はN7°Wを測る。柱穴の平面形状は直径約0.40m前後の円形を呈し、深さは約0.10～0.40mを測る。深さの点でややばらつきが認められる。明瞭な柱痕は確認できなかった。柱穴埋土の色調からやや新しい要素であると想定しているが、若干検討を要する。

SB10

Ⅲ区北壁中央やや西寄りで検出した掘立柱建物である。調査対象地外へ伸びるため詳細は不明であるが、側柱の南北棟である可能性が考えられる。現存規模は桁行1.80m（以上）×梁行3.80mを測る。柱間の距離が比較的統一されているように見える。主軸方位はN5°Eを測る。柱穴の平面形状は直径約0.40～0.60mの円形を呈し、深さは約0.20～0.40mを測る。明瞭な柱痕は確認できなかった。時期決定の要素となりえる出土遺物は認められなかった。主軸方位がⅡ区SB07西壁と揃うことから、共時性のある建物である可能性がある。

* ii 概報段階ではこの建物の規模・時期について誤った記載を行っている。ここで訂正しておく。

* iii 概報段階ではこの建物の規模について誤った記載を行っている。ここで訂正しておく。

SB11

Ⅲ区東寄りで検出した2間×2間の掘立柱建物である。現存規模は桁行4.20m×梁行3.20mを測る。主軸方位はN10°Eを測る。南壁の中央の柱穴は試掘トレンチによって損壊している。柱穴の平面形状は直径約0.40～0.80mの円形を呈し、深さは約0.20mを測る。明瞭な柱痕は確認できなかった。出土遺物も細片のみで、時期は不明である。

SB12

Ⅲ区南東隅で検出した掘立柱建物である。現存規模は東西3.30m×南北3.00mを測る。現状では2間×2間に見えるが、東壁の柱穴が欠落しているため、さらに東側へ延びる可能性がある。主軸方位はN9°Eを測る。柱穴の平面形状は主として直径約0.20m～0.50mの円形を呈し、一部楕円形を呈するものが認められる。深さは約0.05～0.10mを測り、遺存状況は不良である。明瞭な柱痕は認められない。

ピット

ピットについては各調査区とも遺物が出土したもののみ報告する。それ以外のピットについては巻末の遺構一覧を参照されたい。

SP09

I区南西隅付近で検出した。直径0.30m、深さは0.32mを測る。断面形状は筒状を呈し、上端が浅く広がる。主要埋土は黒褐色混粗砂粘性細砂で、上層はやや灰色を帯びる。一部には黄褐色粘土の地山ブロックを含む。SD03と重複するが、遺構の切り合いからSD03の埋没後に掘削されたものである。

SP25

I区中央やや南東よりで検出した。直径0.60m、深さ0.20mを測る。断面形状は箱状を呈する。底部に一段の浅いテラスが存在する。SD33と重複するが、SP25はこの遺構によって切られていることから、同溝に先行する遺構である。

SP30

SE01の西側1mで検出した。直径0.40m、深さ0.12mを測る。断面形状は浅い皿状を呈する。

SP36

SD34西端の南側約2mで検出した。直径0.32m、深さ0.45mを測る。断面形状は筒状を呈し、北側壁に小さな段が存在する。主要埋土は褐色ないし灰色系の混粗砂粘性細砂である。空測終了後、SR03の範囲内で掘り残しの遺構の有無を確認中に検出したもので、西側半分をトレンチ状に掘削したため平面形の詳細は不明である。

SP37

I区中央やや北寄り付近で検出した。直径0.20m、深さ0.15mを測る。断面形状は筒状を呈する。主要埋土は灰褐色混粗砂粘性細砂の単層からなる。

SP43

I区南東隅で検出した。直径0.55m、深さ0.25mを測る。断面形状はいびつな台形を呈する。主要埋土は褐色系の粗砂混じり粘性細砂からなり、中心部に灰茶褐色混粗砂粘性細砂が堆積する。また、図示し得なかったが、この層直下のピット底部に根石と見られる小児頭大の砂岩の垂角礫が存在することから、この埋土は柱根と見られる。周辺にはややピットが集中する傾向が認められ、SP43・47・48・66などで建物が建つ可能性を示唆するが、SP66に対応するピットが認められなかったことやSP48・66に根石と想定される礫の存在が認められなかったことから、本例を建物と認定するのは保留した。

SP58

I区SB05P01と重複して検出した。直径0.55m、深さ0.32mを測る。断面形状はいびつな台形を呈する。主要埋土は茶灰褐色混細砂粘性極細砂で、底部に灰茶褐色混細砂粘性極細砂が堆積する。SB05に先行する。

SP71

II区SB08P01・02間で検出した。直径0.45m、深さ0.20mを測る。断面形状は箱型を呈し、主要埋土は褐色系の細砂を主体とする。検出した位置関係から見て、SB08東壁を構成する柱穴と見ることも可能であるが、西壁に対応する柱穴が認められないことから単独のピットとして扱う。

SP77

II区東壁際南寄りで検出した。一辺0.60m前後の隅丸方形を呈し、深さは0.17mを測る。断面形状は浅い箱状を呈し、主要埋土は灰色系の粗砂混じり粘性細砂からなる。SD86と重複するが、同溝の検出面より掘り込まれていることからSP77が後出する遺構である。

SP79

SP77の南側約1mで検出した。直径0.50mのいびつな楕円形を呈し、深さは0.22mを測る。断面形状はいびつな台形を呈し、主要埋土は灰色ないし褐色系の粗砂混じり粘性細砂からなる。SD90と重複するが、遺構の切り合いからSP79が後出する遺構であることがわかる。SP77・79・72の3基は南北にはほぼ1m間隔の一直線上に並び、建物を構成する可能性が想定できるものの、周辺に建物を構成するピットが認められないため、それぞれを単独のピットとして扱った。

SP87

II区SK08東半と重複して検出した。直径0.80mのいびつな円形を呈し、深さは0.27mを測る。断面形状はいびつで、3段程度の浅いテラスを有する。底部はフラットで、一部小さな落ち込みが認められる。主要埋土は茶褐色混粗砂粘性細砂からなる。SK08の埋土を切っていたことから、これに後出する遺構である。

SP103

III区南壁際西寄りで検出した。直径0.40m、深さ0.10mを測る。断面形状は浅い皿状を呈する。

SP117

Ⅲ区北壁東寄りで検出した。長軸1m×短軸0.50mの楕円形を呈し、深さは0.10mを測る。断面形状は浅い皿状を呈する。このピットの周辺には複数のピットが存在するが、いずれも建物を構成する要素は認められない。

井戸

1基のみ報告する。ほかの井戸については近世以降のものであることが出土遺物から判明している。

SE01

I区北壁中央付近で検出した。当初、上面に温室の基礎が存在したためこれによる攪乱の可能性を考えたが、3層除去中に湾曲した木材片が多数出土し始めた。さらに掘削を進めると円形に巡る木材片が見えたため、円の外側で木材片に直交するようトレンチを設定して確認を取ったところ、さらに下へ木材片が伸びる事を確認したので、あらためて遺構として認定し調査を行なった。この結果、上面の平面プランを不明瞭にしてしまったことと、掘形の掘削を先行して行ったため、枠内の埋土の記録が不十分になったうえ、井戸枠が乾燥してしまい取上げ時に破損させる原因を作ってしまった。

検出面での平面形状は約3m四方のアメーバ状を呈するが、掘形の規模は上面約2.50m四方・底部約2m四方の隅丸方形を呈する。深さは最深部で0.75mを測る。そして、掘形の北壁中央付近に最大径0.8mを測る削り抜き式の井戸枠を設置している。井戸枠を北偏させた理由は、掘形南側に空間を作り井戸枠を設置する時の作業スペースとして用いるためと想定出来る。井戸枠の基底部周辺には握り拳大の栗石が敷き詰められており、井戸枠の固定を図ったものと見られる。井戸枠を除去すると数点の礫が掘形基底部に認められた。これも枠の安定を図るためのものと想定できる。

枠内埋土は図示していないが上層に灰色極細砂、中～下層は黒色粘質土が堆積していた。掘形埋土はややグライ化しており、分層が若干困難であったが概ね9層が水平堆積していると判断した。このうち、1～3層は井戸枠上端を壊す形で堆積しており、特に3層は井戸枠内上層にも堆積している。井戸使用中もしくは廃棄後まもなく堆積した自然堆積層であると考えられる。したがって、純粋な掘形埋土は4～13層であるといえる。時期は不明である。

土坑

SK02

I区西壁中央付近で検出した。平面形は長軸1.70m×短軸1.10mの東西に長い長楕円で、深さは1m以上を測る。深さ1mを超えたあたりから遺構壁面及び底部から湧水が起こり、あわせて壁面の崩落が始まったため、これ以上の調査は危険と判断し、掘削を図化しているところ以下では中止した。上層約0.60mは人為的な埋め戻しを行ったためか、土坑周辺の地山と同色調の土がブロック状に混ざる土からなる。その下は青灰色粘質土が堆積する。土の締まりが悪いこと、古代のものとして想定している溝を切っていること、埋土の状況などから見て、比較的新しい時期の遺構であると想定する。出土遺物は須恵器坏身が出土しているが、周辺の包含層からの混入と考えられる。遺構の性格は不明であるが、遺構深度が深いこと・湧水が認められること・壁面の一部がオーバーハングしていることなどから、素掘りの井戸の可能性も想定できる。

SK03

I区中央やや東寄りで検出した。平面形は長軸1.35m×短軸1.1mの東西にやや長い隅丸方形を呈し、深さ約0.3mを測る。断面形状は浅い箱型を呈し、底部はやや起伏が認められる。主要埋土は灰色ないし褐色系の混粗砂粘性細砂からなる。時期は不明である。

SK04

II区南辺中央やや東寄りで検出した。平面形は長軸2.2m×短軸1mの南北方向に主軸を取る長方形を呈し、深さは0.35mを測る。断面形状は浅い箱型を呈する。底部はかなりフラットに仕上げられる他、壁体がほぼ直立する。埋土は黄色系で粘性のある粗砂混じりの細砂が堆積していた。SB08との重複関係が認められるが、主軸方位が異なることから時期的な差が想定できる。また、周辺に同一主軸の遺構が存在しないことから単一に時期設定が必要な遺構であろう。出土遺物は土坑底部から須恵器坏が、埋土から土師器皿・土錘がそれぞれ出土している（第97図77～81）。須恵器坏の形態から13世紀代の遺構であると想定する。埋土中の遺物は遺構の地山となる包含層からの混入である。

SK05

SK04の西側約0.5mで検出した。平面形は長軸1.25m×短軸0.85mの南北方向に主軸を取る長方形を呈し、深さは0.25mを測る。断面形状は浅い箱型を呈する。埋土は黄色系を主体とする粘性のある粗砂混じりの細砂が堆積していた。この遺構もSK04同様、フラットな底部とほぼ直立する壁体を有する。時期は不明である。

SK06

SK05の北側約0.5mで検出した。平面形は長軸0.9m×短軸0.5mの南北方向に主軸を取る長楕円形を呈し、深さは0.05mを測る。断面形状は浅い皿状を呈する。埋土は黄色系で粘性のある粗砂混じりの細砂が堆積していた。主軸方位がSK04・05に近似することからこれらと同一時期の遺構であると想定できるが、出土遺物が皆無であることから、詳細な時期決定は困難である。

SK07

II区北西隅付近で検出した。平面形は長軸1.20m×短軸0.90mの楕円形を呈し、深さは0.55mを測る。断面形状は上面がやや開く箱状を呈する。埋土は他の土坑とは異なり、硬く締まった灰色系の粗砂混じりの粘質土が堆積していた。この土はII区の北約1/3を覆っていた床土直下の堆積土と類似していることから、比較的新しい遺構である可能性がある。時期は不明である。

SK08

II区南壁際中央付近で検出した。平面形は東西方向に主軸を取る長辺2.46m×短辺0.95mの長方形を呈し、深さは最深部で0.15mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、主要埋土は茶灰褐色混粗砂粘性細砂からなる。埋土の状況はSK04に類似しており、規模もほぼ一致することから同様の性格を有するものと想定できる。底部から須恵器・土師器が出土しており、概ねこの遺物の所属時期に構築された遺構であると想定できる。

溝状遺構

ここでは主として時期決定が可能である遺物が出土しているものを中心に取り上げた。

SD01

I区西壁付近で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN5.50°Eを測る。検出幅は1～1.50m・検出長は17.5mを測る。また、深さは南で0.80mと深い、北へ行くほど浅くなり0.20mを測る。断面形状は南側で上端の開くV字形を、北側では浅い皿状を呈する。南側では底部にやや凹凸が認められる。この溝にT字に交わるSD11が取り付く。場所によって埋土の色調が微妙に異なり、褐色・茶褐色・灰色・黄褐色とバリエーションに富む。あまり安定した堆積状況ではなかった可能性が考えられる。出土遺物から概ね8世紀中頃の遺構であると想定できる。

SD04

I区西壁際北寄りで検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN12.7°Eを測る。検出幅は0.40m・検出長は6.50mを測る。また、深さは平均0.05mと浅く、断面形状は浅い皿状を呈する。灰黄色細砂を主要埋土とする。北端を攪乱で削平されているため詳細は不明であるが、SD07と直交するか、SD08へ向けて緩やかにカーブして繋がる可能性が想定できる。また、SD04に平行してSD06が存在する。出土遺物から概ね8世紀代の遺構であると想定できるが、SD09を切っていることから同遺構より後出するものであると想定できる。

SD09

I区西壁中央やや北寄り付近で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN9°Eを測る。検出幅0.60～0.80m・検出長3.70mを測る。また、深さは平均0.25mを測り、断面形状はやや深い皿状を呈する。主要埋土は暗褐色ないし暗灰色の粗砂混じり粘質土である。東端が溜池状遺構により削平されているため、詳細は不明である。出土遺物から概ね8世紀代の遺構であると想定できる。

SD10

SD09の約3.50m南で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN5.20°Wを測る。検出幅0.50～0.60m・検出長3.50mを測る。深さは西端で0.30m、東端で0.38mを測り、西から東へ流下する溝状遺構であることがわかる。断面形状はU字を呈する。埋土は複数の単位が認められ、最下層には暗灰色粘質土が堆積する。滞水と流水を繰り返した遺構である可能性がある。東端を溜池状遺構により削平されており、東側へ展開する溝状遺構・自然流路との関連についての詳細は不明である。

SD11

I区南西隅で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN3°Eを測る。検出幅1～1.30m・検出長は7mを測り、東端はSD01に取り付く。深さは0.35mを測り、断面形状は皿状を呈する。SD01との交点で若干のレベル差が認められ、SD01の方がやや深い。SD01の埋没時期とSD11の掘削時期に若干のブランクが存在する可能性がある。滞水と流水を繰り返したためか、複数の埋土からなるが、暗褐色粗砂混じり粘性細砂が主要埋土となる。この底部には黒褐色粗砂混じり粘性細砂が堆積しており、こ

の層中から出土しているのが第98図104・105である。したがって、SD11の開削時期は8世紀後半に当たると想定できる。

SD12

SD11の南側約1mで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN14.2°Eを測る。検出幅0.50～0.60m・検出長7.50mを測る。深さは西端で0.30mを測るが、東端では相対的に浅くなる。溝底部は東へ向けて下がっている。また、東端でSD01を切っているが、これを超えて東に伸びる様子が認められなかった。後世の削平によるものと想定できる。SD11との前後関係は平面では確認できなかったが、調査区西壁土層を見る限りではSD11を切っており、同溝に後出する遺構であると理解できる。SD12の埋土はSD11と非常に近似しており、比較的近い時期に開削された可能性が考えられるが、これらの周辺遺構の地山となる下層流路埋土が黒色ないし暗褐色粘質土であり、SD11・12共にこれらの土を削っていることに起因する可能性もある。

SD18

I区南側で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN0.50°Eを測る。検出幅1～2.40m・検出長45.4mを測る。深さは平均約0.60mである。断面形状は2段の箱状を呈しており、検出幅は主として上段の幅を計測している。下段の上端幅は測る場所により0.50～1.50mとばらつきが認められる。土層断面の観察によると、この溝の本来の上面は検出面よりも上位に位置し、そのレベル差は約0.20mを測る。この結果、他の遺構を覆う包含層の上面からこの溝が掘り込まれていることになり、最終埋没が比較的新しい時期に上がることが想定できる。遺物の出土は概ね中層から下層にかけてであり、上層ではあまり出土を見ていない。したがって、中・下層の出土遺物の時期が概ねこの溝の開削あるいは機能していた時期を示しており、上層を覆う包含層の時期がこの溝の埋没時期を示していると考えることができる。

SD20

I区中央トレンチ西側中央やや南寄りで検出した溝状遺構である。主軸方位はN6°Eを測る。検出幅0.30～0.35m・検出長約8.50mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは平均0.05～0.10mを測る。北端は中央トレンチにより削平されているほか、南端は西へ1mクランクしている。また、中央北寄り付近ではSD21が直交する。SD21とクランクする部分との距離は溝の芯間距離で5.50mを測る。主要埋土は灰褐色混粗砂粘性細砂の単層である。

SD30

I区中央で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位は不定で、途中で方向が若干変化する。検出幅0.30～1m・検出長23mを測る。断面形状は凹凸のある皿状を呈し、深さは0.05～0.30mを測る。主要埋土は褐色や灰色の混粗砂粘性極細砂で、一部暗褐色混粗砂粘質土が堆積する。南が浅く、北へ行くほど深くなる傾向にある。また、北端はSD37に直交する。主軸方位が変化するはこの交点から約6m南の地点からである。調査時の所見ではSD36・44を切っておりこれらに後出するものとしていたが、土層序の上下関係に矛盾が生じることから検出段階でのミスと判断し、SD36・44に先行する溝で

あると評価する。

SD31

SD30の東約3mで検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN4°Wを測る。検出幅0.02～0.60m・検出長16mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは平均0.05mを測るが北側でやや深くなる傾向がある。南から約3.50mのところから2.70mほど途切れているが、同じ遺構であると判断する。SD30と概ね主軸方位を同じくすることから同時期のものと想定できるが、出土遺物が細片であり、時期の比定は困難である。

SD36

I区中央で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN1°Eを測る。検出幅0.40～2m・検出長37mを測る。断面形状は浅い箱状ないし皿状を呈し、深さは0.15～0.32mを測る。主要埋土は上層が灰色系、下層が褐色系の粗砂混じり粘性細砂が堆積している。西端は調査区の境で急に途切れているほか、東端は調査区外へ伸びるが、本来的には東西それぞれがもう少し伸びていたものと想定できる。特に西端は、後世の削平と温室の基礎及びパイプの埋設に伴う攪乱により、検出できなかった可能性が考えられる。東端は隣接するII区に伸びる形跡は見えるものの、両調査区の検出面に約0.30mのギャップがあることから、後世の削平の影響を受けているものと想定できる。遺物の出土状況はあまり顕著ではなく時期決定の要素が少ないが、概ね8世紀中葉から後葉にかけての遺構であると想定する。

SD37

SD36の北側約3.5mで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN5°Eを測る。検出幅0.80～2m・検出長40.5mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.25～0.40mを測る。主要埋土は褐色系・灰色系の粗砂混じり粘性細砂が中心だが、一部粗砂混じり細砂の堆積する部分が認められ、滞水と流水を繰り返していた状況が想定できる。遺構の遺存状況はSD36と大差ない。検出幅については、ほぼ同じ流域をSD44が流れて南岸を中心に溝肩を削平していることから、若干広がる可能性がある。西端付近で若干蛇行する様子が認められるほか、さらに西に伸びていた可能性が想定できる。I区中央付近では下層に自然流路SR03が存在し、溝の底部との分離が不十分な可能性があるうえSD44と重複する部分では両遺構の分離に問題がある可能性がある。平・断面形状と埋土の状況から人工的な溝ではなく、自然流路であった可能性も想定できる。出土遺物から8世紀中頃の遺構であると想定できる。特筆すべき点として、この溝の東端付近で底部外面に「印」字のヘラ書きを施した線刻須恵器が出土している(第104図281)。接合はしないものの同一個体がSD58からも出土していることが確認できたため、図面を合成して提示した。

SD39

I区北壁際中央付近で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN2.5°Wを測る。検出幅0.40～0.50mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.10mを測る。主要埋土はほぼ単層で褐灰色混粗砂粘性細砂からなる。出土遺物が少なく詳細は不明であるが、概ね8世紀代の遺構であると想定できる。

SD40

SD39の東約2.50mで検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN6.30°Wを測る。検出幅0.40～0.60m・検出長6.20mを測る。断面形状はやや浅い箱型を呈し、深さは0.06～0.20mを測る。主要埋土は褐色混粗砂粘性細砂の単層である。出土遺物が些少で時期決定に充分耐え得る資料ではないが、概ね8世紀中葉以前の遺構であると想定できる。

SD41

I区北側中央付近で検出したほぼ東西方向の溝状遺構である。検出幅0.75～0.90m、検出長8.50mを測る。断面形状は深い皿状を呈し、深さは0.25mを測る。主要埋土は淡茶灰褐色粘性細砂の単層である。出土遺物から概ね8世紀中葉以前のものと想定できる。

SD42

I区北側で検出した東西方向の溝状遺構である。SR03とほぼ流域を同じくし、南北に緩やかに蛇行する。検出幅は0.40～1.20m・検出長は東西両端を結んだ直線距離で40mを測る。断面形状は浅い皿状ないし幅広のU字を呈し、深さは0.10～0.35mを測る。主要埋土は暗褐色・暗灰色など暗色系の粗砂混じり粘性細砂からなる。溝状遺構として扱ったが、自然流路の一単位の可能性がある。出土遺物から8世紀後半頃のものと想定できる。

SD44

SD37の南岸に近接して検出した溝状遺構である。主軸方位はN0°Eを測る。検出幅は0.50～2m・検出長は37mを測る。断面形状は皿状ないし浅い箱型を呈し、深さは0.15～0.50mを測る。主要埋土は上層に茶褐色系粗砂混じり粘性細砂、中層に灰色系粗砂混じり粘性細砂、下層に灰色系粘質土の堆積が認められる。やや滞水する傾向にあった溝の可能性が想定できる。調査区東側では顕著な直流傾向を示すが、中央付近ではやや蛇行するうえ、場所によって断面形状が著しく変化するため、人工の溝か否かの判断が困難である。西端はI区-①と②の境で途切れる。検出面に大きな齟齬がないため、後世の削平の影響を著しく受けているものと想定できる。先に記載したSD36・37もそうであるが、I区-①においては下層流路SR03を含む複数の流路と重複していた可能性があり、I区-①中央トレンチ東壁土層に認められる北から8～16mの範囲内で認められる複雑な堆積層がこれらの遺構の埋土であった可能性がある。調査時の所見では複数の下層流路が存在しているものと判断し、トレンチ調査を部分的に行うのみで調査を終了させた。そして、出土遺物はこの流路に所属しているものと想定した。ところが、整理作業の結果、この流路から出土した遺物がSD44で検出した遺物と接合するものが比較的多く、このトレンチ出土資料をすべてSD44に帰属させている。出土遺物の時期にややばらつきが認められ、帰属する時期の決定がやや困難であるが、SD37との関連から8世紀中頃から後半にかけての遺構であると想定する。

SD50

I区南東隅のSD18北岸から約1mのところ検出した不定形の溝状遺構である。主軸方位はN7°Eを測る。検出幅は0.3～1m、検出長4.80mを測る。断面形状は浅いU字ないし皿状を呈し、深さは約

0.20mを測る。主要埋土は灰色系粗砂混じり粘性極細砂である。

SD56

I区東壁際中央付近で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN7.50°Eを測る。検出幅は0.30～0.40m、検出長は4.20mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.05mを測る。埋土は茶褐色粗砂混じり粘性細砂の単層である。

SD58

I区北東で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN8°Eを測る。検出幅は0.30～0.60m、検出長は17.5mを測る。断面形状は箱型を呈し、深さは西端で0.30m、東端で0.20mを測る。埋土は基本的に褐灰色混細砂粘性極細砂の単層である。西端で上層に茶灰褐色粗砂混じり粘性細砂が堆積しているが、層厚は薄く東端では削平されている可能性が高い。東端は調査区外へ、また、西端は自然流路SR03の流域にまぎれて不明瞭になっている。この溝を直線的に伸びると仮定して西へ延長させても、SR03北岸付近から伸びると想定できる溝が存在しないことから南北いずれかに折れ曲がっていた可能性が想定できる。

特筆すべき点として、SD58出土遺物との同一個体と想定できるものがSD37から出土している。同溝との距離は約20m離れており接点は確認できないが、主軸方位が近似することとSD58埋土と近似する土がSD37にも認められることから、両遺構が同時存在していた可能性が想定できる。

SD59

I区東壁際中央やや北寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN3.50°Wを測る。検出幅は0.20～0.40m、検出長は11.8mを測る。断面形状は箱型を呈し、深さは調査区壁際で0.18mを測る。埋土は暗褐色細砂混じり粘性極細砂の単層である。南端はSD37に切られ、さらに調査区外へ伸びているものと想定される。北端はSD58に切られ、ちょうどその交点よりわずかに北へ寄ったところから直角に折れ曲がり、東へその方向を違える。SD37・58・60に切られており、これらに先行する遺構であることがわかる。時期のわかる遺物が存在しないため、遺構の所属時期は不明である。

SD60

SD58の約1.50m南で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN1.20°Eを測る。検出幅は0.60～1.60m、検出長は17mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは西端で0.05m、東端で0.35mを測る。主要埋土は暗褐色混粗砂粘性極細砂で、下層に灰褐色混粗砂粘性細砂が層厚0.1mで堆積する。西端が途切れているが、この溝は西に行くにつれて浅くなる傾向にあり、I区-②東壁土層で対応する土層が確認できなかったため、後世の削平を受けて消滅したものと想定できる。出土遺物は細片が多く所属時期の詳細がやや困難であるが、これらの資料から概ね8世紀代のものと想定しておく。

SD63

I区北東隅で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN1°Wを測る。検出幅は0.30～0.60m、検出長は17.5mを測る。断面形状は箱型を呈し、深さは0.05～0.35mを測る。見かけ上の深さは東端の

ほうが浅い。主要埋土は灰色系混粗砂粘性細砂で、下層に暗灰色粘質土が堆積する。西端はI区中央付近で途切れているが、I区-②調査時にSR01との分離が出来なかった可能性がある。I区-②東壁土層ではSD63の推定位置に攪乱が入っており、SR01との関係は検証できなかった。出土遺物が少なく詳細は不明であるが、遺構の切り合いからSD42・65・66に先行するものであると想定できる。

SD68

I区北西で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN8°Wを測る。検出幅は1.40m・検出長は5.50mを測る。断面形状は西側に芯が寄った幅広のU字を呈し、深さは0.35mを測る。残務調査を行なっている際にSD36・37間でこの溝の延長上に位置する溝を検出した。完掘した状況から見ると南へ向けて次第に浅くなる傾向にあるほか、上層の幅が広がっており、遺構検出の段階で見落としていたものらしい。遺構の切り合いからみてSD36・37・44・60に先行するものであると想定できる。所属時期については8世紀中頃以前と想定できる。

SD69

II区北端で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN7°Wを測る。検出幅は0.30～1.10m、検出長は15.0mを測る。断面形状は不定形で、深さは0.20mを測る。主要埋土は暗灰色混粗砂粘性細砂である。西から東へ流下していたようで、東側がやや深くなる傾向にある。隣接するSD70に最上層が削られていることから、同溝に先行する遺構であることがわかる。

SD70

SD69の南岸約1mで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN8.2°Wを測る。検出幅は0.30～0.60m、検出長は18.4mを測る。断面形状は箱型を呈し、深さは0.30mを測る。主要埋土は褐色系の混粗砂粘性細砂で、最下層に暗灰色混粗砂粘性極細砂が堆積する。西端はSD94と重複関係が認められるが、調査時の所見からSD70が先行する溝であると理解した。

SD71

II区北半で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN12.5°Wを測る。検出幅は0.85m、検出長は約22mを測る。断面形状は上端の広がるU字を呈し、深さは0.43mを測る。主要埋土は暗茶灰色粘質土で、一部黒褐色粘質土が堆積する。東半はやや直流する傾向にあるが、中央やや西寄り付近で隣接するSD75の下位に潜り、西端はSD75の南側を緩やかに蛇行しながら流れる。また、土層の切り合いから北側を流れるSD94よりも下位に位置することがわかり、両者に先行するものであることがわかる。この溝については、埋土と緩やかに蛇行する状況から見て、I区で検出したSR03の下底部が当調査区へ伸びてきているものの可能性が高い。出土遺物がわずかであることから詳細な時期については不明であるが、概ね弥生時代後期頃の遺構であると想定する。I区SR03同様、上層には古代の包含層がわずかに遺存する。

SD72

II区中央やや北寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN2°Eを測る。検出幅は0.40

～0.70m, 検出長は約17mを測る。断面形状は上端の広がる箱型を呈し, 深さは0.42mを測る。主要埋土は褐色ないし灰色系の粗砂混じり粘性細砂からなる。西端はほぼ直角に屈曲し, SD103につながる。出土遺物の時期から見て概ね共時性を持つ遺構であると想定できる。

SD73

Ⅱ区中央やや北寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN1°Eを測る。検出幅は0.40～1.25m, 検出長は20.6mを測る。断面形状は皿状を呈し, 深さは0.22mを測る。上層部はやや浅く特に北岸は大きく広がる傾向にある。主要埋土は暗褐色混粗砂粘性細砂からなる。西から東へ向けやや深くなる傾向が認められる。一部にやや底部が盛り上がり, 中州状を呈する部分が認められる。北岸上層と西端付近が隣接するSD72に切られており, 同溝に先行するものであると理解できる。

SD75

Ⅱ区北半中央付近で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN7°Wを測る。検出幅は0.90～1.20m, 検出長は21mを測る。断面形状は半円状を呈し, 上層は大きく南北へ広がる。主要埋土は褐色混粗砂粘性細砂である。SD71・75の関係をⅡ区-②調査時の所見から単純に位置関係の観点で北側をSD71・南側をSD75として捉えたが, 先述したとおり, 調査区中央付近で相互が交わり西側では位置が入れ替わっていることに気付かなかった。したがって, 両者の交点付近を誤って調査している。出土遺物が甚少で検討を要するが, SD75は時期的にはSD71に後出するものと判断する。

SD76

Ⅱ区中央やや南寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN2.2°Wを測る。検出幅は0.25～0.80m, 検出長は16.5mを測る。断面形状は逆台形を呈し, 深さは0.33mを測る。主要埋土は茶褐色系の粗砂混じり粘性細砂で, 下層に灰茶褐色の粗砂混じり粘性極細砂が堆積する。Ⅱ区-②では隣接するSD86との重複は認められなかったが, Ⅱ区-①との境付近でSD86と重複し, 詳細な西端は不明である。重複している部分の堆積状況をよく観察せずに掘削したため, 同溝との分離が出来ていない。Ⅱ区-①・②間の土層観察から, 隣接するSD86に先行しSR06に後出する遺構であると判断できる。

SD77

Ⅱ区中央付近で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN4°Eを測る。検出幅は0.40～0.80m, 検出長は約20mを測る。断面形状は不定形で, 主要埋土は褐色混粗砂粘性細砂である。西端でSD103との切り合い関係が認められ, 同溝に先行することがわかる。

SD78

Ⅱ区東半で検出した東西方向の溝状遺構である。検出幅は0.35～0.50m, 検出長は約10mを測る。断面形状はやや深い箱状を呈し, 深さは0.32mを測る。主要埋土は茶褐色系の粗砂混じり粘性細砂からなり, 下層の一部に暗灰色混粗砂粘性極細砂が堆積する。

SD79

Ⅱ区中央やや北寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。検出幅は0.30～0.50m、検出長は両端の直線距離で22.2mを測る。断面形状は浅い逆台形を呈し、深さは0.12mを測る。主要埋土は褐灰色混粗砂粘性細砂からなる単層である。平面形状はやや蛇行を繰り返す傾向にある。堆積状況から、隣接するSD75・78・83・96の各遺構に先行すると判断できる。

SD80

Ⅱ区南東隅付近で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN0.70°Eを測る。検出幅は0.20～0.45m、検出長は3.15mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.10mを測る。主要埋土は黄茶褐色混粗砂粘性細砂の単層である。南端付近でSD91と重複関係が認められるが、平面精査時にSD80埋土内にSD91と同系色の埋土は認められなかったことと、SD80底部より深い位置でSD91の底部が確認できたことから、SD80が後出する遺構であると判断した。

SD82

Ⅱ区中央東寄りで検出した北西－南東方向の溝状遺構である。主軸方位はN30°Wを測る。検出幅は0.35～0.50m、検出長は約8mを測る。断面形状は半円形を呈し、深さは0.25mを測る。主要埋土は褐色系の粗砂混じり粘性細砂である。北端はSD16に概ね接し、南端はSR06につながる。遺構の切り合いから、SR05・SD84・87・89に後出し、SD74・77・88に先行する遺構であるといえる。SR06との関係については不明である。出土遺物は些少で詳細不明であるが、8世紀代の遺構であると判断する。

SD83

SD78・72間で検出した東西方向の溝状遺構である。検出幅は0.40～0.70m、検出長は約10.5mを測る。断面形状は上層で大きく南側へ広がる浅い皿状を呈し、深さは0.28mを測る。主要埋土は褐色混粗砂粘性細砂である。平面形状がやや蛇行気味で、SD89・93・96と重複する。ここで提示した土層断面図ではSD96との前後関係が不明瞭であるが、平面での切り合いを見る限りではSD83がSD96を切っており、同溝に後出する遺構であると判断できる。また、遺構の切り合いからSD89・93に対しても後出する遺構であると判断できる。

SD84

SD82の西側で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN7.50°Wを測る。検出幅は0.35～0.90m、検出長は両端の直線距離で9.50mを測る。断面形状は箱型を呈し、深さは0.15mを測る。主要埋土は暗褐色粘性細砂で、下層に灰色細砂・暗灰色粘性細砂の堆積が認められる。この溝を検出した範囲の中央付近でSR05との分離が不十分で、一部SR05の上層を破壊している。SR05に後出し、SR06・SD72・73・77・88・89に先行する遺構であるといえる。ただし、SR06との関係については検討を要する。

SD86

Ⅱ区中央やや南寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN3.50°Eを測る。検出幅は

1.10m～2.10m，検出長は36.5mを測る。断面形状は浅い箱状で，中央付近に大きな中州状の盛り上がりが見られる。この盛り上がりの頂部は見かけが平坦である。深さは中州の南北で差が認められ，相対的に北側がやや深い傾向にある。土層観察からは同時に埋没したのではなく，先に南側が埋没し，北側が後で埋没したように見える。本来は分離して調査する必要があった可能性が高い。また，隣接するSD76を切っていることから，これに後出する遺構であると判断できる。近接する遺構はほかにSD103・SR06が認められる。東半分はそれぞれの遺構を概ね分離して検出できたが，西半分はSD76・SR06がそれぞれSD86の下に潜り込むため，それぞれの分離が出来なかった。結果的にこの範囲においては，遺構の単位および遺物の取り上げに大きく影響を与えている。出土遺物から概ね8世紀後半段階の遺構であると想定する。

SD89

Ⅱ区中央やや東寄り付近で検出した溝状遺構である。SD77の北側でほぼ平行に進路を取りながら調査区外へ抜ける。主軸方位はN6°Eを測り，検出幅は0.20～0.50m，検出長は両端の直線距離で12.5mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し，深さは0.15mを測る。主要埋土は暗褐色混粗砂粘性細砂からなる。

SD93

Ⅱ区東壁中央やや北寄りで検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN13.3°Wを測る。検出幅は0.30～0.55m，検出長は約5.60mを測る。断面形状は浅い皿状で，深さは0.10mを測る。北端がSD78に，南端がSR05にそれぞれ接しており，その先に伸びる要素は確認できなかった。SD78との関係はSD93が先行するとみられる。一方，SR05との関係は調査時のミスにより確認できなかった。その他，SD72・73・83と重複するが，切り合い関係からいずれの遺構よりもSD93のほうが古い遺構であると言える。

SD94

SD71北側で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN4.7°Wを測る。検出幅は0.30～1.00m，検出長は19.5mを測る。断面形状は浅い箱状を呈し，深さは0.28mを測る。主要埋土は黄茶褐色混粗砂粘性細砂の単層である。土層観察からSD71に後出する遺構であると判断できる。

SD96

SD78・83間で検出した東西方向の溝状遺構である。検出幅は0.30m，検出長は4.50mを測る。断面形状は逆台形状を呈し，深さは0.30mを測る。主要埋土は暗茶灰色混粗砂粘性細砂で，下層に灰色細砂が堆積する。土層観察から，SD78・83に先行する遺構であると判断できる。

SD98

SD89の北側約0.50m付近で検出した東西方向の溝状遺構である。検出幅は0.35～0.60m，検出長は11.3mである。断面形状は浅い皿状を呈し，深さは約0.10mである。主要埋土は暗褐色混粗砂粘性細砂である。SR05の流域にまぎれており，Ⅱ区-②調査段階ではうまく検出できなかった。平面形を見ると小刻みに蛇行する様子が見て取れる。これをそのまま東へ延長するとSD87が存在するため，本来は

同一遺構であった可能性がある。土層観察からSR05の北岸にSD98南岸が削られていることから、SR05に先行する遺構であると理解できる。

SD99

Ⅱ区中央やや北西よりで検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN13.3°Wを測る。最大検出幅0.38m、検出長1.82mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.05mを測る。灰黄色混粗砂細砂の単層からなる。本来の遺構面は機械掘削により除去したため不明であるが、この遺構の埋土とこれを覆う包含層の土色および土質が近似しており、同遺構の掘削面がこの包含層上面からである可能性が想定できる。遺構の遺存状況は不良であるが、同溝中央付近で土師器坏が2点並列して出土している。溝底面から若干浮いていたが、ほぼこの溝の埋没直前の段階に同位置に存在したものと判断する。いずれも内面が上を向いており、現位置に流れ着いたものではなく人為的な設置が想定できる。同様の事例はⅢ区でも検出している。

SD103

Ⅱ区中央西寄り付近で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN0.50°Eを測る。検出幅は0.60～1.20m、検出長は11.5mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.23mを測る。主要埋土は灰黄褐色混粗砂粘性細砂である。北端は東へ向けてほぼ直角に折れてSD72とつながるほか、南端はSD86に合流する。当初、SD86とほぼ同時に存在したものと想定して調査したが、SD103交点付近より西で概ね同溝の底部とレベルが合い、SD86のほうが一段下がる状況がみられた。この付近まで埋没したSD86の上面を流域としたSD103が、北側へ進路を大きく変えて掘削された可能性が想定できる。これを受けると、SD103は鉤の手状の溝状遺構として復元できる可能性がある。

SD104

Ⅱ区西壁際で検出した南北方向の溝状遺構である。主軸方位はN2°Eを測る。検出幅は0.20～0.70m、検出長は約30mを測る。断面形状は概ね浅い皿状を呈し、深さは0.05～0.15mを測る。主要埋土は褐色混粗砂粘性細砂である。南端は調査区外へ伸びるほか、北端は調査区北西隅付近で東へ向けて直角に折れる。途中、同溝はSR06・SD79・86・106・107・108・109・110・111・114の各遺構と重複するが、いずれの箇所でもこれらの遺構の上面を通る事から、これらよりも新しい時期の遺構であるといえる。また、SD86との交点付近でSD105が派生するが、この溝の東肩を乗り越えて北進することからSD105がSD104に先行する遺構であると理解できる。

SD113

Ⅱ区中央やや南寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN6.50°Eを測る。検出幅は0.45～1m、検出長は12mを測る。断面形状は凹凸のある浅い皿状を呈し、深さは0.05mを測る。主要埋土は明黄茶褐色混粗砂粘性細砂の単層である。西端はSD103に直交し、東端はⅡ区-①と②の境で途切れる。検出した部分は全てⅡ区-①側で、Ⅱ区-②ではSR06北岸と混同して掘削した可能性が高い。遺構の前後関係から見るとSR06が先行することから、SR06出土遺物の中にSD113の遺物が混入している可能性が高い。

SD115

Ⅱ区中央で検出した不定方向の溝状遺構である。検出幅は0.40m、検出長は2.50mを測る。断面形状は碗状を呈し、深さは0.18mを測る。主要埋土の記録が不十分で、上方が欠落している。SD72・73・83・100と重複関係にあるが、切り合いからいずれの遺構にも先行すると想定する。SD73・100との交点付近に潜り込んだ後、その先の存在は不明であるが、可能性としてSD89に連続することが考えられる。ただし、Ⅱ区-①・②間のトレンチ付近では両者の関係が不明である。

SD117

SD86南側約1mで検出した東西方向の溝状遺構である。下層確認で約0.50mほど遺構面を下げた段階で検出したため、同遺構の詳細な記録が出来なかった。周囲の遺構との関連が不明であり、わずかに遺物が出土したにとどまる。検出時の状況から溝の可能性を想定し、遺構番号を付したものである。

SD119

Ⅲ区中央やや南寄りで検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN17.5°Eを測る。検出幅は0.50~1.40m、検出長は23mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.06~0.15mを測る。主要埋土は濁暗黄褐色粘性砂である。

SD124

Ⅲ区中央で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN3.50°Eを測る。検出幅は0.15~0.40m、検出長は11.9mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.10mを測る。主要埋土は灰色細砂で、底部に黄灰色粗砂が薄く堆積する。SD126と重複しており、これに後出する遺構であることがわかる。

SD126

SD124とほぼ同じ範囲で検出した東西方向の溝状遺構である。主軸方位はN6°Eを測る。検出幅は0.40m以上、検出長は11.9mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さは0.13mを測る。主要埋土は灰褐色混砂粘質土である。北岸をSD124により破壊されており、詳細な幅については不明である。

自然流路

SR01

Ⅰ区北辺で検出した東西方向のほぼ直流する自然流路である。検出幅は1.10~2.60m、検出長は直線距離で49.0mを測る。断面形状は幅広のU字を呈し、深さは0.35~0.90mを測る。主要埋土は褐色・黒色系の混粗砂粘性細砂からなり、局所的に灰色細砂が堆積する。概ね、平均0.80m前後の深さを保って検出できたが、東端部の検出深度は浅かった。Ⅰ区東壁土層を観察すると、Ⅰ区内の遺構上ほぼ全面を覆う包含層を大きく削りこむ比較的新しい時期のものと考えられる堆積層が存在していることが判明した。この層は、SR01東端部の上層をも大きく削剥しており、その結果、SR01の埋土の見かけの深さが浅くなったものと理解できる。一方、西端については中央トレンチ以西で溜池状遺構が掘削されたことにより、大きく損壊している。中央トレンチ東側で検出している部分から西へ直線的に延長した先にはSD07・08が存在するものの、規模に著しい差が認められ、同一遺構としての理解は出来ない。したが

って、この流路は中央トレンチ付近で大きく南へ振れていたものと想定できる。

さて、この流路の北側約5mには現状でも丘陵裾が迫っており、すでに旧状で丘陵裾を流れる流路であったことがわかる。見かけのうえでは直流するこの流路は、人工的に掘削されたものであるという理解よりも、地形に規制された結果、この状態を取らざるを得なかったものと想定できる。

所属時期については、先述したとおり一部で後世の堆積層がSR01を削り込んでおり、調査の段階ではこの層を分離して掘削できていない。このことから出土遺物の時期に差があり、明確な時期比定に耐え得るものではない。主体となるものは概ね8世紀代の遺物であると判断している。

SR03

SR01南岸から約5m南で検出したほぼ東西方向の自然流路である。検出幅は1.65～3.25m、検出長は直線距離で約40mを測る。断面形状は浅い皿状ないしは箱状を呈する。場所によっては深みのある本流とやや浅い支流に分かれるような部分を認めることができる。深さは深いところで1.20mを測る。主要埋土は上層は暗茶褐色系の粗砂混じり粘性細砂・中層は暗灰色系の粗砂混じり粘性細砂・下層は黒褐色系の粘質土がそれぞれ堆積する。特に下層においては一部に黄褐色混粗砂粘質土がブロック状に堆積している。I区東半では概ね直流する傾向にあるが中央付近でやや蛇行する。また、I区-①を中心とする西半については攪乱等により詳細不明である。特に西端の推定流域にはSR01と同様に溜池状遺構が存在し、これの影響を受け損壊しているものと想定できる。また、SD44の項で触れたが、このSR03をさらに西側に延長させたところには下層流路として想定している黒色土を主体とするものが流路が存在するため、これとの分離が出来ていない。I区西壁土層における推定交点付近を観察したところ埋土の単位が複数認められることから、このあたりでSR01・03・下層流路・SD36・37・44が全て収束している可能性が想定できる。この部分から取り上げた遺物はI区包含層の中に含めている。当遺構出土遺物の大半は上～中層から出土し、下層遺物はほとんど存在しない。一部、古墳時代前期に所属するであろう古式土師器高坏が出土しているが、基本的には無遺物に近い流路である。したがって、この流路の初現は4世紀代にさかのぼり、少なくとも上面に遺構が形成される8世紀代頃までにはほぼ埋没していたものと想定できる。

SR05

II区東半中央付近で検出した東西方向の自然流路である。この流路も先のSR04同様、実態がよくわからなかった。おそらく、流域から見てI区の下層流路に相当するものと想定できる。ほぼ流域を同じくしてSD77・87・89・98などが同一方向に存在することから、これらとの分離が出来ていない。また、これらの南北両側にこのSR05起源と考えられる黒褐色系の粗砂混じり粘性細砂が堆積し、各遺構の地山層として存在する。遺物は一定量出土しているが、出土した範囲は先に述べたとおり、ほとんど溝と自然流路の分離がうまく行っていないところに当たる。したがって、これら図示した遺物については本来各溝状遺構に帰属すべき遺物であると考えられる。これらを除くすると、この遺構からは遺物が出土していないことになる。この結果を裏付けるものとして、上面に存在する溝を掘りきるとほとんど遺物の出土しない層が確認できた。調査区の西端付近で行ったトレンチ調査の結果も無遺物であったことから、上面に存在する各遺構が掘削された頃にはほとんど埋没した無遺物の流路であった可能性が想定できる。

SR06

Ⅱ区中央やや南寄りで検出した東西方向の自然流路である。検出幅は0.70～2.50m、検出長は34mを測る。断面形状はいびつで浅い皿状を呈し、深さは0.32mを測る。主要埋土は灰色ないし褐色系の粗砂・粗砂混じり粘性細砂の互層である。調査区西端付近でSD86と重複し、この下層へ潜り込む。結果的に、一部分離が不十分な点が存在する。また、SD86とSR06の間にはSD76が存在する。この溝とSR06は土層観察によると、比較的近接した時期に機能していたと想定される。

SR06からは、上層から下層まで比較的多量の遺物が出土している。特に、底部からは比較的まとまった遺物の出土が見られ、須恵器・土師器のほかに黒色土器A類の出土が認められる。

性格不明遺構

SX01

Ⅰ区中央南東寄りで検出した遺構である。平面形状は長軸1.87m×短軸0.90mの不定形で、深さは0.05mを測る。主要埋土は灰褐色粘性極細砂の単層である。SB05に近接することから同遺構と何らかの関連がある可能性を想定していたが、現状ではその可能性を積極的に肯定する材料は認められない。SD53を切るように存在していることから、これに後出する時期の遺構であると想定する。

SX04

Ⅲ区北西隅で検出した遺構である。平面形は長軸6.10m×短軸5.80mのややいびつな円形を呈し、深さは1.35mを測る。断面形は浅い播鉢状を呈する。複数の埋土が確認できるが、比較的地山ブロックを含むものが多く認められる。7層・9層間にラミナ状に噛みあう部分が認められるが、どのような状況でこのような堆積が生じたかが不明である。

SX05

SX04の東方約3.50mで検出した遺構である。平面形は長軸3.45m×短軸3.30mのほぼ隅丸方形を呈し、深さは5.80mを測る。断面形状は皿状を呈する。主要埋土は濁灰茶褐色砂質土で、地山層となる黒灰色粘質土をブロック状に含む。

SX06

Ⅲ区南壁際西寄りで検出した遺構である。平面形は長軸1.10m×短軸0.90mのいびつな楕円形を呈し、深さは0.08mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、主要埋土は暗灰色混砂粘質土の単層である。

SX07

Ⅲ区SD119西端と重複して検出した遺構である。SD119と混同して掘削したため、平面形状については不明である。底部から0.01～0.03m浮いたところで土師器坏が5点いずれも口縁を上に向けて出土した。これらのうち3点は東西方向に横一列に存在し、さらに2点は東側の2点に重なって出土した。この土師器列の主軸はほぼ真北を向いていること、土師器の接地面がほぼ水平であること、坏を重ねていることなどから、溝の堆積に伴って流れ込んだものではなく、人為的に設置されたものであることが想定できる。また、SD119の底部からやや浮いたレベルに坏の接地面があること、土師器列の主軸と

SD119の主軸の方位が一致しないことなどから、SD119埋没後に新規に穴を掘ってこれらが埋納された可能性が想定できる。

遺構の性格として、地鎮遺構の可能性が想定できるが、銭の出土が確認できなかったことや遺構の平面形状が不明であることなどから、明言は避けておく。同様の遺物出土状況の事例はⅡ区SD99で確認できた。

SX09

Ⅲ区北壁中央東寄りで検出した遺構である。平面形は長軸1.50m×短軸1.20mのいびつな楕円形を呈し、深さは0.55mを測る。一部調査区外へ伸びることから詳細な規模は不明である。断面形状は図化した範囲では深い皿状を呈するが、場所によっては著しい凹凸が認められる。埋土は褐色系の粗砂混じりの粘性極細砂からなるが、いずれも周辺の地山土をブロック状に含んでおり、それによって色調がかなり異なる。

溜池状遺構

Ⅰ区北西隅で検出した南北方向の遺構である。長辺約20m×短辺約10mの矩形を呈し、南西隅がやや南へ張り出す形状を取る。東辺は温室基礎により破壊されており、詳細は不明である。主要埋土は上層が灰色粘質土、下層は明茶褐色細砂である。上層約0.30mを重機により掘削し、ほとんど遺物を確認しなかったことと、検出時の埋土の状況が新相であると想定されたため、人力による掘削を中止した。ただ、重機で下げた部分が著しく排水不良であったため、排水溝を掘ったところ、若干ながら遺物を回収することができた。さらに、上記の灰色粘質土層を重機により掘削中、6点の角礫凝灰岩製と見られる五輪塔を検出した。当初、建物の礎石に転用したものの可能性を想定し、周辺に掘形の存在が認められないかどうかを確認したが認められず、この溜池状遺構の埋没過程で投棄されたものであると判断した。風化が著しく、図示し得なかった。

第3節 遺物の概要

出土遺物の総量は28ℓコンテナ約90箱におよぶ。本来ならば破片数カウントを行う必要があるが、今回そこまでの作業に至らなかった。主として図化に耐えうるものを、ある程度厳選して掲載した。総図化点数は1,077点である。以下、各遺構毎に記載する。

掘立柱建物出土遺物

いずれの掘立柱建物もその柱穴からの出土遺物は希薄である。図化可能な遺物は全て掲載した。

SB03（第95図1・2）

共にP01から出土した須恵器である。1は坏、2は蓋である。小片のため詳細は不明であるが、1は内湾気味の体部を持つものと想定できる。口縁端部は内面に面取りが施され、断面形状が三角形に近い形に仕上げられる。2はやや大型の径を持つ偏平なつまみのみの出土である。

SB05 (第95図3～5)

3はP04から出土した土師器蓋である。つまみのみで全体の形状は不明である。4はP11から出土した土師器皿である。平坦な底部と内湾気味に立ち上がる体部、外反する口縁部を持つ。口縁端部は丸く収める。内外面の調整は摩滅により不明である。5はP13から出土した土師器甕である。口縁端部と体部下半を欠損し、全体の形状は不明である。体部と口縁部の境はくの字を呈し、内面には明瞭な稜線が形成される。内外面の調整はやや摩滅が進み判別しにくい、外面にハケ目が遺存する。

SB06 (第95図6～9)

6・7はP08から出土した土師器棒状土錘である。共にほぼ完形で出土したが、当遺跡内で出土したものに比べるとやや小振りである。8はP11から出土した須恵器皿である。小片からの復元のため径・傾きの検討を要するが、平坦な底部と外反する体部を持つものと想定できる。口縁端部は欠損のため詳細不明である。9はP12から出土した土師器坏である。底部および口縁端部を欠損する小片のため径・傾きの検討を要するが、体部は内湾気味で口縁部が外反するものと想定する。内外面の調整が明瞭に遺存し、外面は底部手持ちヘラ削り・体部はヘラ磨きにより成形され、内面はヘラ磨きの後、体部に右上がりでやや細かい単位の斜放射状暗文が施される。

SB07 (第95図10～13)

10はP09から出土した須恵器坏である。底部を欠損する小片のため詳細は不明であるが、斜め上方にほぼ直線的に延びる体部を持つものと想定できる。体部はやや厚みがあるが、口縁部はやや薄く仕上げられる。口縁部外面に強い回転指ナデが認められ、外観は口縁部で外反する形状に見える。11・12はP11から出土した須恵器蓋である。ほぼ縁部のみの破片で径・傾きの検討を要する^{*iv}が概ね平坦な頂部を持つものと想定できる。頂部と縁部の境は明瞭だが縁部の折り返しは短い。縁部の断面形状から、やや長めで二等辺三角形を呈する11とやや短い三角形を呈する12に分類出来よう。13は瓦器碗である。底部欠損の小片のため詳細不明であるが、わずかに内湾しながら斜め上方に立ち上がる体部を持つものと想定できる。口縁端部はやや薄く仕上げられる。

SB08 (第95図14)

P03から出土した須恵器蓋である。縁部のみの出土で径・傾きの検討を要するが、概ね平坦な頂部を持つものと想定できる。頂部と縁部の境は明瞭で縁部は長く折り返しほぼ直立する。

SB09 (第95図15～17)

15・16はP04から出土した。15は須恵器坏である。底部欠損のため詳細不明であるが、直線的な体部を持つものと想定できる。口縁端部は丸みを帯びた方形に仕上げられる。16は黒色土器A類坏である。底部および口縁端部を欠損するため径・傾きの検討を要するが、平坦な底部と浅い角度で立ち上がる体部を持つものと想定する。外面の調整は小片であることと摩滅により不明であるが、内面にはヘラ磨きの痕跡が認められる。17は土師器皿である。底部を欠損することと小片のため、径・傾きの検討

* iv 概報段階で2点を図化した際とは径・傾きが異なる。ここで訂正する。(『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成10年度 1999.3』「坪井遺跡」参照のこと)

を要する。概ね外反する体部を持つものと想定できる。

ピット出土遺物

SP09 (第95図18)

須恵器坏である。底部欠損のため径・傾きの検討を要するが、直線的な体部を持つものと想定できる。口縁端部は丸く仕上げる。

SP25 (第95図19)

土師質竈である。小片のため詳細不明であるが、上下端に面取りが認められるため、焚き口付近の破片であると想定する。鐔の部分は破損により遺存しない。外面口縁部付近は指押さえ後ハケ調整が、内面は指押さえがそれぞれ施される。

SP30 (第95図20)

土師器甕口縁部である。体部を欠損するため詳細不明であるが、ほぼ水平に広がる口縁部を持つものと想定できる。口縁端部上面はつまみ上げられ、稜線が形成される。外面頸部付近にハケ調整の痕跡が認められる。やや小型の部類に属すると想定できる。

SP36 (第95図21)

須恵器坏である。平坦な底部と鋭角に立ち上がるほぼ直線的な体部を持つ。底部と体部の境はやや丸みを帯びるが明瞭である。この境付近からやや内側に寄ったあたりにわずかに踏ん張った断面方形の高台が取り付く。外面口縁部に強い回転指ナデが施されるほか、内面体部に一条のらせん状に施された浅い沈線が認められる。回転指ナデを施した後に施されたものようで、一部、指ナデにより沈線の肩が盛り上がった部分を消している箇所が認められる。当遺跡で他に例を見ない個体である。

SP37 (第95図22)

黒色土器B類坏である。底部を欠損する小片であり径・傾きに検討を要するが、くの字に内湾する体部を持つと想定できる。口縁端部はわずかながら外反する。内外面に精緻なヘラ磨きの痕跡が認められる。当遺跡内で他に例を見ない異質な個体である。

SP43 (第95図23・24)

共に須恵器である。23は坏である。底部欠損のため詳細不明であるが、浅い角度で立ち上がりほぼ直線的に伸びる体部を持つものと想定できる。口縁端部は丸く仕上げる。24は塊である。底部欠損のため詳細は不明であるが、内湾する体部を持つものと想定できる。口縁端部は丸く仕上げられる。

SP58 (第95図25)

土師器甕口縁部である。体部欠損のため詳細不明であるが、ほぼ水平に開く口縁部を持つ器形が想定できる。頸部にはわずかながら指押さえの痕跡が認められる。

SP71 (第95図26~28)

26は土師器甕である。体部を欠損するため詳細不明であるが、水平に開く口縁部からくの字に屈曲し直立する体部を持つ個体が想定できる。内外面の調整が良好に遺存し、外面は体部から頸部にかけてハケ調整を施した後、頸部に不連続な指ナデを施す。口縁部は指ナデによる調整が施される。内面は体部から口縁部までハケ調整が施され、口縁端部内外面に強い指ナデの痕跡が認められる。27は須恵器坏である。底部欠損のため詳細不明であるが、直線的な体部を持つと想定できる。28は須恵器甕体部片である。内面に青海波文・外面に平行タタキが認められる。

SP77 (第95図29)

土師器甕体部である。当遺跡内で唯一体部の形状がある程度判明する個体である。口縁部と底部を欠損し詳細不明であるが、長胴の甕であろう。外面はハケ調整・内面は指押さえ後板ナデが施される。

SP79 (第95図31)

須恵器蓋である。頂部を欠損し詳細不明であるが、笠状の頂部が想定できる。頂部と縁部の境は明瞭だが、折り返しはきわめて短く、わずかにつまみ出したような形状を取る。

SP86 (第95図32)

須恵器甕体部片である。28と概ね調整は同じであるが、外面にさらにカキ目が施される。

SP103 (第95図30)

土師器蓋である。縁部のみ的小片で詳細は不明である。断面形状は鉤状を呈し、頂部へ向けてやや高くなる形状が想定できる。内面にわずかながら暗文が施される。皿の口縁の可能性も想定できる。

SP117 (第95図33)

土師器坏である。体部欠損のため詳細不明であるが、平坦な底部とやや急角度で立ち上がる体部を持つものと想定できる。底部と体部の境に浅い沈線状の窪みが認められるほか、底部外面に板ナデの痕跡が認められる。

井戸状遺構出土遺物

SE01

遺物の出土位置は大きく分けると A. 自然堆積層 (34~47), B. 井戸枠内埋土 (48~55), C. 掘形埋土 (56~61), D. 井戸枠固定礫層 (62・63) である。(第96図)。土器の他に、斎串・曲物片といった木製品(第128図)の他、木片・桃核などの植物遺存体も出土している。以下、上記の層毎に見てゆく。

A. 土師器 (34・35)・土師質甕 (36)・須恵器 (37~43)・黒色土器 (44~46)・棒状土錘 (47) が出土している。

34は坏である。底部欠損のため詳細不明であるが、外反する体部と内湾する口縁部を持つ。非常に丁寧な作りで、内面見込み部分に右上がりの放射状暗文が、口縁直下には浅い一条の沈線があり、その

下には連弧文がそれぞれ施される。外面はヘラ磨きが施される。35は皿である。平坦な底部と直線的な体部を持つ。底部と体部の境は明瞭である。内外面の調整は摩滅が進み不明瞭である。36は焚き口付近の破片と想定できるが小片のため不明である。

37～39は無台の坏である。いずれも平坦な底部とやや浅い角度で立ち上がる体部を持つ。体部は38がやや内湾気味、39が直線的な形状を呈する。40・41は坏である。底部欠損のため詳細不明であるが、やや直立気味で直線的な体部を持つ。42は高台付きの坏である。平坦な底部と急角度でやや内湾気味に立ち上がる体部を持つ。底部と体部の境はやや丸みを帯びるが明瞭である。この境付近に矮小で直立する高台が取り付く。43は甕口縁部である。ごくわずかな破片であり詳細は不明であるが、内面に稜線を持つ形状を取る。44～46は黒色土器A類塊である。いずれも破片資料であることから径・傾きの検討を要する。また、やや摩滅が進んでおり、調整の詳細についても不明な点が多い。その中で45は内面に、46は内外面にヘラ磨きの痕跡が認められる。47は土師器棒状土錘である。

B. 土師器 (48)・須恵器 (49～55) が出土している。

48は甕である。体部以下を大きく損失しており、器形についての詳細は不明である。口縁端部は内面を上方につまみ上げ、稜線を形成する。口縁部から体部にかけてはくの字に屈曲させるが内面に強い稜線は形成されない。調整は内外面共にやや良好に遺存しており、外面体部はハケ調整、頸部から口縁部は強い指ナデを施す。また、内面は体部から口縁部までハケによる調整がなされる。

49～51は坏である。全体の形状が判明するのは49のみであり、これ以外は全て体部片である。49は平坦な底部と鋭角に立ち上がる直線的な体部とを持つ。口縁端部はやや外反する。外面底部に火襷が認められる。50・51は直線的な体部と外反する口縁端部を持つ。52・53は皿である。底部あるいは体部を欠損するため、器形の全容は不明である。53は平坦な底部を持つやや大型の器形が想定できる。54は蓋である。頂部の一部を欠損するため詳細は不明であるが、やや高く平坦な頂部を持つものと想定できる。頂部と縁部の境は外面においては明瞭であるが、内面ではやや不明瞭である。端部は丸みを帯びた三角形を呈し、やや直立する。55は壺口縁部に分類した。径・傾きについて検討を要する。

C. 土師器 (56～58)・須恵器 (59)・黒色土器A類 (60)・緑釉陶器 (61) が出土している。

56は皿である。底部欠損と小片からの復元のため、径・傾きに検討を要するが、概ね内湾する体部と肥厚しやや外反気味の口縁端部を持つ器形が想定できる。非常に良好な状態で調整が遺存しており、外面底部は手持ちヘラ削り・体部はヘラ磨き、内面はヘラ磨きを施し、口縁部直下に浅い一条の沈線を施した後、体部に斜放射状暗文・沈線直下に連弧暗文を施す。当遺跡内では類例が少ない。57は蓋に分類した。小片からの復元であり、径・傾きの検討を要する。58は極めて小さな破片であるが、墨書が認められるため掲載した。現状では墨による弧線が認められるだけで、書かれていた内容については不明である。土器では墨書は唯一の例となる。

59は蓋である。頂部を欠損するため詳細不明であるが、平坦な頂部と明瞭に境がわかる縁部を持つ。境が明瞭なのは外面のみで、内面はやや不明瞭である。弱く折り返し断面二等辺三角形を呈し、若干外側に開く形態を取る。60は塊である。丸底を呈する底部と踏ん張り気味に取り付く高台を特徴とする。体部欠損のため、詳細不明である。61は塊と想定できる。摩滅が著しく、釉は外面にわずかに認められるのみである。小片からの復元のため、径・傾きの検討を要する。

D. 須恵器 (62)・瓦器 (63) のみの出土である。

62は甕口縁部の一部である。小片のため詳細不明であるが、外面に波状文が施される。63は塊であ

る。体部のみの出土のため詳細は不明である。

64～72は出土位置不明遺物である。いずれも明確な層位情報を押さえていないことから、井戸掘形断ち割り時と上層掘削時に遊離したものであると判断している。64～66は土師器、67～70は須恵器、71は黒色土器B類、72は緑釉陶器である。

64・65は皿である。底部欠損のため詳細不明であるが、概ね平坦な底部を持つものと想定できる。64の体部は浅く直線的で立ち上がる角度もやや弱い。口縁端部が大きく外反する。一方、65は直立気味に立ち上がり、大きく内湾する体部を持つ。口縁端部は肥厚し、丸く収められる。内面には浅い凹線状の窪みが巡る。66は甕である。口縁部のみの出土で全体像は不明である。口縁端部内面はつまみ上げられ稜線が形成される。内外面にわずかに調整の跡が認められ、ハケ調整と強い指ナデが用いられたことがわかる。

67・68は皿である。底部あるいは体部欠損のため器形の詳細は不明である。67の体部は若干外反する。口縁端部も外反し、先端は薄く丸く収められる。68は平坦な底部を持つことが判明するのみである。69は蓋である。頂部を著しく欠損し、器形の詳細は不明であるが、概ね平坦な頂部を持つものと想定できる。頂部と縁部の境は明瞭で、縁部は短く折り返し断面三角形に収められる。70は甕口縁部である。口縁端部をやや方形気味に仕上げるが、内面を上方にわずかにつまみ上げて稜線を形成している。71は碗である。A.で出土している碗に比べると大きく器形が異なる。やや異質な器形が想定できる。72は緑釉陶器である。底部片のみであることと摩滅がやや著しく詳細不明である。

SE03 (第96図73・74)

近世の井戸であるが、明瞭な遺物が出土していない。73・74はいずれも須恵器である。73は坏、74は高台付きの壺底部と想定できる。いずれも混入遺物であることから時期決定に耐え得るものではない。

土坑出土遺物

SK01 (第97図75)

土師器皿である。平丸底を呈し、底部から体部にかけては緩やかに湾曲する。体部から口縁端部にかけては緩やかに内湾する。口縁端部は丸く収める。内外面の調整はほとんど摩滅しており詳細は不明である。

SK02 (第97図76)

須恵器高台付き坏底部である。底部中央と体部を欠損するため詳細不明であるが、底部は丸底を呈するものと想定できる。底部と体部の境はやや不明瞭であると想定でき、概ねその変化点と推定できるところに踏ん張り気味でやや高い高台が取り付く。断面形状は矩形を呈する。

SK04 (第97図77～81)

77・78は土師器坏である。共に底部欠損のため詳細不明である。77はやや鋭角に立ち上がる内湾気味の体部と大きく外反する口縁部を持つ。口縁端部は丸く収める。調整については摩滅が著しく詳細不明である。78はほぼ直立し、直線的な体部を持つ。口縁端部は丸みを帯びる。調整は摩滅により不明であるが、外面口縁部直下および底部と体部の境付近に稜線が形成される。

79は須恵器碗である。底部欠損のため詳細不明であるが、内湾する体部と外反気味の口縁端部を持つ。80は黒色土器A類碗である。ごく小片のため、器形・傾きの検討を要する。SR06で出土している同種の皿端部に類似することから、分類としては皿であるとも言える。内外面の調整はやや摩滅が進み詳細不明であるが、内面はヘラ磨きによると見られる光沢がわずかに遺存する。81は土師器管状土錘である。

SK08 (第97図82~84)

82は土師器皿である。底部欠損のため詳細不明であるが、平坦な底部とやや浅い角度で立ち上がるやや内湾気味の体部を持つものと想定できる。口縁端部は外反する。口縁部内面は強い指ナデにより浅い凹線状を呈する。83・84は須恵器坏である。共に底部欠損のため詳細不明である。また、共にやや軟質に焼き上げられている。やや鋭角に立ち上がる直線的な体部を持つ。84の体部外面中央付近に半円状の粘土紐貼り付け痕状の突起が認められる。

溝状遺構出土遺物

SD01 (第98図85~96)

85は土師器坏, 86~88は土師器皿, 89・90は土師質竈である。坏は口縁端部を内湾させ、全体的に丸みを帯びる。内面体部に右上がりの放射状暗文を施す。皿は底部から体部にかけては緩やかに立ち上がり、体部から口縁端部にかけては直線的に伸びて、全体に浅い印象を与える。直立するやや高い高台が取り付く。88には見込み部分に放射状暗文を施す。91~95は須恵器蓋坏, 96は須恵器甕である。いずれも細片のため詳細は不明であるが、93のようにへたり込んだ高台がつくものがある。85をみる限り7世紀代のものであると想定できるが、共伴資料からはこれを積極的に肯定しにくい。ここでは概ね8世紀中葉に位置付けておく。

SD04・09・10 (第98図97~101)

97はSD04出土の須恵器壺底部である。細片のため詳細は不明であるが、短くやや外側に踏ん張る高台がつく。98はSD09出土の須恵器坏である。細片のため詳細は不明であるが、体部がやや直線的に伸びる。99~101はSD10出土遺物である。99・100は須恵器坏, 101は須恵器壺底部である。壺は底径がSD04の97に比べ小型で、高台が高く外側へ踏ん張る。いずれも細片で数も少ないことから時期決定は困難であるが、概ね8世紀代のもものと想定する。

SD11 (第98図102~105)

102は土師器坏, 103は土師器甕, 104・105は須恵器坏である。須恵器坏は体部から口縁端部にかけて直線的に伸びる。105の底部は平坦で、直立気味の高台が底部と体部の境からやや内側に寄ったところにつく。高台の断面形状は半円状で、稜線がはっきりしない。底部外面に「一」のヘラ記号が施される。須恵器坏の形状から8世紀代後半のもものと想定する。

SD12 (第98図106~108)

106・107は須恵器蓋, 108は平瓶である。蓋は縁部を小さく折り返し、外面では頂部との境が明瞭

であるが、内面ではその境は不明瞭である。106はやや器高が高く、坏・皿以外の蓋の可能性が想定できるが、細片のため詳細は不明である。108は肩部に一条の沈線が巡る。把手はつかない。頸部を欠損するが、貼り付け痕が肩部に認められたため平瓶と判断した。遺物数が少ないため詳細は不明であるが、概ね8世紀代のものと想定する。

SD18 (第99図109～127)

109～114は土師器である。109は皿、110は皿蓋、111は鉢、112・113は甕、114は土師質竈である。甕は112の小型品と113の大型品が認められる。112は器壁が薄く、口縁端部は直線的に伸びている。また、体部と口縁部の境はなだらかである。113は器壁が厚く、口縁端部を上方につまみ出している。体部と口縁部の境は明瞭に屈曲し、内面には稜線が形成される。111の鉢も大型で深く、類例が少ない。摩滅のため調整はやや確認しづらいが、両者とも外面はハケ調整、内面は指押さえや板ナデによるものと想定できる。

115～124は須恵器である。118～124は坏身、115・116は坏蓋、117は長頸壺である。坏身は全体の形状が判明するものが少なく詳細は不明であるが、底部がやや丸みを帯び体部との境がやや不明瞭なものと、底部が平坦で比較的明瞭なものの2種が認められる。また、高台の断面形状は方形で高く踏ん張るもの、台形でやや低いもの、偏平で低いものの3種が認められる。底部内外面にヘラ記号が認められるものが多く、120・121は内面見込みに「一」、122は底部外面に「×」、124は底部外面に二条の「一」がそれぞれ施される。坏蓋も全体の形状は不明であるが、つまみの形状は偏平なものやや高いものが認められる。

125は黒色土器A類坏、126は黒色土器B類鉢である。前者は内面底部を不定方向の指ナデ、体部を不連続な横方向の指ナデで、外面底部はヘラ切りした後、外縁部を手持ちヘラ削りで、体部を回転指ナデで仕上げている。器形・調整が須恵器坏と類似するが、焼成の点で異なる他に類例のないものである。後者は破片であり全体の詳細な形状は不明であるが、平丸底でやや浅い器形になると想定できる。内面全体及び外面体部は精緻なヘラ磨きを、外面底部は手持ちヘラ削りをそれぞれ施す。127は棒状土錘である。遺物の所属時期は須恵器の形状から概ね8世紀中頃のものであると想定する。

SD20 (第99図128)

須恵器坏である。全体の器形については不明であるが、底部と体部の境が不明瞭で、直立する高台が取り付く。高台の断面形状はやや接地面の狭い逆台形を呈する。他の遺物は細片が多く、詳細な時期決定は困難である。

SD30 (第99図129～136)

129・130は土師器皿である。体部から口縁端部にかけて内湾する。内面口縁端部直下に浅い一条の沈線が横位に巡る。130には短くてやや踏ん張る高台が取り付く。高台の断面形状は方形である。131は須恵器坏身である。底部欠損のため器形の詳細は不明であるが、体部から口縁端部にかけてやや外反する。132～136は須恵器坏蓋である。いずれも頂部と縁部の境は比較的明瞭である。縁部の形状はやや長くハの字に開く132と、断面形状が三角形を呈し直立気味の133・135・136、断面三角形でやや外側に開く134の3種が認められる。頂部は笠状を呈する132・133と平坦である134～136に分類でき

る。概ね8世紀中頃のものとして想定する。

SD31 (第99図137)

須恵器坏蓋である。頂部の形状は平坦、頂部と縁部の境は不明瞭で縁部の折り返しが認められない。

SD36 (第100図138~145)

138~141は土師器甕である。小型品と大型品が存在する。小型品の138は器壁が薄く、口縁部は直線的に伸びる。体部と口縁部の境は明瞭に屈曲し、内面に稜線が形成される。大型品の140・141は体部と口縁部の境は「く」の字を呈し、やや弱い角度で立ち上がる口縁部を呈する。

142~144は須恵器坏身である。底部ないし体部を欠損するため詳細は不明であるが、体部から口縁端部まで概ね直線的に伸びる。やや開き気味の142と直立気味の143がある。底部はやや丸底を呈し、短く踏ん張った方形の高台が取り付く。145は須恵器坏蓋である。頂部を欠損するため詳細は不明であるが、頂部と縁部の境は比較的明瞭である。縁部はやや長くハの字に開く。概ね8世紀中頃のものとして想定する。

SD37 (第100図146~168)

146は弥生土器鉢である。

147~156は土師器である。147・148は坏である。底部と体部の境に稜線が認められ、底部は平底を呈する。体部から口縁端部にかけてはやや外反し、口縁端部は小さく内側に折り返す。147は外面の調整は摩滅のため不明瞭であるが、148は外面底部に手持ちヘラ削り、体部にヘラ磨きを施す。いずれも内面体部に右上がり粗い単位の放射状暗文を施す。149~152は皿である。いずれも底部を大きく欠損するため詳細は不明であるが、体部の立ち上がりが強い149~151と、弱い152とが認められる。立ち上がりの強いものの中でも更にバリエーションが認められる。また、口縁端部の断面形状は丸く仕上げられるものと、方形に仕上げられるものが認められる。149~151は内面口縁端部直下に沈線を施す。全体的にやや摩滅が進み、細かい調整の単位は不明である。153は碗である。底部欠損のため詳細は不明であるが、半球状を呈するものとして想定できる。器壁はやや厚く、内外面共に指押さえ後、不定方向の指ナデにより仕上げている。胎土中に0.5~2mmの石英・長石を大量に含み、焼成は良好堅緻である。遺跡全体を見てもあまり類例の多くない資料である。154は鉢である。底部欠損のため詳細は不明であるが、体部はやや直線的に立ち上がり、口縁端部付近でわずかに内湾する。内外面の調整は摩滅のため詳細は不明であるが、外面にハケ調整がわずかに認められる。155・156は甕である。前者は大型品に分類できる。体部のほとんどを欠損していることから詳細は不明であるが、丸みを帯びた体部と外反する口縁部を持つ器形が想定できる。後者は小型品で、斜めに立ち上がる口縁部と尻すぼみの体部を持つ器形が想定できる。あまり類似する個体が存在しない。

157~168は須恵器である。157~161は坏身である。底部を欠損するものが多く、高台の有無が判明するのは157と161・162である。157は平坦な底部と直立気味の体部を持つものとして想定できる。第104図281は底部外面に「印カ」*^vの線刻が施された坏である。線刻が施された281下段の破片及び同一個体

* v 国立歴史民族博物館の平川南氏のご教示による。調査時の所見では「尺」と読んでいたが、平川氏によると「印」の略字か「服」の傍であるとのことをご教示をいただいた。

と想定できる底部から体部にかけての破片、口縁端部の破片から構成されるこの個体はSD37とSD58で出土しており、器形判断はSD58出土資料で行った。線刻が施された破片はSD37東端付近の底部直上からの出土である。それぞれの破片の接合は認められない。高台付きのものは高台がやや短く踏ん張るものである。高台の断面形状は矩形のものと不定形のものが認められる。体部は直立気味のものが多い。163～165は蓋である。全体の形状が明瞭なものは165のみで、相互の比較はやや困難である。つまみは163・165共に偏平である。器高は比較的高く平坦な頂部を呈する。縁部は短く折り返し、断面形状は三角形を呈する。径は大小認められるが、164のほうは遺跡内でこの径に対応しうる身を持つものは皿になるため、皿蓋であろう。165は頂部内面に「一」のヘラ記号が認められる。166は短頸壺、167は壺、168は甕である。

SD39 (第101図169)

須恵器坏蓋である。頂部を欠損するため詳細は不明であるが、低くて平坦な頂部を持つと想定できる。頂部と縁部の境は不明瞭で、縁部の折り返しはほとんど認められず、端部は丸く仕上げている。

SD40 (第101図170～173)

170～172は土師器である。170は坏、171は碗、172は蓋である。172以外は底部欠損のため、器形の詳細は不明である。173は須恵器坏である。口縁部のみが遺存するため、全体的な器形は不明であるが、口縁部直下から緩やかに外反する器形が想定できる。

SD41 (第101図174～190)

174～179は土師器である。174～176は坏である。器形は三者三様であるが、内湾する体部とやや長く折り返して外反させる口縁端部をもつという点で174・175を共通項で括り得る。176は外反する体部と内側へ短く折り返す口縁端部を持つ。調整については、174以外はやや遺存状況が悪く詳細は不明である。177は皿である。底部欠損のため詳細は不明であるが、底部から体部への立ち上がりが弱い器形が想定される。178は高坏である。摩滅が著しいうえ、脚の一部が遺存しているのみで器形全体の詳細は不明である。精製した胎土を用い、外面を面取りした多角柱状の脚を持つ。179は甕である。体部がほとんど遺存しないため、器形の詳細は不明である。体部から口縁部にかけて弱い屈曲を持ち、口縁部は直線的に斜め上方へ伸びる。

180～188は須恵器である。180～184は坏身である。完形に復元できるものがないため詳細は不明であるが、高台の付くものと付かないものが認められる。180は平丸底の底部を持ち、底部から体部にかけて緩やかに内湾しながら立ち上がる。181は平底を呈し、底部から体部にかけては緩やかに立ち上がる。高台の断面形状は矩形を呈し、やや短く踏ん張るものである。182～184は口縁部が外反する。185・186は坏蓋である。187は高台付きの壺底部である。高台の断面形状は矩形を呈し踏ん張る。188は断片で詳細は不明であるが、壺などの把手であろう。

189は黒色土器A類、190は黒色土器B類である。189は坏・190は鉢にそれぞれ分類したが、いずれも小片で詳細は不明である。189は口縁端部がやや外反し、須恵器坏の口縁端部の傾向に類似する。190は体部の一部のみの存在で全体の詳細な形状は不明であるが、平丸底を呈し、内湾する体部を持つ器形が想定できる。内外面にヘラ磨きの痕跡が認められる。この黒色土器はSD18同様、遺構の所属時

期に影響を与える可能性があるが、詳細は別項を参照されたい。概ね8世紀中頃のものと想定できる。

SD42 (第101図191～第102図217)

191～196は土師器である。191は回転台土師器坏である。底部と体部の境に角が立ち、底部は平底で体部は直線的に斜め上方へ立ち上がる。192・193は坏である。底部欠損のため詳細は不明であるが、直線的に立ち上がる体部と大きく外反する口縁部を持つ192と、体部から口縁端部にかけて緩やかに内湾する193に分けられる。194・195は甕である。口縁部の形状はいずれもやや水平に開き、端部上縁をつまみ上げる。196は土師質竈である。

197～214は須恵器である。197～206は坏である。底部・体部を欠損するものがほとんどで詳細は不明であるが、体部は比較的直線的に立ち上がり、口縁端部がやや外反するものが目立つ。高台のつくものは、平底を主体とするが204のようにやや中心が下がるものも認められる。高台の断面形状にはバリエーションが認められる。高台の取り付く位置も比較的底部と体部の境に近いところにあるものが多い。

207～209は皿である。207・208は土師器を模倣するもので内面口縁直下に一条の沈線が巡る。210～212は蓋である。頂部欠損のため詳細は不明であるが、縁部の形状が長く折り返しハの字に開く210・断面三角形で直立させる212と、短く折り返し断面三角形で直立する211に分かれる。213・214は甕である。口縁端部の形状は、端部が内傾して内面に稜を持つ213と、外反し先細りとなる214に分類できる。

215・216は黒色土器A類碗である。215は底部欠損で詳細は不明であるが、体部から口縁部にかけて大きく内湾する。調整は摩滅のため詳細不明であるが、外面体部にヘラ磨きの痕跡が認められる。216は断面三角形で直立する高台がつくことから新しい時期のものであると想定できる。217は棒状土錘片である。主体となる遺物の時期は8世紀中から後半頃のものと想定できる。

SD44 (第102図218～第103図276)

218～231は土師器である。218～223は坏である。底部まで遺存するものは218のみで、全体の器形の詳細は不明である。口縁部の形状は多種多様である。224・225は皿である。体部の傾きが弱い224と強い225がある。226は碗である。器形は異なるが、胎土と調整方法がSD37の153と酷似する。227～230は甕である。ほとんどが破片であり、器形の詳細は不明である。調整も摩滅が著しく実態が良くわからないが、体部外面は共通してハケ調整を施す。体部内面は板ナデを行う227・229とハケ調整を行う228・230が認められる。口縁部外面は共通して強い指ナデ、内面はハケ調整を行う。これらの中には231のような把手を持つものが存在すると想定できる。

232は古式土師器高坏である。体部と脚部を分割して成形したもので、接合に用いた臍が体部外面底部に遺存する。下層遺構から巻き上げられたものであると判断した。

233～250は須恵器坏である。高台の付かない233～236と付く237～245がある。前者は底部の形状から平底の233・236と平丸底の234・235の2種が認められる。口縁の形状は外反するものと斜め上方へ直線的に延びるものが認められる。高台の付くものは矩形でやや長く踏ん張る形状のものと、台形ないし方形で直立するものに大きく2分できる。底部は平底のものと中心がやや下がるものがある。体部と底部の境は丸みを帯びるものが多く認められる。体部から口縁部にかけては直線的に伸びるもの・やや内湾気味のもの・外反するものと大きく3分できる。法量分化が認められ、大型のものと小型のもの

に分けられる。

251～264は蓋である。法量に大小が認められる。つまみの形状は擬宝珠状のもの・偏平なもの2種類が認められる。また、頂部と縁部の境が明瞭な251・252・256～258・260とやや不明瞭な253～255に分類できる。縁部は長く折り返し断面形状三角形を呈するもの・ハの字に開くもの・短く折り返し断面形状三角形を呈するもの・ほとんど折り返さず丸く収めるものとバリエーションに富む。なお、251については内面に著しい摩滅痕が認められるほか、わずかながら、摩滅部分および破断面に墨の付着が認められる。また、つまみの頂部に敲打痕状の潰れが認められる。このことから、同資料が転用硯として用いられた可能性が想定できる。

265～268は黒色土器である。A類・B類が存在する。全て鉢に分類した。いずれも内湾する体部を持つ。大きな特徴として266以外は口縁部が口縁直下1cm前後のところの内側へ大きく屈曲する点が挙げられる。在地の鉢で類似する形態のものは認められないことから、外来の器形である可能性が想定できる。内外面の調整は摩滅のため明瞭ではないが、外面口縁部にヘラ磨きの痕跡・体部にハケ調整が認められるものがある。

269～272は須恵器壺・273～275は須恵器甕である。269は肩部に把手状の突起物の貼り付けられた痕跡が認められる。逆台形状の体部が想定できる。

SD50・56（第104図277・278）

277はSD50出土の須恵器壺である。口縁端部のみで器形・所属時期については詳細不明である。278はSD56出土の須恵器皿である。底部欠損のため器形の詳細は不明であるが、体部から口縁部にかけて外反するものと想定できる。

SD58（第104図・279～282）

279は土師器坏である。底部欠損のため詳細は不明であるが、概ね平丸底を呈するものと想定できる。280～282は須恵器坏である。完全な器形が判明するものはなく、高台がつくものとつかないものが存在することがわかるのみである。281の詳細はSD37の項で触れている。

SD60（第104図283～286）

283は土師器坏，284・285は須恵器坏，286は土師器皿である。いずれも小片のため詳細は不明である。284・285は共に体部から口縁端部にかけてやや外反傾向にある点が共通する。

SD63（第104図287～291）

287は土師器甕である。体部をほとんど欠損し、詳細は不明であるが口縁部は斜め上方に延び、内面端部をややつまみ上げて小さな稜を作り出している。調整は内外面共に摩滅により不明瞭であるが、体部内面に一部ハケ調整の遺存が認められる。

288～291は須恵器である。288・289は坏である。いずれも破片のため詳細は不明であるが、体部から口縁端部にかけて大きく外側へ開く器形が想定できる。また、288はやや大型の部類に属するものと想定できる。290・291は坏蓋である。頂部と縁部の境は明瞭で、縁部はやや長めに折り返して直立させるものである。頂部の形状が判明するのは290だけであるが、やや丸みを帯びた笠状を呈する。

SD68 (第104図292～296)

292は弥生土器鉢である。体部は内外面を指押さえにより成形している。口縁端部については指ナデによると想定できる。下層からの混入であると想定できる。

293～296は須恵器である。293～295は坏・296は坏蓋である。坏は高台のない293・294と高台が取り付く295がある。前者は底部から体部にかけて丸みを帯び、体部から口縁端部は直立気味の形状を呈し、後者は底部と体部の境に明瞭な屈曲点を持ち、体部が直立気味の形状を呈する。295は体部欠損のため器形の詳細は不明であるが、底部中心がやや下がる形状を取り、底部と体部の境からやや内側に寄ったところに高台が取り付く。高台の断面形状は外側に稜が寄る四角形を呈し、踏ん張る形状を取るが、外観は直立する。内面見込み部分に「一」のヘラ記号が認められる。

SD69・70 (第104図297・298)

297はSD69出土の土師器高坏、298はSD70出土の土師器甕である。298は体部の大半を欠損し、詳細は不明であるが水平に開く口縁と直立する体部を持つ器形が想定できる。

SD71 (第104図299～303)

299～302は弥生土器である。299～301はいずれも甕の底部であろう。摩滅のため詳細は不明であるが、299には指頭痕が比較的明瞭に残る。302は高坏脚部である。303は須恵器坏である。この遺構からは弥生時代後期の遺物が中心に出土しており、これに交差するSD75の遺物を混同して取り上げている可能性がある。

SD72 (第104図304～第105図327)

304～310は土師器・311～326は須恵器・327は黒色土器B類である。

304・307～309は甕である。大型(307)・中型(308・309)・小型(304)に分類できる。調整の遺存状況が良好なものは中型のものである。両者共に外面および口縁部内面はハケ調整を行うが、内面は308がハケ調整であるのに対し、309は板ナデを行っている。310は突帯状の貼り付け部のみの出土で、全体像が不明であるが、鏝付きの甕か甑が想定される。

311は須恵器坏蓋である。これのみは6世紀後半代の所産と想定できる。

312・318～324は坏体部から口縁部の破片資料である。底部欠損のため詳細は不明であるが、概ね直線的な体部を持つ。口縁端部を丸く仕上げるもの・やや薄く仕上げるものが認められる。また、端部をやや外反させるものと直線的に仕上げるものがあり、前者は口縁直下の体部外面に強い指ナデが施される傾向にある。体部は直立気味のものとやや開き気味のものに分類できる。313～317は坏底部である。いずれも高台が取り付くが、基本的には底部と体部の境からやや内側に入ったところに取り付けられるようである。例外的に底部と体部の境付近に取り付く316が認められる。また、断面形状は逆台形・方形が認められる。316を除き踏ん張り気味の高台である。底部の形状は中心が下がるものが主体であるが、316・317は平底である。

325・326は坏蓋である。つまみ周辺を欠損し詳細は不明であるが、いずれも平坦な頂部を有し、頂部と縁部の境は明瞭である。

327は埴である。内外面が摩滅し調整については不明であるが、口縁端部を内側に折り込む器形から、

9世紀後半以降のものとは一線を画す必要がある。

SD73 (第105図328～344)

328～331は土師器・332～344は須恵器である。

328・329は土師器皿である。いずれも小片で内外面が摩滅しており、詳細は不明である。330は皿蓋である。やや頂部が高くなる傾向にあり、高坏の体部である可能性もある。331は土師質竈の罫である。

332～335は坏身である。332・333は底部を欠損する。両者とも体部は直線的に伸びるが、口縁端部が外反気味の333と口縁端部まで直線的に伸びる332に形態的に分類できる。334・335は高台の付くもので、334は体部・底部中央を欠損する。両者共に高台の断面形状は方形で、踏ん張るように取り付く。底部の形状は平底の335と中心がやや下がる334に分類できる。336は皿である。

337～341は蓋である。頂部と縁部の境が明瞭なものが主体を占めるが、339のようにやや不明瞭なものが存在する。337・338・341は内面では境が若干不明瞭だが、外面では凹線状の窪みを作ることによって結果的に境となる部分に稜線を作り出している。頂部は338以外は欠損しており、詳細は不明である。

342～344は壺である。いずれも、破片資料で全体が判明するものはない。342は大型で高台のつく壺の底部である。高台・底部中央・体部以上を欠損するため、詳しい器形は不明である。体部下半にやや浅く粗い波状文が施される。343は長頸壺の肩部である。344は小型の壺である。外面に大量の自然釉が付着する。

SD76 (第105図345～352)

345～348は土師器・349～352は須恵器である。

345・346は坏である。346は高台が取り付くものである。高台の端部には面取りが施される。いずれもやや摩滅が進み、調整については不明瞭である。347は碗である。口径がやや大型化するため、鉢に分類する必要があるかもしれない。348は甕である。口縁端部をやや丸く仕上げしており、このサイズのものとしては類例が少ない。

349～351は坏である。底部・体部を欠損するものがほとんどで、完形に復元できるものは認められない。口縁端部の遺存する349・350は、いずれも直立気味の体部と外反する口縁端部を有する。350は当調査区内でも器高が高い部類に属する。351は底部のみである。断面形状が方形を呈する高台を有し、踏ん張り気味に取り付く。底部は下がり底である。352は蓋である。頂部と縁部の境が明瞭で、平坦な頂部と断面三角形に折り返した縁部を持つ。

SD77 (第105図353～362)

353は土師器・354～362は須恵器である。

353は坏である。体部が内湾する。内外面の調整は摩滅により判別しにくい。

354～359は坏である。完形に復元できるものは認められない。高台の有無の判別が行えるものは354・355であるが、底部を欠損し全体の形状は不明である。現物の状況を見ると、共に平底を呈する可能性が高い。354の体部は直線的で口縁端部で外反する。355は体部から口縁端部にかけて直線的に伸びる形態をとる。354は底部の調整に手持ちヘラ削りを用いる。356～359は体部から口縁端部にか

けて遺存するものであるが、355と類似する体部を有するのは359のみで、残りは口縁端部で外反する形態をとる。360・361は坏蓋である。両者とも頂部と縁部の境が不明瞭である。また、縁部の折り返しも弱い。頂部は360が笠状に盛り上がるのに対し、361はやや偏平で焼き歪みにより中心がやや窪む。362は甕体部片である。外面は平行タタキを施したのち、カキメが入る。内面は青海波文が遺存する。

SD78 (第106図363～371)

363～366は土師器・367～371は須恵器である。

363・364は坏である。内外面の調整は摩滅により判別しにくい。外面の形状が前者は内湾気味、後者は外反気味である。口縁端部の特徴としては363が直線的であるのに対し、364は若干外反傾向にある。また、364は口縁部内面に一条の沈線が認められる。365は鉢である。内外面の摩滅が著しく、調整については判別できない。366は甕である。口縁部の小片であり、径・傾きについては検討を要する。内外面に指頭痕が認められるほか、体部外面にはハケ調整の痕跡がわずかに遺存する。

367～369は坏である。底部・体部を欠損し、全容がわかるものは無い。369は碗の可能性もある。370は皿である。平坦な底部とそこから強い屈曲で斜め上方に立ち上がる体部を持つ。口縁端部はわずかに外反する。371は蓋である。頂部をほとんど欠損し詳細は不明であるが、小さく折り返す縁部を有する。

SD79 (第106図372～374)

372・373は須恵器坏である。両者とも底部欠損のため詳細不明である。体部から口縁端部にかけてはやや内湾気味に成形している。口縁端部は丸みを帯びる。374は土師器皿である。高台部分のみの極小さな破片であり、調整についての詳細は不明である。

SD80 (第106図375)

375は大型の鉢である。口縁部のみの出土で全体像は不明であるが、大きく内湾する体部を持つものと想定できる。口縁端部は短く折り返し、やや外反気味に直立する。当遺跡では他に類例のない器形である。

SD82 (第106図376・377)

376は須恵器坏である。平底で器高の高い一群に属する。体部から口縁端部にかけて内湾気味に成形される。全体的に摩滅が著しい。377は棒状土錘片である。

SD83 (第106図378～392)

378～383は土師器・384～391は須恵器・392は瓦器碗である。

378は坏である。379・380は皿である。底部欠損のため詳細は不明である。また、摩滅が著しく調整についても不明である。体部から口縁端部の形状は外反する379と内湾気味の380に分類できる。379は口縁部直下内面に浅い一条の沈線が認められる。

381・382は甕である。いずれも小片であり詳細不明なほか、摩滅により調整も不明瞭である。381は直立する体部を持ち、そこから斜め上方に延びる口縁を持つ。口縁端部は上方につまみ上げられる。

当遺跡内では小型の一群に分類される。**382**は口縁の一部のみの出土で、傾きについて検討を要する。**383**は甑と見られる。小片であり、口径・傾きについて検討を要する。内外面の調整は比較的良好に遺存しており、外面体部は縦方向のハケ調整、内面は指押さえのち不定方向のハケ調整が認められる。口縁端部については指ナデによる調整が施される。

384～**389**は坏である。底部あるいは体部から口縁部を欠損しており、全体の器形については不明である。底部は高台を有する**386**と有さない**384**・**385**が認められる。形状はいずれも平坦で、体部との境が比較的明瞭である。**386**は弱く踏ん張る矩形の高台が底部と体部の境に取り付く。**384**の体部はやや内湾気味を呈するものと想定できる。体部から口縁端部の形状については、直線的に延びる**387**・内湾気味の**388**・**389**に大きく分類できる。**389**は口縁端部のみを外反気味に成形している。**391**は蓋である。**390**は皿である。底部欠損で詳細な形状は不明であるが、体部から口縁端部にかけて外反する形態が想定できる。

SD84 (第106図393～400)

393は土師質竈である。ごく一部の破片であり、詳細は不明であるが内外面の調整については非常に良好に遺存する。

394～**400**は須恵器である。**394**・**395**は坏である。底部あるいは体部のみで全体の形状は不明であるが、平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部を持つ**394**と、体部から口縁端部まで直線的に立ち上がる**395**に分類できる。**396**は皿である。底部中央を欠損し、全体の形状は不明であるが、平坦な底部から外反気味に立ち上がる体部を持つ形状が想定できる。**397**は蓋である。縁部のみの資料であるため、口径・傾きに検討を要する。縁部と頂部の境は明瞭で、やや長く折り返した縁部が認められる。

398は高台付きの壺である。肩部から上を欠損するため詳細は不明であるが、肩部付近に最大径が来る全体的に丸みを帯びた器形が想定できる。**399**・**400**は甕である。接合は認められず、復原した傾きに差が認められるが調整方法・胎土の点から同一個体と想定できる。底部片が認められないため詳細は不明であるが、丸みを帯びた肩部とそこからくの字に屈曲し斜め上方に延びる口縁部を持つ。口縁端部は面取りがなされる。内外面共に調整が良好に遺存し、体部外面は平行タタキのちカキメが施される。内面は肩部に青海波文がわずかに遺存するが、体部を中心に回転ナデにより大半が消されている。頸部から口縁部は回転指ナデにより整形される。

SD86 (第107図401～437)

401は弥生土器甕である。体部下半を欠損するため詳細は不明であるが、現存部下端付近を最大径とするものと想定できる。体部から口縁部にかけて大きく屈曲し、口縁端部はわずかに上方へつまみ上げられる。外面の調整はハケにより行われ、内面は指押さえと指ナデを併用している。

402～**417**は土師器・**418**～**437**は須恵器である。

402～**407**は坏である。**403**以外は全体の形状が不明である。いずれも摩滅が著しく調整の判別が困難である。**403**・**405**は回転台土師器である。**408**～**410**は皿である。**408**・**409**と**410**で口径に差が認められる。また、前者は外面形状が内湾気味を呈するのに対し、後者はやや外反傾向を示す。**410**は口縁直下内面に強い指ナデの痕跡を認める。**411**は壺である。底部欠損のため詳細は不明であるが、わずかに内湾する体部を持ち、口縁端部は口縁直下1cmのところ屈曲部を作り出している。当遺跡内で出土

する黒色土器鉢・碗の口縁部の形状に近似する。412・413は土師器高坏である。いずれも脚の一部のみの出土であることから詳細は不明であるが、脚部にヘラ削りによる面取りを施し多角柱に仕上げる特徴を持つ。当遺跡では高坏の出土量はわずかである。414～416は甕である。いずれも口縁部のみの出土で全体の形状は不明であるが、調整が比較的良好に遺存する。口縁部と体部の境は直角に近い屈曲を有することから直立する体部を持つと想定する。417は鍋である。

418～428は坏である。大半が口縁部あるいは底部を欠損し、器形が判明するのは418・419のみである。高台を有するものが多く、無高台のものは418のみである。底部は平丸底を呈し、体部との境は丸みを帯びやや不明瞭である。体部はやや鋭角に立ち上がりほぼ直線的に伸びる。口縁部でわずかに外反する傾向が認められる。口縁端部は丸く収められる。

高台を有するものは平底を主体とし、短い高台が底部と体部の境付近に取り付く。取り付け方は踏ん張るものと直立するものがある。また、高台の断面形状は方形・矩形・不定形とバリエーションが認められる。体部はやや開き気味の419・427と直立気味の420・423・424・426・428の二種が認められる。425の底部外面には爪形圧痕が遺存する。429は高台付き皿である。底部中心がやや下がり、緩やかに立ち上がる体部を有する。底部と体部の境に短く取り付く高台は断面形状がいびつな四角形を呈する。また、口縁端部を方形に仕上げる。当遺跡では他に例を見ない。430～432は蓋である。430は他の2点に比べ大型である。縁部のみの出土で、詳細は不明であるが、縁部と頂部の境は不明瞭である。また、縁部の折り返しはほとんど認められない。端部は丸みを帯びる。431・432は縁部あるいは頂部を欠くため詳細は不明であるが同程度の大きさのものに復元できると想定する。431は平坦な頂部を持ち、その中央にやや偏平なつまみを持つ。432は頂部と縁部の境が明瞭で、縁部はやや長く折り返すが、その角度はやや浅い。433～437は壺である。いずれも完形に復元できるものではない。433・434は長頸壺である。433は口縁部と底部を欠損し、実態は良くわからない。体部から肩部にかけてはそろばん玉状を呈するが、稜線はやや丸みを帯びる。434は頸部のみであるが、この頸部中央付近に浅い沈線が認められる。図上では二条に見えるが、実際は一筆で施されており、螺旋を描くように施されている。435・436は高台付きの壺である。435は体部上半を欠損し、詳細は不明である。高く踏ん張った高台を持ち、体部と底部の境に取り付く。底部は平底を呈するものと想定できる。内面は指押さえののちヘラ状工具で回転ナデを施すが、数回の単位に分けていたものと見られ、ヘラ磨きの痕跡のような浅い沈線が数条認められる。436は頸部を欠損し詳細は不明であるが、短い頸がつくものと想定できる。短く踏ん張った高台を持ち底部と大部の境に取り付く。底部は平底を呈するものと想定できる。体部の内外面は精緻な回転指ナデが施されていたようである。ほぼ全面に自然釉が付着していたが、かなり剥落しており詳細は不明である。また、頸部欠損後に行われたと想定できるが、底部中央に外側から人為的に打ち欠いたとみられる痕跡が認められ、本来の目的とは離れた使用がなされていた可能性が想定できる。437は底部のみ遺存しており詳細は不明である。平丸底を呈し、そこに短く直立する高台が取り付く。高台付き坏の底部の可能性もあるが、坏にくらべて内面見込み部分の調整が粗いことと高台の径が小さいことから小型の壺の可能性を想定した。この資料も436同様、底部中央に打ち欠いたとみられる打撃痕が認められる。

遺構の説明でも述べたが、この溝はSD76・SR06と重複しており、それに伴い遺物の取り上げの際に3者を混同している可能性が想定できる。

SD89 (第108図438)

438は須恵器蓋である。縁部のみ的小片で傾き・径に検討を要する。縁部と頂部の境は明瞭でやや長く折り返す。

SD93 (第108図439・440)

439は高台の付く須恵器坏あるいは壺である。非常に扁平で踏ん張る形状の高台が平底に取り付く。440は土師器の棒状土錘片である。

SD94 (第108図441)

441は土師器皿である。底部を欠損する小片で詳細は不明であるが、概ね平底を呈するものと想定できる。体部は底部から急角度で立ち上がり、口縁部で大きく外反する形状を取る。内外面の調整は摩滅が著しく不明瞭である。内面口縁部直下に一条の浅い沈線が認められる。

SD96 (第108図442・443)

442は土師器甕である。体部下半を欠損するほか、内外面の調整の摩滅が著しく詳細は不明である。口縁部から体部にかけてくの字に屈曲し、口縁端部は上方に緩くつまみ上げている。

443は須恵器坏である。底部欠損のため詳細は不明であるが、体部は緩やかに内湾し口縁端部がわずかに外反する。体部から口縁部にかけてやや開き気味であり、他に例を見ないことから土師器と誤認している可能性がある。

SD98 (第108図444～446)

いずれも土師器甕である。口縁部のみであり、全体像は不明であるが、口縁端部にバリエーションが認められ、斜め上方に長くつまみ上げ外反させる444・やや長く上方へつまみ上げる446・わずかに上方へつまみ上げる445に分類できる。

SD99 (第108図447～449)

447・448は土師器坏である。12世紀後半～13世紀初頭に位置付けられる資料である。449は須恵器坏である。概ね8世紀代のものと想定できるが、下層から巻き上げられたものであると想定できる。

SD103 (第108図450～460)

450～453は土師器・454～460は須恵器である。

450は坏である。底部欠損のため詳細は不明であるが、内湾気味の体部を持つ。口縁端部はほぼ直立する。外面の調整は摩滅により不明瞭であるが、内面にヘラ磨きの痕跡が認められる。暗文の存在は認められない。451～453は皿である。いずれも小片で傾き・径に検討を要する。451は回転台土師器である。452・453は底部欠損のため詳細は不明であるが、概ね平底を呈し、内湾気味に立ち上がる体部と外反する口縁を持つ形態が想定できる。

454～458は坏である。体部あるいは底部を欠くものばかりで全体の形状は不明である。454・455は底部のみ遺存する。両者とも底部は平底を呈し、やや短く直立する高台が取り付く。高台の取り付く位

置が454は底部と体部の境から若干内側に入ったところであるのに対し、455は底部と体部の境である。455は底部外面に「一」のヘラ記号が認められる。456～458は体部から口縁端部まで遺存する資料である。体部から口縁端部までほぼ一直線に伸びる456と内湾する体部と外反する口縁端部を持つ457・458に分類できる。459・460は蓋である。共に頂部をほとんど欠き詳細は不明である。縁部と頂部の境は明瞭であるが、折り返しは短い。縁部はハの字に開く459と直立する460に分類できる。

SD104 (第108図461～466)

461～463は土師器・464～466は須恵器である。

461・462は甕である。口縁部のみの破片で全体の形状は不明であるが、共に直立する体部を持つ器形が想定できる。傾き・径は検討を要する。大型の461と小型の462に分類できる。461は調整が比較的明瞭に残っており、外面頸部を指押さえした後で全体を指ナデで仕上げる。内面はハケによる調整が行われる。体部はわずかに遺存する部分を見ると板ナデが施されたようである。462は全体的に摩滅しており、不明である。463は坏である。底部高台周辺のみ遺存であり、傾き・径の検討を要する。長く踏ん張った高台が取り付く。

464・465は坏である。底部あるいは体部を欠損し、詳細は不明である。464は平底に短くほぼ直立する高台が取り付く。465はやや直立気味の直線的な体部を持つ。466は壺蓋である。ほぼ直立した縁部と平坦な頂部を持つ。中心部分を欠損し、詳細は不明である。

SD113 (第108図467～471)

467は土師器甕である。口縁部のみの小片で全体の形状は不明である。傾き・径の検討を要する。大型の一群に分類出来ると想定している。ほぼ水平に開く口縁で、端部上端を上方につまみ上げ稜線を作り出す。外面から口縁端部までは指ナデ、内面はハケによる調整が施される。469は土師器坏である。わずかに内湾する体部を持ち、口縁端部は大きく外反する形状を取る。

468・470・471は須恵器である。468・470は坏である。底部あるいは体部を欠損し全体の形状は不明である。468は平底で底部と体部の境はやや不明瞭である。ほぼ直立する体部を持つものと想定できる。短く踏ん張った高台が取り付く。470は大きく外反する口縁部を持つ。やや径が大きいため坏に分類したが、壺の口縁の可能性もある。471は短頸壺である。体部下半を欠損し詳細は不明である。著しく肩の張る個体で、遺跡内では他に類例は認められない。

SD115 (第108図472・473)

472は土師器高坏である。脚部のみであるため全体の形状は不明である。笠状の脚端と筒状の脚体を持つ。全体的に摩滅が著しく調整については不明であるが、内面上部に絞り痕が認められるほか、脚端に板ナデ痕が認められる。473は須恵器坏蓋である。縁部のみの破片で詳細は不明である。縁部と頂部の境はやや不明瞭で、縁部の折り返しは短く直立する。端部形状は丸みを帯びた三角形である。

SD117 (第108図474・475)

474は回転台土師器である。平坦な底部と急角度で立ち上がる直線的な体部を持つ。口縁端部はわずかに外反させる。体部に回転指ナデの跡が認められる。475は土師器皿である。底部欠損のため全体の

形状は不明である。体部が内湾し底部との境は不明瞭な器形が想定される。内面に暗文が遺存する。

SD119 (第109図476～481)

476～478は土師質土器である。476は亀山焼甕である。体部片のみの出土で詳細は不明である。477は足釜である。底部を欠損するため詳細は不明であるが、体部内外面が直立する形態を取る。また、口鏝部もそれに伴いやや直立気味で口縁部はわずかに内湾する。鏝部は短く申し訳程度についている。478は土鍋である。体部上半以下を欠損するため詳細不明であるが、体部から口縁部にかけてわずかに屈曲する形態をとる。

479～481は須恵器である。479は坏である。底部欠損のため詳細は不明であるが、高台の貼り付け痕が認められることから、高台の取り付くものであることがわかる。直線的な体部を持つ。480は蓋である。頂部中央を欠くため詳細は不明であるが、笠状の頂部を呈していたと想定できる。縁部との境は不明瞭で、縁部の折り返しは短い。端部は丸く仕上げ、わずかに直立する。481は高坏である。脚端と皿部のほとんどを欠損するため詳細は不明である。

SD124 (第109図482・483)

482は弥生土器甕である。体部下半を欠損するため詳細は不明である。体部から口縁部の屈曲は強く、口縁端部上面は小さく三角形につまみ上げている。調整は摩滅が著しく判別が困難であるが、体部外面はハケ調整、内面は指ナデ、口縁部は内外面指ナデによるものと想定する。

483は須恵器蓋である。縁部のみの破片で詳細は不明である。縁部と頂部の境は明瞭であるが、折り返しはやや短い。直立する断面三角形の端部を呈する。

自然流路出土遺物

SR01 (第110図484～第114図655)

484～539・649～655は土師器・540～646は須恵器・647・648は黒色土器A類である。

484～494は坏である。484は回転台土師器、489・490は高台付き坏、これ以外は無台である。488以外は底部あるいは体部を欠損し詳細が不明である。底部の形状は遺存するものを見る限り平底を呈する。484を除いて概ね内湾する体部と外反する口縁部を持つ。口縁部は485～487・492のように内面に浅い一条の沈線を持つもの、488のように内面側に折り込んで端部を直立させるもの、490・491・493・494のように丸く仕上げるものの三種に分類できる。ただし摩滅の著しいものが多く、この分類の妥当性は検討を要する。485・487は内面体部に粗い、486にはやや細かい単位の斜放射状暗文が認められる。495～501は高台の付かない皿である。いずれも底部を大きく欠損するため詳細は不明であるが、底部から体部にかけて浅い角度で変化するものと、やや急な角度を持つものに分類できる。また、体部のみの形状で見てゆくと内湾するものと外反するものに分類できる。さらに器壁の厚さと口縁端部の断面形状から見ると、厚みを持ち口縁端部を方形に仕上げるものと、やや薄手で口縁端部を丸く仕上げるものに分類できる。器壁の厚い一群には口縁部内面に一条の浅い沈線を持つものがある。502～508は高台の付く皿である。完形に復元できるものは502～504のみであとは底部のみか、高台周辺のみである。完形に復元できる一群は器形・胎土がほぼ一致する。また、505は底部のみであるが胎土の点から前者の一群に位置付けられる。506～508は胎土の点から前者とは一線を画すると見られる。た

だし、508を除き高台が高く、踏ん張る形状を取る傾向にある。509～511は蓋に分類した。いずれも破片資料であり、器形・傾き・径の点で検討を要する。509・510は高坏の可能性も想定できる。512は高坏である。脚部のごく一部が遺存するに過ぎず、全体の形状は不明である。ヘラ削りにより多角柱状に成形する特徴が認められる。513～522・526～534は甕である。いずれも破片資料であり、傾き・径の点で検討を要する。649～655は土錘である。649のみ管状を呈し、他は棒状を呈する。650～652は欠損のため大きさが不明であるが、小型の653・654と大型の655は完形でサイズが2種類あることが判明するため、本来はいずれかに分類されることがわかる。

540～604は坏である。540～542は受け部を有するものである。底部欠損のため器形の詳細は不明であるが、当遺跡内では非常に類例の少ない一群である。543～556は無台の坏である。底部あるいは体部を欠損するものが多い。底部の形状から平丸底を呈するもの・平底を呈するものの二類に大別できる。底部から体部の境は比較的明瞭なものが多く、やや直立気味に立ち上がる傾向にある。体部は直線的なものが多く、内湾・外反するものは少ない。直線的な体部を持つものは口縁端部のみが外反する傾向が強い。中にはイレギュラーなものもあり、543・552のように底部と体部の境に段を有するものが認められる。555のように底部から体部が急激に立ち上がるものもある。555は壺蓋の可能性が高い。

557～589は高台を有するものである。底部あるいは体部を欠損するものが大半で、器形の詳細は不明なものが多い。底部の形状は平底を呈するものも多く、底部中心がやや下がるものがそれに続く。高台は底部と体部の境に取り付くものも多く、踏ん張るもの・直立するものの二者が認められる。前者のほうが多出する傾向にある。高台の断面形状は方形・矩形・不定形とバリエーションに富み、大きさも大小さまざまである。ややしっかりしたものが多い傾向が認められる。類例が認められないものに579がある。大半の資料が高台を貼り付けた後の調整は回転指ナデを高台周辺のみならず、579だけは高台の内側全面に回転ヘラ削りを施す。これにより高台が本来接地する部分が大きく外側を向く。

590～604は坏体部から口縁部のみものを挙げた。全体的に直立気味で直線的な体部を持つものも多く、その口縁端部は外反する傾向にある。590～592は体部から口縁端部にかけて外反する傾向にある一群である。605～610は皿である。605・606は無台の皿である。底部・体部欠損のため詳細は不明であり、径・傾きについては検討を要する。607・609・610は底部欠損のため詳細不明であるが、やや外反する体部を持ち、口縁部内面に一条の沈線あるいは凹線を有する一群である。口縁端部はやや肥厚する。土師器坏の模倣形態であると想定できる。611～613は高坏である。脚部および脚端の細片のみの出土で詳細は不明である。脚端を丸く仕上げる611と折り返して直立させる612・613に分類できる。ただし、613はやや径が大きく復元されるため、壺の口縁である可能性もある。

614～637は蓋である。いずれも小片であり詳細不明であるが、小型の617～621・中型の623～629・やや大型の630～636に分類できる。つまみの遺存するものが少なく、実態の不明なものが多いが扁平なものを主体とし、わずかに615のように宝珠形を呈するものが認められる。頂部と縁部の境は明瞭なものが主体で、不明瞭なものが若干認められる。頂部は平坦なものと同笠状を呈するものに分類できる。622は笠状を呈するもの一群に属すると想定するが、傾きの検討を要する。縁部は長く折り返す。断面形状はハの字状に開くものと三角形で直立気味になるものとが認められる。637はかえりの付くもので遺跡内では類例が少ない。

638～642は壺である。638～640は口縁部の小片のみの出土で実態は不明であるが広口の壺の口縁部であると想定できる。640は高坏脚部端の可能性も想定できるが、復元径が大きいことからこちらに分

類した。641は体部の一部のみで詳細は不明であるが肩部に櫛描列点文が認められる。642は小型の高台付き坏の可能性もあるが、内面見込み部分の調整が粗いことから小型の壺底部であると判断した。

643～645は甕である。小片のため詳細は不明である。644は波状文が認められる。646は平瓶である。無台の平坦な底部を持ち、体部と肩部の境は明瞭な稜線が形成される。把手は認められない。頸部はほぼ直立し、口縁端部は外反する。内外面共に精緻な回転指ナデによる調整が施される。やや異質なのは、回転指ナデ終了後、体部下半及び底部外周にハケ調整の痕跡が認められる点である。ハケ目の切り合いから、まず、底部の調整を行った後、体部下半の調整を行ったことがわかる。

647・648は黒色土器A類鉢である。小片のため径・傾きに検討を要するが、大きさに大小が認められるものの、内湾する深い体部と外面口縁直下1～2cmのところに屈曲点がある点で共通する。内外面の調整は両者とも摩滅が著しくやや判別が困難であるが、647は内外面共にヘラ磨き、648は外面をハケ・内面をヘラ磨き?により調整しているものと想定できる。

SR03 (第114図656～第115図697)

656～662・695～697は土師器、663～693は須恵器、694は黒色土器A類である。

656は高台付きの皿である。高台の一部が遺存しているのみで詳細は不明であるが、踏ん張った高い高台が取り付く。657は碗である。高台の一部が遺存しているのみで詳細は不明であるが、断面三角形の低い高台が取り付く。658・659は蓋である。頂部中央を欠損するため詳細は不明であるが、扁平な頂部とやや長い浅く折り返した縁部を特徴とする。660・661は甕である。大小二類に分類できる。662は古式土師器の高坏である。脚部を欠損するため詳細は不明であるが、体部下方に断面三角形の突帯が貼り付けられる。695～697は棒状土錘片である。

663～679は坏である。小片がほとんどで、完形に復元できるものはわずかである。663～665は無台の坏である。663以外は底部のみで器形について検討を要する。663は平坦な底部とやや浅い角度で立ち上がる体部を持つ。底部と体部の境は明瞭で稜線が形成される。体部から口縁端部までは直線的に伸びる。664は底部形状が663に類似することから坏に分類したが、皿の可能性もある。665は底部と体部の境が不明瞭である。666～675は高台付きの坏である。底部あるいは体部を欠損するものがほとんどで完形に復元できるものは少ない。少ない中で分類すると、径がやや小型でやや深みを持つ666・径はやや大型で浅めの667と同程度の径を持つが深い672の三種が認められる。平坦な底部とそこから緩やかに立ち上がる体部を持つものが主体となる。底部と体部の境は緩やかに変化するものが多く、やや不明瞭な感を与える。高台は底部と体部の境付近に取り付くものが多く、その形状は踏ん張るもの・直立するものが認められる。断面形状は方形を呈するものが多く、不定形のもの(669)がわずかに認められる。体部から口縁端部は、直線的に伸びる形態のものが多く、673のように口縁端部のみが外反するものはわずかである。底部高台内面に爪形圧痕が認められるもの(670・671)、「一」のヘラ記号が認められるもの(669)、内面見込み部分に「一」のヘラ記号が認められるもの(665)が存在する。676～679は体部から口縁部のみである。高台の有無を問わず、概ね前述した器形と合致するとみてよい。679のみが口縁端部で外反する。全体の形状としては676のみがやや浅く広がる形態を取ることから、本来は676は皿に分類する必要があるのかもしれない。680は皿である。

681～687は蓋である。縁部あるいは頂部のみのもものがほとんどで、全体の形状は不明である。頂部の形状は平坦なものが多い。頂部と縁部の境はいずれも明瞭である。688は高坏脚部である。

689～693は壺である。いずれも破片で詳細は不明である。689は688同様高坏脚部の可能性も想定できるが、頸部を脚部と見た場合、立ち上がりが強すぎる感を受けたため壺口縁部に分類した。690・691は壺肩部の破片資料である。詳細は不明であるが、体部と頸部の接合方法に差があり、691には円盤充填の痕跡が認められるが、690にはそれが認められない。692・693は高台付き壺の底部である。共に踏ん張った高台が認められるが、長短が認められる。

694は碗である。平丸底の底部と直立する長い高台を持つ。内外面の調整は摩滅により不明である。

SR05 (第115図698～707)

698～701は土師器・702～706は須恵器・707は黒色土器A類である。

698は坏である。平丸底の底部とわずかに内湾する体部を持つ。口縁端部は直線的に延びる。699は皿底部である。坏の底部との差が不明瞭であるが、やや径が大型である印象を受けたため、同器種に分類した。700は皿である。底部を欠損することから詳細は不明であるが、直線的に伸びる体部と外反する口縁部を持つ。701は竈片である。

702～704は坏である。いずれも底部欠損のため詳細は不明であるが、体部の形状にはバリエーションが認められる。705は蓋である。頂部がわずかに遺存するのみで詳細は不明であるが、つまみの形状が擬宝珠形を呈する。706は壺である。口縁部のみ出土で全体形状は不明であるが広口の壺が想定できる。内面に浅い二条の沈線が認められる。

707は鉢である。底部欠損のため詳細は不明であるが、体部から口縁端部にかけて内湾する器形であると想定できる。外面口縁部直下2cmほどのところに屈曲点を持ち、弱い稜線が形成される。口縁端部は面取りがなされ、断面形状は方形を呈する。調整は摩滅が著しいが内面にヘラ磨きの痕跡が認められる。

SR06 (第115図708～第116図760)

708は弥生土器鉢である。底部のみ出土で器形の詳細は不明であるが、内外面に指頭痕が認められ、指押さえを主たる成形方法に用いていたと想定できる。

709～739は土師器・740～759は須恵器・760は黒色土器A類である。

709～717は坏である。このうち、714・715は回転台土師器である。無台の714と高台付きの715が認められる。714は口縁端部欠損のため詳細は不明であるが、714・715共に平坦な底部と鋭角に立ち上がる体部を持つ。底部と体部の境は明瞭で、715はこの境付近にややへたり気味の高台が取り付く。有台の坏は他に716が認められるが、体部欠損のため詳細不明である。平丸底の底部とそこに取り付く長く踏ん張った高台を持つ。709～713・717は無台の坏である。いずれも底部欠損のため詳細は不明であるが、体部の形状にバリエーションが認められる。内外面の調整は摩滅が著しく詳細不明なものが多いが、710・712・717のように外面にヘラ磨きが認められるもの、709・710・717のように内面に放射状暗文が認められるものが存在する。717は2段の対向する放射状暗文が施されるが、当遺跡内では他に例を見ない。718～724は皿である。底部あるいは体部を欠損するものがほとんどで、器形の詳細は不明であるが、概ね大小二類に分類できる。体部の形状は鋭角に立ち上がるものと底部から体部へ緩やかに立ち上がるものの二類に分類できる。また、口縁部内面に一条の沈線あるいは浅い凹線を有するものがある。坏同様、バリエーションに富む器形であるといえる。725～727は碗である。725・726

は半球状を呈するもので、内外面の摩滅が著しく調整の詳細は不明であるが、いたるところに指頭痕が認められる。多数見られる坏などの胎土とは異なって粗い胎土を持つ一群で、その胎土は甕などの大型器種に用いられるものに類似する。727は底部欠損のため詳細は不明であるが、大振りな器形が想定できる。内外面の調整は摩滅により不明瞭となるが、一部にヘラ磨きの痕跡が認められる。729は高坏である。脚部のみ遺存し、全体の器形については不明である。短い多角柱状の脚部を持ち、脚端は浅い角度で大きく広がる。外面の多角柱状を呈する部分はヘラ削りにより作出され、脚端はヘラ磨きにより仕上げられる。内面は指ナデとヘラ削りにより仕上げられる。730～738は甕である。破片のため、全体の形状については不明な点が多いが、小型の730～733、中型の734・735、大型の736～738に三分される。口縁部の形状は、概ね直立気味に立ち上がるものと水平に近い角度で広がるものに分けられる。また、口縁端部の形状から方形のもの・細く尖らせるもの・内面上端をつまみ上げ稜線を形成させるものに分類できる。口縁部の形状と口縁端部の形状にやや相関性がみられ、直立気味に立ち上がる口縁部に方形の端部が伴うもの(731～733)、水平に広がる口縁部に内面上端をつまみ上げる端部が伴う(734・735)とみることが出来る。器壁の厚さはやや厚手のものが多く、730・735の2例のみやや薄い。738は底部欠損のため詳細不明であるがやや浅い器形が想定され、鉢に分類するべきかもしれない。739は土師質甕の一部である。

740～743は無台の坏である。口縁端部を欠くものがあり全体の形状は不明であるが、概ね平丸底を呈するものが主体とみてよい。体部は直線的なもの・内湾するもの・外反するものの三種が認められ、比較的鋭角に立ち上がる傾向にある。底部から体部への変化点は緩やかに湾曲するものが多い。741のみがかなり異質である。744～750は高台付き坏である。底部あるいは体部を欠損するため詳細は不明であるが、概ね無台のものと同様の傾向があるとみる。高台は底部と体部の境からやや内側に寄ったところに取り付くものが多く、踏ん張るもの・直立するもの両者が認められる。口縁端部の形状は先細りに仕上げるものと丸く仕上げるものが認められる。752～756は蓋である。頂部と縁部の境は752・756を除き、比較的明瞭である。頂部は笠状を呈するものと偏平なものが認められるが、前者の割合が高い。縁部は小さく折り返し、断面三角形に仕上げる。755のみやや長く外反気味に仕上げる。つまみの形状は概ね偏平であるが、やや高さを持つもの(753)が認められる。757は壺である。口縁部のみの小片で器形・径・傾きについて検討を要する。758・759は甕である。いずれも破片で器形・径・傾きについて検討を要する。

760は皿である。本遺跡では他に類例のない器形をしており、内面では底部と体部の境はほとんど認められない。外面は口縁直下1cm程度のところにわずかに屈曲点を認める。若干摩滅が進んでいるものの比較的調整が明瞭に遺存しており、内面はヘラ磨き・外面はヘラ磨きと手持ちヘラ削りの併用により成形されている。

性格不明遺構出土遺物

SX04 (第117図766～第118図786)

766は土師器壺である。口縁部のみの出土で詳細は不明である。767～777・780は土師質土器である。767・768は土鍋である。破片資料で底部の形状など詳細は不明である。768は比較的良好に遺存しており、内外面の調整が明瞭に観察できる。また、内耳が比較的高く、縁部に4面の面取りが施される。内外面共に指押さえにより成形される。769～771は足釜である。脚部のみあるいは体部のみ遺存して

おり、底部まで遺存するものは認められない。769・770は脚部のみである。先端を欠損するため詳細は不明であるが、全体的にヘラ削りにより成形されている。外側に面する部分は比較的細かい単位で調整されるが、裏側はやや粗い調整にとどまる傾向にある。771は769と同一個体である。貼り付け痕が体部下半に認められるが、接合しない。体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。罫部は非常に小さい。772～777は土鍋である。完形に復元できるものは無く、径・傾きに検討を要する。また、底部の形状をうかがえるのは776のみである。口縁端部の形状は細部を見るとバリエーションに富むが、大きくみると概ね方形を呈する。いずれも口縁部から体部にかけては弱いくの字状を呈する。772はやや浅い角度に復元されるほか、773はほぼ直立する。器形に若干バリエーションが認められる可能性がある。776・777は底部であるが、いずれも破片で詳細は不明である。共に1cm角程度の格子目タタキが認められる。780は播鉢である。口縁部付近が遺存しているのみで詳細は不明であるが、内面に3条一単位程度の卸し目が認められる。

778・779、783・784は須恵器である。778は無台の坏、779は蓋、783・784は壺ないし甕の口縁部である。いずれも、遺物全体の状況を見る限りでは混入品であると理解できる。

781・782は備前焼播鉢である。同一個体の可能性も想定できるが、両者の間に若干の傾きにおいて差が認められたため別個体扱いとした。

785は亀山焼甕体部片である。786は青磁碗である。口縁部と底部がそれぞれ破片で出土している。相互に接合は認められないが、釉の厚みが同一であることから同一個体と判断した。底部高台内面に蛇の目状に釉を剥いだ跡が認められる。

SX05 (第118図787～790)

787・788は須恵器高台付き坏である。底部のみであるため詳細は不明であるが、平坦な底部と短い高台を持つ。高台は踏ん張るものと直立するものに分類でき、共に底部と体部の境からやや内側に寄ったところに取り付く。789・790は瓦器である。小片のため器形・径・傾きに検討を要する。

SX07 (第117図761～765)

761～765は土師器である。761は小皿である。平坦な底部と浅い角度で立ち上がる体部を持つ。口縁部は欠損し詳細不明である。762～765は坏である。いずれも平坦な底部を持つ。底部と体部の境は明瞭であるが、体部の立ち上がりはやや急角度のものとやや浅めのものに細分できそうである。また、体部も概ね内湾する傾向にあるが、764のように若干外反傾向にあるものも認められる。一括資料であることから、当該期の様相を反映していると思われる。

溜池状遺構 (第118図791～799)

791・792は足釜の脚部である。いずれも小片であるため詳細は不明である。793～795は須恵器坏である。三者三様の形態をとる。本来この遺構の下にあった遺物が巻き上げられたか、周辺から流入したものであると想定できる。796は白磁碗である。底部のみの出土で詳細不明であるが、中国産と想定できる。12世紀後半から13世紀前半のものと想定できる。797は唐津焼碗である。内面見込み部分に砂目積みの痕跡が認められる。798は土釜である。口縁部のみの出土で詳細は不明である。799は須恵器こね鉢である。底部片のみで詳細は不明である。

包含層出土遺物

各調査区毎に出土したものを記載する。ここでは基本的に機械掘削中に出土したもの・平面精査時や側溝掘削時に現位置から遊離したものを全て包含層出土遺物として扱うこととする。

I区包含層（第119図800～第123図979）

800・801は弥生土器である。800は鉢・801は甕である。共に底部あるいは体部を欠損し、器形の詳細は不明である。

813・818は古式土師器である。813は高坏・818は甕である。813はほぼ完形に復元できる個体である。当該期の遺構が調査区内で検出できていないため実態は不明であるが、下層確認トレンチ内からの出土であることから、当該期の包含層が調査区内に存在したものと理解する。同様の遺物がSR03・04からも出土することからもこれを裏付けているといえる。

802～812・814～817・819～826は土師器である。802～804は無台の坏である。器形にバリエーションがみられる。803・804は回転台土師器である。トレンチ掘削時の出土であり、先述したいずれかの遺構に属するものであると想定できる。806～810は皿である。やはり器形にバリエーションが認められるが、いずれも平面精査時出土資料であり、遺構上層埋土からの遊離であると想定できる。

814～817は鉢である。破片資料が中心であり径・傾きに検討を要する。口縁部の形態が直立する814と大きく外反する817、片口を持つものとバリエーションが認められる。815は把手付きの個体であるが、甕の可能性もある。819～824は甕である。いずれも破片資料のため傾き・径に検討を要するが、大型・中型・小型の3類型に分類できそうである。口縁部の形態は浅い角度で広がるものが主体となり、直立気味になるものは認められない。口縁端部の形状は方形のものと端部上面をつまみ上げて稜線を形成するものに大別できる。調整方法は体部外面はハケ調整・内面はハケ調整と板ナデを併用というもので概ね統一されると見れる。825・826は把手である。甕・鍋・甑のいずれのものかは不明である。

827～840は土師質土器である。827～829は土釜である。口縁端部のみであり詳細不明であるが、概ね直立する体部とほぼ水平に取り付く鋳部からなる。830～833は足釜である。口縁部および脚部のみ出土であり詳細は不明であるが、体部から口縁端部にかけて内湾し、鋳部は短いものが取り付く。脚部は大半を欠損するため全体の形状については不明である。基本的にヘラ削りにより成形されているようであるが、単位の粗いものと細かいものに分類できるようである。ただし、833は他の2例とは異なり断面形状が方形を呈する。胎土も精緻なものを用いる。時期的な差か器形を誤って認識している可能性が想定できる。834～839は土師質竈片である。全体の極一部のみの出土であるため詳細な形態等に付いては不明である。840は甕である。口縁部のみ出土であり詳細は不明である。

841・842は播鉢である。共に小片であり詳細不明であるが、前者は堺産・後者は備前産であると想定できる。

843～943は須恵器である。843～848は無台の坏である。概ね全容が判明するのは843～846の4点である。底部の形状は平丸底・平底の二類に分類できる。また、体部の形状は内湾するものが主体で外反するものが一例認められる。底部の成形は基本的に回転ヘラ削りを主体とするが、848のように手持ちヘラ削りが施されるものも認められる。特筆すべき点として、847のように内面見込み部分に「王」字刻印が認められるものが存在する。23mm前後の直径に復元できる円形の区画線が「王」字の周辺に巡

る。849～865は高台付き坏である。底部ないし体部を欠損するものがほとんどで器形の全容が把握できるものはわずかである。底部は平底が中心であるが、底部中心が若干下がる形態を取るものがわずかに存在する。底部と体部の境は明瞭に屈曲するもの・緩やかに底部から体部へ変化するものが認められる。高台はこの境付近に取り付くものと境よりやや内側に入ったところにつくものが認められる。高台の形状はやや長めのものと短いものの二種が認められ、踏ん張るものと直立するものに分類できる。さらに断面形状は方形のもの・矩形のもの逆台形のもの・不定形のものと同様なバリエーションが認められる。体部の形状は鋭角に立ち上がるもの・緩やかに立ち上がるものが認められ、直線的に伸びるもの・内湾するものに分類できる。口縁端部は直線的なものと外反するものが認められる。851のように外面に浅い凹線状の窪みを持つことで著しく外反する形状に見える個体もある。865は底部の破片である。高台が剥落して現状では詳細不明の資料であるが、外面にヘラ状工具によると見られる「一」の凹線が高台のすぐ際に一条と、2点一単位と想定される列点が二組認められる。本遺跡内では他に類例を見ないヘラ記号である。866～878は底部欠損の坏である。径・傾きに検討を要するものが多い。比較的体部が直線的で鋭角に立ち上がるように復元されるものが多い。口縁端部は外反傾向を示すものが多く見受けられる。法量は大型・中型・小型の3類型に分類できそうである。基本的に無台・高台付きのものと傾向は変わらないようである。わずかに、876のようにやや極端に大型で体部の立ち上がりの弱いもの、877・878のように体部が内湾傾向をしめすものなどが認められる。

879～888は皿である。886～888を除き平坦な底部を持つ点で共通する。底部と体部の境は明瞭で、体部の立ち上がりが弱い角度の879・881・884と、これらよりわずかに強い角度の880・882・883・885に分類できる。口径によってわずかな差ではあるが、小型の879・880、中型の881～883、大型の884・885に分類できそうである。特筆すべき点として、885の内面見込み部分に「王」字刻印が認められる。同様の例は先述した坏(847)に認められる。886～888は土師器模倣の皿である。約45°で立ち上がる体部を持ち、口縁内面に一条の沈線を有する。889は椀である。

890～919は蓋である。完形に復元できるものはごくわずかである。つまみの形状は擬宝珠状のもの・偏平なもの・その中間形態のものが認められる。909・918を除き、いずれも頂部と縁部の境は明瞭である。頂部は偏平なものがやや多いが、笠状のものも認められる。縁部の形状は断面三角形で直立するもの・長く折り返してハの字に開くもの・短く折り返してハの字に開くものなどが認められ、バリエーションに富む。

920は鉢である。底部・口縁部を欠損し、径・傾きの検討を要する。内面に回転指ナデ・外面に回転ヘラ削りの調整が認められ、その単位は極めて細かく精緻である。傾きは外面の回転ヘラ削りの単位を上下2ヶ所で抽出し、それが概ね水平になるように設置して弾き出した。調整が精緻であることと底部がやや鈍い尖底を呈する器形が想定できることから、鉄鉢の可能性が指摘できる。本遺跡では他に類例のない器形・調整方法である。921～939は壺である。921～923はやや首の短い壺である。頸部のみの出土で詳細不明であるが、外反するものと内湾するものの2種類が認められる。922には頸部と体部の境付近に五条の線刻が認められる。ヘラ記号と見た場合、当遺跡内では他に例は認められない。924・925は長頸壺であると想定できる。926は広口壺の口縁部と想定できるが、細片のため、径と傾きの検討を要する。927～931は短頸壺である。体部を大きく欠損し、全体の形状については不明であるが、頸部の形状から、極端に短い927・928とやや長い930・931に分類できる。929は頂部と端部を欠損し全形が不明であるが、短頸壺の蓋であると判断した。932は壺肩部である。933～939は底部を中心に

集めた。無台のものと高台付きのものが認められ、大きさも大型・小型に二分出来そうである。936は底部のごく細片であり詳細は不明であるが、底部と体部の境付近に把手の痕跡と想定できる突起が認められる。別器種に分類する必要が想定できる。高台付きのものは、底部の形状が平坦なものと平丸底のものに分類できる。また、高台の形状は踏ん張るものとやや直立気味のものに分類できる。940～942は甕である。口縁部あるいは体部上半の破片のみであり詳細は不明である。口縁部は両者とも鋭角に立ち上がる形状に復元できる。体部については径・傾きについて検討を要する。943は把手の破片である。どのような器形のものにつくかは不明である。

944～952は黒色土器である。944・945は坏である。両黒の個体である。946～950は壺である。底部あるいは体部を欠損するため詳細不明である。946以外は踏ん張ったやや長めの高台が取り付く。950は高台の部分が剥落している。946は直立気味の体部から内湾する口縁端部を持つ器形に復元でき、947～950とは異なった器形に復元できると想定する。951・952は鉢である。内面のみ黒色処理が施される。体部下半を欠損し全体の器形は不明であり、径と傾きに検討を要する。やや浅い角度で立ち上がる体部と外面がくの字に屈曲する口縁部を持つ器形が想定できる。口縁端部は直立する。調整は摩滅が進んでおり判別が困難であるが、951の内面にヘラ磨きの痕跡が認められる。953・954は緑釉陶器耳皿である。同一個体と想定できるが、接合が認められず分離して表現している。底部に糸切り痕が認められる。955は瓦器壺である。平丸底の底部と内湾気味の体部・外反する口縁端部を持つ。

956は瓦である。大きく破損するため全体の形状などは不明であるが、内面に布目の痕跡が認められる。957は不明土製品である。ブロック状を呈しているが、著しく破損しており詳細不明である。レンガ片である可能性がある。958は埴塼である。破片であることとスラグが付着しており、詳細な器形は不明である。分析をかけていないため、どのような金属を溶かしたのかも不明である。959・960は土師器棒状土錘である。

961～979はトレンチ一括資料である。当初、I区-①内でSR05という旧河道を想定して実態確認のため、トレンチ調査を行ったところ、比較的まとまった資料が出土したため、同流路遺物として取り上げた。しかし、隣接するI区-②の調査時には連続する流路は認められなかった。したがって、I区-②以東で溝状遺構として認定したものの延長がI区-①内に存在した可能性が想定でき、これらとの対応関係が現地で検証できなくなったため、包含層出土資料に準じる形を取った。961・962は土師器坏である。共に底部欠損のため詳細不明であるが、内湾する体部と外反する口縁部を持つ。964～971は須恵器坏である。964・965は無台の坏である。平坦な底部と内湾する体部を持つ。966～971は高台付き坏である。底部破片のみであり全体の形状については不明である。平坦な底部を持つものが主体となり、中心が下がるものが1点認められる。高台の形状は方形ないし矩形を主体とし、踏ん張るものが多い。971は坏体部である。鋭角に立ち上がる体部を持ち、口縁端部までほぼ一直線である。972～977は須恵器蓋である。頂部あるいは縁部を欠損するものばかりで、全体の形状については不明である。972は偏平なつまみを持ち、笠状の頂部を持つ個体であるといえる。他に笠状の頂部を持つと想定できるのは975・976で、後は偏平な頂部を持つものと想定できる。頂部と縁部の境はいずれも明瞭なものである。縁部は短く折り返すものと長く折り返すものが認められ、前者は断面三角形に仕上げるもの・ハの字に開くものに、後者はハの字に開くものにそれぞれ分類できる。978・979は壺頸部である。前者は下半部を欠損するため詳細不明であるが、大型の壺が想定される。ただし、隣接するII区包含層からコップ形須恵器が出土しており(1013)、口径・器高が類似するため、同器種に分類できる可能性がある。

II 区包含層（第123図980～第125図1052）

980は弥生土器丸底壺である。981～986は土師器坏である。高台を有するのは983のみで、あとは無台のものであると想定できる。内外面の摩滅が進んでおり、若干調整方法の確認は困難なものが多い中、982のみは外面底部にヘラ削り痕が、内面にはわずかながら暗文が認められる。987・988は皿である。大型の987・小型の988が認められる。987はやや平丸底の傾向を持つ底部と内湾気味の体部を持ち、口縁端部は丸く仕上げる。内面口縁部直下に浅い凹線状の窪みが認められる。また、内面体部にやや単位が粗く左上がりの斜放射状暗文が認められる。989は碗である。平底の底部から浅い角度で立ち上がる体部を持つものと想定できる。底部と体部の境に長く踏ん張った高台が取り付く。990は蓋のつまみである。991～993は甕である。いずれも口縁部を中心とし、体部の遺存率はわずかである。994・995は甌である。両者の間に接合は認められないが、同一個体であると想定できる。994は口縁部から体部の破片であると想定したが、底部の可能性もある。995は体部中央付近の破片である。やや小振りの把手がつく。両者共に内面には指頭痕が、外面には指頭痕とそれを切るハケ目が遺存し、内面が指押さえ・外面がハケ調整により成形されたことがわかる。995内面には右上がりの粘土紐接合痕が認められる。996～1000は土師質竈片である。鱗ないしは体部片であり、全体の形状は不明である。996は片面にヘラ磨き状の調整痕が認められるが、ハケ状工具の外側が当たり、深い痕跡が残ったものと想定できる。997は底部の破片と想定できるが、内面は強い指ナデ・外面はハケにより調整されたことがわかる。998は焚き口付近の破片と想定できる。外面をハケ・内面は指押さえにより調整していると想定できる。999・1000は鱗の部分であるが、どの部位に相当するかは不明である。

1001～1045は須恵器である。1001～1004は無台の坏である。底部はいずれも平底を呈するが、底部と体部の境は丸みを帯びるものと角がつくものとが認められる。体部は直線的なもの・内湾気味のもの・外反するものが認められる。1005～1012は高台付き坏である。体部を欠損するものがほとんどで完形に復元できるのは1005～1007の3点である。1012を除きいずれも平坦な底部を持つ。1012はやや丸底の底部を持つ。底部から体部にかけては丸みを持つものがやや多く、角がつくものが若干認められる。高台は底部と体部の境からやや内側に入ったところに取り付くものが多いが1008・1012は底部と体部の境に取り付く。高台の形状はやや長く踏ん張るものが目立つが、1008・1009のようにかなり矮小化したものや1001のように直立するものも存在する。体部は鋭角に立ち上がりやや直線的に伸びるものが多い。口縁端部は外反傾向にある。1010は外面底部に爪形圧痕を認める。1014～1020は体部のみである。高台の有無は不明である。1019を除き鋭角に立ち上がる体部を持つ。特に1014～1017は口縁端部の形状にやや差が認められるが、法量においてはほとんど変化のない一群として認識できる可能性がある。また、1020はかなり直立する体部を持つものとして復元できる。

1013はいわゆるコップ形土器である。平坦な底部とほぼ直立する体部を持ち、底部と体部の境付近に細身で高く踏ん張った高台が取り付く。底部外面に爪形圧痕を認める。当遺跡内では他に類例を認めない。1021は皿である。平坦な底部と外反する体部を持つ。1022は碗である。細片から復元しているため、径・傾きの検討を要するが、大きく内湾する体部と面取りを施した口縁端部を持つものと想定できる。復元径がかなり大きいことから鉢に分類することも可能であると言える。いずれについても当遺跡では他に例を見ない。1023～1037は蓋である。1023は受け部を持つ坏に伴うものであると想定できる。1024～1027はつまみのみの破片であるが、扁平なものと扁平な擬宝珠状を呈するものとが認められる。1028・1029は完形に復元できる個体である。共に丸みを帯びたつまみと扁平な頂部を持つ。頂

部と縁部の境は明瞭であるが、浅く折り返す**1028**と比較的はっきり折り返す**1029**で差が生じる。**1030**～**1037**は頂部を欠損するもので詳細不明なものが多いが、偏平な頂部を持つものと笠状を呈するものとが認められる。頂部と縁部の境は明瞭なものも多く、**1036**のみが不明瞭であると言える。折り返しも長いものと短いものがあるほか、直立するもの・ハの字に開くものが認められる。**1034**は天井部内面に「一」のヘラ記号が認められる。**1038**は壺口縁部である。高坏脚部の可能性も考えられるが、ややたく復元される印象があるため壺口縁部とした。口縁端部外面に一条の沈線が施される。**1039**は水瓶である。頸部のみ出土であり、全体形状は不明である。内傾する頸部と大きく水平に開口縁部を持つ。口縁端部上面をわずかにつまみ上げ、稜線を作り出している。また、頸部外面にはらせん状に一条の沈線が施される。当遺跡では他に例を見ない。

1040・**1041**は壺底部である。**1040**は高台を持つもので、平坦な底部と内湾しながら立ち上がる体部を持つ。高台は底部と体部の境に踏ん張った状態を取り付く。**1041**は平坦な底部と内湾気味に直立する体部を持つ。底部と体部の境は明瞭に屈曲し、角がつく。**1042**～**1045**は甕である。鋭角に立ち上がる口縁部を持つものがほとんどである。**1043**以外は体部を欠損するため、詳細は不明である。口縁端部はやや丸みを帯びた方形に収めるものが多い。**1045**には外面に波状文が施される。

1046は青磁碗である。体部を欠損するため詳細不明であるが、直立する高台を持つ。**1047**は土師器蛸壺・**1048**は土師器管状土錘である。**1049**～**1052**は黒色土器である。A・B両類が認められるが、**1049**・**1050**はすでにSD18などで扱ったやや古手のものである。**1049**はかなり深い器形になると想定できることから鉢に分類した。**1050**～**1052**は椀である。

Ⅲ区包含層（第125図**1053**～**1059**）

1053は弥生土器鉢である。外面底部付近に指頭痕が認められるほか、体部上半にハケ目がわずかに認められる。**1054**は土師器坏である。SX07で出土したものとほぼ同形態のものと想定できる。**1055**は土師器皿である。底部欠損のため詳細不明であるが、平底の底部と内湾する体部を持つ形態が想定できる。**1056**・**1057**は須恵器蓋坏である。6世紀後半頃のものとして想定できる。**1058**は土師器甕・**1059**は土師質土器土釜である。

各調査区出土石器

当遺跡から出土した石器はごくわずかである。その中から主だったもののみを報告する。出土調査区・遺構は後出する観察表を参照されたい。

石鏃（第126図**1060**～**1063**）

4点出土した。いずれも凹基式に分類出来そうである。抉りの深い**1060**・**1062**と浅い**1061**・**1063**に分類出来よう。抉りの深い部類は縄文期に、浅い部類は弥生期にそれぞれ属するものと想定する。使用石材はサヌカイトである。

石匙（第126図**1064**・**1065**）

2点出土した。**1064**は小型で刃部両端を欠損し、器形の詳細は不明である。つまみは表裏からやや丁寧に二次加工を施して作り出されている。刃部も裏面から比較的丁寧に二次加工を施している。

1065は1064に比べ大型のものである。二次加工はやや粗く、裏面側にやや丁寧な加工が認められる。刃部の平面形は丸みを帯びて作り出される。刃部断面は鈍角に作り出される。また、つまみの作り出しも粗い二次加工によって行われている。使用石材はサヌカイトである。

スクレイパー（第126図1066）

1点出土した。Ⅱ区下層確認トレンチの最下層から出土した。当初、無遺物層として考えていた黄褐色混粗砂粘質土内に包含されており、急遽出土位置周辺を人力により精査したが、これに伴う遺物は皆無であった。横長剥片を素材としている。二次加工の主たる範囲は左側縁のみで右側縁は大きくステップした素材剥片の端部を残置している。加工の及んだ範囲内は微細な剥離が多く認められることから、スクレイパーとして認定したが、尖頭状に加工していることから尖頭器として分類することも可能である。この場合、基部に相当する部分が大きく振れるため、この器種認定の妥当性に疑問を感じる。使用石材はサヌカイトである。

楔形石器（第126図1067）

1点出土した。周縁部を調査時に破損したため詳細は不明である。上面の表裏に3回ないし4回程度の最終作業痕を認める。中心部分は表で4枚前後、裏面で2枚前後の剥離面を認める。使用石材はサヌカイトである。

剥片（第126図1068～1071）

4点出土した。いずれもサヌカイトである。いずれも両極打撃により剥取された剥片と想定できる。打面の明瞭に残るものは認められない。

燧石（第127図1072～1075）

SR01・SX04・包含層から出土している。使用石材は1072から順に青緑色チャート、赤色チャート・サヌカイト・珪化木である。いずれの石材も遺跡周辺で採取できるものではないことから、搬入石材であると想定できる。1072は節理がほとんど認められず、ガラス質の良質な石材を使用しており、ほぼ全周に微細な使用痕が認められる。1073はやや節理が目立ち、くすんだ感じのものを使用している。明確な使用痕は認められず、粗割によって稜線を作り出した直後と見られる。1074は粗割した素材の初期段階で使用された際に生じた剥片である。頭部に非常に狭い打面が認められ、表面に先行する2回程度の使用に伴うと想定される微細な剥離痕が認められる。端部にも1枚の先行する剥離痕が認められることから、素材そのものはあまり大きなものではなかったと想定できる。1075は珪化の進んだ木の繊維に対して直交するように打ち欠いたものを素材とする。図上の各長手面に見える細い線が繊維である。元の母岩は珪化が著しく進んだ部分とそうでない部分があったようで、やや軟質な傾向にあったであろう珪化の弱い部分を粗割により除去し、珪化の著しい部分を核にして使用したものと想定できる。図上のやや大型の剥離面はこの粗割作業により生じたもの、約1cm以下の小型の剥離面は使用に伴い生じた剥離面と想定できる。小口部分は両面とも著しく珪化の進んだ面が現れている。図右側の小口上面に特に顕著な使用痕を認める。

礫器（第127図1076・1077）

1076は凹石である。角柱状を呈し、各長手面に敲打により窪んだ痕跡が認められる。上下端は欠損し、全体の状況は不明である。石材は凝灰岩を用いる。1077は砥石である。下半を欠損するため全体の形状は不明であるが、欠損率は1/2程度であると想定する。図正面および右側面に顕著な摩滅痕及び擦痕が認められる。摩滅痕および擦痕の認められる面はわずかながら窪んでいる状況が確認できる。やや硬質な砂岩を素材とする。

木製品

主としてI区SE01から出土したものである。ここではこのSE01出土資料のみを掲載・報告する。全て井戸枠内からの出土である。

斎串（第128図1078～1083）

図化に耐えうるものは6点である。全体の形状が判明するものはそのうち3点である。平面形状はいずれも細長い矩形を呈するほか、左側縁下端および右側縁上端に微小な切り欠きが認められる。1079には正面に、1080には表裏両面に3条から4条の右下がりないし左上がりに斜行する墨書が認められる。1081～1083は破損が著しいものの、両側縁の一部が遺存していることから斎串とした。1081は他のものに比べるとやや大型に復元できると想定できる。

曲物（第128図1084～1086）

図化に耐えうるものは3点である。大きさに差は認められるが、いずれも片面に素材の繊維に対して直交・斜行する極細で浅めの切り込みが施される。裏面には同種の切り込みは認められない。いずれも切り込みの部分から破損しており、全体の形状を復元するには至らない。

第4章 まとめ

第1節 遺構

1. 掘立柱建物について

当遺跡では12棟の掘立柱建物が検出できた。しかし、大半が調査区外にはみ出るものであったり、後世の削平・削剥を受けていたり、規模の情報が大きく欠落している。また、遺構の構造上、建物の時期を決定するための遺物がほとんど出土せず、所属時期が不明になっているものがほとんどである。

ここでは、残存する情報を元に、出来るだけ共通する項目を抽出して相互の比較を試み、主に建物の時期的な単位が抽出できるか検討したい。

| 遺構名 | 現存桁行 | 現存梁行 | 建物の方位 | 桁行距離(m) | 梁行距離(m) | 床面積(m ²) | 残存率 | 北に対する偏向方位 | 偏向角度(°) | 主軸偏向類型 |
|------|------|------|-------|---------|---------|----------------------|-----|-----------|---------|--------|
| SB01 | 2間 | 2間 | 南北 | 5.3 | 5.4 | × | × | E | 5 | A |
| SB02 | 3間 | — | 南北 | 7.2 | — | × | × | E | 4.5 | A |
| SB03 | 4間 | 1間 | 東西 | 8.1 | 2 | (32.4) | 0.5 | E | 1 | B |
| SB04 | 3間 | 2間 | 東西 | 5.4 | 3.7 | (39.96) | 0.5 | E | 6.5 | A |
| SB05 | 5間 | 2間 | 東西 | 11.9 | 4.8 | 57.12 | 1.0 | W | 1.8 | B |
| SB06 | 4間 | 2間 | 東西 | 7.6 | 5 | 38 | 1.0 | E | 1.4 | B |
| SB07 | 4間 | 2間 | 東西 | 7.7 | 4.3 | 33.11 | 1.0 | E | 6 | A |
| SB08 | 3間 | 1間 | 東西 | 7.3 | 3.7 | 27.01 | 1.0 | E | 5.6 | A |
| SB09 | 3間 | 2間 | 東西 | 4.8 | 4.2 | (40.38) | 0.5 | W | 7 | C |
| SB10 | 1間 | 2間 | 南北 | 1.8 | 3.8 | × | × | E | 5 | A |
| SB11 | 2間 | 2間 | 東西 | 4.2 | 3.2 | 13.44 | 1.0 | E | 10 | D |
| SB12 | 2間 | 2間 | — | 3.3 | 3 | (19.8) | 0.5 | E | 9 | D |

- SB02の梁行は未検出のため空欄である。
- 床面積に×が入るものは残存率から復元不可能と判断したものである。また、()内は残存率から2倍して復元した数値である。
- 偏向角度の計測は図上で行った。桁行の軸を用い、桁行が南北方向の場合はその主軸角を、東西方向の場合はそれに直交する軸を設定して測定した。
- 柱間距離の平均値の算出は、各柱列間の距離の総和を総柱間数で除して行った。

第4表 掘立柱建物一覧

a. 現存規模による分類

12棟中、明確に規模が判明しているのは5棟である。これに検出状況から規模が推定できるものが4棟加わり、都合9棟が検討の対象になる。建物の平面構造による内訳は、2間×2間のものが2棟、3間×1間のものが1棟、3間×2間のものが2棟、4間×2間のものが3棟、5間×2間のものが1棟であり、構造の上ではバリエーションに富む。床面積は推定値を含むが、20m²以下が2棟、20~40m²のものが6棟、40m²以上のものが1棟である。特に、SB05の57.12m²は当遺跡中最大の規模を持ち、県内でも大型の建物の部類に属する。建物の平面構造と床面積の関係は概ね比例しているとみることができ

るが、これが時期差に反映するかどうかは検討の課題となる。

b. 主軸方位による単位の抽出

抽出した掘立柱建物の主軸は、その多くが東偏する傾向が見られる。しかし、単純に西偏・東偏で分類するのは困難であることから、主軸の偏向角度でグルーピングを試みた。完全に軸が揃うものはN5°Eを測るSB01・10の2棟のみである。これと1.50°以内の誤差を持つものがSB02・04・07・08が挙げられる。また、ほぼ真北を向くものとしてSB03・05・06が挙げられる。さらに、これらとは角度が2°以上差があるものとしてSB09・11・12がある。従って、大きく分けると

A類. 主軸東偏型

B類. 主軸真北型

C類. その他

に分類できる。

A類については、偏向角度を平均すると約5.40°を測る。この角度は大内平野に比較的明瞭に遺存する条里型地割のN7°Eの数値に近似する。従って、この一群は条里型地割に規制されたものであると想定できる。ただし、SB01・02及びSB07・08の間には重複関係が認められることから、全ての建物が

| 遺構名 | 柱間距離の 総和 (cm) | 柱間距離の 平均値 1 (cm) | 柱 間 (尺) | 柱間距離の平均値 2 (cm) | | | | 建物基準 尺 類 型 |
|------|------------------|---------------------|------------|-----------------|-------|---------|-------|----------------|
| | | | | 桁行 | 柱間(尺) | 梁行 | 柱間(尺) | |
| SB01 | 1,070 | 214 | 7 | 225 | 7.5 | 197.5 | 6.6 | 7 尺型 |
| SB02 | 530 | 176.667 | 5.9 | 176.667 | 5.9 | — | — | 6 尺型 |
| SB03 | 835 | 139.167 | 4.6 | 133.75 | 4.5 | 150 | 5 | 5 尺型 |
| SB04 | 820 | 136.667 | 4.6 | 131.667 | 4.4 | 141.667 | 4.7 | 4 尺・5 尺 併用型 |
| SB05 | 2,525 | 180.357 | 6 | 180 | 6 | 181.25 | 6 | 6 尺型 |
| SB06 | 1,870 | 155.833 | 5.2 | 143.125 | 4.8 | 181.25 | 6 | 5 尺・6 尺 併用型 |
| SB07 | 1,785 | 148.75 | 5 | 143.75 | 4.8 | 158.75 | 5.3 | 5 尺型 |
| SB08 | 1,615 | 201.875 | 6.7 | 177.5 | 5.9 | 275 | 9.2 | 5 尺・6 尺 併用型 |
| SB09 | 835 | 139.167 | 4.6 | 120 | 4 | 158.333 | 5.3 | 4 尺・5 尺 併用型 |
| SB10 | 520 | 130 | 4.3 | 127.5 | 4.25 | 142.5 | 4.75 | 4 尺・5 尺 併用型 |
| SB11 | 1,105 | 138.125 | 4.6 | 156.25 | 5.2 | 120 | 4 | 4 尺・5 尺 併用型 |
| SB12 | 560 | 112 | 3.7 | 105 | 3.5 | 122.5 | 4.1 | 4 尺型 |

第5表 掘立柱建物柱間距離による類型一覧

同時期であると判断するより、時期差があるとみておいたほうが良いだろう。地割の施工時期については不明な点が多く、詳細な施工時期の判定は今後の課題であると言える。B・C類については後述する。

c. 柱間距離による分類

ここでは各建物を柱間距離により分類することを試みる。柱間距離の算出は概ね各柱穴の中心の距離を測り、例外的に柱痕・柱材が認められる場合はその中央を結んだ距離を測った。まず、建物の基準となるであろう基準尺の単位を抽出するため、全ての建物において柱間距離を全て足して（柱間距離の総和）、その数値を柱間数で除した（柱間距離の平均値1）。ところが、当遺跡で検出した建物の大半が東西の柱間距離に比べ南北の柱間距離のほうが若干長くなる傾向があるため、正確な基準値が出せないと判断した。そこで平均値1との比較を行うために、各建物について桁行・梁行それぞれの柱間距離の総和を柱間数で除したものを提示した（柱間距離の平均値2）。また、平均値1・2の数字を約1尺（30cm）で除したものをそれぞれの数値のあとにつけている。これらをまとめたのが第5表である。これによると、平均値1でみた柱間と平均値2で見たものとは若干のブランクがあることがわかる。この中において桁行・梁行の間隔が揃うのはSB05のみで、その基準になる柱間は6尺である。現状では平面形は矩形を呈し、それぞれの柱間の間隔もばらつきが認められるが、これらを除外するとかなり整然としたプランを持って建物を建てようとした姿が窺える。これ以外の建物に関しては、桁行と梁行の間に半尺から1尺の差が生じることから、SB05のみは他のものと比べやや特殊な性格を持つものと想定できる。これを6尺型の建物と仮称する。また、これに隣接するSB06の梁行の柱間距離平均値がSB05のそれと一致することから、両者が比較的近接した時期に建てられた可能性が想定できる。しかし、SB06は桁行の数値がSB05のそれより1尺近く短くなっており、この点については検討を要する。これと似た傾向は先述したとおり、大半の掘立柱建物で確認できることから、何か別の要因があつて桁行と梁行の柱間距離に差が生じているものと想定できる。パターンとしては若干細かい数値にばらつきが認められるが、桁行4尺、梁行5尺の基準で立てられた可能性が想定できるものが3棟、桁行と梁行が逆転したものが1棟認められる。これを4尺・5尺併用型と仮称する。その他、7尺型、5尺型、4尺型、5尺・6尺併用型と仮称したものがあつたが、いずれもSB05のような規格性は認めがたい。

d. 建物の配置

12棟の配置についてはほとんど規則性が認められない。その中で、わずかに3組が柱筋をそろえるように見て取れる。SB05・06、SB07・10、SB11・12がそれに相当する。SB05・06は、SB05の西壁の柱筋がSB06の中心をとる柱筋と概ね合致するとみても良からう。SB07・10は、SB07の西壁の柱筋とSB10の東壁の柱筋がほぼ一致する。以上はL字型の建物配置をとると見ることができよう。SB11・12はSB11の南壁の柱筋とSB12の北壁柱筋がほぼ一致するとみることが出来よう。ただし、これらが一定の規格性を持って建てられたかどうかについては検討の余地がある。

e. 各建物の時期

a.～d.で見てきた建物の属性による分類と調査で得られた所見とをつき合わせ、建物の時期区分を試みたい。まず、現存する地割との比較を試みる。遺跡周辺の地割についてみると、現在遺跡の東側で認められる地割は第3章で触れた基盤整備による改変で、旧状とは大きく異なる。基盤整備前の図面で認められる地筆境の主軸を調べてみると、調査区に近接する24本の地筆境の主軸を対象として計測を行った結果、東偏する地割が確認できた（第129図）。しかし、その主軸方位は0.25°から13.2°と大きく振れ幅があることが判明した。うち、7°前後東偏するものは母集団の1/3に当たる8箇所しか認められ

ない。この結果から、平野部に認められる条里型地割に規制された地割は、現状では遺跡周辺にほとんど遺存していないと判断できる。この理由として、遺跡南側を流れる北川がその狭い平野の中で流域を頻繁に変えていたことにより、古い地割が削剥されてしまったことが想定できる。従って、A類は削剥される前の古い地割に規制されたものとみることもできる。削剥を受けた時期についてであるが、遺跡内随所で確認できた遺構面直上の包含層から出土した遺物の時期が概ね9～10世紀頃であると考えられることから、その時期を当てておく。これは、遺跡内で確認できた遺構の大半を8世紀代のものが占めることから窺える。では、ほかの建物について地割との関連性が認められるであろうか。基盤整備前の地筆を見ると北川北岸で流路に規制されたとみられる地割が認められ、調査区周辺でその延長線上に近似する方位を持つ地筆境が認められる。この地割が形成された時期については不明であるが、先述した9～10世紀以降である事はまちがいなからう。掘立柱建物の主軸との関係を見ると、C類に含めたSB11・12の主軸方位と両建物が存在する付近の旧地割軸が、2°前後の誤差はあるが近似する。従って、両建物の時期と旧地割の施工時期とが比較的關係をもつと想定する。

次にB.の一群とC.に分類したSB09についてみてみよう。B.の一群が存在するのはI区であるが、この調査区は基盤整備前の地筆を見るとその境の軸がほぼ真北を向く。従って、いずれも比較的新しい時期の建物として認識される可能性があるが、この中で、SB05・06は遺構検出時に先述した包含層よりも下位に存在することを確認しているため、9世紀以降のものではないと判断できる。おそらくN7°Eの条里型地割が施工される以前のものとして理解しても良からう。SB03は同建物よりも下位にある周辺の溝状遺構とは軸が異なることからやや新しい遺構であると想定できる。詳細な時期については不明である。SB09については8世紀代のものと想定できる溝状遺構を切っていることから、これよりも新しい時期の遺構として理解できよう。

最後に各建物の属性を表にまとめておいた(第6表)。各類型間での共通性はほとんど確認できないことがわかる。時期的には8世紀代に属すると判断したものが大半を占める形となったが、主軸方位の単位で区分をした際、A類は少なくとも重複関係が存在することから時期的な細分ができる可能性がある

| | SB01 | SB02 | SB03 | SB04 | SB05 | SB06 | SB07 | SB08 | SB09 | SB10 | SB11 | SB12 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 平面構造 | 2×2 | 3×- | 4×1 | 3×2 | 5×2 | 4×2 | 4×2 | 3×1 | 3×2 | 1×2 | 2×2 | 2×2 |
| 建物の方位 | 南北 | 南北 | 東西 | 東西 | 東西 | 東西 | 東西 | 東西 | 東西 | 南北 | 東西 | 東西 |
| 主軸偏向類型 | A | A | B | A | B | B | A | A | C | A | C | C |
| 基準尺類型 | 7 | 6 | 5 | 4・5 | 6 | 5・6 | 5 | 5・6 | 4・5 | 4・5 | 4・5 | 4 |
| 所属時期 | 8c. | 8c. | ? | 8c. | 8c. | 8c. | 8c. | 8c. | ? | 8c. | 9c.以降 | 9c.以降 |

第6表 掘立柱建物類型一覧

る。また、8世紀代、中でも条里型地割施工以前に遡る可能性を持つ、大型で極めて規格性の高いSB05が存在する点は注目しておきたい。

2. 遺構の変遷

ここでは主として調査区のほぼ全面を覆う多数の溝状遺構を中心に、各遺構の属性と出土遺物、さらに調査時の所見を交えて調査区内での変遷過程を見ていきたい。ただし、調査区全体で135条ある溝状遺構のうち、遺物が出土し、かつ時期比定に耐え得るものはわずかであるため、単純な比較は困難であることを最初に断っておく。

a. 遺構の主軸類型化

まず、比較するデータとして数の多い溝状遺構を中心にまとめる。各溝状遺構の主軸方位を割り出し、この偏向方位及び偏向角度を用いて類型化を行った。この方法は掘立柱建物のところで行ったものにあらず。溝状遺構の主軸計測は図上で行った。溝の両端幅の中心を結んだ線を基準とし、この線が真北から偏向した角度を測定した。なお、南北方向の溝状遺構の場合はそのまま表記しているが、東西方向のものについてはこれに直交する線を引き、その軸の偏向角度を測った。これは掘立柱建物の主軸角測定方法と同様である。

主軸方位の類型化は

A類. 真北に対し約7°東偏するもの

B類. ほぼ真北を向くもの

C1類. 西偏するもの

C2類. 東偏するものでA類に含まれないもの

とした。A類の設定基準は先に述べた大内平野内に遺存する約7°東偏した条里型地割との関連を調べるためである。B類は条里型地割以外の基準軸を設ける際、比較的に利用しやすいものとして想定できる基準軸となり得るため、この類型を設定した。C類はA・B両類型以外の基準による規制が働くのかどうか不明であることから便宜的に設定した。B・C類の中には、わずかに東西に軸が振れるものを含めているので、若干わかりにくい表現となっている。類型化の際に判断に迷いが生じたのが、やや平面形状が蛇行する溝状遺構の主軸の誤差をどこまで許容するかである。掘立柱建物の際には柱穴の中心あるいは柱痕及び柱材の中心というやや明確な基準を設けることが出来たことから、誤差の範囲を2°以内に絞ったが、これをやや基準の甘い溝状遺構に適應させることが出来るのであろうか。そこで、わずかに誤差の範囲を広げ、3°以内に収めた。これは、4°以上に広げるとA類とB類の間に重複が生じ、グレイゾーンとなることから、これを避けるために設定した。

さて、この類型化にしたがい分類したものが第7表である。135条確認できた溝状遺構のうち、分析の対象となったのは121条である。残りの14条は遺構認定から外れたものや、著しく蛇行することから主軸の計測に意味を持たないと判断したものである。この表を見る限り、主軸を西偏・東偏いずれかで分類した場合、わずかに東偏するものが多いという傾向が認められる。さらに各類型ごとに比較すると、大内平野内の地割に合致するA類がそのうちの約半分の29条を占める。

| | 西偏 | 真北 | 東偏 | 計 |
|-----|----|----|----|-----|
| A類 | - | - | 29 | 29 |
| B類 | 12 | 2 | 19 | 33 |
| C1類 | 42 | - | - | 42 |
| C2類 | - | - | 17 | 17 |
| 計 | 54 | 2 | 65 | 121 |

第7表 溝状遺構類型試案(1)

B類はほぼ同程度の33条、C1類は42条・C2類は17条を数える。この結果、大内平野に認められる条里型地割にはほぼ規制されたと想定できる遺構が調査区内にも遺存する可能性が指摘できる。逆にいうと、この規制から外れるものが約3/4を占めるため、もし調査区近隣に地割の規制が及んでいたとするならば、掘立柱建物と周辺に遺存している地割との関連で想定したように、その大半が後世に削平された可能性が想定できる。

ただし、これらの中にはかなり問題点が含まれる。調査時の所見では同一時期の遺構であると判断していたものの中に、軸の方位が異なるものが含まれているのである。最たる例の一つにSD01とSD11の関係が挙げられる。I区-①南西隅で検出した両遺構の関係は、南北方向に伸びるSD01西岸に西から伸びてきたSD11がほぼ直交する。このSD11が東へ伸びる様子は見られない。調査時には同溝がSD01へ流下していたことを想定させるように、交点の南岸と北岸でその広がり方が若干異なり、北岸がわずかながら削り取られたような状況を呈していた。さらに、相互の主軸角を見ると、SD01がN5.5°E、SD11がN3°Eを測り、先に設定した誤差の基準内に収まる。また、溝の規模についても非常に似通ったものであるうえ、SD01の主軸もSD11との交点より南では同溝とほとんど直交していること

から、両者は共時性を持つ遺構であると判断して差し支えないであろう。同様の状況がSD86とSD103で指摘できる。ただし、SD30とSD37、SD103とSD113については6～12°の誤差が認められるため、検討を要する。

b. 出土遺物との対比

前項で溝状遺構の主軸方位と大まかな時期の対比を行ったが、これが果たして出土遺物に反映するであろうか。主軸方位の判別が出来、かつ時期決定に耐えうる資料が出土した遺構は非常に限定され、母集団として抽出した溝状遺構は42条と本来の母集団からさらに数が限定される。これらを遺物の時期及び偏向方位で括った溝の一覧が第8表である。溝の区分は単純に西偏あるいは東偏のグループで括った。また、時期区分については遺物の項目で再度触れるが、当遺跡においては遺物の時期区分が困難で、本来ならば中葉と後葉に2分されるべきであるが、敢えて

| | 遺 構 名 | | |
|-------|-----------------------------|--------------|--------------------------|
| | 西 偏 | | 東 偏 |
| 弥生時代 | SD69・71 | | |
| 8世紀 | SD70・95 | | SD09・80・124 |
| 8世紀前葉 | SD82 | | |
| 中葉 | SD10・30・40・76・94 | | SD36・37・60・73 |
| 中葉～後葉 | SD01・18・50 | | SD58・63・72・77・89・104 |
| 後葉 | SD31・39・68・84・93・100 | (真北) SD44 | SD04・11・12・20・86・103・113 |
| 9世紀以降 | SD99 | | SD119 |
| 方位不明 | SD41・42・78・79・83・96・115・117 | | |

第8表 時期別遺構一覧

中葉と後葉の間にワンクッションを置いた時期区分を行っている。この表を見る限りでは、本遺跡で基本的に確認できた遺構の大半が8世紀代に集中している様子が見て取れる。しかも、中葉から後葉にかけてのものが集中している。8世紀中葉で爆発的に遺構数が増加し、後葉の段階でピークを迎える。9世紀以降になるとその数は激減する。

この状況の中で、特に8世紀代の出土遺物を単純に3期区分すると約70年の中の変化を見ることになるが、遺構の数、遺物の出土量からこれを細分するのは困難である。さて、本来の目的たる溝状遺構の主軸方位との関係だが、結論からいうと、特に時期によって軸が統一される傾向は認められない。8世紀前葉までの遺構が西偏する傾向はわずかながら認められるが、それ以降になるとその差はわずかである。このわずかな差を評価するとすれば、8世紀中葉段階で東偏傾向を持つ溝の出現が認められ、中葉～後葉の段階で東偏傾向が強まる。さらに後葉ではその傾向を踏襲しつつ、9世紀以降になると西偏・東偏の両者が混在する形をとると見ることもできる。遺物の時期を基準とするならば、むしろ、同じ時期の中で微妙な振れ幅が存在する状況が想定される。大内平野に遺存する約7°東偏した地割は1/5,000の地図上で計測した値をとっている。ところが、遺跡内の地割については1/200の平面図上で計測しており、相互の誤差は相当なものになると想定される。振り返って遺跡内の溝状遺構を見てみると、その方位は大雑把に見て大きく西偏しているか、ほぼ真北を向いているか、東偏しているかのいずれかにまとめることも可能である。例えば121条中、西偏するものは54条・東偏するものが65条あり、それぞれの偏向角度の平均値を取ると、前者が西へ7.61°、後者が東へ6.36°という結果が出る。西偏するものとはともかく、東偏するものはある程度7°という角度を意識している可能性も想定出来よう。さらに真北から東西に3°前後ずつ振れるものが認められることから、真北を意識しているものもあると見てよい。さらに単純に西偏するものや7°を大きく超えて東偏するものも存在することから前述した二項以外の意識が働くと見ることが出来よう。

以上のように溝の主軸の振れ幅に差が大きく認められることから、これらを包括するほどの誤差を想定してこれらの溝を敢えて区分するか、これらの溝の開削時期にほとんど差がないということで理解するかに判断がわかる。

さらに想定しているのが、8世紀中葉から後葉にかけて遺跡周辺に条里型地割に規制された明確な地割が存在しなかった可能性である。溝状遺構の多くは調査区の北側に集中する傾向が認められ、南側には大型の溝状遺構SD18が走る以外は非常に小規模の溝が認められるのみである。また、自然流路の存在も新旧問わず北側に集中する傾向が認められる。その他の遺構、特に掘立柱建物は若干数が北側に位置するが、大半は南側の溝状遺構の分布がやや希薄なところに位置していることがわかる。後世の削平・削剥が旧状を大きく変化させているため詳細は不明であるが、おそらく南側の微高地状の高まりに建物を建てるため、振れ幅を持つ自然流路の流域との間に溝を掘り、区画と導排水兼用の機能を持たせたものと想定できよう。さらにSB05・06間を抜けるSD18はこの微高地上を抜けて導排水する機能を有していたと想定できよう。したがって、基本的に東西方向の溝状遺構は、西側が高く東側が低いという遺跡周辺の地形に規制された、導排水用に施工されたものと考えておきたい。

一方、南北方向の溝状遺構に関しては、東西方向の溝に規制されたものと、I区北側を流れるSR01に規制されたものの2種類が存在すると考えられる。特に、後者についてはSR01に直交するものも多く認められ、遺物の時期も概ねSR01の状況に近似していると言える。特に南北方向の溝状遺構の底部絶対高は南が高く北が低いという傾向が見られ、北側の自然流路からの導水のためというより、微高地上

の排水溝として機能していた可能性が想定できる。また、遺跡の立地が狭隘な谷底平野から広範な沖積平野へ出る直前にあるという環境もそれを裏付けると言えよう。

第2節 遺物

1. 黒色土器について

当遺跡出土遺物の中で特徴付けられるものの一つとして挙げられるのが、黒色土器である。溝状遺構・自然流路を中心として包含層からも出土している。内面のみ黒色処理したA類と内外面を黒色処理したB類がそれぞれ認められる。調整・整形・器形についてバリエーションが認められる。

1は底部外面を手持ちヘラ削り・内面は不連続な指ナデを施す。内面のみ黒色処理が施される。2は底部外面を手持ちヘラ削り・内面はヘラ磨きを施す。内外面に黒色処理が施される。3については細かい調整は不明であるが、内外面を黒色処理する点では2と共通する。1・2共に口縁端部がわずかに外反する。1については、無台の須恵器坏の製作技法及び器形に類似する。以上は坏として分類出来よう。

4・5はやや浅い器形を呈するもので、共に底部欠損のため器形についての詳細は不明である。また、内外面黒色処理を施す。両者のあいだには器形的に若干の差が認められ、4は口縁直下に1cm前後の窪みが認められ、5にはほぼ同じ位置で内外面に弱い段が認められる。4の調整は摩滅により不明であるが、5は内外面にヘラ磨きの痕跡が認められる。これらは皿として分類出来よう。

6・7は口縁部がほぼ直立する形状を取り、端部でわずかに外反するものである。底部欠損のため、全体の形状については不明であるが、やや深めの器形が想定できる。埴ないし鉢に分類出来よう。

8～10は口縁が直立する形状を取る。法量は大・中・小に分化し、器形にはバリエーションが認められ、深めの器形を取る8・9とやや浅めの器形を取る10にグルーピングできる。8には内面にヘラ磨きの痕跡が認められる。これらも埴ないし鉢が想定出来よう。

11～18は当遺跡内でもっとも数多く認められる器形である。いずれも底部を欠損し、全体の形状については不明であるが、口縁端部が口縁部直下で内傾する形状を取る。体部上半に屈曲部を持つことが大きな特徴となる。大半は内面にヘラ磨きの痕跡を認める。また、11・13は外面体部にもヘラ磨きの痕跡が認められる。17・18は内面に指押さえの痕跡が認められ、外面体部にはハケ調整が認められる。器形としては11・12が埴、13～18が鉢と想定できる。

19～21は浅い器形を取る一群である。完形に復元できるものは19のみであるため、器形の詳細は不明である。おそらく皿状を呈するものと想定できる。口縁端部を内面に折り込む形態をとるものを主体とし、折り込んだ部分に稜線が形成される。特に21は顕著である。調整については内面黒色処理を施すものが主体を占める。19は内外面にヘラ磨きを施し、外面底部は手持ちヘラ削りによる調整が認められる。20は内面のみヘラ磨きが認められる。外面は摩滅により不明である。21については口縁端部にヘラ磨きの痕跡が認められる。

ここで問題となるのがこれらの所属時期である。包含層から出土したものを除くと、遺構から出土し

* i 片桐孝浩によると、中讃では黒色土器埴が県内で認められるのは片桐編年のⅠ-①期（9世紀後半）からⅡ-⑨期（13世紀）には消滅するとされる。また、搬入品は全て畿内からⅠ-②期に確認され、Ⅱ-②期以降認められなくなるという。（『中小河川大東川改修工事（津の郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元結木遺跡』1992）

たものはいずれも共伴する遺物は8世紀代を示す。県内で黒色土器が生産されるのは9世紀後半であるとされており^{*i}、時期的に合致しない。

また、器形を見ても9世紀後半段階以降に認められる黒色土器とは一線を画す。本遺跡出土資料は、体部から口縁端部への立ち上がり直立に近く、当該期の埴形態とは異なる。黒色土器の出土した遺構で共伴する他の土器と比較しても共通性は少ない。唯一、1の資料が無台の須恵器坏に類似する程度である。県内の事例を見ても、同形態を取るものはほとんど認められない。

では、当該期に全く黒色土器が認められないかということ、そうでもなく、わずかに大川郡寒川町所在の森広遺跡と坂出市府中町所在の讃岐国府跡から若干量出土していることが知られる^{*ii}。森広遺跡ではSD7801から13点の遺物が出土している。内訳は、平丸底と内湾する体部を持ち、外面の底部と体部の境付近に沈線状の段を有する坏、平底気味の丸底を持ち、外面底部と体部の境に段を持たず内面にのみ屈曲を有する坏、平丸底で底部と体部の境が不明瞭な皿が認められ、これらと共に埴ないし鉢が4点出土している。これらは口縁部が直立ないし内湾し、体部外面上半に屈曲する深めの器形を呈する。調整方法は内外面ヘラ磨きを採る。底部の形状は欠損のため不明である。資料提示を行った片桐によると、これらの遺物の所属時期を、共伴遺物から8世紀第2四半期のものとして位置付けている。

また、讃岐国府跡では包含層から出土した遺物の中に黒色土器が出土している。坏・埴・鉢が認められる。坏は平底を呈し、内湾する体部と外反する口縁端部を有する。大型の鉢は体部中央付近に段を持ち、底部は丸底である。他のものと比べると、際立って大型である。片桐によると、これらの所属時期は共伴遺物から8世紀後半のものと位置付けている。

以上の資料について、当該期の県内出土資料に類例はなく、器種の範囲を土師器・須恵器に広げてもその系譜をたどることが出来ない。同様に黒色処理を施すものについても、技術的な系譜は認められない。この点について、片桐は出土遺物および文献資料から検討を加え、「讃岐出土の黒色土器が讃岐において自然発生的に成立したものではなく、東北地方の関与の上で成立した」ものであり、「土器」および「人」の移動が東北地方と讃岐の間に存在したと想定している。そして、その契機となるものとして、朝廷の東国経営に伴う「蝦夷」の西国への移配を挙げ、その移配経路が南海道であることを想定した。ここで興味深い点に触れている。先にあげた2遺跡が、共に推定南海道沿いに立地するという点である。移配先への移動途上に両遺跡に立ち寄り、黒色土器を残した結果が両遺跡での黒色土器出土の原因であると、片桐は推定している。確かに、森広遺跡出土の黒色土器坏は東北で出土するものによく似ていることを類例調査によって確認している。

翻って坪井遺跡についてみると、本遺跡も推定南海道に近接して立地している。出土遺物の時期も先にあげた2遺跡のものと近似している。特に、森広遺跡出土の黒色土器皿と坪井遺跡SR06出土の皿(19)は底部から体部への変換点付近で弱く内側に折り込んでいる点で類似する。このことから、坪井遺跡出土の黒色土器についても片桐の評価したように、東北地方の土器あるいは人の移動に伴う遺物であるという評価が下せるかもしれない。しかしながら、他の2遺跡とは異なり、底部と体部の境付近に段を有する坏が坪井遺跡では認められないこと、鉢外面の調整が森広遺跡ではすべてヘラ磨きによるものであるのに対し、坪井遺跡ではハケによるものが若干量認められることなど、森広遺跡・讃岐国府

* ii 片桐孝浩「讃岐出土の東北系黒色土器」『考古学雑誌 第80巻 第3号』1995.2

「讃岐出土の東北系土器について一特に黒色系土器について一」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 研究紀要Ⅲ』1995.3

跡と坪井遺跡の間には差異が認められる。これらの差異が何を起因としているかについて語ることは現状では困難である。今後の類例の増加を待つて再検討したい。

2. 文字資料について

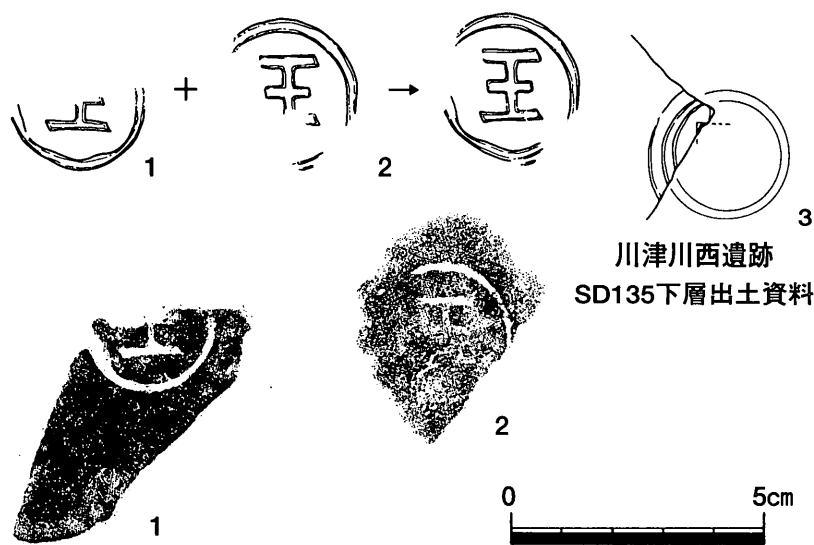
当遺跡からは文字資料といえる遺物が3点出土している。いずれも線刻あるいは刻印を施した須恵器で、墨書は認められない。出土遺構はSD37および包含層である。全体の遺物量に対して極めて少数の資料である。それぞれの項目で記載しているが、再度触れておく。

SD37出土資料（第104図281）

須恵器無台の坏である。底部外面にヘラ書きによると見られる線刻が施される。当資料は表記の遺構とSD58に分布するものである。遺構間での接合は認められないが、土器の破断面の状況が共通することから同一個体であると判断した。器形復元はSD58出土資料で行っているが、線刻が認められる破片はSD37から出土している。線刻は「ウチコミ・ハライ・トメ」という筆運びが明瞭に認められる。おそらく行書体で記されたものと想定される。破片の状況から左側にさらに文字が続く可能性が想定でき、他の文字が刻まれていたことも考えられるが、該当する破片は確認できなかった。調査中に行った類例調査の際にご教示を頂いた平川南氏によれば、一画目のハライが認められないものの、一字のみであれば「印」の略字であると考えられるという。もし、左側に偏があれば「服」の傍であるということである。現状では左側の文字の存在は不明であることから、ここでは平川氏にご教示いただいたとおり、「印」の略字であると見ておきたい。

包含層出土資料（第120図847・第121図885・第131図1・2）

847は須恵器の無台坏である。内面見込み部分に円形の区画に囲まれた刻印が認められる。区画は下半を欠損するため詳細は不明であるが、ややいびつな円形を呈し、外側の縁辺で推定する直径は約26mmである。区画線の断面形状は逆台形を呈し、上縁幅で1.50~2.00mm・底部幅で1mm、深さは0.50~1mmを測る。稜線は比較的明瞭である。文字部分の断面形状も逆台形を呈している。刻印は内面の調整が終了した後に施されたものである。原体についてであるが、文字が極めて明瞭であること、線と線の重なり



第131図 坪井遺跡・川津川西遺跡出土刻印須恵器 刻印部実測図及び拓本 (2/3)

りの部分に胎土の盛り上がり認められないこと、盛り上がった部分をナデ消した痕跡が認められないことなどからヘラ状工具などによる線刻ではなく、おそらく金属を素材とした印であると想定できる。木印ではないと判断した根拠として、印面に現れるであろう木目が円形の区画内に認められないことが挙げられる。

885は須恵器の無台皿である。847同様、内面見込み部

分に円形の区画に囲まれた刻印が認められる。全体的に摩滅が進んでおり詳細は不明であるが、区画はややいびつな円形を呈し、外側の縁辺で推定できる直径は約26mmを測る。区画線の断面形状は半円状を呈し、上縁幅で1～1.50mm・深さは0.50mm前後を測る。底部幅は摩滅により不明瞭なため計測の対象としなかった。文字部分については847に比べ遺存している範囲が広い。刻印を施したタイミングについては、摩滅のため不明である。

文字部分は共に欠損ないし摩滅によって、判読は若干困難である。885のほうがやや浅いながら文字の全体像が遺存しており、「王」あるいは「主」と判読できそうである。847はおそらくその一部のみが見えているものと想定できる。両資料共に一辺一辺が極めて直線的であることから、楷書体であることがわかる。

さて、もし刻まれている文字が「王」字であれば、「王」字が上下左右ほぼ対称の字形であることと、円形に区画された中に文字が記されていることから、反転復原による文字の復原作業が可能であると想定した。847は反転復原の結果、完全に上下左右対称の「王」字となったが、885はやや左傾した「王」字に復原される。このことは、885がやや摩滅が進んでいるということを差し引いても、少なくとも上下に関しては非対称であった可能性が考えられよう。完全に残っていると判断できる横方向の一辺の長さを計測すると、847資料では13mmを測るのに対し、885では11mmと2mmほどの差が生じる。現在でも「王」字の上辺と下辺ではわずかに長さを変えて表記することから、両資料においても上辺と下辺の長さに差が認められる可能性がある。これにより、両資料は印の上半部と下半部がそれぞれ遺存しているものと判断した。

県内では比較資料として、川津川西遺跡SD135下層出土^{*iii}のものが挙げられる。本資料は須恵器無台の坏で、内面見込み部分のほぼ中央付近に円形の区画を持つ刻印が施される。大半が欠損しており、全体の形状については不明であるが、上縁幅1.50mm・底部幅1mm・深さは0.50mmを測る。区画の内側には、何らかの文字が入っていたことを想定させる窪みが認められる。しかし、非常に限られた部分が遺存しているのみで、字形についての詳細は不明である。川津川西遺跡の報告者の蔵本晋司は、報告書中で、同遺跡出土の円形区画の刻印を坪井遺跡出土例と原体が同一である可能性を想定しているが、現状でこれらを全て同一原体と判断するのは困難である。筆者は3点の資料を実見した結果、①胎土において共通性がみられない。②刻印を施された器種が異なる。③円形区画の直径が坪井遺跡出土例と川津川西遺跡出土例で若干異なる、などの点から、同一原体であるとの判断は出来ないと考える。

一方、円形区画ではないものの、綾歌郡綾南町陶字猿王西所在の北条池1号窯跡・同町庄屋原679所在の庄屋原2号窯跡で採集された資料の中に方形区画で囲まれた「中」字の刻印が施されたものが認められる^{*iv}。共に印面は2.15cm角の正方形で、その中に方形区画を持つ。刻印は陽刻であることから、原体は陰刻であったことが窺われる。印面はほぼ全面が若干潰れた様子を呈しており、施印後ナデ消したものと想定される。また、報告者の佐藤竜馬によると印面の側面に擦痕が認められることから、原体が木製であると想定している。

さて、ここで問題となるのは、なぜ線刻・刻印が施された土器が坪井遺跡から出土したかである。線刻・刻印は共に焼成前に施されたものであることから、生産の場で施されたことはほぼ間違いなからう。

* iii 蔵本晋司他『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十三冊 川津川西遺跡・飯山一本松遺跡』1999.10

* iv 中山尚子・佐藤竜馬「北条池1号窯跡採集の刻印須恵器～十瓶山窯跡群の須恵器とその検討課題(3)～」

先述の「中」字刻印は生産地で採集されていることからそれを示しているといえる。佐藤竜馬はこの刻印について、木印という長期の使用に耐え得ないものが複数の窯で押捺されている状況から、「複数の窯場を何らかのかたちで管理する階層によって、印が保管されて」おり、「この階層が各窯場に赴き、製作途上の製品に施印し」ていたものと想定している。さらに、「中」字を那珂郡の一字表記例と見、「那珂郡に須恵器貢納負担の割り当てが行われ、そのチェックのために施印された」とみるのが、妥当な見解であるとしている。また、窯の所在する十瓶山窯跡群は令制郡の阿野郡甲知郷に属するのに対し、そこから窯の所在地とは無関係である那珂郡を示す「中」字刻印が出土している点については、牛頸窯跡群ハセムシ12地区出土刻書須恵器の事例を引きながら「調納の負担が生産地にとどまらず、周辺の郡にも割り当てられたこと」を想定している。刻印の施される意味については、「刻印が最終的には入念に消去されているのは、製作途上での施印という行為に意味があるのであって、製作の最終段階や供給先では刻印は何ら意味をなさないということを端的に示していよう。また郡名の識別（郡毎の貢納負担量のチェック）が施印の目的であれば、郡衙以下の組織・施設での使用は考え難く、国衙での使用もしくは調納のための措置であることが想定される。」としている。

一方、坪井遺跡のように消費地において刻印須恵器が出土する場合は何を意味しているのだろうか。「王」字は使用される施設を示しているとは考え難く、無難なものでは使用者を示すものである可能性が想定できる。しかし、使用者を示すものであれば、わざわざ刻印を施すまでもなく墨書で充分事足りるように思う。筆者が浅学なため、多くの事例を知らないが、山形県飽海郡八幡町所在の沼田遺跡では多数の「王」字刻印・墨書土器が出土している^{*v}。刻印は完全に「王」の形態をとらず、「王」という表現になっているが、これについて報告者は「出土地点や共伴関係からみて「王」の墨書土器と性格を共通にするもの、あるいは「王」の墨書の省略形とも推察することができる」としている。さらに、この刻印については、「須恵器の一般的な製造者を意味する窯印とは違う」ものとし、「生産段階で使用者が特定されていたことになり、遺跡の住人の特殊な立場」を想定しているようである。また、「平安時代には官職名・人名などの墨書は単字に略されている傾向があ」ることを指摘し、「王」字を人名が略されたものと想定している。使用者については「8世紀後半から9世紀初頭にかけて、出羽国司に百済王一族が派遣されて」いることを踏まえ、その関連を検討する必要があるとしている。沼田遺跡の北北東約500mのところには出羽国府と推定される城輪棚遺跡が存在するほか、周辺に官衙関連遺跡とされる後田遺跡や上ノ田遺跡、「強力な国家規制の地割に基づいて配置された計画村落として存在する」と推定される庭田遺跡・豊原遺跡・茅針谷地遺跡・境興野遺跡・北田遺跡・関B遺跡などの存在が知られる。このことから沼田遺跡も官衙関連遺跡であると想定でき、住人の特殊性が窺えるといえる。

上記の例から、坪井遺跡についても特殊な住人が想定できる可能性はある。しかし、3点の線刻・刻印資料が存在するのみで、「王」字を含め、墨書土器が全くといっていいほど存在しない点が沼田遺跡例と大きく異なるといえる。しかも、「王」字刻印須恵器は包含層からの出土のみで遺構からは出土していない。また、坪井遺跡周辺の発掘調査事例が少ないこともあるのだが、周辺に官衙関連遺跡が存在しないことも差異として挙げられる。

現状では、坪井遺跡出土の「王」字刻印須恵器は、「中」字刻印須恵器のように印面をなで消した痕跡が認められないことから、貢納のために生産された際のチェックとして施印されたものではなく、坪

* v 山形県教育委員会『山形県埋蔵文化財調査報告書第78集 沼田遺跡 発掘調査報告書』1984.3

井遺跡近隣に存在した「王」を名の中に含む人物のためにいわば特注されたものである可能性が想定できるに留まる。

香川県内では、上記のように生産地・消費地共にわずかな事例ではあるが、施印された土器が存在することが判明しつつある。生産地では佐藤の指摘したような貢納に関わる施印行為が想定されたものの、消費地においては明確な施印行為についての理由は説明できずにいる。今後、大内平野を含め、県内で同様の事例が増加するのを待ち、再度この問題に触れる機会を設けたい。

3. 遺跡の性格について

最後になるが、ここで遺跡の性格について簡単ながらまとめておきたい。

立地と環境のところで触れたように、坪井遺跡は大内平野の中心ではなく西端の谷底平野内に存在する。遺跡はこの谷底平野内をはしる旧河道の氾濫原面に形成されているうえ、8世紀代の遺構を9世紀代以降の包含層により覆われていることから、幾度かの洪水の被害を受けているものと考えられる。したがって、集落を営むに当たっては不安定な土地を選んで立地しているといえる。確かに、遺跡周辺では集落を営むにあたって好条件であると判断できそうな地形が見当たらない。むしろ、谷を出た東側のほうがまだ適した場所が存在する。

にも関わらず、多数の遺構が存在する。特に8世紀代に帰属すると想定できる遺構が多数をしめている。したがって、この時期に生活の痕跡があることは、掘立柱建物の存在からも明らかである。その後も、10世紀代の井戸や、時期不明ながら掘立柱建物が存在することから、比較的継続してこの地で生活が営まれていたことが想定できる。

では、なぜこのような不安定な場所を選地したのであろうか。何らかの形で、この地に集落を形成する要素が存在する可能性は漠然とながら想定できる根拠が存在する。

まず一つ目として、遺跡のさらに西側は山地であり、これを越えると旧寒川郡（現大川郡大川町）にはいる。つまり坪井遺跡は旧大内郡と旧寒川郡の郡境に位置する遺跡であることがわかる。もう一つは坪井遺跡の近隣に、おそらくは南側に位置するであろうが、推定南海道が存在することである。坪井遺跡は、南海道の起点から見ると峠の上り口に位置することができる。やや短絡的ではあるが、郡境であること・官道に近接していることの2点から、この地に集落が形成された要因として、交通の要所として機能していたということが考えられないだろうか。そして、その性格としては官衙関連施設の可能性が想定できる。それを補強する資料の一例として大型掘立柱建物の存在が挙げられる。また、一般的な集落とは若干様相を異にする遺物の出土も注意したい。

まず、SB05のような大型掘立柱建物は、香川県内の類例から官衙関連施設の可能性が佐藤によって指摘されており^{*vi}、同様の事例となるものと想定できる。

ただし、周辺に存在する建物との関係を見ると、従来指摘されてきているように「コ」の字あるいは「L」字の建物配置と認定できるものが存在しない。SB06を対になる建物と理解することは可能であろうが、両者の間で柱筋が揃わないことや、両者の間にほぼ同時期の溝状遺構であるSD18が存在することがそれを阻む。また、多数存在する溝状遺構の中から、区画施設としての機能を持つものと想定しえ

* vi 佐藤竜馬「讃岐における官衙関連遺跡と集落動向」『律令国家における地方官衙遺構研究の現状と課題－南海道を中心に－』1998 古代学協会四国支部第12回大会発表資料

るものが抽出し得なかったことも、官衙関連施設として評価するには、その根拠として弱いのではないかと考える。

一方、出土遺物についてであるが、抽出できるものとして、鉄鉢形土器、水瓶、コップ形土器、刻印・刻書土器などが挙げられる。さらに言えば先述した黒色土器についても同様である。鉄鉢形土器や水瓶からは仏教的要素が窺える。また、コップ形土器については計量器としての性格が想定されており、この器種の出土遺跡の性格については官衙的要素をもつものが多いという^{*vii}。さらに刻印土器については先述したとおり、その使用者の特殊な性格が想定される。以上の点から想定して、出土遺物からは先述したように官衙関連施設の存在を想定しえるといえよう。

しかし、これらの遺物についても、大型掘立柱建物などの遺構あるいはそれに近接した部分から出土したものではなく、刻書土器と黒色土器の一部を除くとほとんどが包含層から出土したものであり、原位置から遊離した資料として理解する必要がある。したがって、本遺跡そのものの性格付けを行える資料とは言いがたい。

当初、坪井遺跡については「駅家」などの官衙関連遺跡である可能性を想定していたが、『和名類聚抄郡郷里驛名考證』^{*viii}によると、旧大内郡内に存在したとされる「駅家」は引田である。この次に来る駅は松本駅であるが、所在地についての詳細は不明である。現大内町内に「トウジャク」「馬継」といった字名が残ることから、これらが松本駅を示すという考えもあるが定かではない。この字は坪井遺跡よりも東に位置することから、この駅を坪井遺跡に充てるのは困難である。よって、「駅家」であるという評価は下せないと判断した。

坪井遺跡の性格付けとしては官衙的な性格を有する一般集落であると想定できる。ただし、調査対象地はその集落のはずれに近い位置に存在し、本体は調査対象地の西側に展開する可能性が高い。遺跡の立地が西から東へ下る緩傾斜面上であること、比較的包含層から出土した遺物に特筆すべき点が多いことがその判断の根拠である。調査対象地内に存在する包含層は、より高位にある遺跡の中心域の遺構・遺物が削剥されて、低位にある調査対象地内に流入したものであると見ている。

以上、古代を中心としたまとめを行なったが、それ以外の時代についても簡単にふれておきたい。

古代以前は弥生時代後期頃の溝状遺構が確認できるが、これ以外の遺構が見当たらず、当遺跡の主体を占めるものではない。若干量の土器が出土することから、近隣に集落の存在が想定できる。古墳時代についても、ほぼ同様に自然流路や溝状遺構から同時代の遺物がわずかながら認められることから、近隣に集落の存在が想定できるに留まる。中世は、Ⅱ区・Ⅲ区に当該期の遺構と想定できる掘立柱建物や溝状遺構・性格不明遺構などが若干認められることから、散村的な集落が存在したものと想定できる。

近世についても、Ⅰ区で検出した溜池状遺構やⅢ区で検出した堀立柱建物や性格不明遺構が当該期に位置付けられるものと想定でき、中世同様、散村的な集落の存在が想定できるに留まる。

*vii 井上尚明「コップ形須恵器の考察—奈良時代の計量器について—」『考古学雑誌』第79巻 第4号 1994.6

当遺跡出土のコップ形須恵器は氏のB-2類に分類できる。この論文中、「4 出土遺跡の性格」の項で、同器種が出土した遺跡について性格毎の類型化を試みている。分類は下記のとおりである。

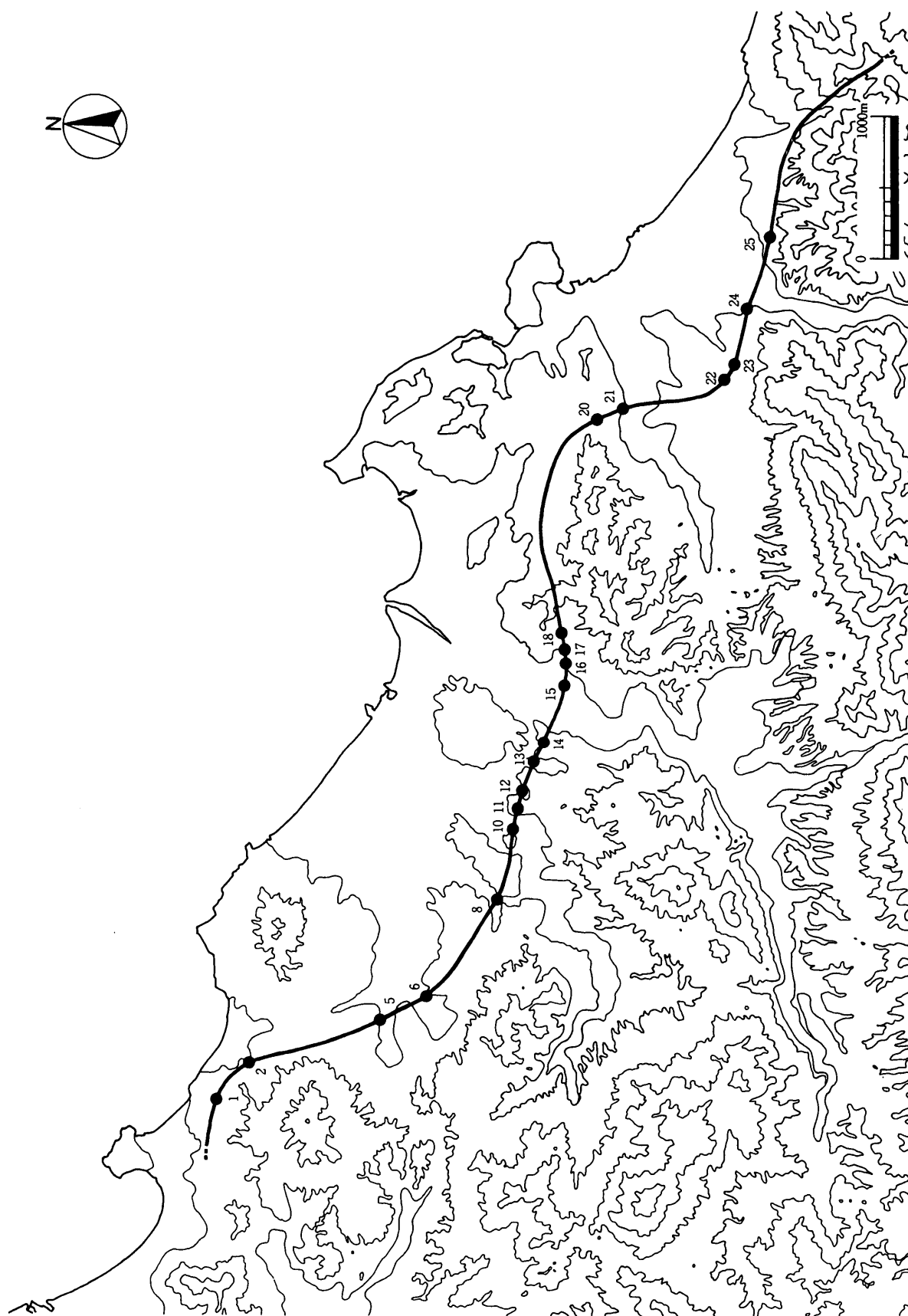
1類：都城，2類：国府，3類：郡衙，4類：その他の官衙，5類：寺院，6類：窯跡，7類：集落 a.官衙周辺・官衙的な集落，b.規模の大きな集落，c.一般集落 8類：その他

この中で、7類の集落について3分類したうち、c類は分析対象とした43遺跡中、36%であり「他は官衙的な様相を持ったり、いわゆる大集落などと呼ばれる集落が多く、幹線道路に沿ったような人の往来が多い遺跡」が占め、共通する項目として「人や物資が集まる所」に同器種が出土する機会が多いことを指摘している。分析からはその特徴として「遺構からは規模の大きな建物などを伴う計画的な造営を、遺物からは比較的豊かな内容を看取する事ができ、周辺の環境からは交通の要衝であること」が認められるとする。

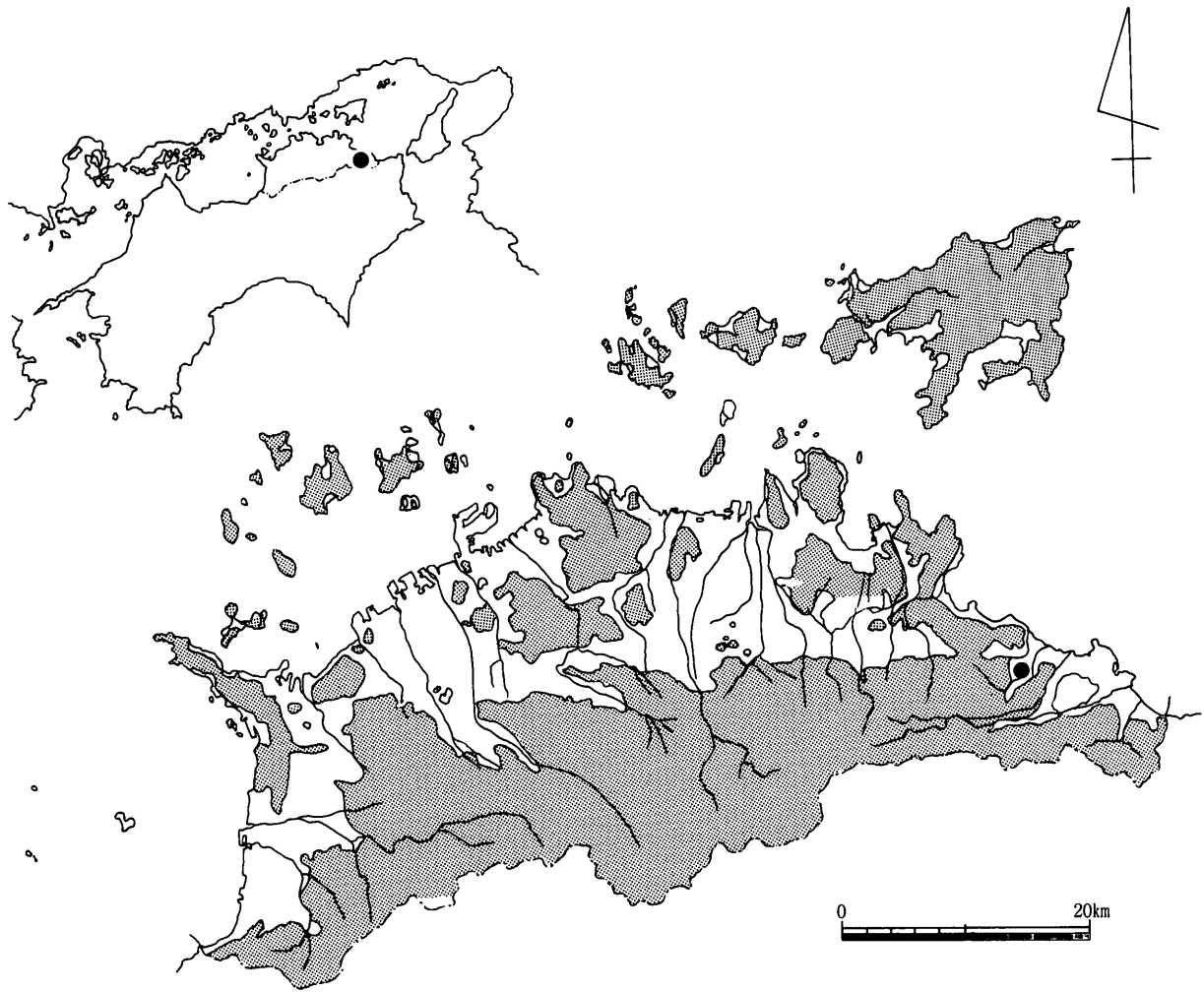
*viii 池邊 彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』1988

插图

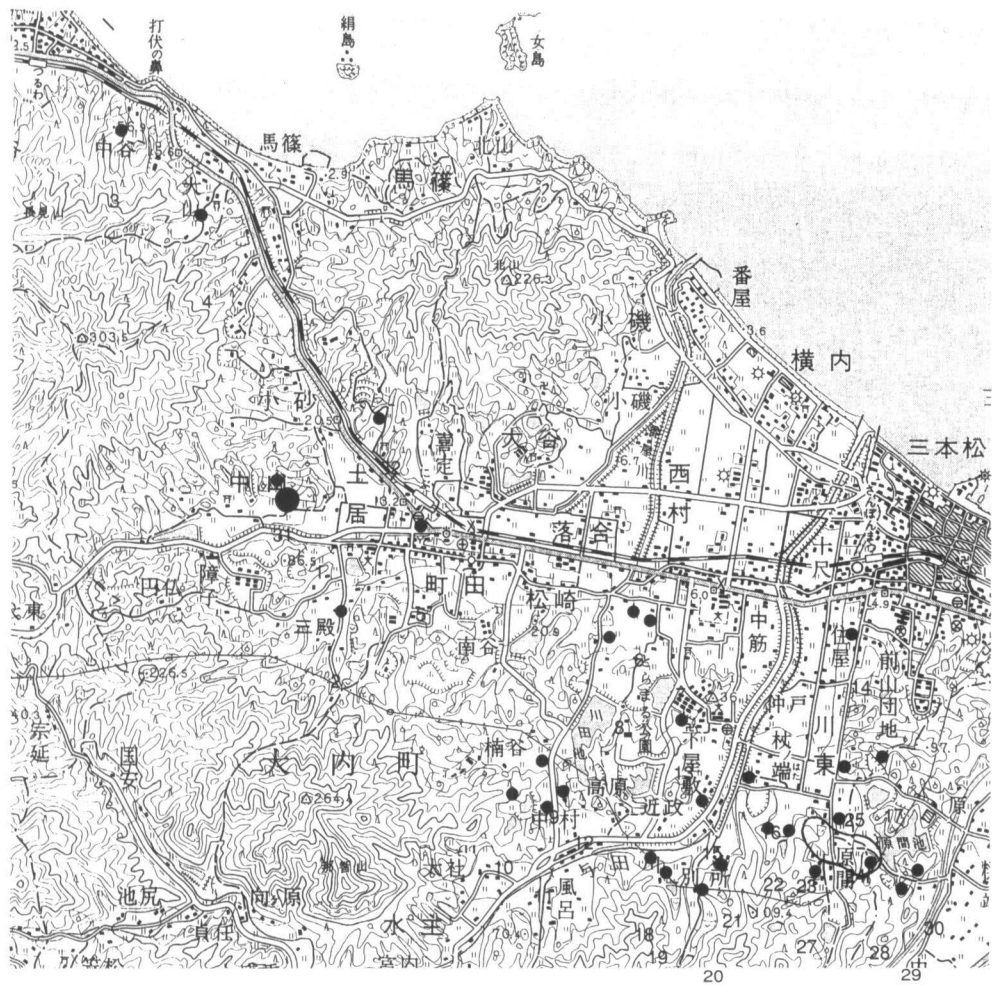




第1図 四国横断自動車道（津田～引田）埋蔵文化財包蔵地（遺跡名番号）

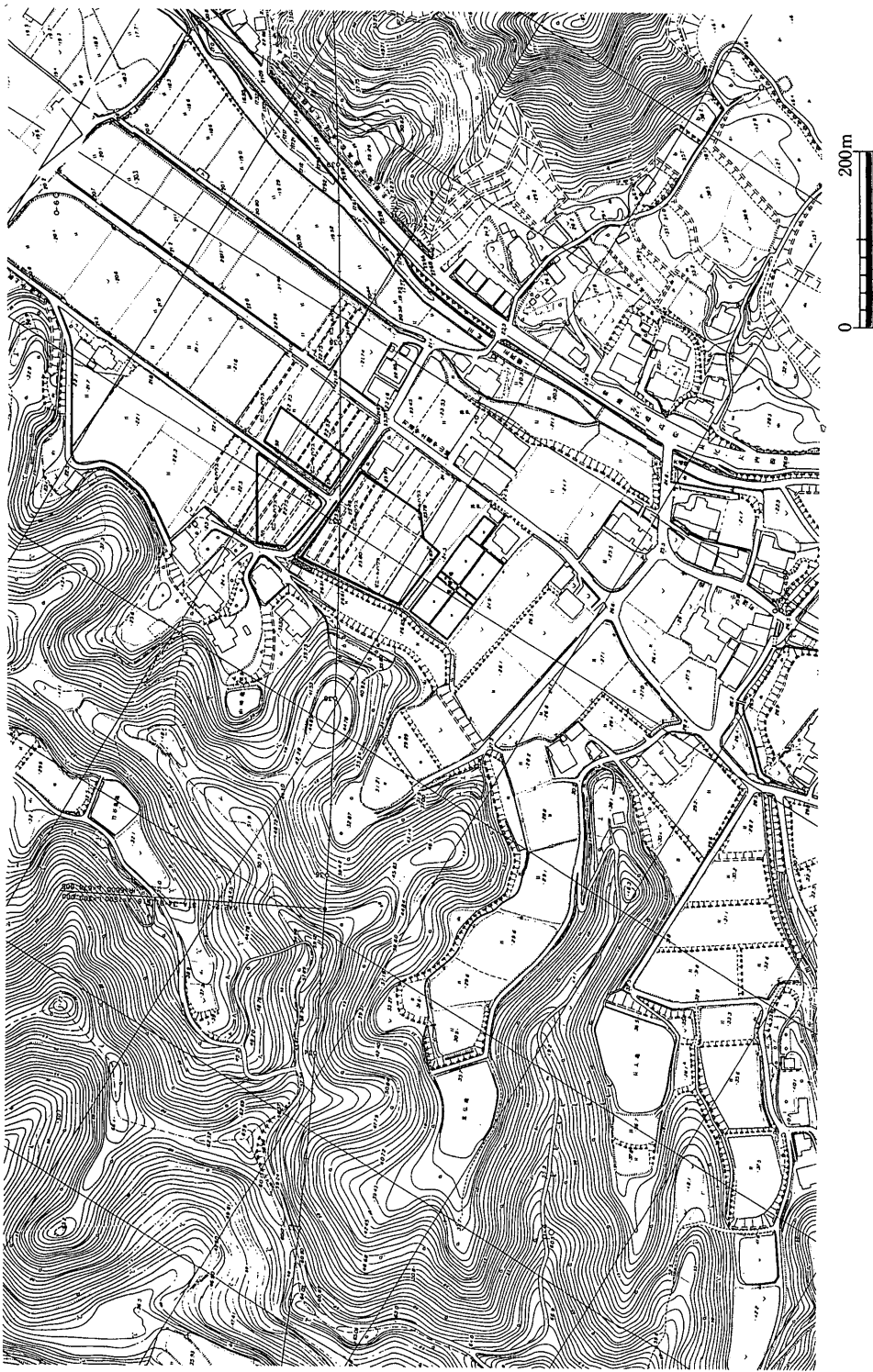


第2図 遺跡位置図(1)

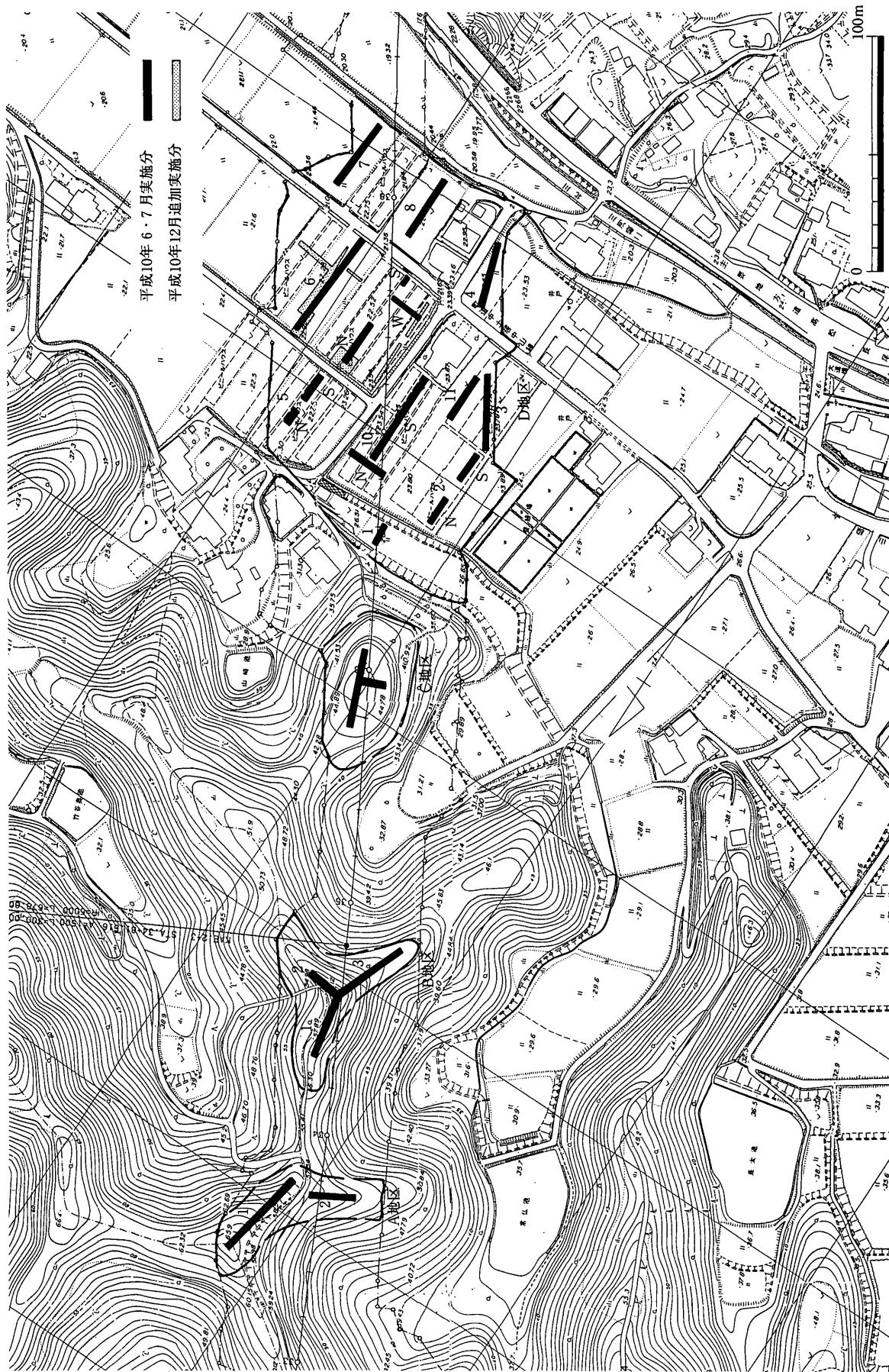


- 1 坪井遺跡
- 2 三殿出口遺跡
- 3 中谷遺跡
- 4 大山遺跡
- 5 土居遺跡
- 6 清塚遺跡
- 7 西村遺跡
- 8 落合遺跡
- 9 楠谷遺跡
- 10 楠谷古墳
- 11 仲善寺遺跡
- 12 北山遺跡
- 13 与田寺山古墳
- 14 住屋遺跡
- 15 金毘羅山遺跡
- 16 杖の端遺跡
- 17 大日山古墳
- 18 笹塚遺跡
- 19 城の内遺跡
- 20 別所古墳
- 21 別所池田遺跡
- 22 杖の端遺跡
- 23 西谷遺跡
- 24 県道原間遺跡
- 25 小僧遺跡
- 26 横断道原間遺跡
- 27 原間1号墳
- 28 原間2号墳
- 29 神越古墳
- 30 神越桃山古墳
- 31 善光坊古墳
- 32 王子の谷遺跡

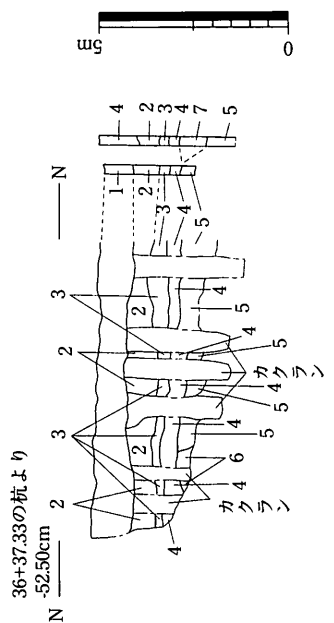
第3図 遺跡分布図 (1/50,000)



第4図 遺跡位置図(2)(1/4,000)



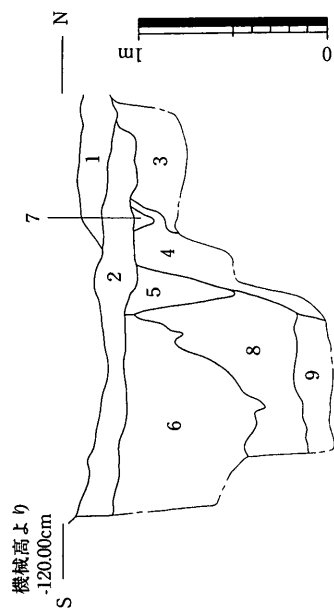
第5図 予備調査トレンチ配置図(1/2,500)



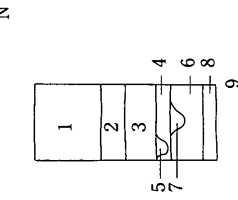
- 1 灰色小礫混じり砂質土 (水田耕作土)
- 2 茶灰小礫混じり砂質土
- 3 花崗岩マサ
- 4 黄土色砂質土 (Fe含)
- 5 茶灰色砂質土
- 6 花崗土 (青灰色砂質土等のブロック含)
- 7 青灰色砂質土 (グラライ化している樹根含)
- 8 暗灰色砂質土 (グラライ化している)
- 9 青灰色砂質土 (グラライ化している)



- 1 暗褐色小礫混じり砂質土 (耕土)
- 2 褐灰色小礫混じり砂質土 (旧耕土)
- 3 黄灰色砂質土
- 4 灰黄色砂質土
- 5 黒褐色小礫混じり砂質土
- 6 にぶい黄褐色砂質土 (下方で砂に漸移)
- 7 褐灰色砂質土 (遺物包含)



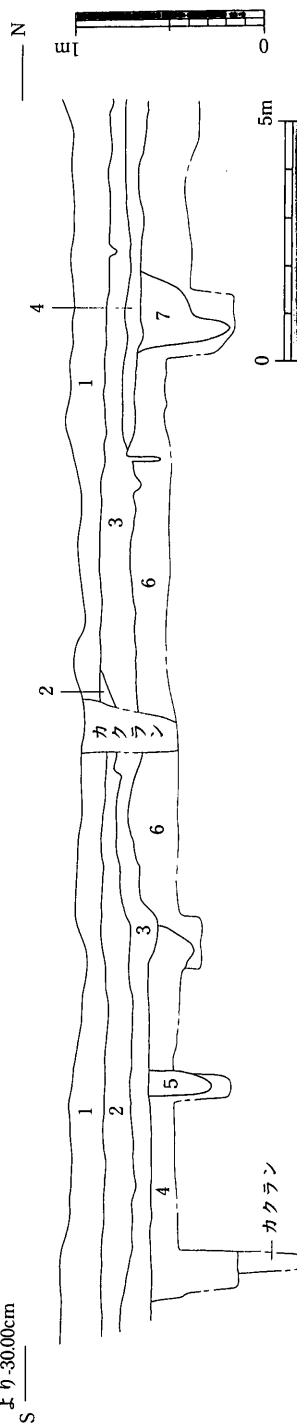
STA37(R)=-48.10cm
より-74.70cm



- 1 暗褐色極細砂質土 (耕土)
- 2 にぶい黄褐色細砂質土 (Fe多含・2層に細分可・旧耕土・床土)
- 3 灰黄褐色小礫混じり粘質土 (Fe・Mn含・包含層としている層)
- 4 にぶい黄褐色砂質土 (Fe含・包含層としている層)
- 5 明茶灰色粘質土
- 6 黒褐色粘質土 (Fe・Mn含・遺構埋土の可能性あり)
- 7 暗褐色砂質土 (Fe含・小礫混じる)
- 8 灰色砂 (小礫~細砂・含水・遺構埋土の可能性あり)
- 9 灰オリーブシルト質土 (Fe・Mn含)



STA37+20(R)
より-30.00cm

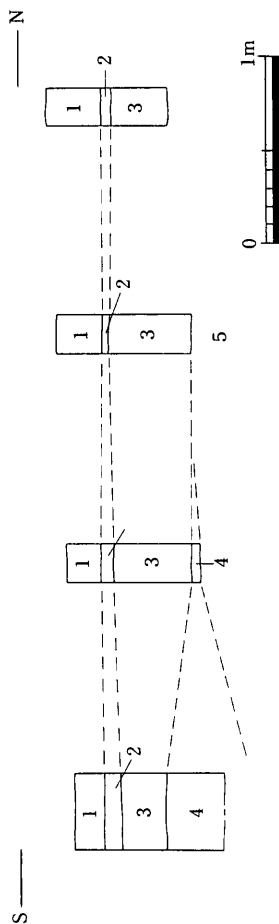


- 1 褐灰色小礫混じりシルト質土
- 2 暗灰黄色砂質土 (粗~中砂・Fe含)
- 3 褐色砂質土 (中~細砂)
- 4 灰黄褐色砂 (Mn・Fe含)
- 5 褐灰色シルト (Fe・炭化物含・SP埋土)
- 6 灰黄褐色砂 (小礫多含・細砂主体)
- 7 暗茶褐色砂質土 (SD埋土)



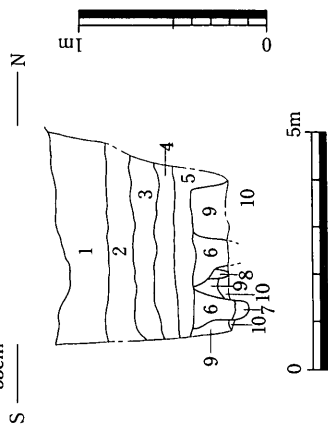
第6図 予備調査トレンチ土層断面図(1) (天地1/40, 左右1/160)

STA37+80(R)L
より-179.5cm



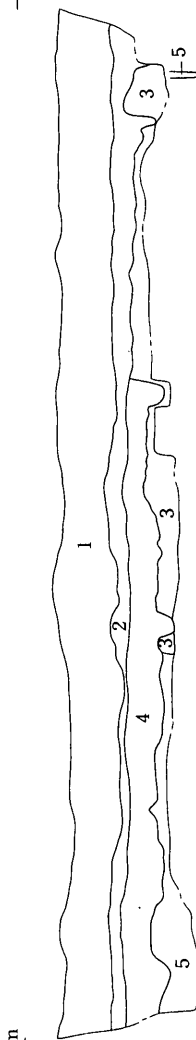
- 1 褐灰色小礫混じりシルト質土 (水田耕土)
- 2 暗赤褐色砂質土 (Fe多含・旧耕土・床土)
- 3 黄灰色砂質土 (Fe・Mn含・やや土壌化する・自然堆積)
- 4 にぶい黄褐色砂 (小礫混じり細砂・Sortあり・自然堆積)
- 5 暗灰黄色砂 (小礫混じり細砂・所によりシルト)

STA370より
-33cm

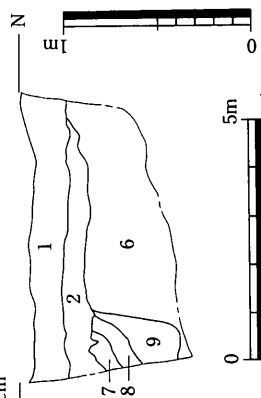


- 1 水田耕土
- 2 明灰色砂混じりシルト質土 (Fe含・旧耕土)
- 3 明灰色小礫混じり砂質土 (Fe含)
- 4 灰色小礫混じり粘質土
- 5 灰黄色小礫混じり砂質土 (SD埋土)
- 6 黒褐色小礫混じり砂質土
- 7 灰色砂
- 8 黒褐色小礫混じり粘性砂質土
- 9 黒褐色粘質土
- 10 灰色極細砂 (純山)

KBMAより
-72cm



KBMAより
-72cm

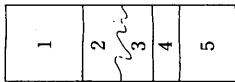


- 1 黒褐色砂質土 (水田耕土)
- 2 褐色砂質土 (Fe多含)
- 3 暗オリーブ褐色砂 (細砂主体)
- 4 暗褐色小礫混じり砂質土
- 5 にぶい黄褐色シルト質土
- 6 暗灰黄色砂 (極細砂～中砂)
- 7 黒褐色粘質土
- 8 暗灰黄色粘土
- 9 黒褐色小礫混じり極細砂質土

第7図 予備調査トレンチ土層断面図 (2) (天地 1 / 40, 左右 1 / 160)

KBMA+23.5
より:100cm

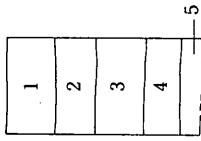
S ————— N



- 1 褐灰色小礫混じり細砂質土 (耕土)
- 2 にぶい黄褐色砂 (粗乱)
- 3 黄灰色小礫混じり粘質土 (Fe含)
- 4 暗灰黄色砂質土 (小礫~シルト・ランダム)
- 5 にぶい黄色シルト (極細砂混じり・Fe含・Sort)



S ————— N

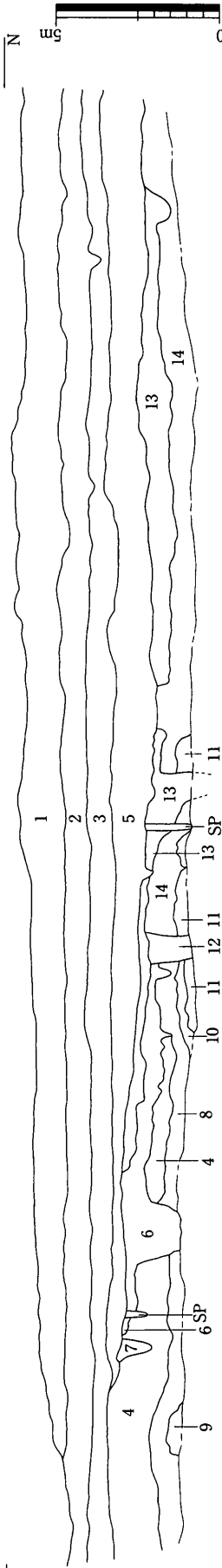


- 1 耕土
- 2 にぶい黄褐色極細砂質土
- 3 灰黄褐色小礫混じり粘質土
- 4 黒褐色粘土混じり砂質土
- 5 灰黄褐色砂質土



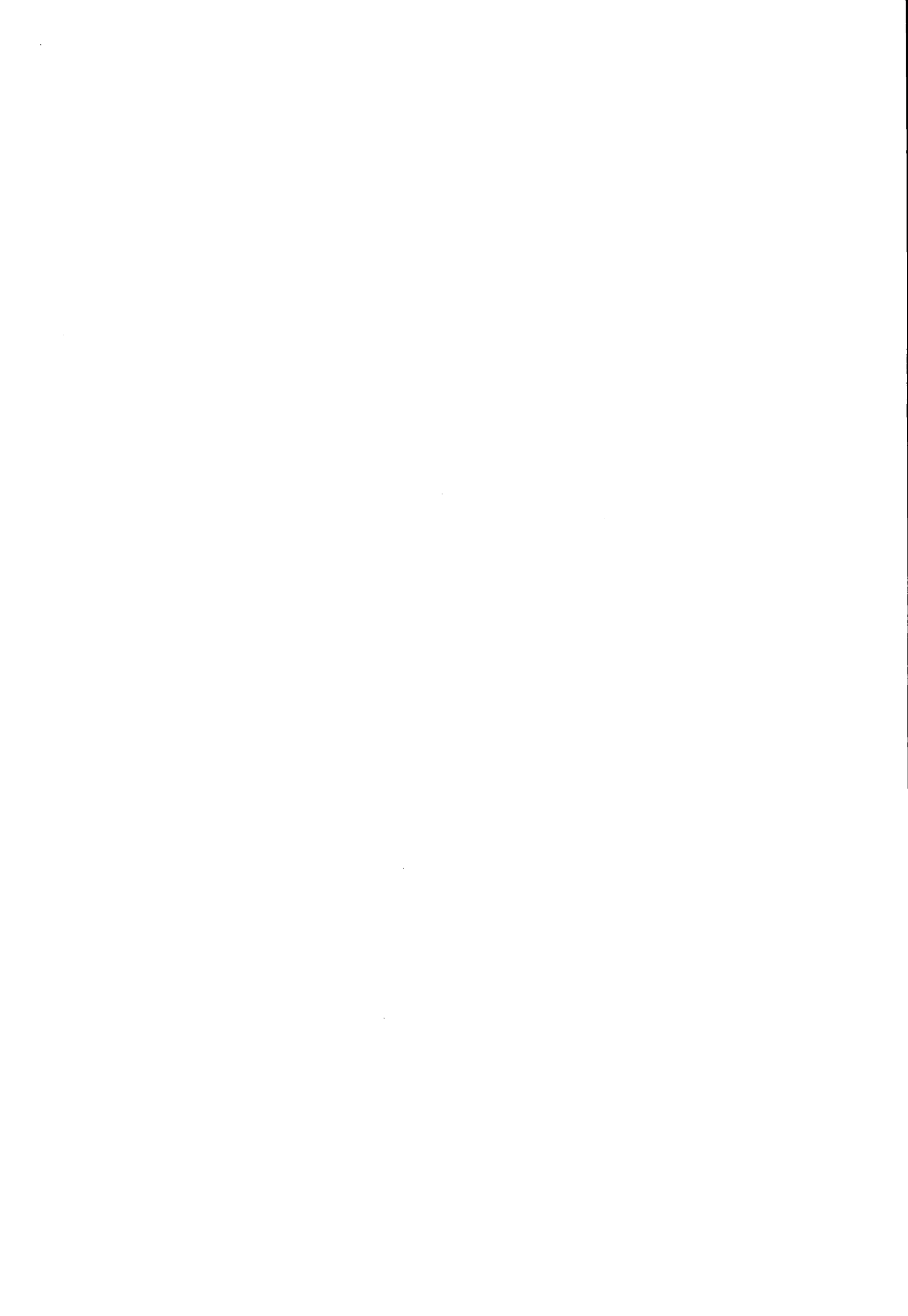
STA37+20(R)
より:60cm

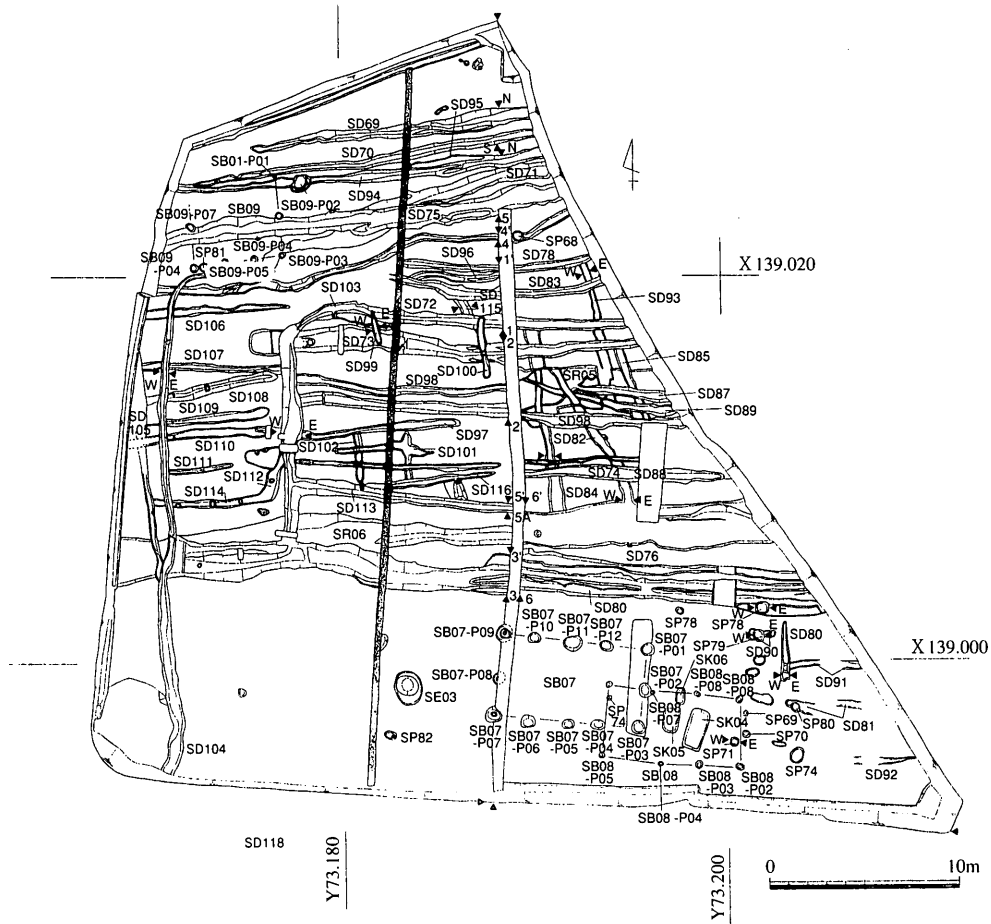
S ————— N



- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 にぶい黄褐色シルト質土 (水田耕土) 2 灰黄褐色砂混じりシルト質土 (Fe含・旧耕作土) 3 にぶい黄褐色砂混じりシルト質土 (Fe含・旧耕作土) 4 灰黄色砂 (小礫~細砂・粗砂主体・上面Soil) 5 にぶい黄褐色砂混じり粘質土 (Fe含・遺物含) 6 黒褐色砂混じり粘質土 (Fe含) 7 灰黄褐色砂混じりシルト質土 | <ol style="list-style-type: none"> 8 暗灰黄色中砂 (Sort) 9 黒褐色砂質土 10 黒褐色粘質土 11 暗灰黄色細砂 (Fe斑紋・地山) 12 オリーブ褐色粘質土 (周辺土のプロックを含む) 13 にぶい黄褐色中砂 (Sort) 14 黒褐色砂混じり砂質土 |
|--|--|

第8図 予備調査トレンチ土層断面図 (3) (天地 1/40, 左右 1/160)

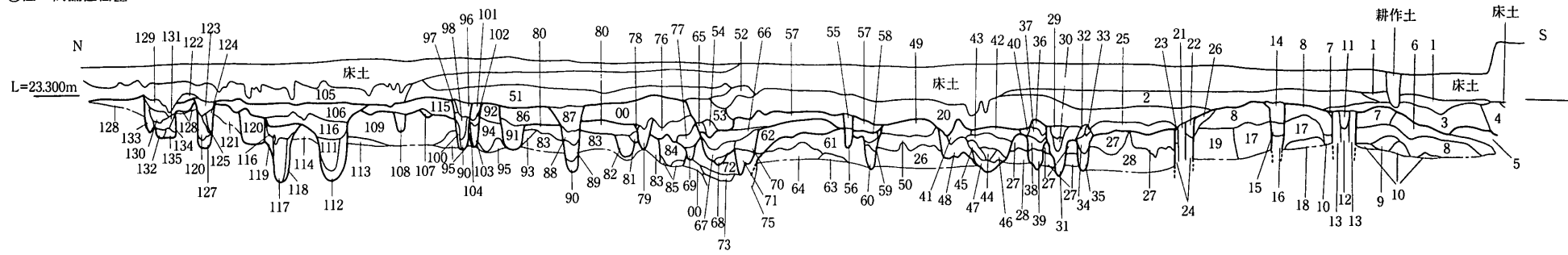




第11図 II区 遺構平面図 (1/400)

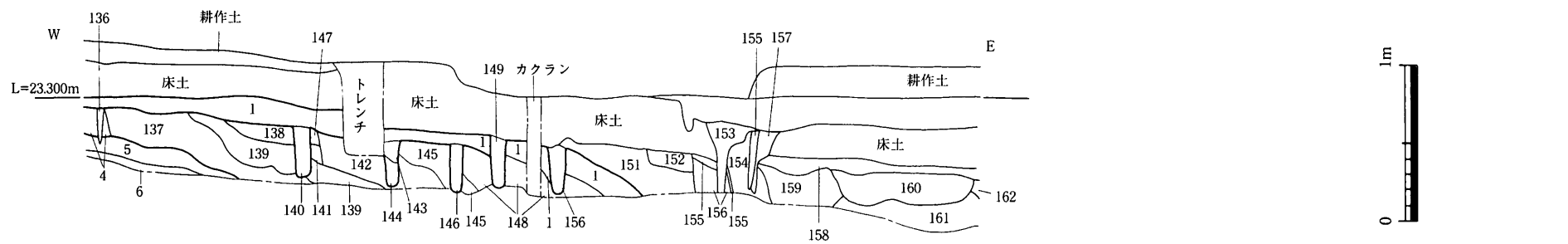


II-②区 調査区西壁



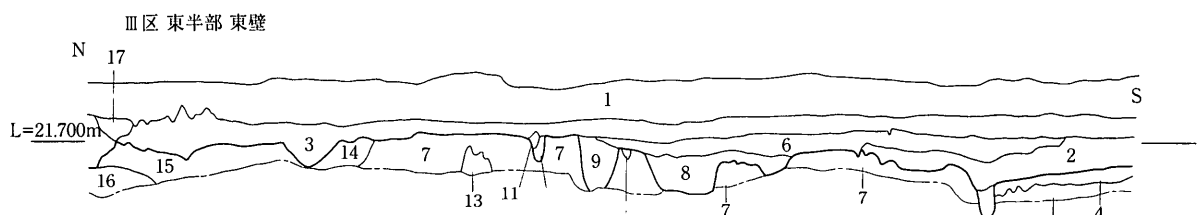
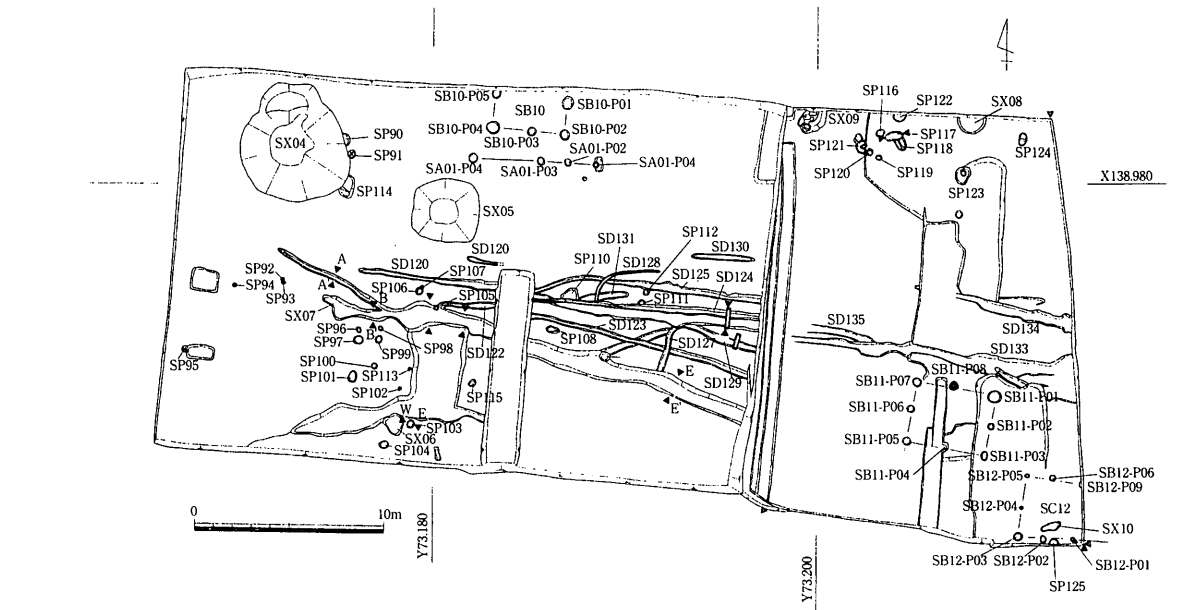
- | | | | | |
|-----------------------------|--|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 1 黄褐色粘性細砂 (5~10mmのMg粒を多く含む) | 29 褐黄色混粗砂粘性細砂 (SD19) | 54 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 82 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD73) | 110 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD75) |
| 2 灰黄褐色粘性細砂 | 30 褐灰色混粗砂粘性細砂 (SD19) | 55 灰黄色混粗砂粘性細砂 (SD88) | 83 灰黄白色混粗砂細砂 | 111 褐灰色混粗砂粘性細砂 (SD75) |
| 3 暗黄褐色混粗砂粘性細砂 | 31 灰黄色混粗砂粘性細砂 (SD19) | 56 茶灰黄色混粗砂粘性細砂 (SD88) | 84 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 112 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD75) |
| 4 暗黄褐色混粗砂粘性細砂 | 32 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD19) | 57 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD74) | 85 濁灰黄色混粗砂粘性細砂 | 113 黒褐色混粗砂粘性細砂 |
| 5 灰色混粗砂細砂 | 33 灰色混粗砂粘性細砂 (SD19) | 58 明茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD74) | 86 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD83) | 114 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 6 黒褐色混粗砂粘性細砂 | 34 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SD19) | 59 明灰茶色粘性極細砂 (SD74) | 87 灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD72) | 115 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 7 黄灰褐色混粗砂粘性細砂 | 35 灰黄色混粗砂粘性極細砂 (SD19) | 60 暗褐色粘性極細砂 (SD74) | 88 褐灰色混粗砂粘性細砂 (SD72) | 116 黒褐色粘質土 (SD71) |
| 8 暗黄灰色混粗砂粘性細砂 | 36 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD76) | 61 淡黄灰色混粗砂粘性極細砂 | 89 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD72) | 117 暗茶灰色粘質土 (SD71) |
| 9 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 37 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD76) | 62 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 90 暗灰色粘性細砂 (SD72) | 118 暗灰色混粗砂粘性細砂 (SD71) |
| 10 灰黄色粘性極細砂 | 38 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD76) | 63 黄茶褐色粘性極細砂 | 91 褐色混粗砂粘性細砂 (SD83) | 119 灰白色粗砂 (SD71) |
| 11 灰褐色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P07) | 39 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (SD76) | 64 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 92 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 120 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD94) |
| 12 黄灰褐色粘性細砂 (SBO7.P07) | 40 淡灰黄色粗砂 (SD76) | 65 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 | 93 灰色混粗砂粘性細砂 | 121 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 13 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P07) | 41 明黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SRO6) | 66 明黄茶色混粗砂粘性細砂 | 94 灰色混粗砂粘性細砂 | 122 灰青色粘質土 |
| 14 暗灰褐色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P08) | 42 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SRO6) | 67 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 95 黄茶灰色混粗砂粘性極細砂 | 123 灰黄茶色混粗砂粘性細砂 (SD70) |
| 15 灰黄色粗砂 (SBO7.P08) | 43 淡灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SRO6) | 68 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 96 茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD78) | 124 暗黄茶色混粗砂粘性細砂 (SD70) |
| 16 黄灰色混粗砂細砂 (SBO7.P08) | 44 濁黄灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SRO6) | 69 灰色粘性細砂 | 97 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD78) | 125 褐黄灰色混粗砂粘性細砂 (SD70) |
| 17 黄褐色混粗砂粘性細砂 | 45 灰白色混粗砂細砂 (SRO6) | 70 黄灰色混粗砂粘性細砂 | 98 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD78) | 126 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD70) |
| 18 灰褐色粘性極細砂 | 46 灰黄褐色混粗砂粘性細砂 (SRO6) | 71 褐色混粗砂粘性細砂 | 99 暗灰色混粗砂粘性極細砂 (SD78) | 127 暗灰色混粗砂粘性極細砂 (SD70) |
| 19 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 47 灰褐色混粗砂粘性細砂 (SRO6) | 72 灰褐色混粗砂粘性細砂 (SRO6) | 100 褐灰色混粗砂粘性細砂 (SD78) | 128 明黄白色混粗砂粘性細砂 (地山) |
| 20 灰黄色混粗砂 | 48 褐色粘性極細砂 (10mm前後の暗黄褐色粘性極細砂のブロックを多く含む SRO6) | 73 黄白色粗砂 | 101 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD96) | 129 暗黄茶色混粗砂粘性細砂 (SD69) |
| 21 灰褐色粘性極細砂 (SBO7.P09) | 49 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 74 暗灰色粘質土 | 102 暗灰黄色混粗砂粘性細砂 (SD96) | 130 黒褐色混粗砂粘性細砂 (SD69) |
| 22 暗茶褐色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P09) | 50 茶褐色混粗砂粘性極細砂 (10mm前後の暗黄褐色粘性極細砂ブロックを多く含む) | 75 暗灰黄色粘性極細砂 | 103 暗茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD96) | 131 灰黄白色混粗砂細砂 (SD69) |
| 23 暗灰茶色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P09) | 51 黄灰色混粗砂粘性細砂 (北へ行くにつれ上層に灰色粘土堆積) | 76 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 104 灰色細砂 (SD96) | 132 暗灰色混粗砂粘性細砂 (SD69) |
| 24 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SBO7.P09) | 52 濁灰黄褐色混粗砂粘性細砂 | 77 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 105 灰色粘土 (51層へ漸移) | 133 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD69) |
| 25 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 | 53 暗灰黄褐色混粗砂粘性細砂 | 78 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 106 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD75) | 134 暗黄灰色混粗砂粘性細砂 (SD69) |
| 26 灰褐色混粗砂粘性細砂 | | 79 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 107 灰色粗砂 | 135 灰色粗砂 (SD69) |
| 27 茶褐色混粗砂粘性極細砂 | | 80 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD73) | 108 褐色混粗砂粘性細砂 (SD79) | |
| 28 淡黄灰色粘性極細砂 | | 81 暗茶色混粗砂粘性細砂 (SD73) | 109 黄茶褐色粗砂 | |

II-②区 調査区南壁

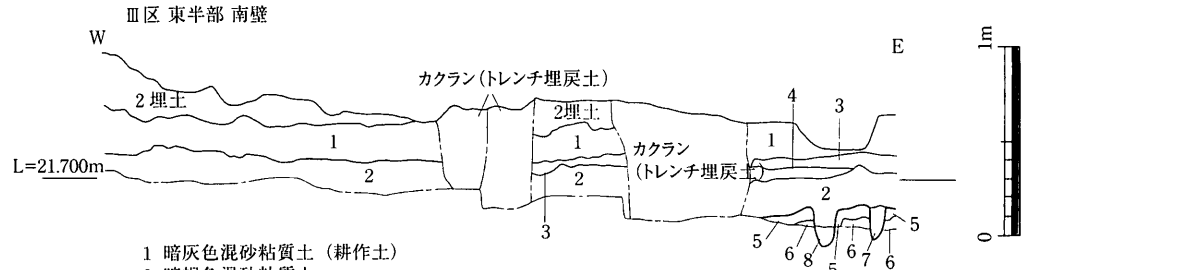


- | | | |
|-------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 136 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 145 明黄灰色混粗砂粘性細砂 | 154 黄茶色混礫粗砂 (花崗土?) |
| 137 灰色混粗砂粘性細砂 | 146 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 155 灰黄色混粗砂粘性細砂 |
| 138 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 | 147 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 156 茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 139 灰色混粗砂粘性細砂 (8層よりも粗砂) | 148 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 157 黄茶白色混粗砂粘性細砂 |
| 140 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 149 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 158 灰褐色混粗砂粘性細砂 (5mm前後のMg粒を多く含む) |
| 141 黄灰茶色混粗砂粘性細砂 | 150 灰色混粗砂粘性細砂 | 159 淡茶褐色細砂 |
| 142 灰黄白色混粗砂粘性細砂 | 151 淡茶灰色混粗砂粘性細砂 | 160 淡黄茶色細砂 |
| 143 暗灰混粗砂粘性細砂 | 152 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 161 褐色混粗砂粘性細砂 |
| 144 暗黄灰色混粗砂粘性細砂 | 153 灰色混粗砂粘性細砂 (明茶色粗砂を多量含む) | 162 灰色混粗砂粘性細砂 |

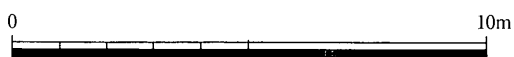
第12図 II区 土層断面図 (天地 1/40, 左右 1/160)



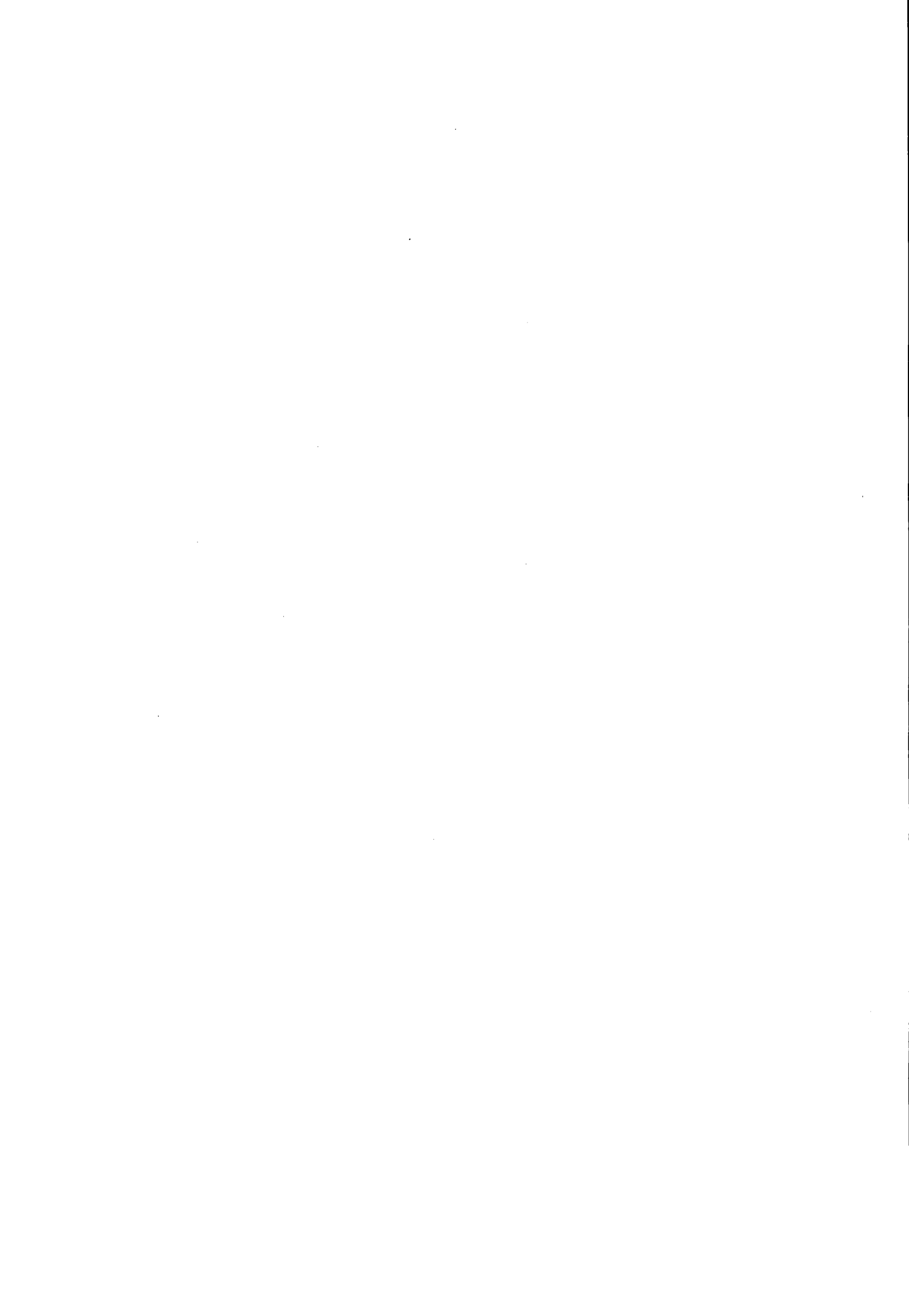
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 暗灰色混砂粘質土 (耕作土) | 10 暗灰褐色砂質土 (SB12のPO7埋土) |
| 2 暗褐色混砂粘質土 | 11 灰黄色砂質土 |
| 3 灰褐色混砂粘性極細砂 (Mnブロック混) | 12 灰黄褐色砂質土 |
| 4 黒灰色粘質土 | 13 淡黄灰色砂 |
| 5 濁灰茶褐色砂質土 | 14 淡黄灰色細砂 |
| 6 暗灰茶褐色混砂粘質土 (Mn多い) | 15 淡灰褐色中砂 |
| 7 灰褐色砂質土 | 16 黄灰色細砂 |
| 8 暗灰色砂質土 (SD135埋土) | 17 黄灰色粗砂 |
| 9 淡灰褐色砂質土 (SD133埋土) | |



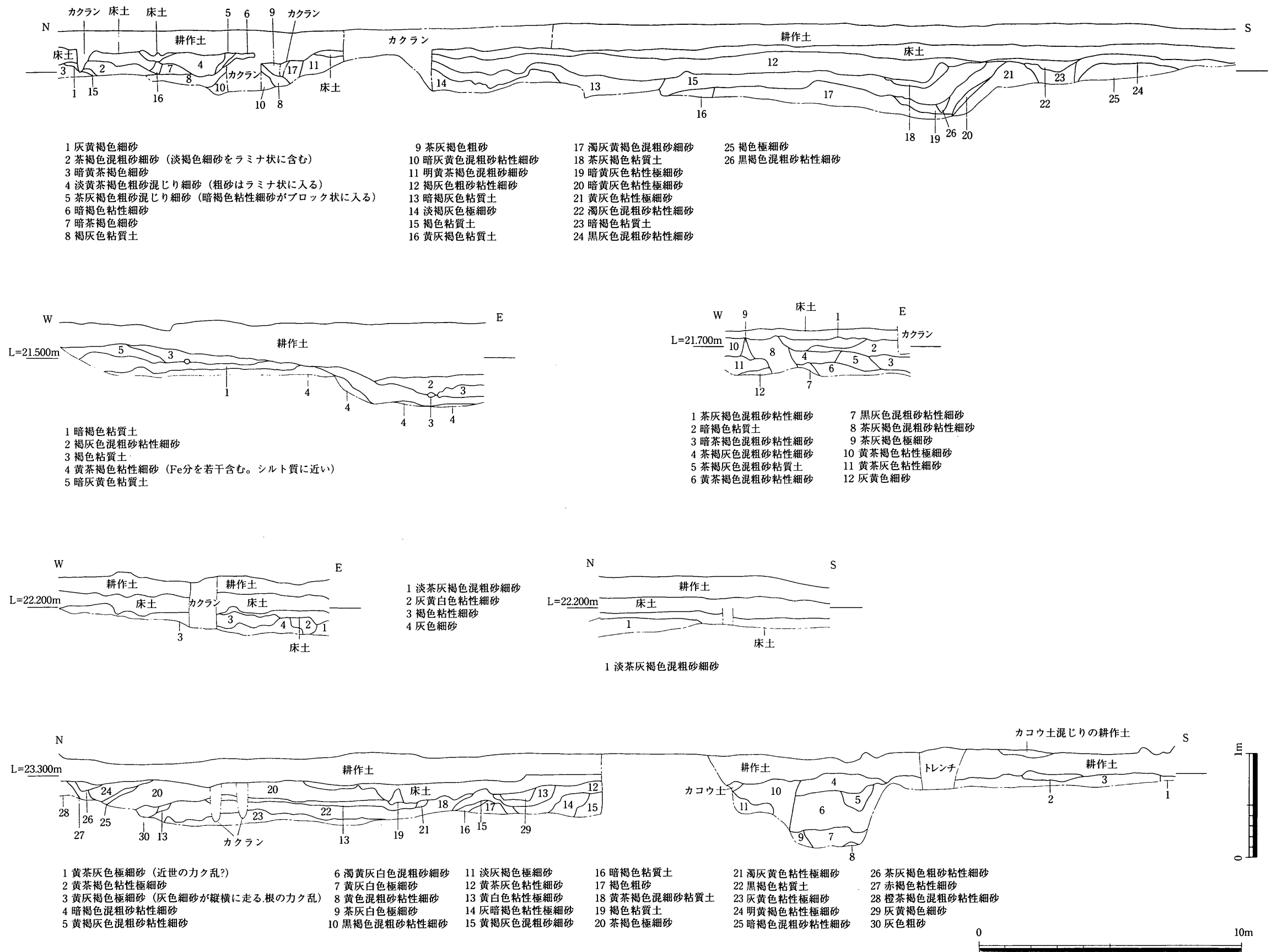
- | |
|------------------------|
| 1 暗灰色混砂粘質土 (耕作土) |
| 2 暗褐色混砂粘質土 |
| 3 灰褐色混砂粘性極細砂 (Mnブロック混) |
| 4 暗黄褐色混砂粘質土 (Mn粒混) |
| 5 黒灰色粘質土 |
| 6 濁灰茶褐色砂質土 |
| 7 暗灰褐色混砂粘質土 |
| 8 暗灰褐色砂質土 |



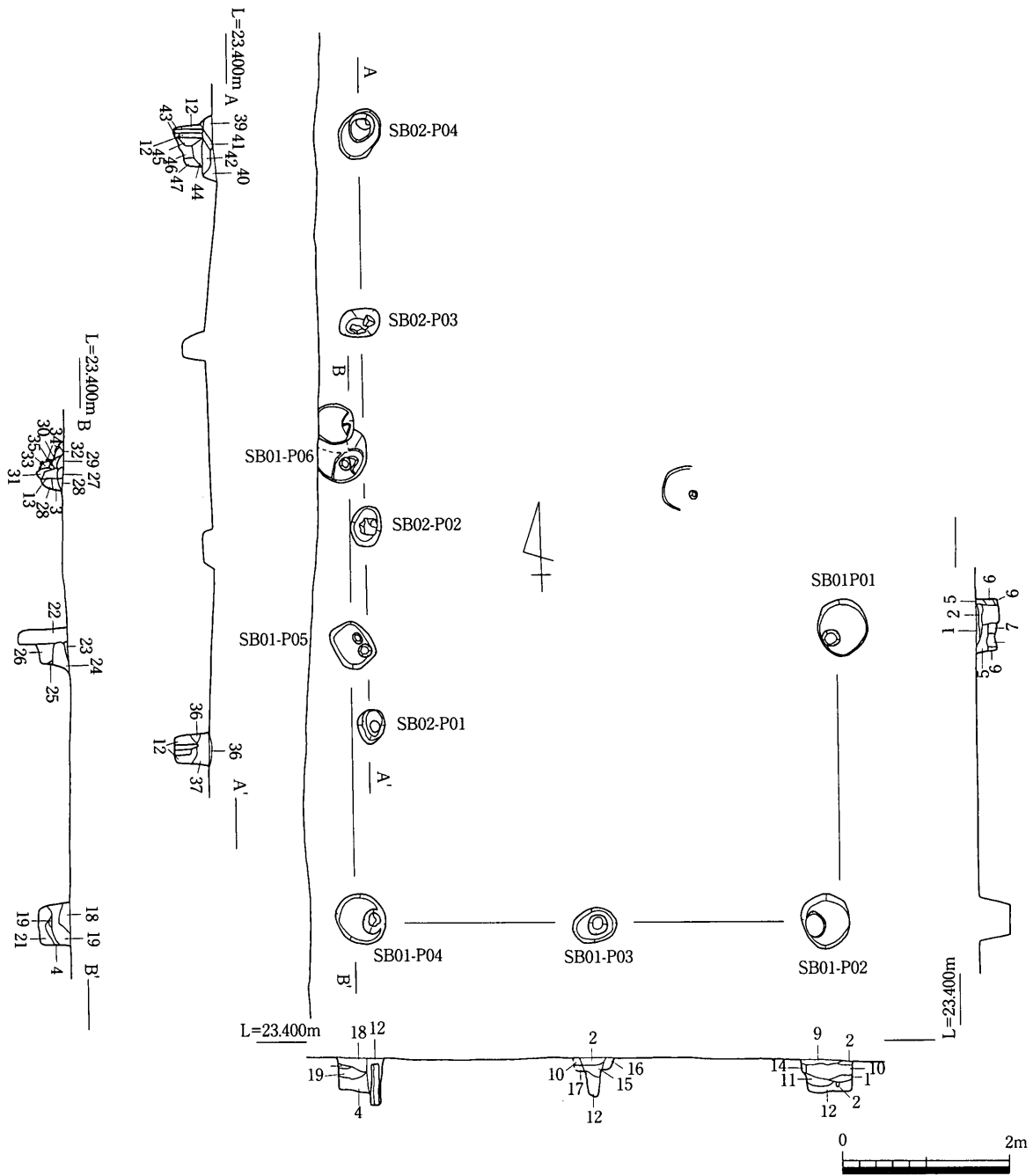
第13図 Ⅲ区平・断面図 (天地 1/40, 左右 1/160)



Ⅲ区 予備調査トレンチ①西壁

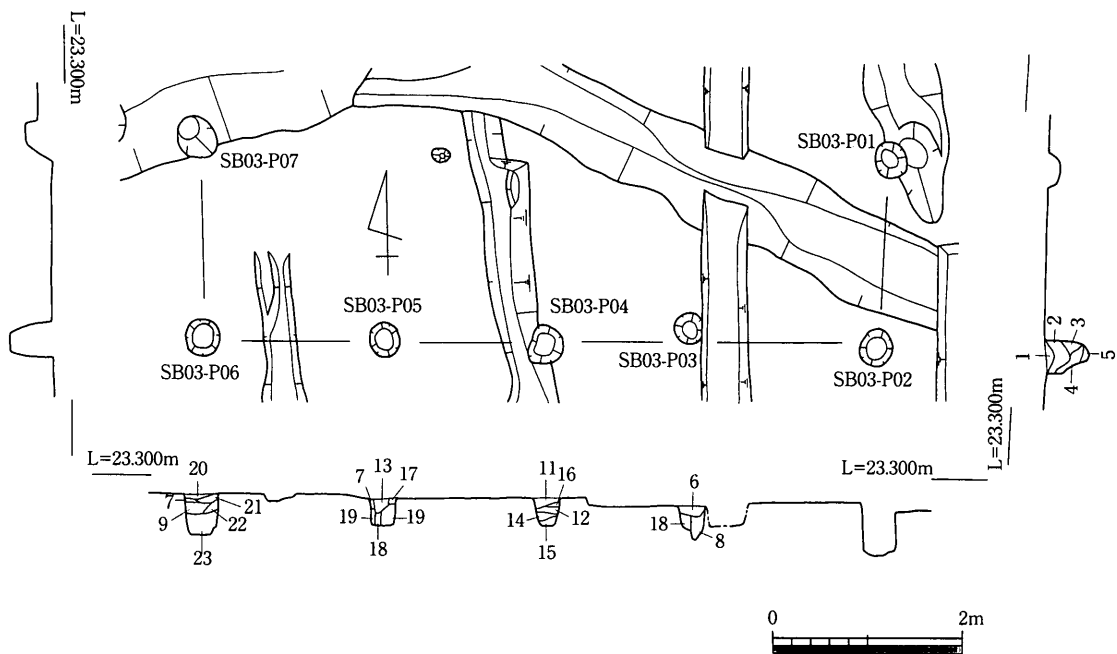


第14図 Ⅲ区 土層断面図 (1/40, 1/160)



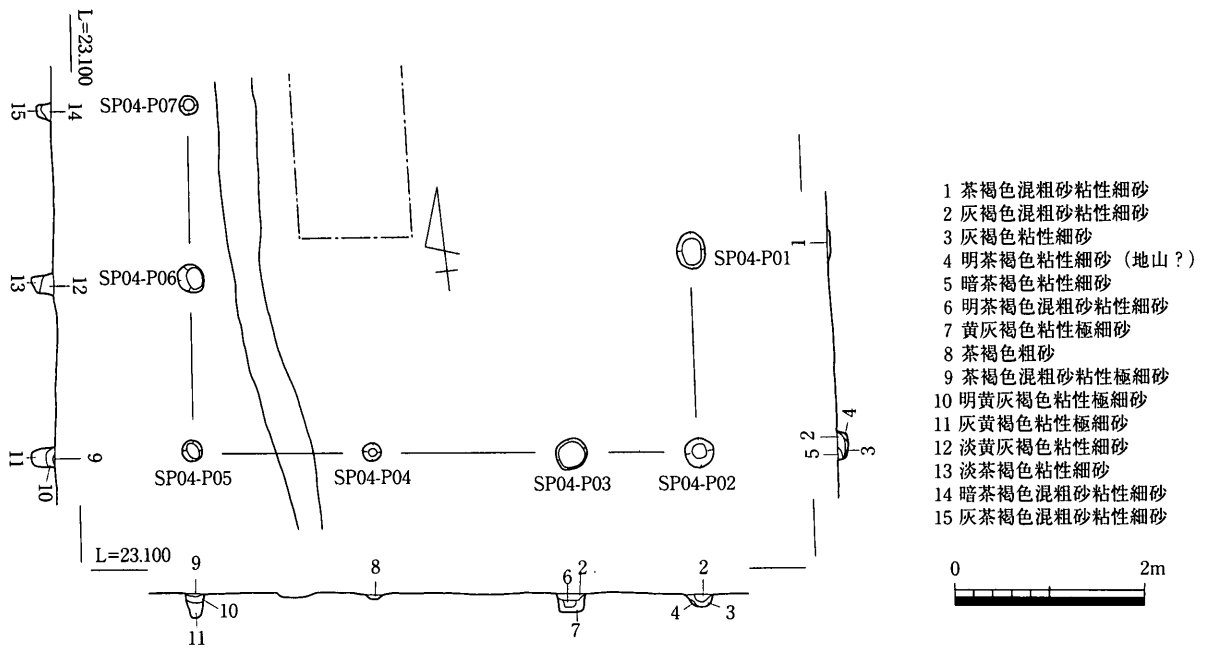
- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 暗灰褐色混粗砂粘性細砂 2 茶褐色混粗砂粘性細砂 3 茶褐色混粗砂粘性細砂 (炭化物をやや含む) 4 黒褐色粘質土 5 暗褐色粘質土 6 暗茶褐色粘性極細砂 7 暗灰色粘性極細砂 8 暗黄灰色粘性極細砂 9 明茶褐色混粗砂粘性細砂 10 暗茶褐色混粗砂粘性細砂 11 暗灰茶褐色混粗砂粘性細砂 12 暗灰色粘質土 13 暗灰色粘質土 (炭化物を若干含む) 14 暗褐色混粗砂粘性細砂 15 黒褐色混粗砂粘性細砂 16 黒茶褐色混粗砂粘性細砂 17 濁黄褐色粗砂 | <ul style="list-style-type: none"> 18 茶褐灰色混粗砂粘質土 19 暗褐色粘質土 20 暗茶褐灰色粘質土 21 黒灰色粘質土 22 濁灰黄色粘質土 (柱材のかけらが残る) 23 暗褐色混粗砂粘性細砂 24 暗褐色粘性細砂 (黄褐色粘質土の小ブロックを多く含む) 25 黒褐色粘性細砂 26 黒灰色粘性細砂 27 暗灰色混粗砂粘性細砂 (茶褐色粘性細砂ブロックを若干含む) 28 灰褐色混粗砂粘性細砂 29 灰褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色粘性細砂のブロックを多く含む) 30 明茶灰色粘性細砂 31 暗灰色混粗砂粘性細砂 (炭化物を若干含む) 32 灰茶褐色混粗砂粘性細砂 | <ul style="list-style-type: none"> 33 灰褐色粘質土 34 濁黄茶褐色粘性粗砂 35 温灰黄色混粗砂粘性細砂 36 暗茶褐色粘性細砂 37 暗灰褐色粘性細砂 (茶褐色粘質土のブロックを若干含む) 38 暗灰色粘性細砂 39 明茶褐色混粗砂粘性細砂 (流路上層) 40 灰色粗砂 (流路上層) 41 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SBO2-PO4の地山) 42 橙茶褐色混粗砂粘性細砂 (SBO2-PO4の地山) 43 暗灰色混粗砂粘質土 44 暗茶褐灰色混粗砂粘性細砂 45 暗灰黄褐色粘質土 46 灰褐黄色混粗砂粘質土 47 灰褐色混粗砂粘性細砂 |
|--|--|---|

第15図 SB01, SB02平・断面図 (1/80)

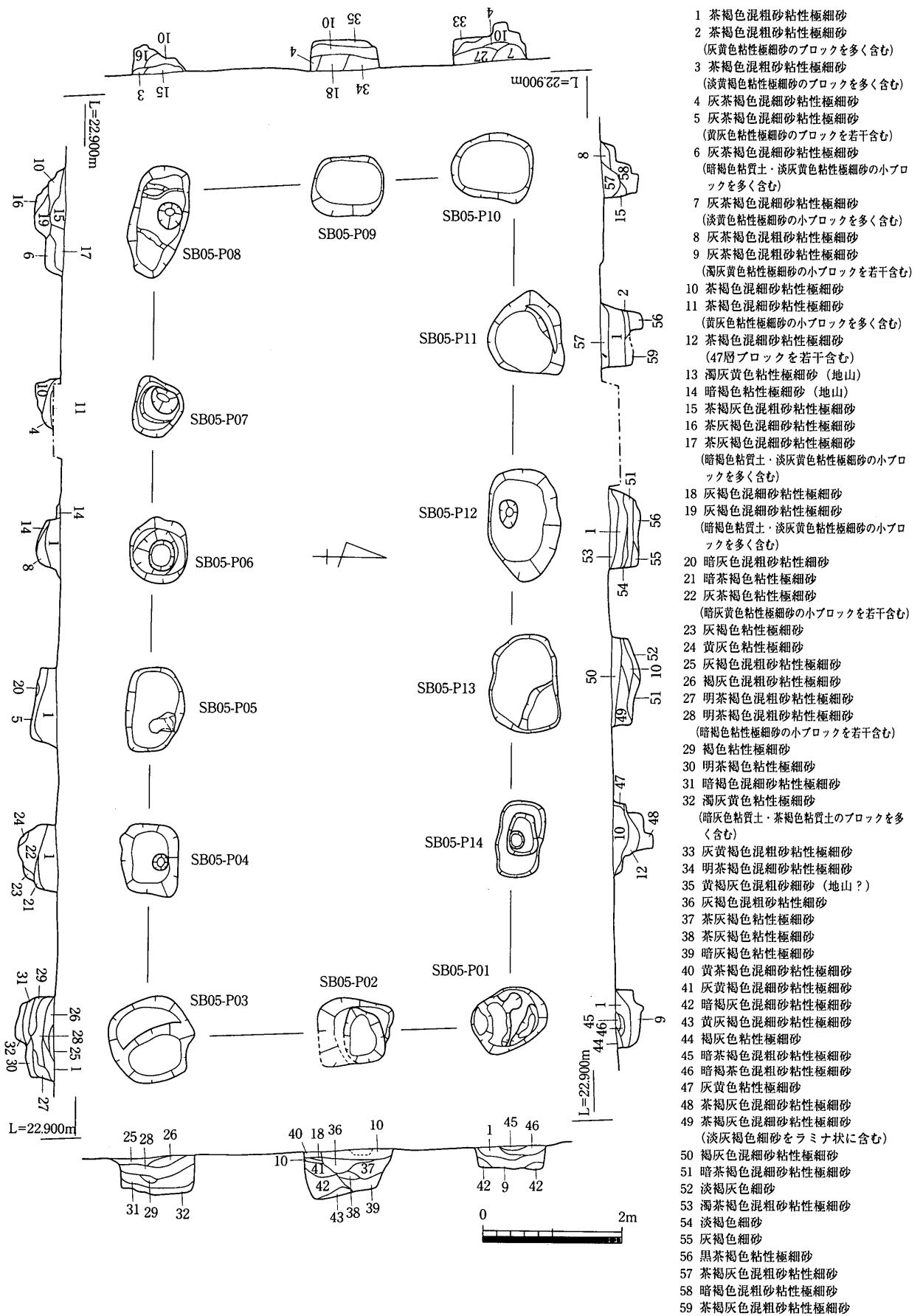


- | | |
|--------------------------------------|---------------------|
| 1 暗灰褐色混粗砂粘性細砂 | 14 暗灰色粘性細砂 |
| 2 暗灰褐色混粗砂粘性細砂 (茶褐色混粗砂細砂の小ブロックを多く含む) | 15 暗灰黄色粘性極細砂 |
| 3 暗灰色混粗砂粘性細砂 | 16 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 |
| 4 黒褐色混粗砂粘性細砂 (明黄茶褐色混粗砂細砂の小ブロックを多く含む) | 17 黄褐色混粗砂粘性細砂 |
| 5 暗黄灰色粘性細砂 | 18 灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 6 褐灰色混粗砂粘性細砂 (黄茶褐色混粗砂細砂の小ブロックを含む) | 19 暗灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 7 灰色混粗砂粘性細砂 | 20 灰茶色混粗砂粘性細砂 |
| 8 灰色混粗砂粘性細砂 (黄茶褐色混粗砂細砂の小ブロックを含む) | 21 淡茶灰褐色混粗砂粘性細砂 |
| 9 灰色混粗砂粘性細砂 (黄茶褐色細砂の小ブロックを多く含む) | 22 濁黄灰色混粗砂粘性細砂 |
| 10 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (地山ブロック) | 23 濁黄灰色混粗砂粘性細砂 |
| 11 黄茶灰色混粗砂細砂 | (黄茶褐色細砂の小ブロックを若干含む) |
| 12 灰褐色混粗砂粘性細砂 | |
| 13 灰褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色細砂の小ブロックを多く含む) | |

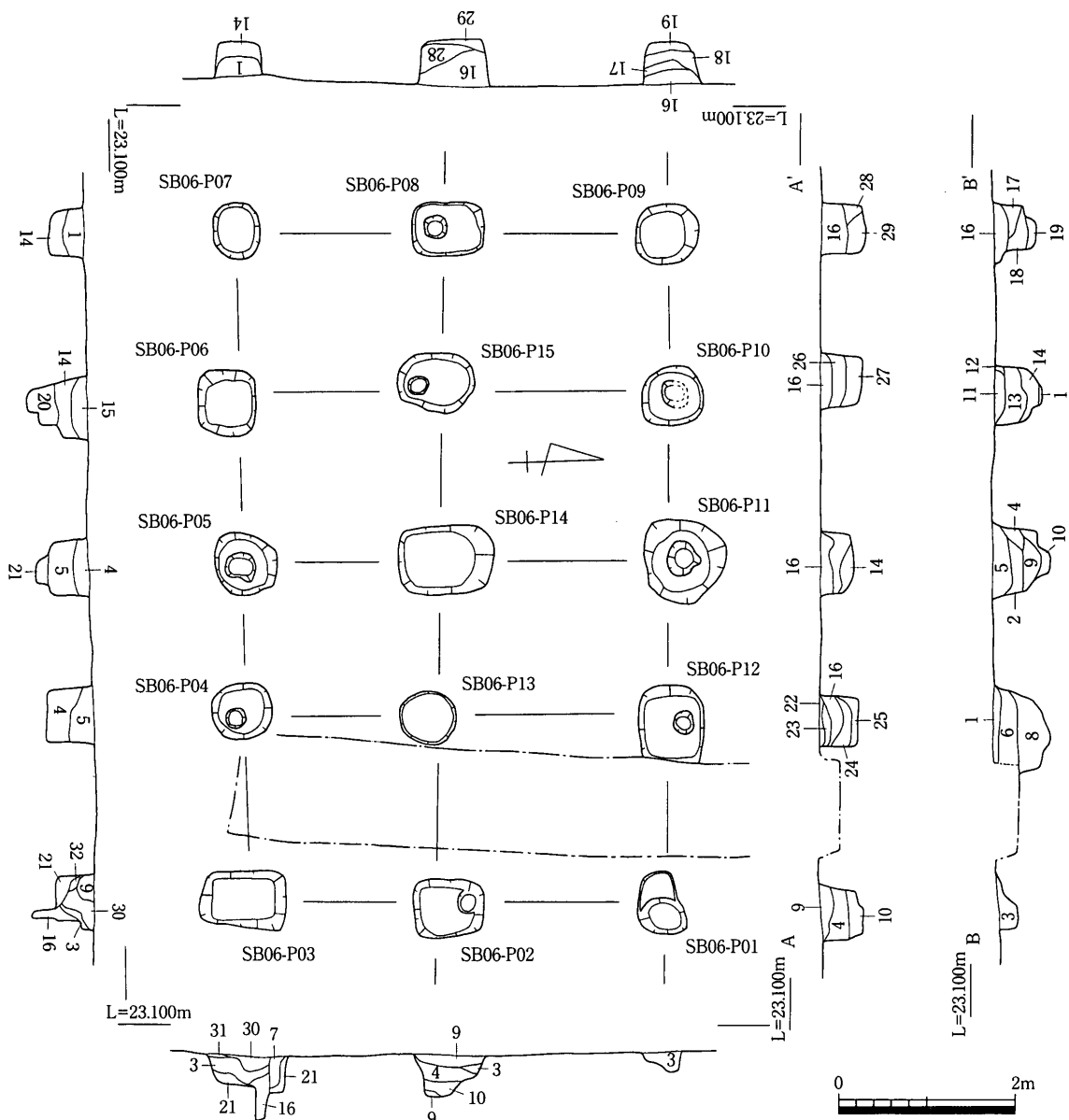
第16図 SB03平・断面図 (1/80)



第17圖 SB04平・断面圖 (1/80)

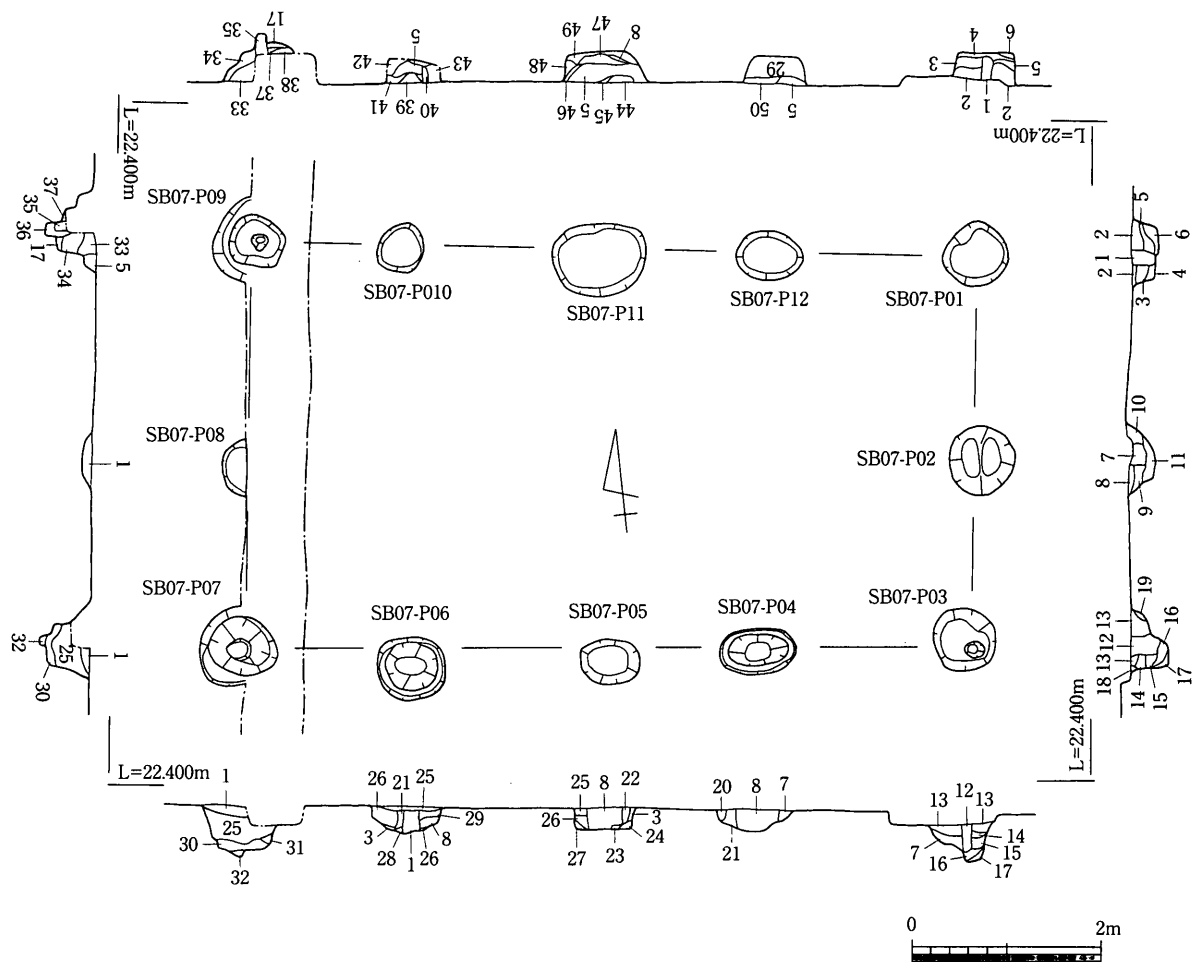


第18図 SB05平・断面図 (1/80)



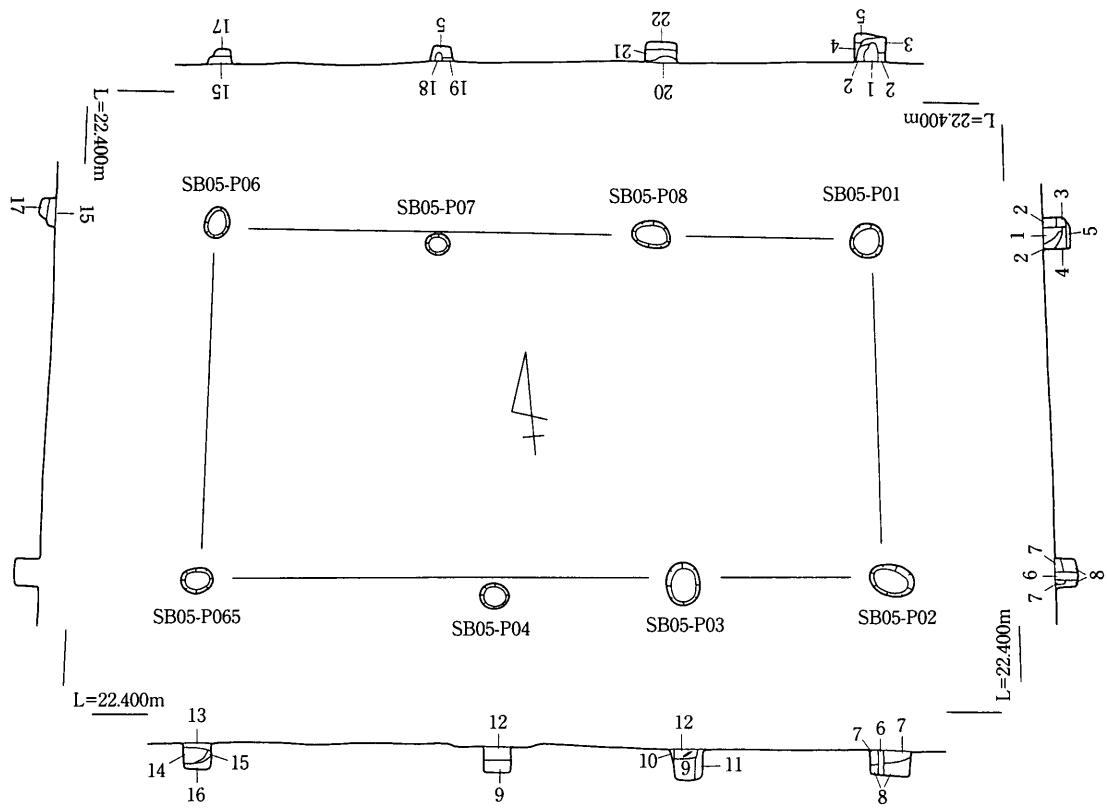
- | | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1 茶褐色混粗砂粘性極細砂 | 17 茶灰褐色粘性極細砂 |
| 2 茶褐色混粗砂粘性極細砂 (灰褐色細砂のブロックを多く含む) | 18 暗灰褐色粘性極細砂 |
| 3 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 | 19 暗褐色粘性極細砂 |
| 4 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 20 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 5 灰褐色混粗砂粘性細砂 (茶褐色粘性極細砂ブロックを多く含む) | 21 灰茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 6 灰褐色混粗砂粘性細砂 (1層のブロックを若干含む) | 22 茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 7 灰褐色混粗砂粘性細砂 (16層のブロックを若干含む) | 23 灰茶褐色混粗砂細砂 |
| 8 褐灰色混粗砂粘性細砂 | 24 暗灰色混粗砂粘性細砂 |
| 9 茶褐灰色混粗砂粘性細砂 | 25 淡茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 10 灰色混粗砂粘性細砂 | 26 暗灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 11 暗灰褐色混粗砂粘性極細砂 | 27 褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 12 赤褐色粘質土 | 28 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 13 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 | 29 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 14 灰褐色混粗砂粘性極細砂 | 30 茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 15 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (茶褐色粘性極細砂ブロックを多く含む) | 31 橙茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 16 茶褐色粘性極細砂 | 32 黄灰白色粘性極細砂 |

第19図 SB06平・断面図 (1/80)

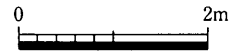


- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| 1 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 26 灰黄褐色混粗砂粘性細砂 |
| 2 黄灰茶色混粗砂粘性細砂 | 27 暗褐色粘性細砂 |
| 3 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 28 黄灰褐色粘性極細砂 |
| 4 灰色混粗砂粘性細砂 | 29 灰色混粗砂粘性細砂 |
| 5 褐灰色混粗砂粘性細砂 | 30 暗黄灰褐色粘性極細砂 |
| 6 灰色粗砂 | 31 淡灰褐色粘性極細砂 |
| 7 灰茶色混粗砂粘性細砂 | 32 暗灰色混細砂粘質土 |
| 8 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 33 黄褐灰色混粗砂粘性細砂 |
| 9 灰色極細砂 | 34 褐色混粗砂粘性細砂 |
| 10 茶褐色混粗砂細砂 | 35 暗灰黄色粘質土 |
| 11 暗黄灰色粘性極細砂 | 36 灰褐色粘性極細砂 |
| 12 暗灰黄色粘性極細砂 | 37 灰褐色粘性極細砂 (黄白色粘性極細砂のブロックを多く含む) |
| 13 茶灰色混粗砂粘性極細砂 | 38 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 14 黄灰色混粗砂粘性極細砂 | 39 橙黄褐色混粗砂粘性細砂 |
| 15 灰黄色粘性極細砂 | 40 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 16 灰色粘性極細砂 | 41 灰色混粗砂細砂 |
| 17 暗灰色粘性極細砂 | 42 灰黄色粗砂 |
| 18 茶灰色混粗砂細砂 | 43 暗黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 19 黄灰色粘性極細砂 | 44 灰白色粗砂 |
| 20 淡灰茶色混粗砂粘性細砂 | 45 茶灰色細砂 |
| 21 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 46 灰黄色粘性細砂 |
| 22 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 | 47 灰白色混粗砂細砂 |
| 23 暗灰黄色混粗砂粘性極細砂 | 48 暗灰黄色混粗砂粘性細砂 |
| 24 黑褐色粘性極細砂 | 49 黄灰色混粗砂細砂 |
| 25 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 50 明茶色混粗砂粘性極細砂 |

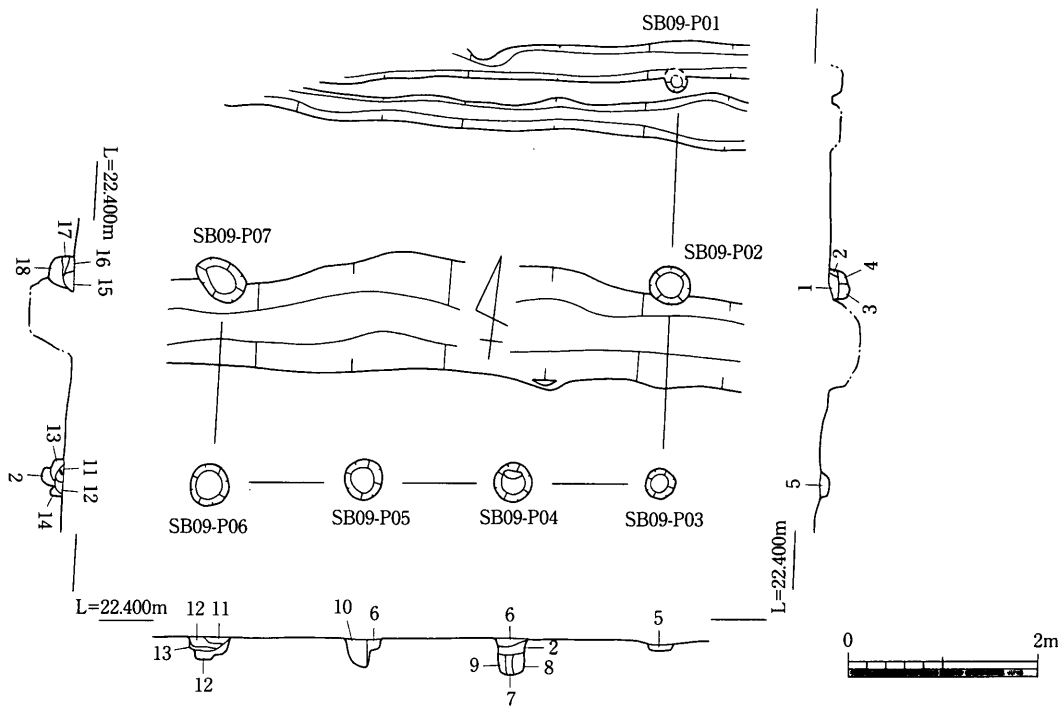
第20図 SB07平・断面図 (1/80)



- | | |
|---------------|----------------|
| 1 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 12 灰黄褐色混粗砂粘性細砂 |
| 2 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 13 灰茶褐色混粗砂細砂 |
| 3 暗茶褐色混粗砂粘性細砂 | 14 灰黄褐色細砂 |
| 4 黄褐色粗砂 | 15 灰色細砂 |
| 5 暗灰色粘性細砂 | 16 暗黄灰色細砂 |
| 6 黄褐灰色混粗砂粘性細砂 | 17 褐色粘性細砂 |
| 7 黄灰色混粗砂粘性細砂 | 18 黄茶色混粗砂細砂 |
| 8 黄灰褐色混粗砂粘性細砂 | 19 灰黄色粘性細砂 |
| 9 褐灰色混粗砂粘性細砂 | 20 茶灰褐色混粗砂粘質土 |
| 10 黄褐色混粗砂細砂 | 21 暗灰色粗砂 |
| 11 灰黄色混粗砂細砂 | 22 黑褐色粘性細砂 |

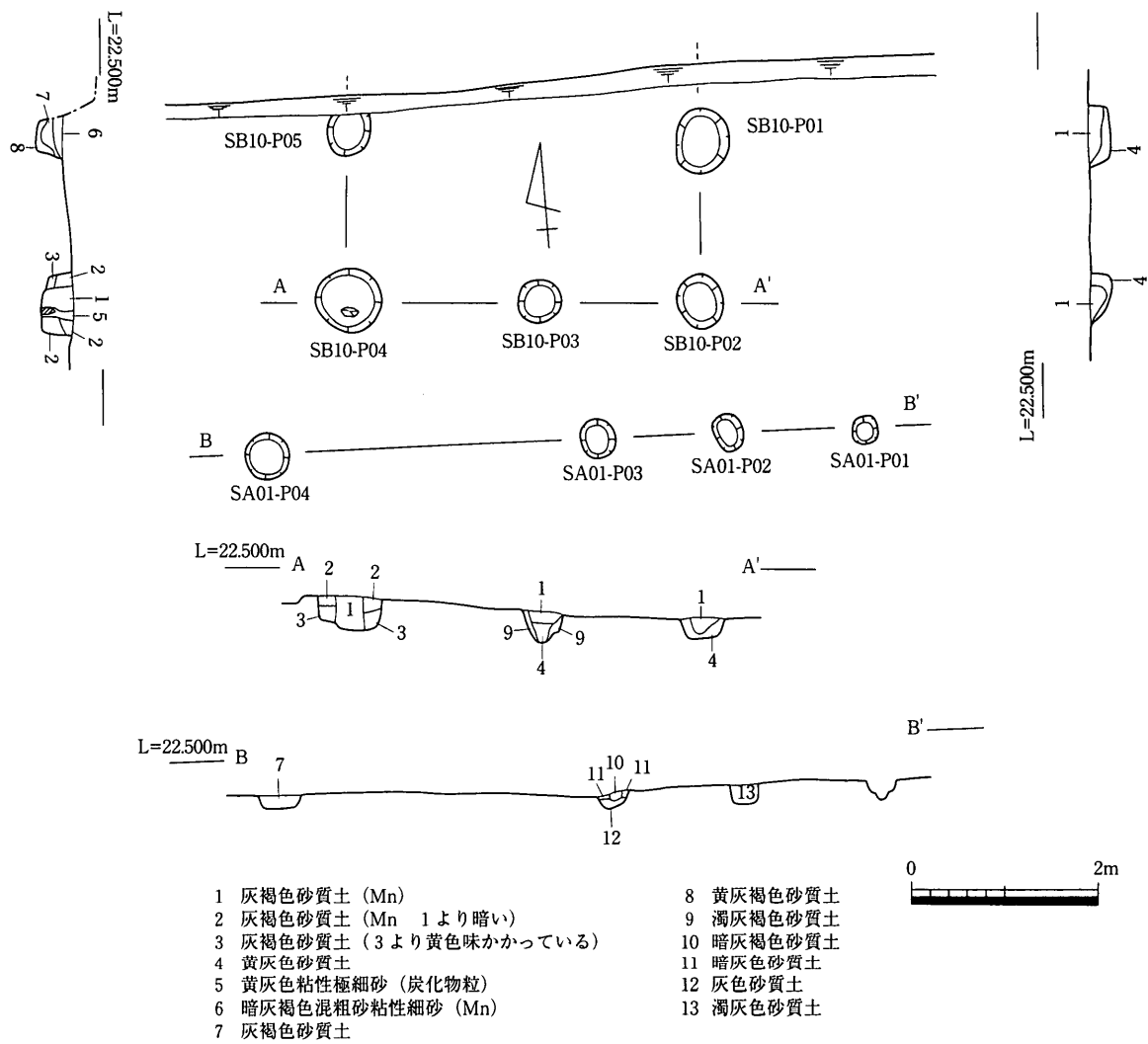


第21图 SB08平·断面图 (1/80)

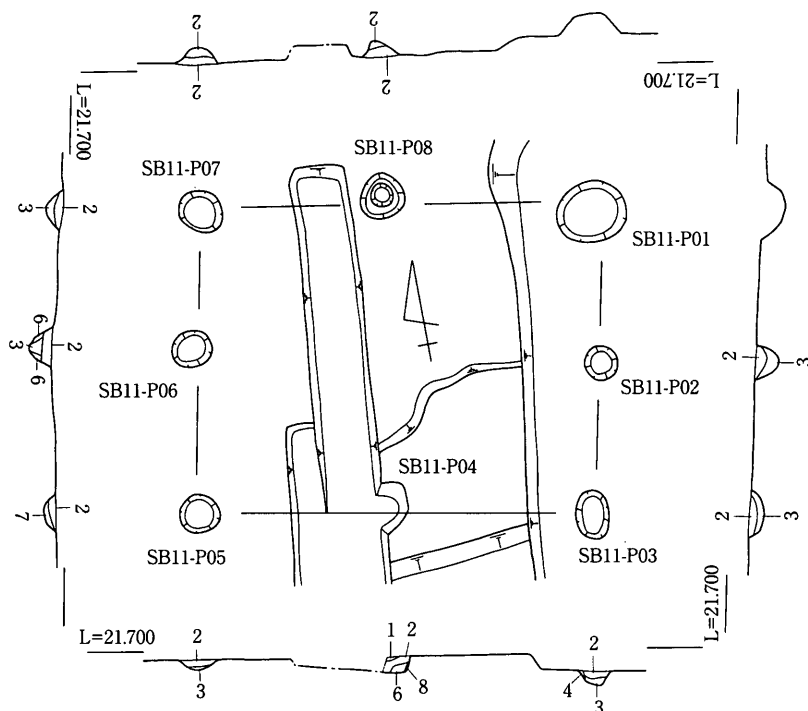


- | | |
|--------------------------------|---|
| 1 暗灰色混粗砂粘性極細砂 (5 mm前後の炭化物粒を含む) | 11 灰黄色細砂 |
| 2 灰褐色混粗砂粘性極細砂 | 12 褐灰色混粗砂粘性細砂 |
| 3 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (5 mm前後の炭化物粒を含む) | 13 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 4 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂 | 14 灰褐色粘性細砂 |
| 5 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 15 灰褐色混粗砂粘性細砂 |
| 6 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 | 16 灰褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色混粗砂粘性細砂のブロックを若干含む) |
| 7 暗褐色粘質土 | 17 暗茶褐色粘性極細砂 |
| 8 灰黄色混粗砂粘性極細砂 | 18 暗灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 9 黄茶色混粗砂粘性細砂 (地山) | 19 暗褐色粘性極細砂 (SD71埋土) |
| 10 暗褐色混粗砂粘性極細砂 | |

第22図 SB09平・断面図 (1/80)



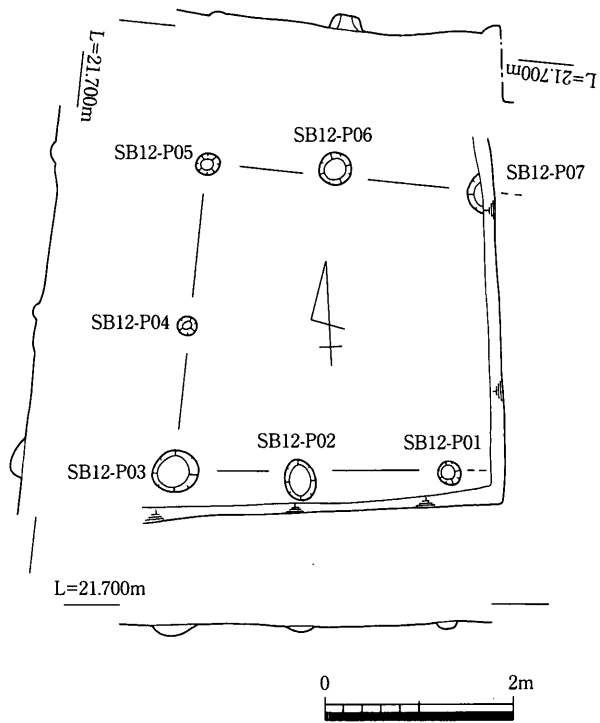
第23図 SB10, SA01平・断面図 (1/80)



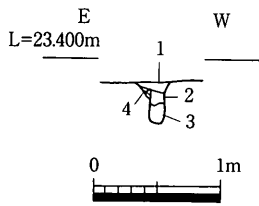
- 1 暗灰褐色混細砂粘質土
- 2 暗褐色混細砂粘質土
- 3 暗褐色混細砂粘性極細砂
- 4 黑褐色粘質土
- 5 黑褐色細砂
- 6 暗黄灰色粘質土
- 7 黄灰褐色粘質土
- 8 暗黄灰色砂質土



第24図 SB11平・断面図 (1/80)

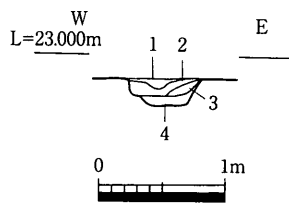


第25图 SB12平·断面图 (1/80)



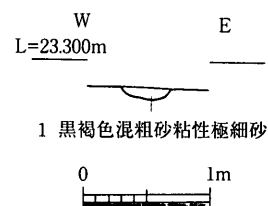
- 1 暗灰色混粗砂粘性細砂
- 2 黒褐色混粗砂粘性細砂
- 3 黒褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色粘土のブロックを若干含む)
- 4 茶褐色混粗砂粘性細砂 (地山)

第26図 SP09断面図 (1/60)



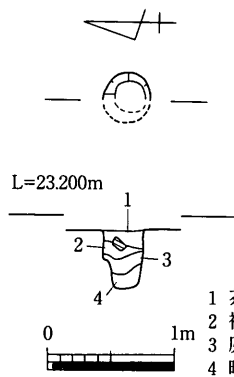
- 1 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 2 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 3 灰茶褐色混粗砂粘性細砂
- 4 灰褐色粗砂 (地山)

第27図 SP25断面図 (1/60)



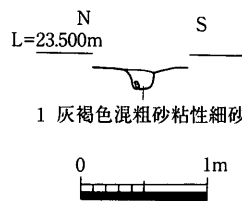
- 1 黒褐色混粗砂粘性極細砂

第28図 SP30断面図 (1/60)



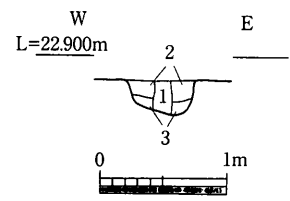
- 1 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 2 褐灰色混粗砂粘性細砂
- 3 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 4 暗灰褐色混粗砂粘性細砂

第29図 SP36平・断面図 (1/60)



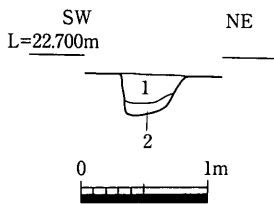
- 1 灰褐色混粗砂粘性細砂

第30図 SP37断面図 (1/60)



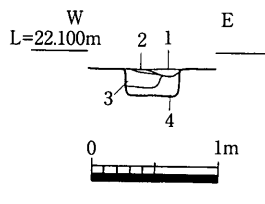
- 1 灰茶褐色混粗砂粘性細砂
- 2 暗茶褐色混粗砂粘性細砂
- 3 灰褐色混粗砂粘性細砂

第31図 SP43断面図 (1/60)



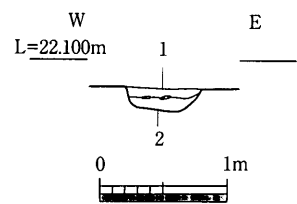
- 1 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂
- 2 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂

第32図 SP58断面図 (1/60)



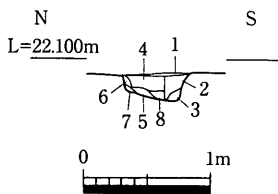
- 1 暗茶褐色混粗砂粘性細砂
- 2 灰色細砂
- 3 茶褐色細砂
- 4 灰褐色細砂

第33図 SP71断面図 (1/60)



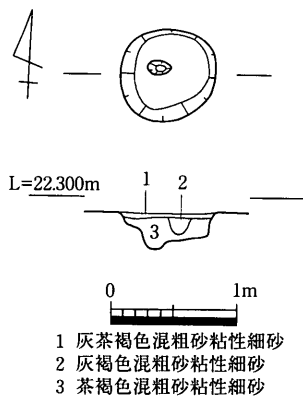
- 1 茶灰色混粗砂粘性細砂
- 2 灰褐色混粗砂粘性細砂

第34図 SP77断面図 (1/60)



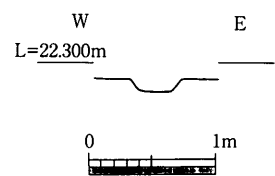
- 1 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 2 茶褐灰色混粗砂粘性細砂
- 3 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 4 濁灰黄褐色混粗砂粘性細砂
- 5 灰色混粗砂粘性細砂
- 6 茶灰色混粗砂粘性細砂
- 7 暗灰黄色粘性細砂
- 8 黄灰色混粗砂粘性細砂

第35図 SP79断面図 (1/60)

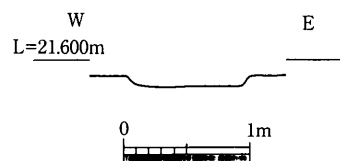


- 1 灰茶褐色混粗砂粘性細砂
- 2 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 3 茶褐色混粗砂粘性細砂

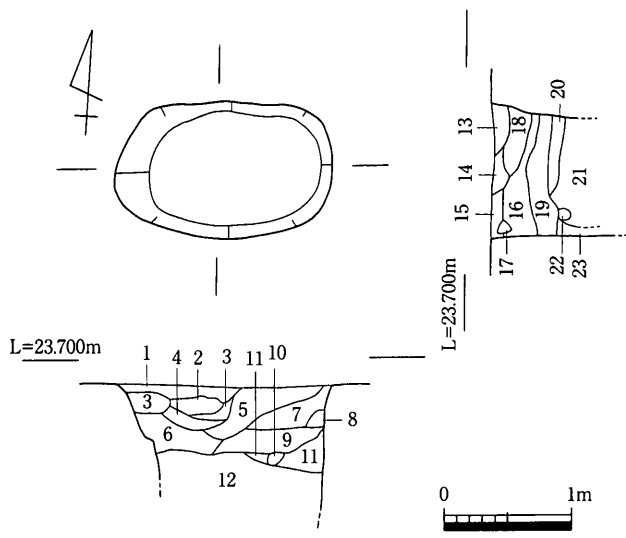
第36図 SP87平・断面図 (1/60)



第37図 SP103断面図 (1/60)

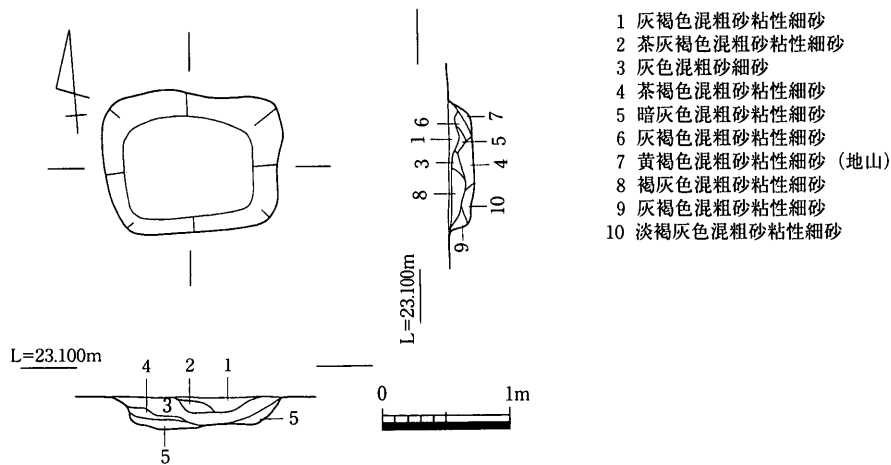


第38図 SP117断面図 (1/60)



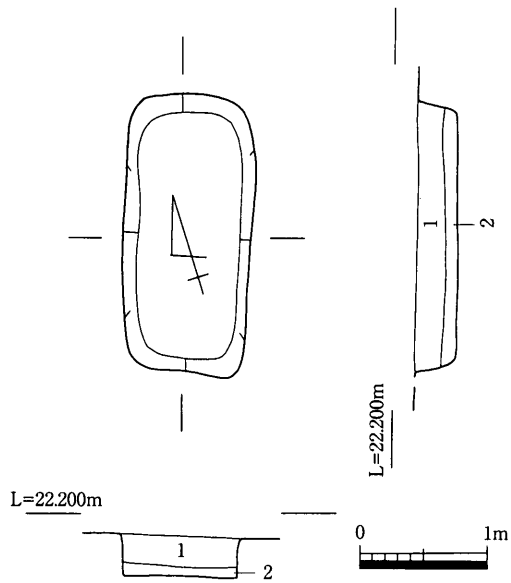
- 1 灰黄茶色粘性粗砂
- 2 黄茶褐色混粗砂粗砂
- 3 灰黄色混粗砂粘性細砂 (黄茶色粘質土ブロックを若干含む)
- 4 橙黄褐色粗砂
- 5 黄茶褐色粗砂 (灰色細砂と茶褐色粘質土のブロックを多く含む)
- 6 灰褐色粘性細砂
- 7 濁灰黄褐色混粗砂粘性細砂
- 8 暗褐色粘質土
- 9 黄茶褐色粘性粗砂
- 10 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 11 暗黄茶褐色混粗砂粘性細砂
- 12 青灰色粘性細砂
- 13 灰黄色混粗砂粘性細砂
- 14 灰黄茶色粘性粗砂
- 15 黄褐色粗砂
- 16 黄茶褐色混粗砂粗砂
- 17 暗褐色粘質土
- 18 灰黄色混粗砂粘性細砂
- 19 黄茶褐色粗砂
- 20 暗灰色粘質土
- 21 青灰色粘質土
- 22 暗黄褐色粘質土
- 23 暗黄灰色細砂

第39図 SK02平・断面図 (1/60)



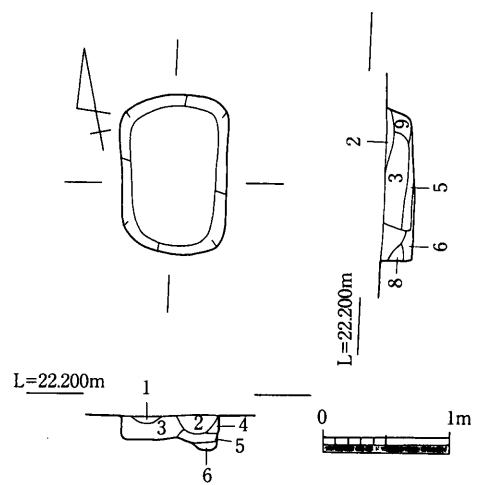
- 1 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 2 茶灰褐色混粗砂粘性細砂
- 3 灰色混粗砂細砂
- 4 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 5 暗灰色混粗砂粘性細砂
- 6 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 7 黄褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 8 褐灰色混粗砂粘性細砂
- 9 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 10 淡褐灰色混粗砂粘性細砂

第40図 SK03平・断面図 (1/60)



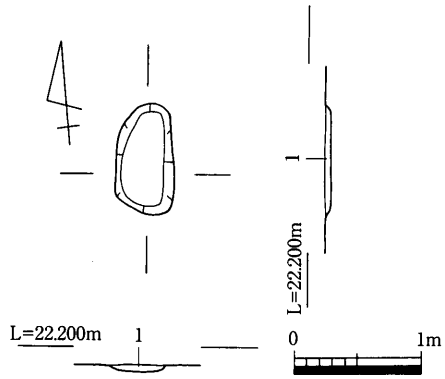
- 1 濁黄灰褐色混粗砂粘性細砂
- 2 黄茶褐色混粗砂粘性細砂

第41図 SK04平・断面図 (1/60)



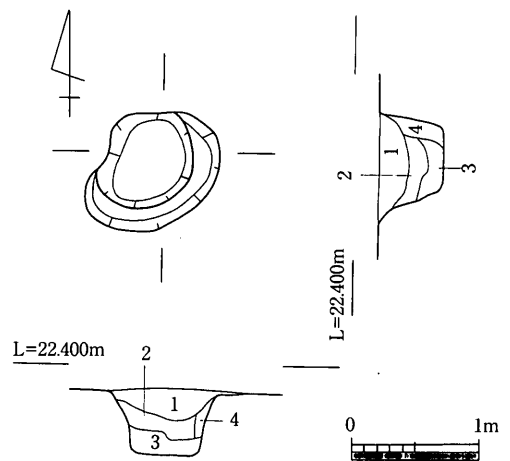
- 1 黄褐色粗砂 (灰黄色粘性細砂のブロックを含む)
- 2 茶灰色細砂
- 3 黄灰色細砂
- 4 褐灰色細砂
- 5 黒褐色粘性極細砂 (地山)
- 6 灰黄白色粘性極細砂 (地山)
- 7 濁黄褐色細砂
- 8 黄茶褐色粘性細砂
- 9 灰黄色混粗砂

第42図 SK05平・断面図 (1/60)



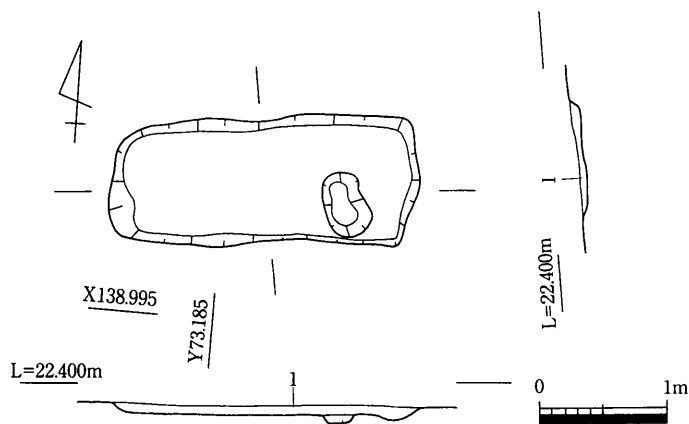
- 1 黄茶灰色混粗砂粘性細砂

第43図 SK06平・断面図 (1/60)



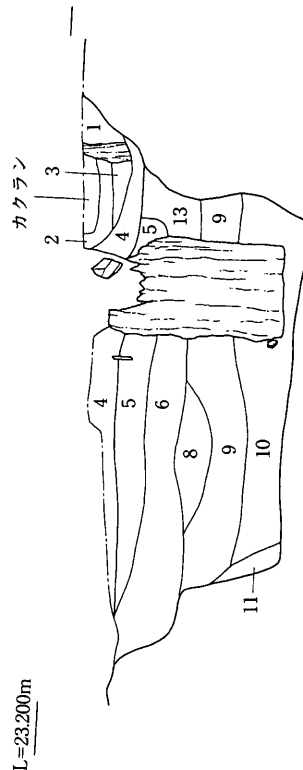
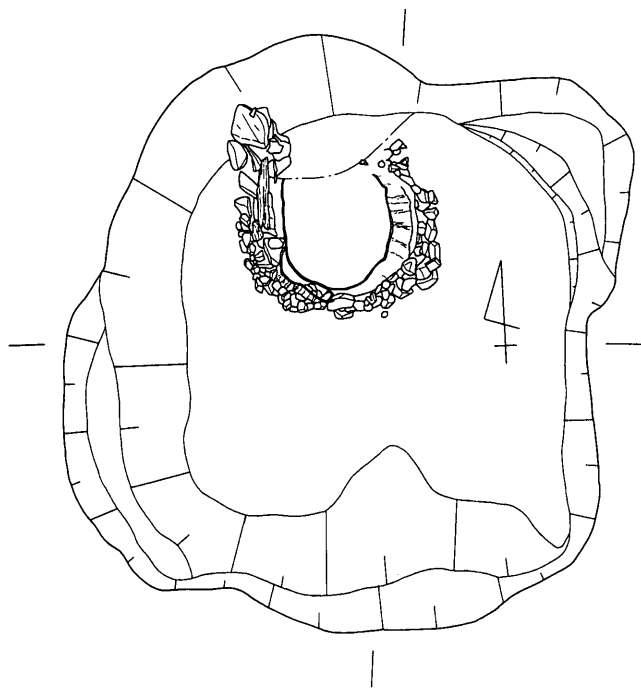
- 1 暗灰黄褐色混粗砂粘質土
- 2 灰色混粗砂粘質土
- 3 灰色混粗砂粘質土 (2層より粗砂を多く含む)
- 4 黄褐色混粗砂粘性細胞

第44図 SK07平・断面図 (1/60)

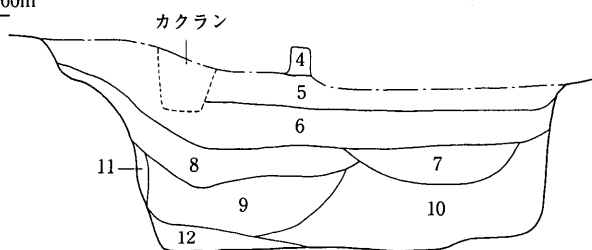


- 1 茶灰褐色混粗砂粘性細砂
(茶褐色混粗砂粘性細砂・黄灰色粘性極細砂のブロックを多く含む)
- 2 灰色混粗砂粗砂
(茶褐色混粗砂粘性細砂・黄灰色粘性極細砂のブロックを多く含む)

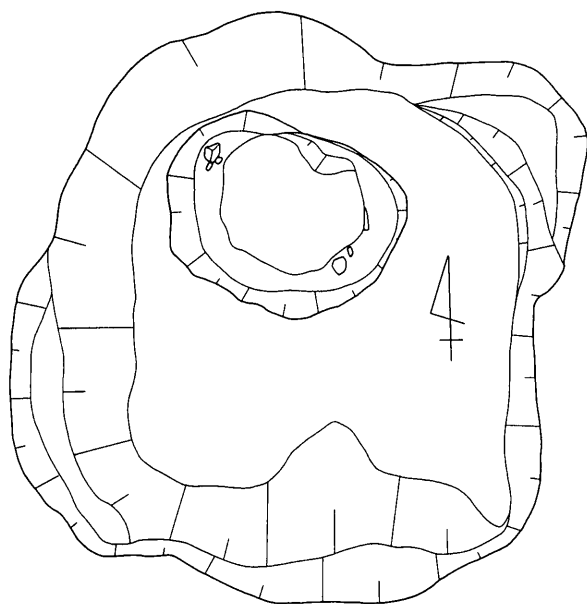
第45図 SK08平・断面図 (1/60)



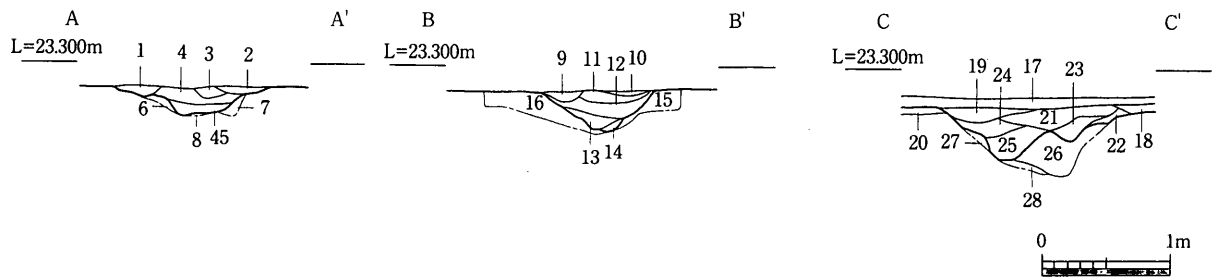
L=23.200m



- 1 淡褐色細砂 (暗灰色粘質土をレンズ状に包含する)
- 2 暗灰色粘性細砂 (灰色細砂をレンズ状に包含する)
- 3 灰色粘性細砂 (暗灰色粘質土をレンズ状に包含する)
- 4 濁黄茶褐色混粗砂粘性細砂
- 5 暗褐色粘質土
(濁黄茶褐色混粗砂粘質土のブロックを多く含む)
- 6 暗灰色粘質土
(青灰色粘質土・黄褐色粘質土のブロックを若干含む)
- 7 暗灰色粘質土 (青灰色粘質土の小ブロックを多く含む)
- 8 黒灰色粘質土 (青灰色粘質土のブロックを多く含む)
- 9 青灰色粘質土 (暗灰色粘質土のブロックを多く含む)
- 10 黒灰色粘質土
- 11 青灰色混粗砂粘性細砂
- 12 灰青色混粗砂粘性細砂 (50mm前後の小礫を含む)
- 13 褐色粘質土



第46図 SE01平・断面図 (1/40)

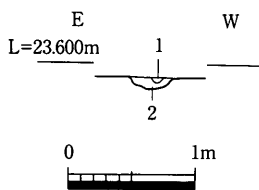


- 1 明茶褐色粘性細砂
- 2 暗茶褐色粘性細砂
- 3 黒茶褐色混粗砂粘性細砂
- 4 黒褐色混粗砂粘性細砂
- 5 暗灰褐色混粗砂粘性細砂
- 6 暗茶灰褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 7 黒灰色粘質土 (地山)
- 8 黄褐色細砂 (地山)

- 9 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 10 明茶褐色混粗砂粘性細砂
- 11 暗茶褐色粘性細砂
- 12 黒褐色粘性細砂
- 13 茶褐色粘性細砂 (黄褐色細砂のブロック微量含む)
- 14 暗茶灰色細砂
- 15 淡茶灰色粗砂 (地山)
- 16 淡黄茶灰色細砂 (地山)

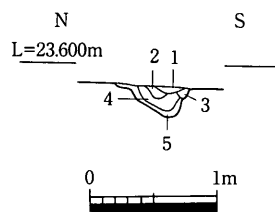
- 17 濁黄灰色粘性細砂 (床土)
- 18 暗灰黄色混粗砂細砂
- 19 濁褐色混粗砂粘性細砂
- 20 褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 21 茶褐色混粗砂粘性細砂
- 22 暗灰色細砂
- 23 暗褐色混粗砂細砂
- 24 暗褐色粘性細砂
- 25 褐色粘性細砂
- 26 淡褐色細砂 (地山)
- 27 濁黄褐色細砂 (地山)
- 28 淡黒褐色粘性細砂 (地山)

第47図 SD01断面図 (1/60)



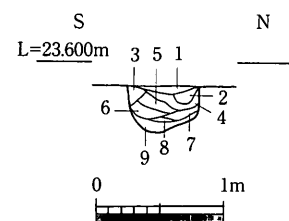
- 1 灰茶褐色粘性細砂
- 2 灰黄色細砂

第48図 SD04断面図 (1/60)



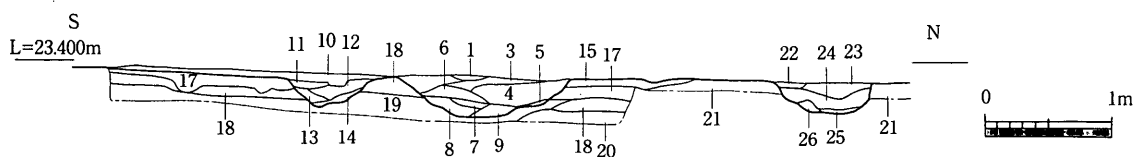
- 1 濁黄灰色混粗砂粘性細砂
- 2 暗褐色混粗砂粘性細砂
- 3 褐色混粗砂粘性細砂
- 4 暗灰色混粗砂粘性細砂 (黄褐色粘性細砂の小ブロックを含む)
- 5 濁黄褐色混粗砂粘性細砂

第49図 SD09断面図 (1/60)



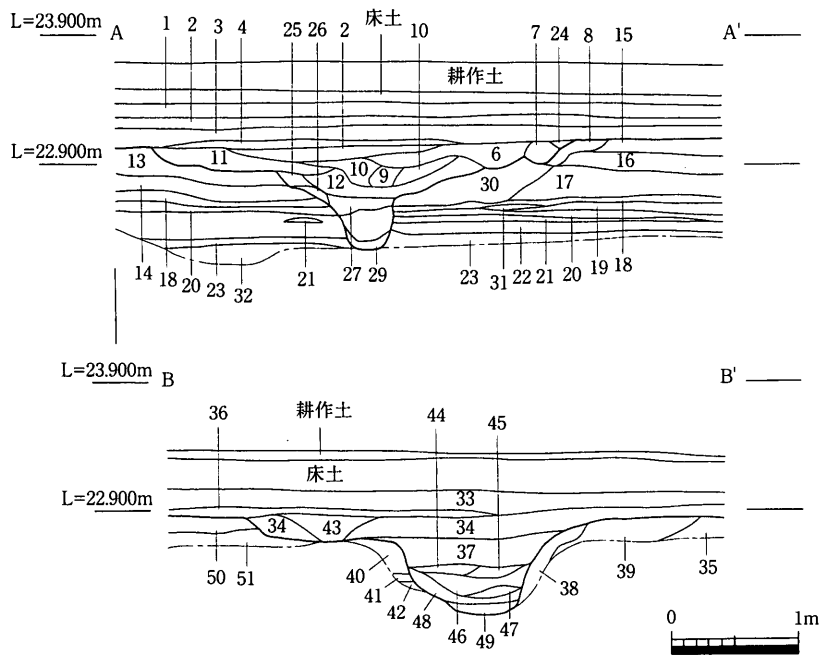
- 1 灰色混粗砂粘性細砂
- 2 暗灰色粗砂粘性細砂 (暗茶褐色粘性細砂のブロックを多く含む)
- 3 茶褐色粗砂粘性細砂
- 4 灰白色粘性細砂 (7mm前後の炭化物を微量含む)
- 5 茶灰色混粗砂粘性細砂 (7mm前後の炭化物をやや多く含む)
- 6 灰色粘性細砂 (暗灰色粘性細砂のブロックを若干含む)
- 7 暗灰色粘性細砂 (茶灰褐色粘性細砂のブロックを若干含む)
- 8 茶灰色粘性細砂 (暗黄褐色細砂のブロックを微量含む)
- 9 暗灰色粘質土

第50図 SD10断面図 (1/60)



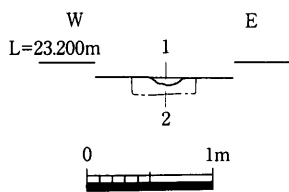
- 1 褐色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 2 濁黄褐色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 3 暗黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 4 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 5 暗褐色粘質土 (粗砂を若干含む・SD11)
- 6 暗茶褐色混粗砂粘性細砂 (粗砂は1~4層に比べ少ない・SD11)
- 7 暗黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 8 黒褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色極細砂の小ブロックを多く含む・SD11)
- 9 黒褐色混粗砂粘性細砂 (SD11)
- 10 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD12)
- 11 暗褐色混粗砂粘性細砂 (SD12)
- 12 濁暗黄灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD12)
- 13 黒褐色混粗砂粘性細砂 (SD12)
- 14 濁黒褐色粘性細砂 (SD12)
- 15 暗茶褐色混粗砂粘性細砂
- 16 黒褐色粘質土
- 17 黒褐色粘質土
- 18 濁灰黄色粘性粗砂
- 19 濁黄灰褐色粘性細砂
- 20 淡灰黄白色極細砂
- 21 褐色混粗砂粘性細砂
- 22 暗茶褐色混粗砂粘質土 (SD19)
- 23 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD19)
- 24 暗茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SD19)
- 25 黒褐色混粗砂粘性極細砂 (SD19)
- 26 黄褐色混粗砂細砂 (SD19)

第51図 SD11, SD12, SD19断面図 (1/60)



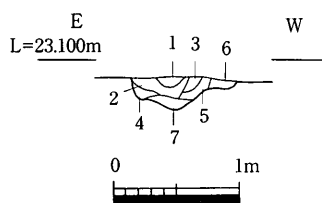
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色粘性細砂 | 28 淡灰褐色極細砂 |
| 2 明黄褐色粘性細砂 | 29 濁黄灰褐色粘質土 |
| 3 淡褐色粘性細砂 (土器片を僅かに包含) | 30 濁灰褐色混粗砂細砂 |
| 4 濁灰黄褐色粘性細砂 (Mg分沈着) | 31 濁黄橙褐色粘性極細砂 |
| 5 茶褐色粘性細砂 (坏1点包含) | 32 黄褐色粘質土 |
| 6 明茶褐色粘性細砂 | 33 灰褐色混細砂粘性極細砂 (旧耕作土?) |
| 7 茶灰褐色粘性細砂 | 34 黄灰褐色混細砂粘性極細砂 (旧床土?) |
| 8 暗灰褐色粘性細砂 | 35 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 9 暗茶褐色粘性細砂 (粘性強い) | 36 灰褐色粘性極細砂 |
| 10 灰茶褐色細砂 | 37 茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 11 暗褐色粘性極細砂 | 38 褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 12 暗灰茶褐色細砂 | 39 茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 13 淡茶褐色細砂 | 40 茶褐色細砂 |
| 14 暗褐色粘性細砂極 | 41 暗褐色粘質土 |
| 15 濁灰褐色粘性細砂 | 42 灰黄褐色粘性極細砂 |
| 16 灰褐色粘性細砂 | 43 暗黄灰色粘性極細砂 |
| 17 茶褐色細砂 | 44 灰褐色粘性極細砂 |
| 18 暗褐色粘質土 | 45 灰茶色混粗砂粘性極細砂 |
| 19 灰黄褐色粘性極細砂 | 46 淡茶褐色混粗砂細砂 |
| 20 黄灰白色粘性極細砂 | 47 灰白色粘性極細砂 |
| 21 灰褐色粗砂 | (最下部に暗灰色粘質土が1cm程度の厚さで堆積) |
| 22 暗黄灰褐色粘質土 | 48 茶灰褐色混粗砂細砂 |
| 23 暗褐色混粗砂粘質土 | 49 茶灰褐色混粗砂細砂 |
| 24 灰褐色粘性細砂 | (褐灰色粘質土の小ブロックを多く含む) |
| 25 淡褐灰色細砂 | 50 灰黄色粘性極細砂 |
| 26 淡褐灰色細砂 (25層よりやや粒粗め) | 51 黄茶褐色混粗砂粘性極細砂 |
| 27 淡灰茶褐色混粗砂粘性細砂 | |

第52図 SD18断面図 (1/60)



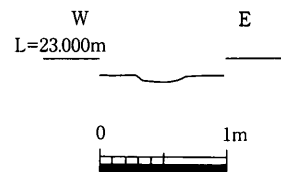
- 1 灰褐色混粗砂粘性細砂
- 2 暗茶褐色粘質土

第53図 SD20断面図 (1/60)

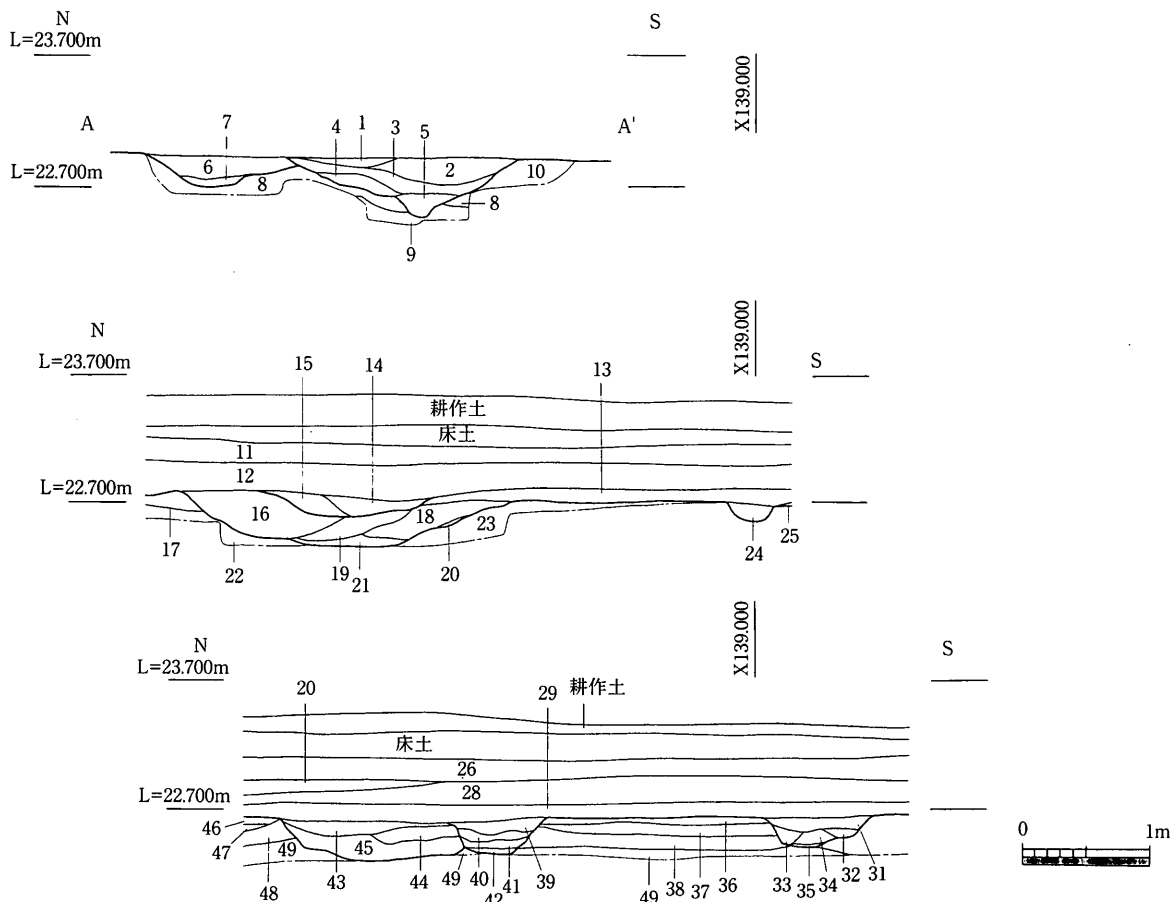


- 1 茶褐色混粗砂粘性極細砂
- 2 灰褐色混粗砂粘性極細砂
- 3 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂
- 4 暗灰黄褐色混粗砂粘性極細砂
- 5 暗灰黄褐色混粗砂粘性極細砂
- 6 暗褐色混粗砂粘質土
- 7 暗灰褐色混粗砂粘性極細砂

第54図 SD30断面図 (1/60)

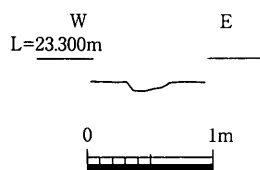


第55図 SD31断面図 (1/60)

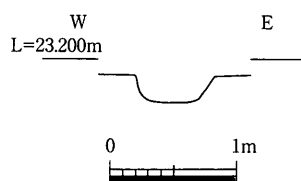


- | | |
|-------------------------------|------------------------------------|
| 1 茶灰色粘性細砂 (SD44) | 26 灰褐色混細砂粘性極細砂 (旧耕作土?) |
| 2 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD44) | 27 灰黄褐色混粗砂 (包含層) |
| 3 褐灰色粘性細砂 (SD44) | 28 黄茶灰色粘性極細砂 (包含層) |
| 4 灰褐色粘性細砂 (SD44) | 29 明茶褐色混粗砂粘性細砂 (包含層) |
| 5 灰色粘質土 (SD44) | 30 灰黄白色細砂 (地山) |
| 6 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD37) | 31 灰茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD36) |
| 7 暗灰色粘性細砂 (SD37) | 32 褐色混粗砂粘性細砂 (SD36) |
| 8 灰褐色細砂 (地山) | 33 褐茶色混粗砂粘性細砂 (SD36) |
| 9 暗灰黄色混細砂粘性極細砂 (地山) | 34 茶灰色細砂粘性細砂 (SD36) |
| 10 黄茶褐色粗砂 (地山) | 35 黄灰色粘性極細砂 (SD36) |
| 11 明黄褐色粘性細砂 (包含層) | 36 茶灰褐色粘性極細砂 (地山) |
| 12 茶褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層) | 37 濁灰黄褐色極細砂 (地山) |
| 13 暗橙褐色混粗砂粘性細砂 (包含層) | 38 黄灰褐色粘性極細砂 (地山) |
| 14 橙黄褐色極細砂 (SD44) | 39 茶褐色混粗砂粘性極細砂 (SD44) |
| 15 淡灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD44) | 40 灰褐色混細砂粘性極細砂 (SD44) |
| 16 褐灰色混粗砂粘性極細砂 (SD37) | 41 灰白褐色細砂 (SD44) |
| 17 暗黄灰褐色混粗砂細砂 (SD37) | 42 暗灰色混細砂粘性極細砂 (SD44) |
| 18 暗褐色混細砂粘質土 (21層のブロック?・SD37) | 43 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂 (SD37) |
| 19 褐灰白色混粗砂細砂 (地山) | 44 茶褐色混細砂粘性極細砂 (SD37) |
| 20 暗褐色混細砂粘性細砂 (地山) | 45 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (灰色細砂をラミナ状に含む・SD37) |
| 21 灰色極細砂 (地山) | 46 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (地山) |
| 22 暗褐色混粗砂粘質土 (地山) | 47 茶褐灰色混粗砂粘性細砂 (地山) |
| 23 黄茶褐色混粗砂細砂 (地山) | 48 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (地山) |
| 24 褐色混粗砂粘性細砂 (SD36) | 49 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (地山) |
| 25 灰褐色混粗砂粘性細砂 (地山) | |

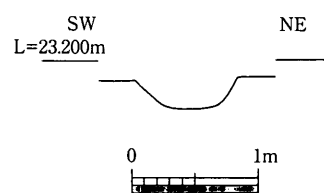
第56図 SD36, SD37, SD44断面図 (1/60)



第57図 SD39断面図 (1/60)



第58図 SD40断面図 (1/60)



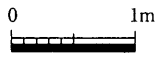
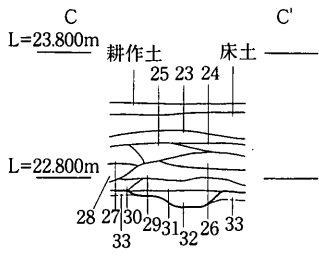
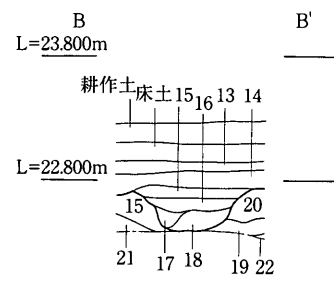
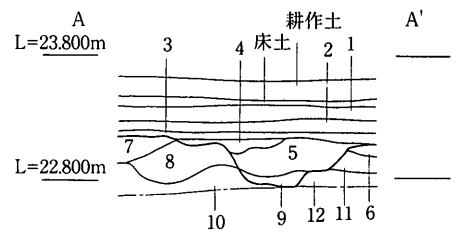
第59図 SD41断面図 (1/60)

- 1 黄灰褐色粘性細砂 (包含層)
- 2 明黄褐色粘性細砂 (包含層)
- 3 淡灰褐色粘性細砂 (包含層)
- 4 暗褐色粘性細砂 (SD42)
- 5 褐色混粗砂粘性細砂
(10層の炭化物を若干含む・SD42)
- 6 褐色混粗砂粘性細砂
(茶褐色粘性細砂のブロックを若干含む)
- 7 淡灰茶褐色粘性細砂 (SD41)
- 8 淡灰褐色粘性細砂 (SRO3)
- 9 灰色混粗砂粘性細砂 (SD42)
- 10 濁黄灰褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 11 暗褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 12 濁黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (地山)
- 13 明黄褐色粘性細砂 (包含層)
- 14 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 15 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)
- 16 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)
- 17 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)
- 18 茶灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)
- 19 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 20 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 21 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 22 黑褐色混粗砂粘質土 (包含層)
- 23 黄灰茶色混粗砂粘性細砂 (包含層)

X139.200

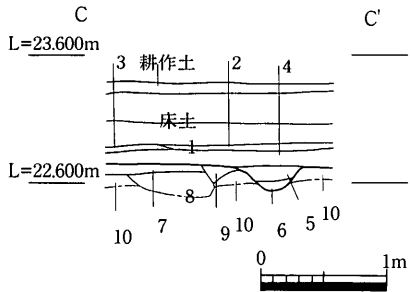
X139.200

X139.200

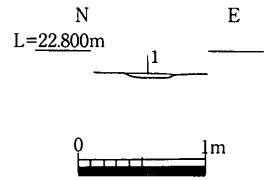


- 24 淡茶灰色混粗砂極細砂
(5~10mmのMg粒を多く含む・包含層)
- 25 灰茶褐色混粗砂極細砂 (包含層)
- 26 灰黄褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 27 褐灰色混粗砂粘性細砂 (包含層)
- 28 灰褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 29 黄茶灰色粘性極細砂 (包含層)
- 30 暗茶灰色混粗砂粘性細砂 (包含層)
- 31 灰茶褐色混粗砂粘性細砂 (包含層)
- 32 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)
- 33 灰黄色混粗砂粘性細砂 (地山)

第60図 SD42断面図 (1/60)



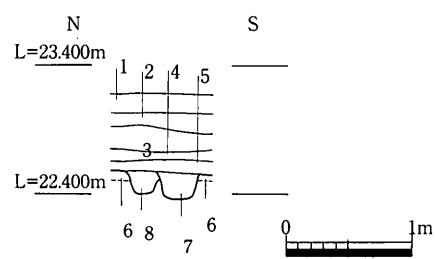
- 1 灰褐色混細砂粘性極細砂 (旧耕作土?)
- 2 灰褐色粘性極細砂 (包含層)
- 3 茶灰褐色粘性極細砂 (包含層)
- 4 黄茶灰色混細砂粘性細砂 (包含層)
- 5 灰黄白色細砂 (SD50)
- 6 灰色混細砂粘性極細砂 (SD50)
- 7 黄茶色混細砂粘性極細砂
- 8 褐色混粗砂粘性極細砂
- 9 褐灰色混粗砂粘性
- 10 黄茶褐色混粗砂粘性極細砂 (地山)



- 1 茶褐色混粗砂粘性細砂

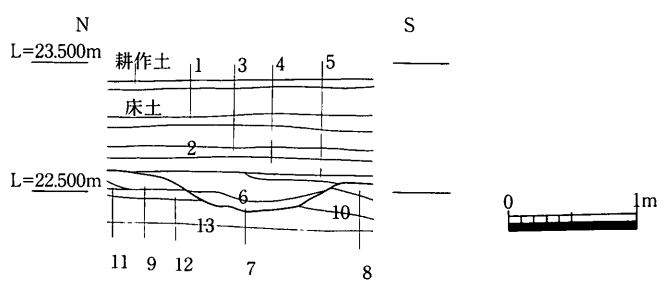
第62図 SD56断面図 (1/60)

第61図 SD50断面図 (1/60)



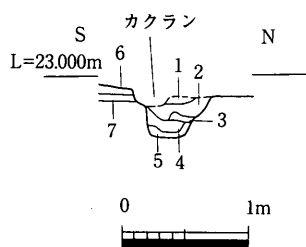
- 1 灰褐色混細砂粘性極細砂 (旧耕作土?)
- 2 灰黄褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 3 黄茶灰色粘性極細砂 (包含層)
- 4 明茶褐色混粗砂粘性細砂 (包含層)
- 5 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 6 濁黄茶褐色混粗砂粘性極細砂 (地山)
- 7 褐灰色混細砂粘性極細砂 (SD58)
- 8 暗褐色混細砂粘性極細砂 (SD59)

第63図 SD58, SD59断面図 (1/60)



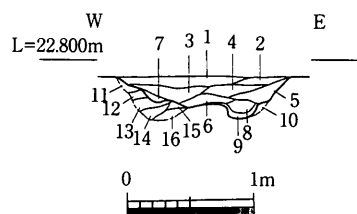
- 1 灰褐色混細砂粘性細砂 (旧耕作土)
- 2 灰黄褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 3 黄茶灰色粘性極細砂 (包含層)
- 4 明茶褐色混粗砂粘性細砂 (包含層)
- 5 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 6 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD60)
- 7 灰褐色混細砂粘性極細砂 (SD60)
- 8 暗褐色粘質土
- 9 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂
(粗砂を多く含む)
- 10 灰黄褐色混粗砂粘性極細砂
- 11 褐色混粗砂粘性極細砂
(粗砂を多く含む)
- 12 濁黄茶褐色混粗砂粘性極細砂
- 13 黄茶褐色混粗砂粘性細砂

第64図 SD60断面図 (1/60)



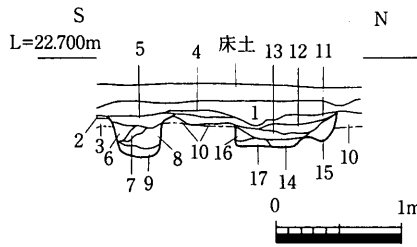
- 1 灰黄色混粗砂細砂
- 2 灰色混粗砂粘性極細砂
(黄褐色粘性極細砂の小ブロックを若干含む)
- 3 黄灰白色混粗砂粘性極細砂
- 4 灰黄色粘性細砂
- 5 暗灰色粘質土
- 6 暗茶褐色灰色混粗砂粘性極細砂 (地山)
- 7 濁灰黄色混粗砂粘性極細砂 (地山)

第65図 SD63断面図 (1/60)



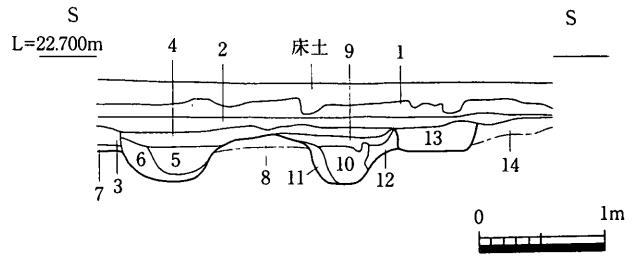
- 1 茶褐色灰色混細砂粘性極細砂
- 2 褐灰色混細砂粘性極細砂
- 3 灰褐色粘性細砂
- 4 茶灰色粘性細砂
- 5 暗灰褐色混細砂粘性極細砂
- 6 灰色混粗砂粘性細砂
- 7 暗灰色粘性極細砂
- 8 暗茶褐色混細砂粘質土
- 9 暗黄茶灰色混粗砂粘質土
- 10 暗黄茶褐色混粗砂 (地山)
- 11 暗褐色混細砂粘質土 (地山)
- 12 灰白色細砂 (地山)
- 13 暗茶褐色粘質土 (地山)
- 14 暗灰色混粗砂粘質土 (地山)
- 15 暗褐色灰色混粗砂粘質土 (地山)
- 16 暗褐色黄色混粗砂粘質土 (地山)

第66図 SD68断面図 (1/60)



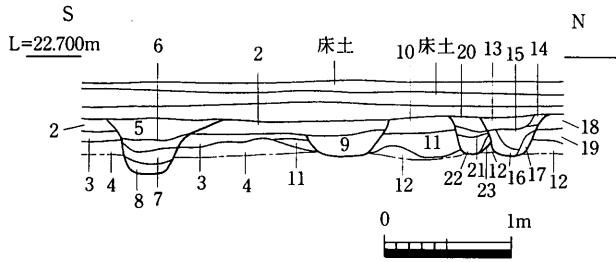
- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 灰色粘土 | 10 明黄白色混粗砂粘性細砂 (地山) |
| 2 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 11 暗灰黄茶色混粗砂粘性細砂 |
| 3 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 12 黑褐色混粗砂粘性細砂 |
| 4 灰黄色粘質土 | 13 灰黄白色混粗砂細砂 |
| 5 灰黄茶色混粗砂粘性細砂 | 14 暗灰色混粗砂粘性細砂 |
| 6 暗黄茶色混粗砂粘性細砂 | 15 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 |
| 7 褐黄灰色混粗砂粘性細砂 | 16 暗黄灰色混粗砂粘性細砂 |
| 8 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 17 灰色粗砂 |
| 9 暗灰色混粗砂粘性極細砂 | |

第67图 SD69, SD70断面图 (1/60)



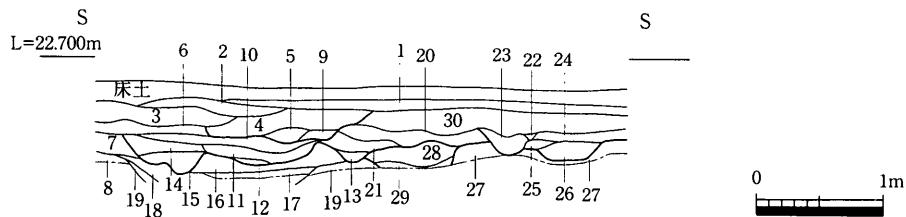
- | | |
|---------------|----------------|
| 1 灰色粘土 | 8 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 2 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 | 9 黑褐色粘質土 |
| 3 黄茶褐色粗砂 | 10 暗茶灰色粘質土 |
| 4 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 11 暗灰色混粗砂粘性細砂 |
| 5 褐灰色混粗砂粘性細砂 | 12 灰白色粗砂 |
| 6 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 | 13 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 7 黑褐色混粗砂粘性細砂 | 14 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |

第68图 SD71, SD75, SD94断面图 (1/60)



- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黄灰色混粗砂 | 13 茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 2 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 | 14 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 3 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 15 茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 4 灰黄白色混粗砂細砂 | 16 暗灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 5 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 17 褐灰色混粗砂粘性細砂 |
| 6 褐灰色混粗砂粘性細砂 | 18 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 7 暗褐灰色混粗砂粘性細砂 | 19 黄茶褐色粗砂 |
| 8 暗灰色粘性細砂 | 20 黄茶褐色粗砂粘性細砂 |
| 9 褐色混粗砂粘性細砂 | 21 暗灰黄色粗砂粘性細砂 |
| 10 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 22 暗茶灰色粗砂粘性細砂 |
| 11 灰色混粗砂粘性細砂 | 23 灰色細砂 |
| 12 黄茶灰色混粗砂粘性極細砂 | |

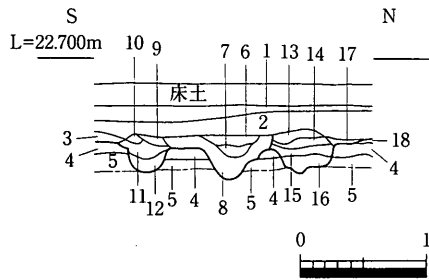
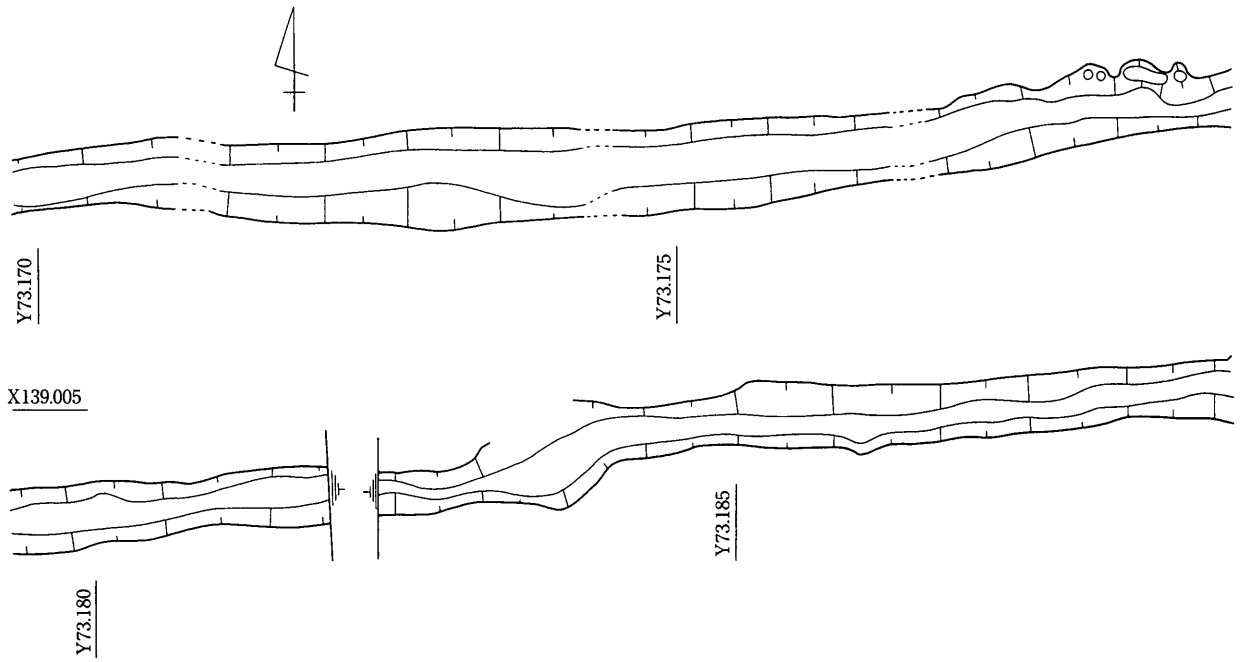
第69图 SD72, SD78, SD83, SD96断面图 (1/60)



- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1 黄灰色混粗砂粘性細砂 | 11 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 21 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 2 濁灰黄褐色混粗砂粘性細砂 | 12 暗褐色混粗砂粘性細砂 | 22 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 3 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 13 灰色粘性細砂 | 23 茶灰色混粗砂粘性細砂 |
| 4 暗灰黄褐色混粗砂粘性細砂 | 14 黄灰色混粗砂粘性細砂 | 24 茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 5 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 15 褐色混粗砂粘性細砂 | 25 暗茶色混粗砂粘性細砂 |
| 6 茶灰褐色混粗砂粘性細砂 | 16 灰褐色混粗砂粘性細砂 | 26 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 7 茶灰色混粗砂粘性細砂 | 17 黄白色粗砂 | 27 灰黄白色混粗砂 |
| 8 灰黄色混粗砂粘性細砂 | 18 暗灰色粘質土 | 28 暗褐色混粗砂粘性細砂 |
| 9 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 | 19 暗灰黄色粘性極細砂 | 29 濁灰黄色混粗砂粘性細砂 |
| 10 明黄茶色混粗砂粘性細砂 | 20 茶褐色混粗砂粘性細砂 | 30 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 |

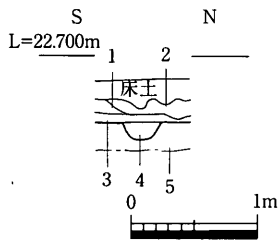
第70图 SD73, SD77, SD89, SD98断面图 (1/60)

X139.005



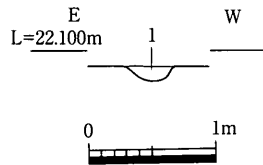
- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 灰黄褐色粘性细砂 | 10 灰色混粗砂粘性细砂 |
| 2 灰黄色混粗砂 | 11 灰褐色混粗砂粘性极细砂 |
| 3 茶灰褐色混粗砂粘性细砂 | 12 灰黄色混粗砂粘性极细砂 |
| 4 茶褐色混粗砂粘性极细砂 | 13 黄茶灰色混粗砂粘性细砂 |
| 5 淡黄灰色粘性极细砂 | 14 黄茶褐色混粗砂粘性细砂 |
| 6 褐黄色混粗砂粘性细砂 | 15 茶褐色混粗砂粘性细砂 |
| 7 褐灰色混粗砂粘性细砂 | 16 灰茶褐色混粗砂粘性极细砂 |
| 8 灰黄色混粗砂粘性细砂 | 17 淡灰黄色粗砂 |
| 9 黄茶褐色混粗砂粘性细砂 | 18 茶褐灰色混粗砂粘性细砂 |

第71图 SD76平·断面图 (1/60), SD86断面图 (1/60)



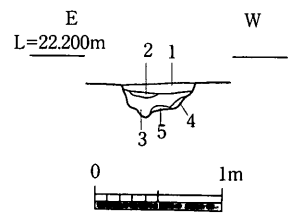
- 1 黄灰色混粗砂粘性细砂
- 2 灰色粘土
- 3 黄茶褐灰色混粗砂粘性细砂
- 4 褐灰色混粗砂粘性细砂
- 5 黄茶褐色粗砂

第72图 SD79断面图 (1/60)



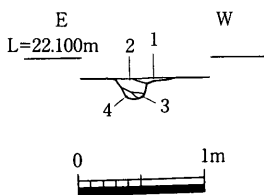
- 1 黄茶褐色混粗砂粘性细砂

第73图 SD80断面图 (1/60)



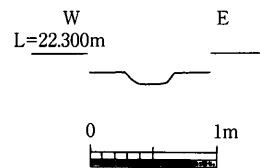
- 1 茶褐色混粗砂粘性细砂
- 2 灰褐色混粗砂粘性细砂
- 3 暗灰褐色混粗砂粘性细砂
- 4 褐黄灰色混粗砂粘性细砂
- 5 灰黄褐色混粗砂粘性细砂

第74图 SD82断面图 (1/60)

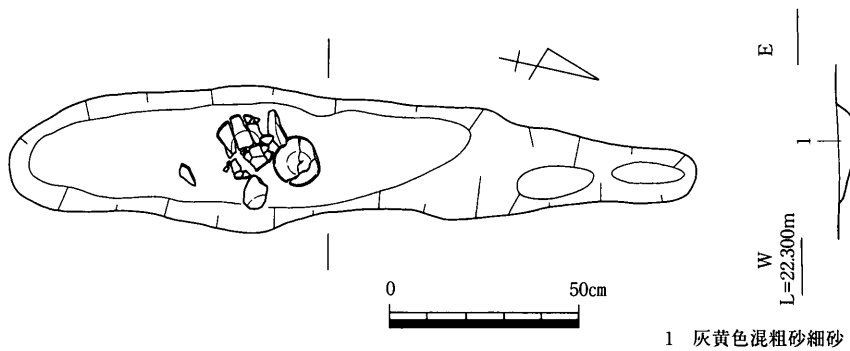


- 1 褐灰色粘性细砂
- 2 暗褐灰色粘性细砂
- 3 灰色细砂
- 4 暗灰色粘性细砂

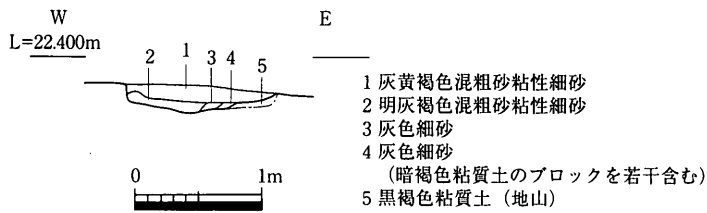
第75图 SD84断面图 (1/60)



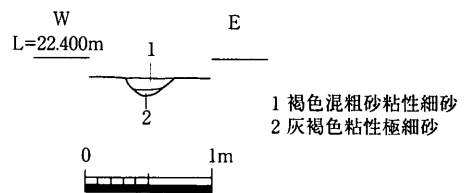
第76图 SD93断面图 (1/60)



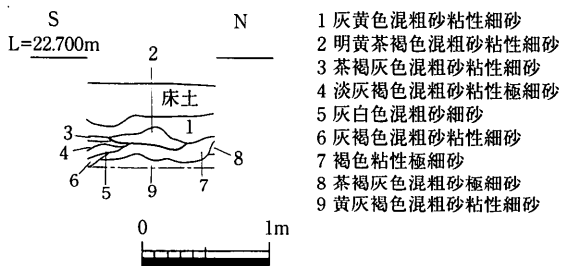
第77図 SD99平・断面図 (1/20)



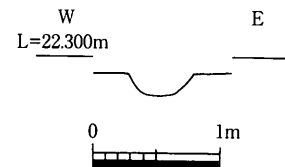
第78図 SD103断面図 (1/60)



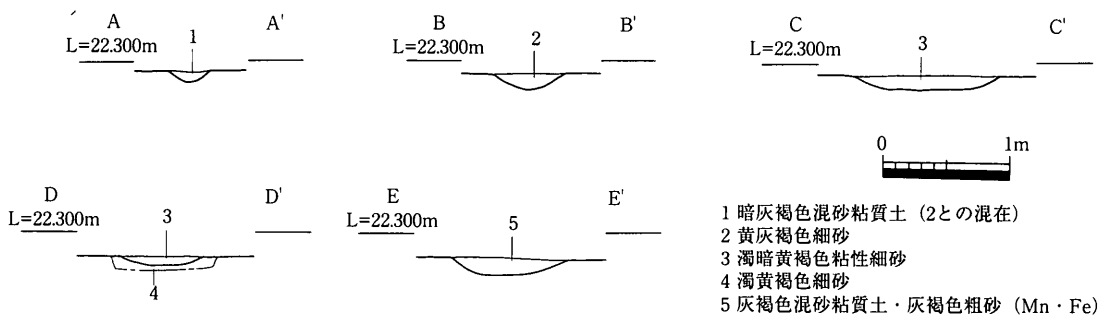
第79図 SD104断面図 (1/60)



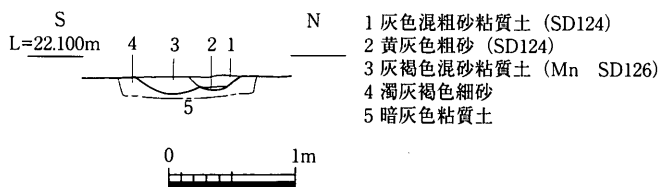
第80図 SD113断面図 (1/60)



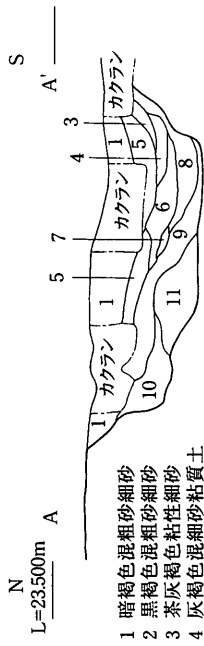
第81図 SD115断面図 (1/60)



第82図 SD119断面図 (1/60)

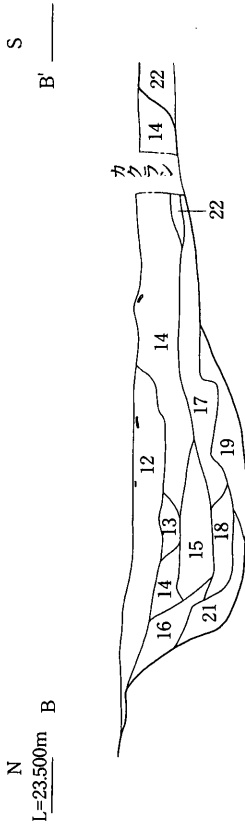


第83図 SD124, SD126断面図 (1/60)

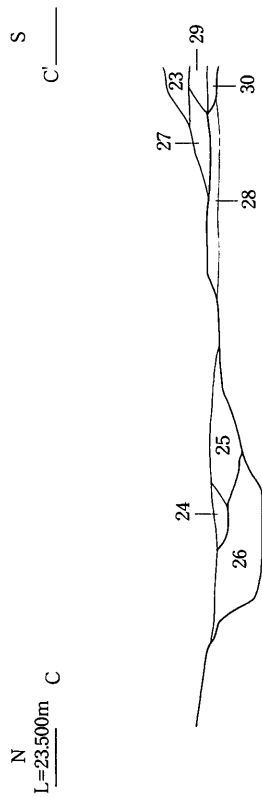


- 1 暗褐色混粗砂細砂
- 2 黒褐色混粗砂細砂
- 3 茶灰褐色粘性細砂
- 4 灰褐色混粗砂粘質土
- 5 暗灰色粘性細砂
- 6 黒灰色粘質土
- 7 暗灰色粘性細砂
- 8 灰褐色粗砂
- 9 黒色混粗砂粘質土
- 10 灰褐色粗砂 (褐色粘質土ブロックを若干含む)
- 11 茶褐色粗砂 (黒色粘質土ブロックを若干含む)
- 12 褐色混粗砂粘性極細砂
- 13 灰褐色混粗砂粘性極細砂
- 14 暗茶褐色混粗砂粘性極細砂
- 15 黒褐色混粗砂粘質土
- 16 濁黄灰褐色混粗砂粘性極細砂 (褐色土のブロックを多く含む)
- 17 褐色混粗砂粘性極細砂
- 18 黒色混粗砂粘質土
- 19 灰黄色混粗砂粘性細砂
- 20 灰褐色粘性極細砂
- 21 茶褐色細砂
- 22 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (包含層)
- 23 黄茶灰色粘性極細砂
- 24 淡灰褐色混粗砂粘性細砂 (SD63)
- 25 淡灰褐色混粗砂粘性細砂 (黄褐色混粗砂粘性細砂地山ブロックを若干含む SD63)
- 26 灰色混粗砂粘性細砂 (黄褐色混粗砂粘性細砂地山ブロックを若干含む)
- 27 底部に暗灰色粘質土が堆積する所あり)
- 28 濁黄灰色混粗砂粘性細砂
- 29 灰茶褐色混粗砂粘性細砂
- 30 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (SD42)

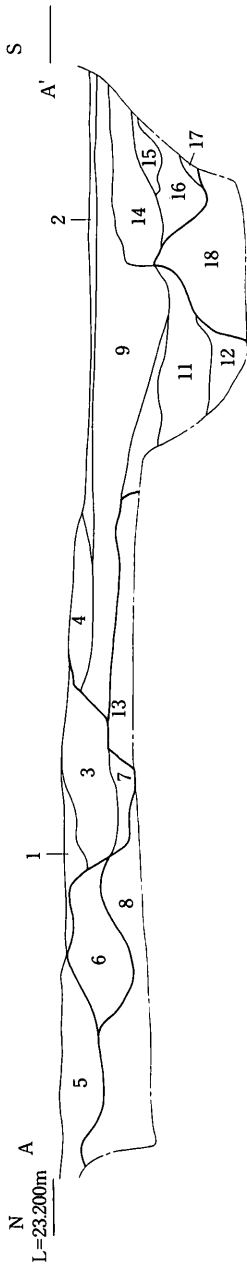
X=139.020



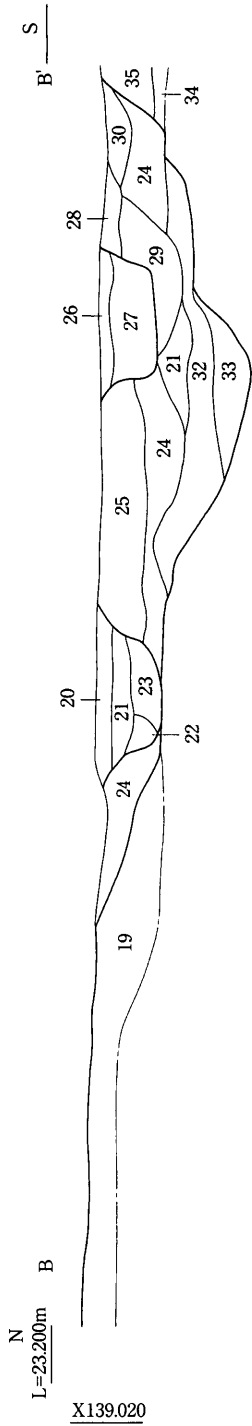
X=139.020



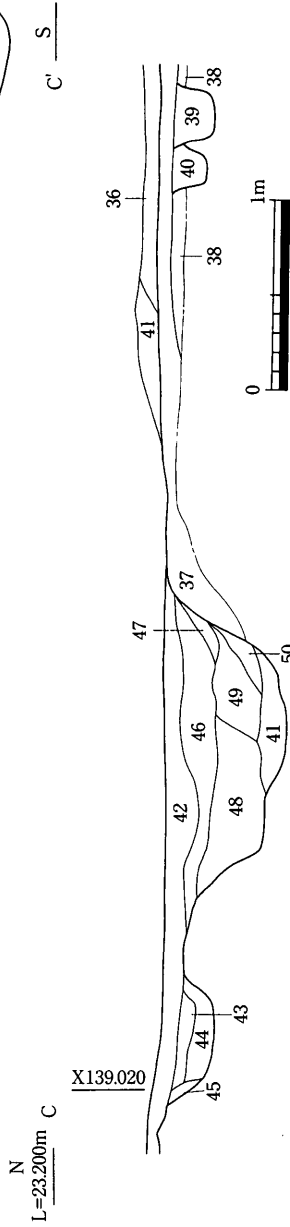
第84図 SR01断面図 (1/40)



X139.020



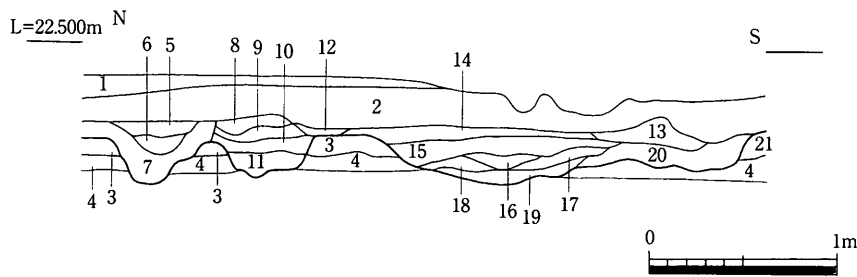
X139.020



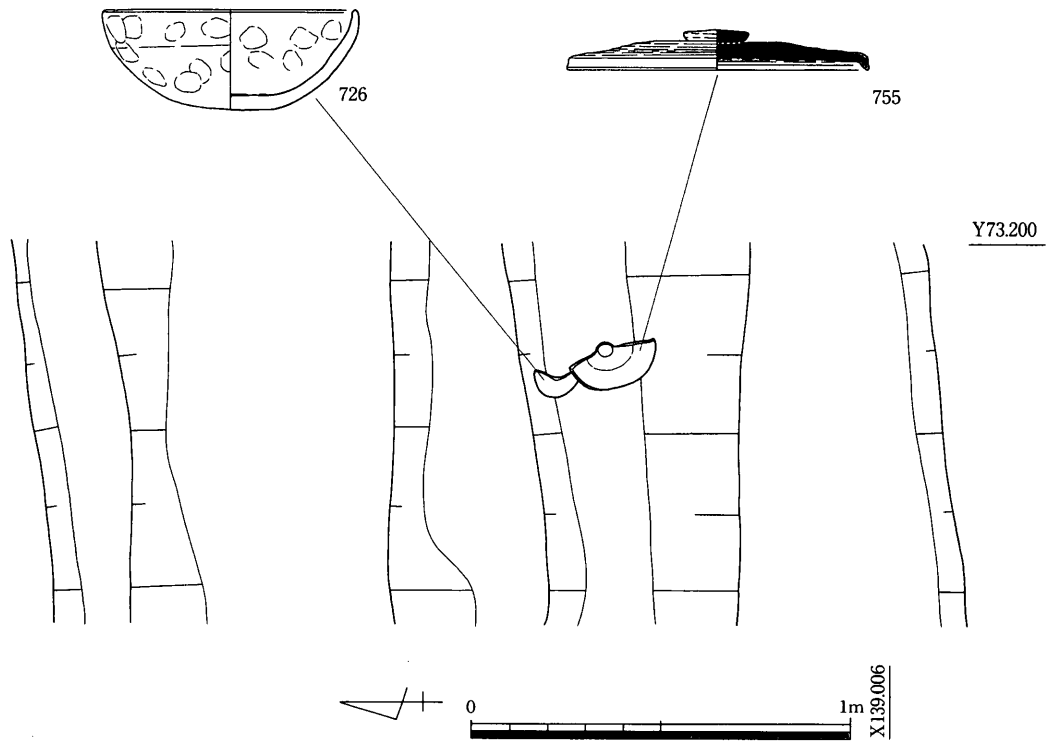
X139.020

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------|-----------------------------------|--|
| 1 暗褐色粘質細砂 (SD42) | 14 暗茶褐色粘質細砂 (SR03) | 29 灰茶褐色混粗砂粘質極細砂 (SR03) | 42 茶褐色粘質細砂 (SR03) |
| 2 淡灰褐色粘質細砂 (SR03) | 15 暗黄茶褐色粘質細砂 (SR03) | 30 灰色混粗砂粘質極細砂 (SR03) | 43 褐色粘質細砂 (SR03) |
| 3 褐色混粗砂粘質細砂 (10mmの炭化物を若干含む SD42) | 16 濁茶灰褐色粘質細砂 (SR03) | 31 暗灰褐色混粗砂粘質極細砂 (SR03) | 44 灰色粘質細砂 (SR03) |
| 4 褐色混粗砂粘質細砂 (茶褐色粘質細砂アロックを若干含むSR03) | 17 淡灰黄白色細砂 (SR03) | 32 黒褐色混粗砂粘質土 (SR03) | 45 暗灰色粘質細砂 (SR03) |
| 5 淡灰茶褐色粘質細砂 (SR03) | 18 濁黄灰褐色混粗砂粘質細砂 (地山) | 33 黒褐色粘質土 (暗褐色極細砂をラミナ状に包含する・SR03) | 46 灰色粘質細砂 (SR03) |
| 6 淡灰褐色粘質細砂 (SD41) | 19 暗褐色混粗砂粘質極細砂 (地山) | 34 暗褐色混粗砂粘質土 (地山) | 47 暗灰茶色混粗砂粘質細砂 (SR03) |
| 7 灰色混粗砂粘質細砂 (SD42) | 20 暗褐色混粗砂粘質極細砂 (SD42) | 35 灰色粘質細砂 (地山) | 48 黒褐色粘質土 (黄褐色混粗砂粘質細砂アロックを多く含む SR03) |
| 8 濁黄灰褐色混粗砂粘質細砂 (地山) | 21 暗褐色混粗砂粘質極細砂 (SD42) | 36 明茶褐色混粗砂粘質細砂 (包含層) | 49 黒褐色粘質土 (黄褐色混粗砂粘質細砂アロックを若干含む SR03) |
| 9 暗褐色粘質細砂 (SR03) | 22 暗茶褐色混粗砂粘質極細砂 (SD42) | 37 褐色混粗砂粘質極細砂 (粗砂を多く含む 地山) | 50 暗灰色粘質土 (暗灰色粘質土アロックを若干含む SR03) |
| 10 黒灰褐色粘質極細砂 (SR03) | 23 茶褐色混粗砂粘質極細砂 (SR03) | 38 濁黄茶褐色混粗砂粘質極細砂 (地山) | 51 濁灰黄白色混粗砂粘質細砂 (黒灰色粘質土アロックを多く含む SR03) |
| 11 黒褐色粘質土 (SR03) | 24 灰褐色混粗砂粘質極細砂 (SR03) | 39 褐色混粗砂粘質極細砂 (SD58) | |
| 12 濁灰色粗砂 (SR03) | 25 灰色混粗砂粘質極細砂 (SD53) | 40 暗褐色混粗砂粘質極細砂 (SD59) | |
| 13 濁黄茶褐色混粗砂粘質細砂 (SR03) | 26 茶褐色混粗砂粘質極細砂 (SD53) | 41 茶褐色混粗砂粘質極細砂 (灰色粘質極細砂包含層) | |

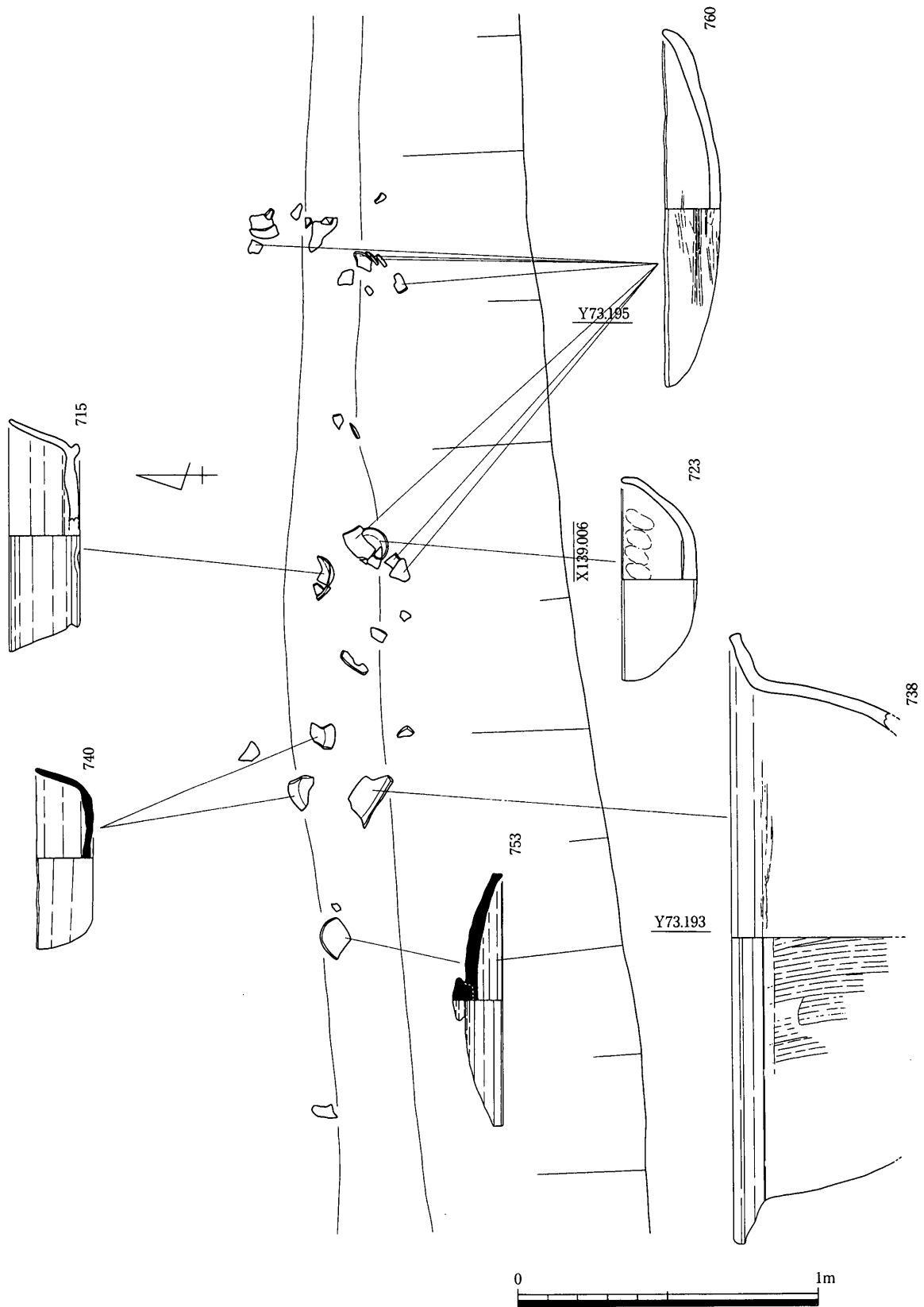
第85図 SR03断面図 (1/40)



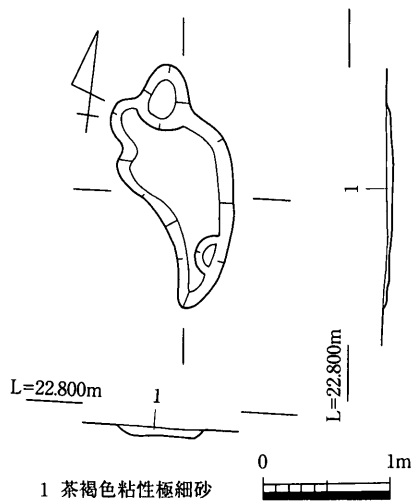
- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 灰黄褐色粘性細砂 (包含層) | 13 明黄茶褐色混粗砂粘性細砂 |
| 2 灰黄色混粗砂粘性細砂 (包含層) | 14 茶褐灰色混粗砂粘性細砂 (SR06) |
| 3 茶褐色混粗砂粘性極細砂 (地山) | 15 淡灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SR06) |
| 4 淡黄灰色粘性極細砂 (地山) | 16 淡黄灰褐色混粗砂粘性極細砂 (SR06) |
| 5 褐黄色混粗砂粘性細砂 (SD86) | 17 灰白色混粗砂細砂 (SR06) |
| 6 褐灰色混粗砂粘性細砂 (SD86) | 18 灰黄褐色混粗砂粘性細砂 (SR06) |
| 7 灰黄色混粗砂粘性細砂 (SD86) | 19 灰褐色混粗砂粘性細砂 (SR06) |
| 8 黄茶灰色混粗砂粘性細砂 (SD76) | 20 褐色粘性極細砂 |
| 9 黄茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD76) | (10層前後の暗黄褐色粘性極細砂ブロックを多く含む・SR06) |
| 10 茶褐色混粗砂粘性細砂 (SD76) | 21 茶褐灰色混粗砂粘性極細砂 |
| 11 灰茶褐色混粗砂粘性極細砂 (SD76) | (10層前後の暗黄褐色粘性極細砂ブロックを多く含む地山) |
| 12 淡灰黄色粗砂 (SD76) | |



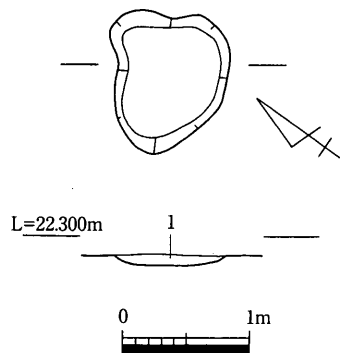
第86図 SR06断面図 (1/40), 平面図1 (1/20)



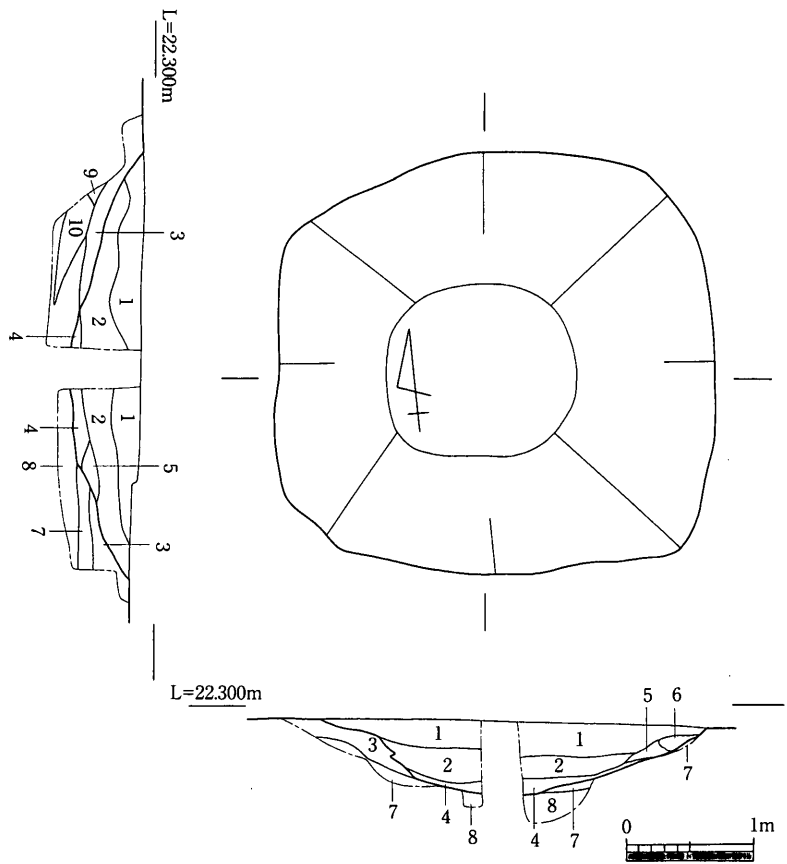
第87图 SR06平面图2 (1/20)



1 茶褐色粘性極細砂
第88図 SX01平・断面図 (1/60)

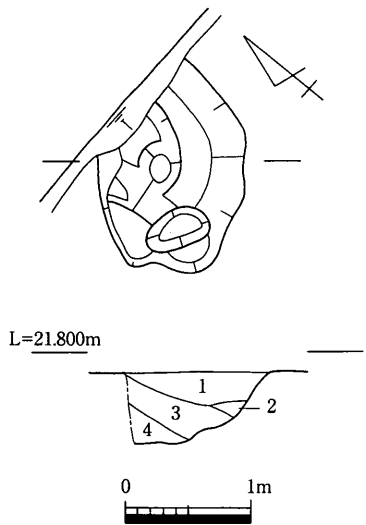


1 暗灰色混砂粘質土
第90図 SX06平・断面図 (1/60)



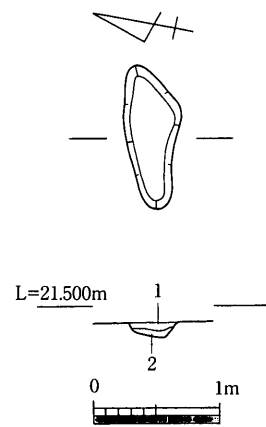
- 1 濁灰茶褐色砂質土 (同色粘質土, 黒灰色粘質土ブロック混じり)
- 2 濁灰茶褐色砂質土 (1よりやや褐色が強く粘質土が1より勝っている)
- 3 灰褐色砂質土
- 4 褐灰色混砂粘質土
- 5 淡灰色混砂粘質土
- 6 黒灰色粘質土 (9がブロック状に入ったもの)
- 7 灰褐色細砂 (Fe)
- 8 灰色粘質土 (Fe)
- 9 黒灰色粘質土
- 10 暗灰褐色粗砂

第89図 SX05平・断面図 (1/60)



第91図 SX09平・断面図 (1/60)

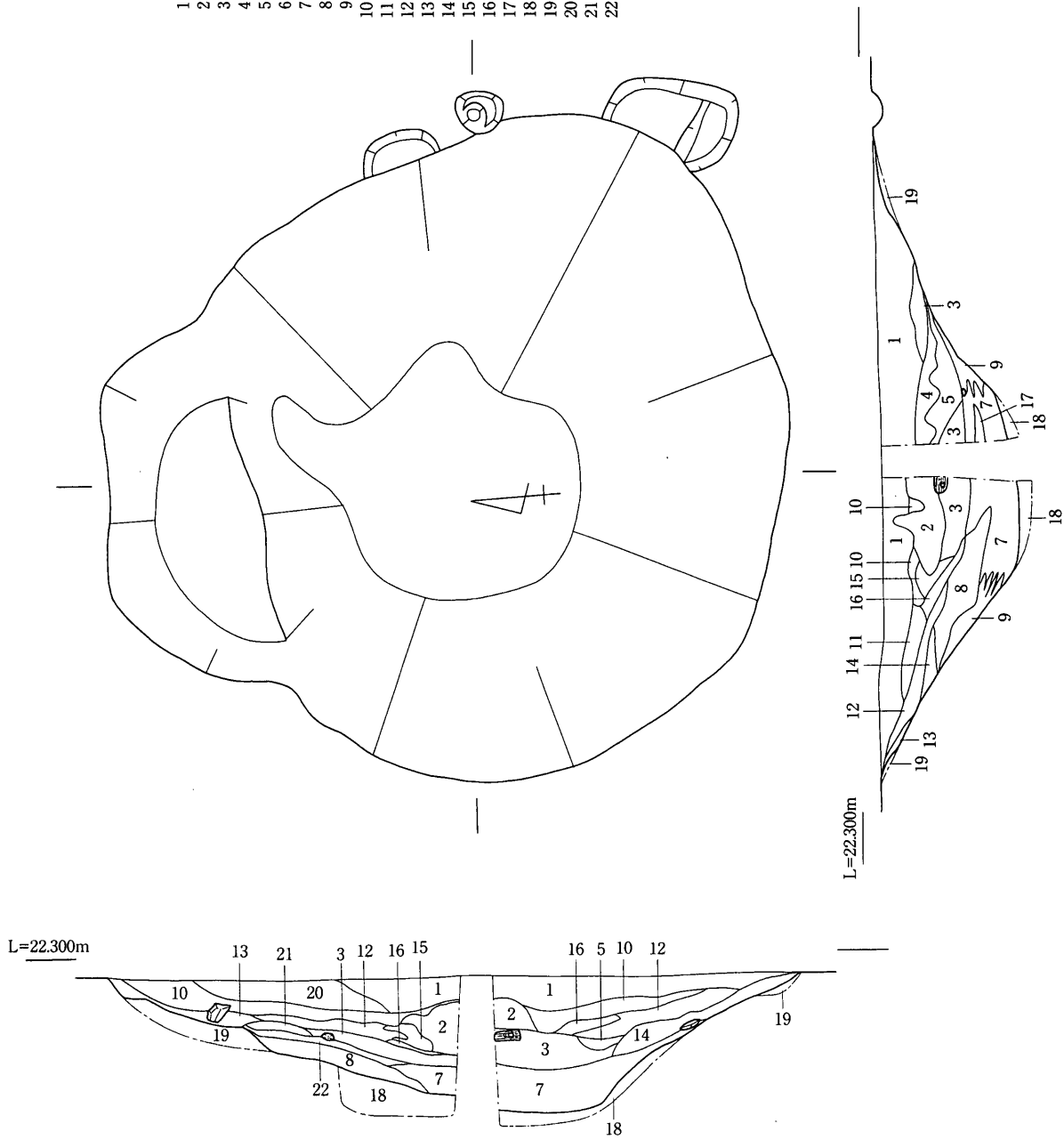
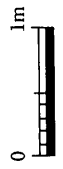
- 1 濁暗灰色混粗砂粘性極細砂 (橙褐色・黄灰色・黒褐色の混砂粘性極細砂のブロックを多く含む)
- 2 暗褐色混粗砂粘性極細砂 (橙褐色混砂粘性極細砂のブロックを多く含む)
- 3 橙褐色混粗砂粘性極細砂 (暗灰色・黒褐色の混砂粘性極細砂のブロックを多く含む)
- 4 暗灰褐色混粗砂粘性極細砂



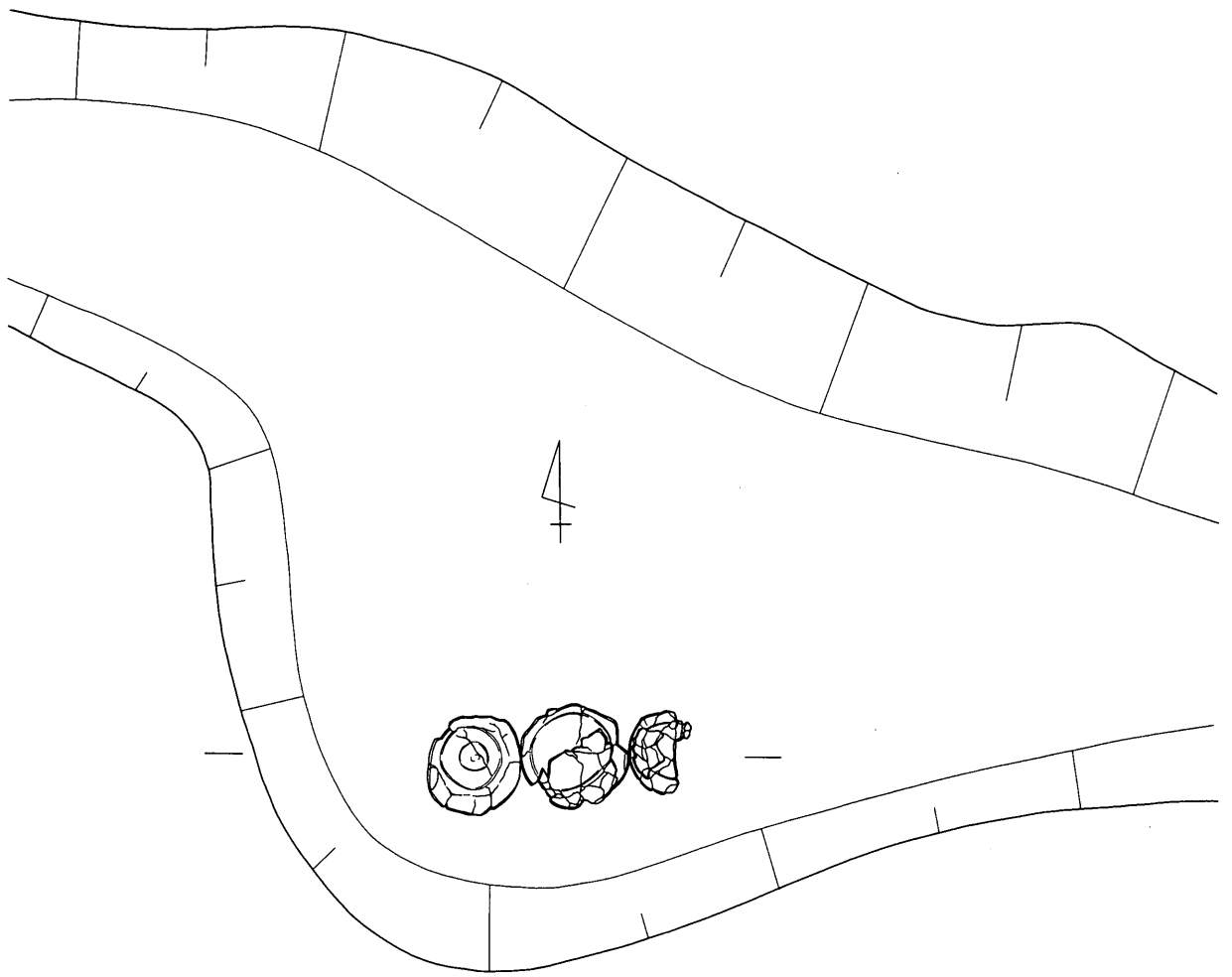
第92図 SX10平・断面図 (1/60)

- 1 暗灰褐色混粗砂粘性極細砂
- 2 茶灰褐色粘性極細砂

- 1 濁灰色砂質土 (Mn・Fe)
- 2 灰色混砂粘質土
- 3 暗灰色混砂粘質土
- 4 濁灰褐色砂質土 (Fe・Mn・炭化物粒)
- 5 濁褐色砂質土 (Fe)
- 6 灰茶褐色砂質土 (Fe)
- 7 黒灰色粘質土
- 8 暗灰色混砂粘質土
- 9 淡灰色混砂粘質土
- 10 灰褐色シルト (Fe)
- 11 濁灰褐色砂質土 (Mn・Fe・やや粘質気味)
- 12 濁灰褐色混砂粘質土 (Fe・Mn)
- 13 濁灰褐色細砂質土
- 14 灰色粘性極細砂 (Fe・Mn)
- 15 濁灰色混砂粘質土 (Fe・Mn)
- 16 灰黄褐色混砂粘質土 (Fe・Mn)
- 17 灰褐色砂質土
- 18 暗灰色粘質土 (下層流路?)
- 19 灰褐色砂質土 (Fe・Mn)
- 20 淡灰色砂質土
- 21 黄灰色砂質土
- 22 黄灰褐色砂質土 (Mn・Fe)



第93図 SX04平・断面図 (1/60)



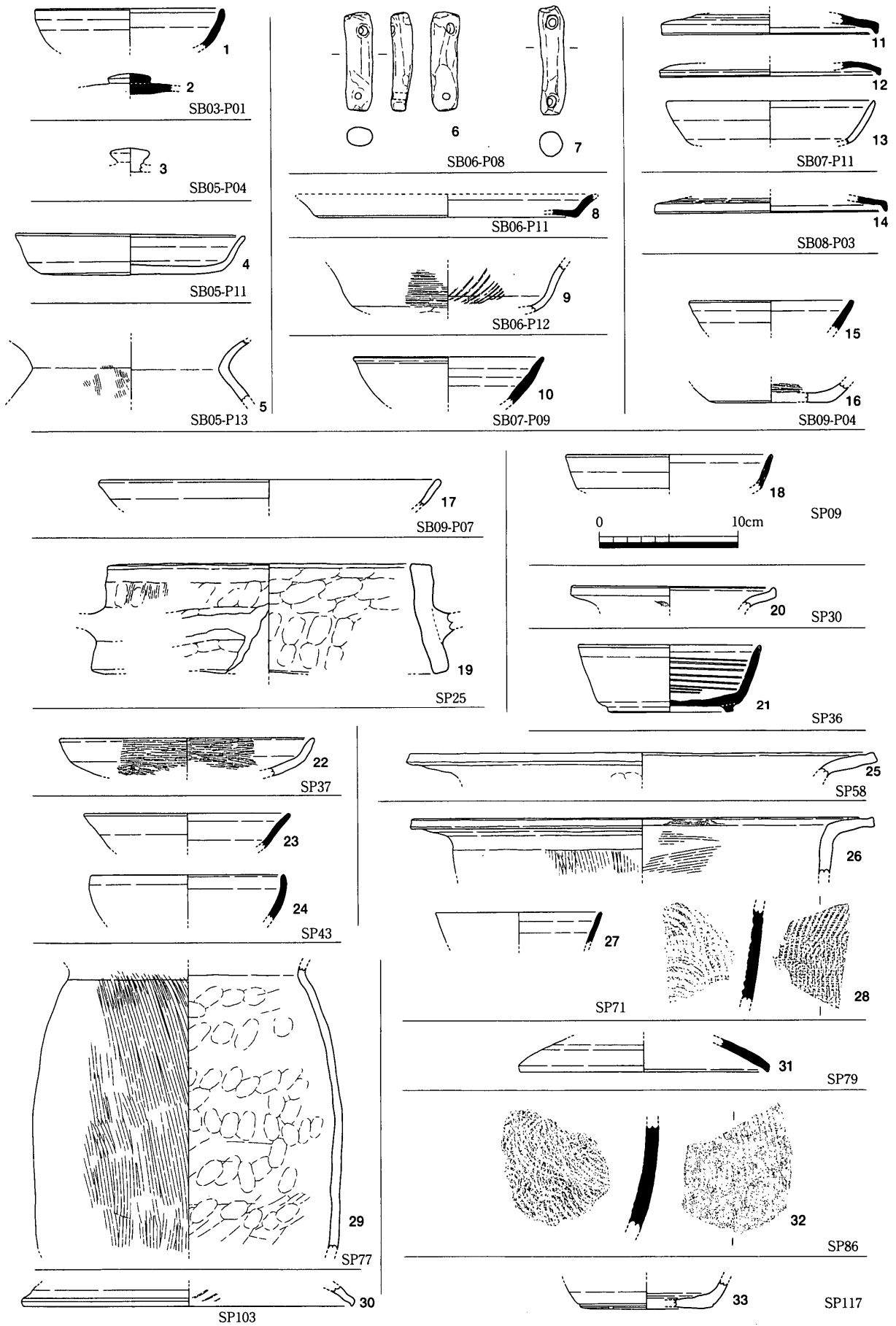
L=22.250m



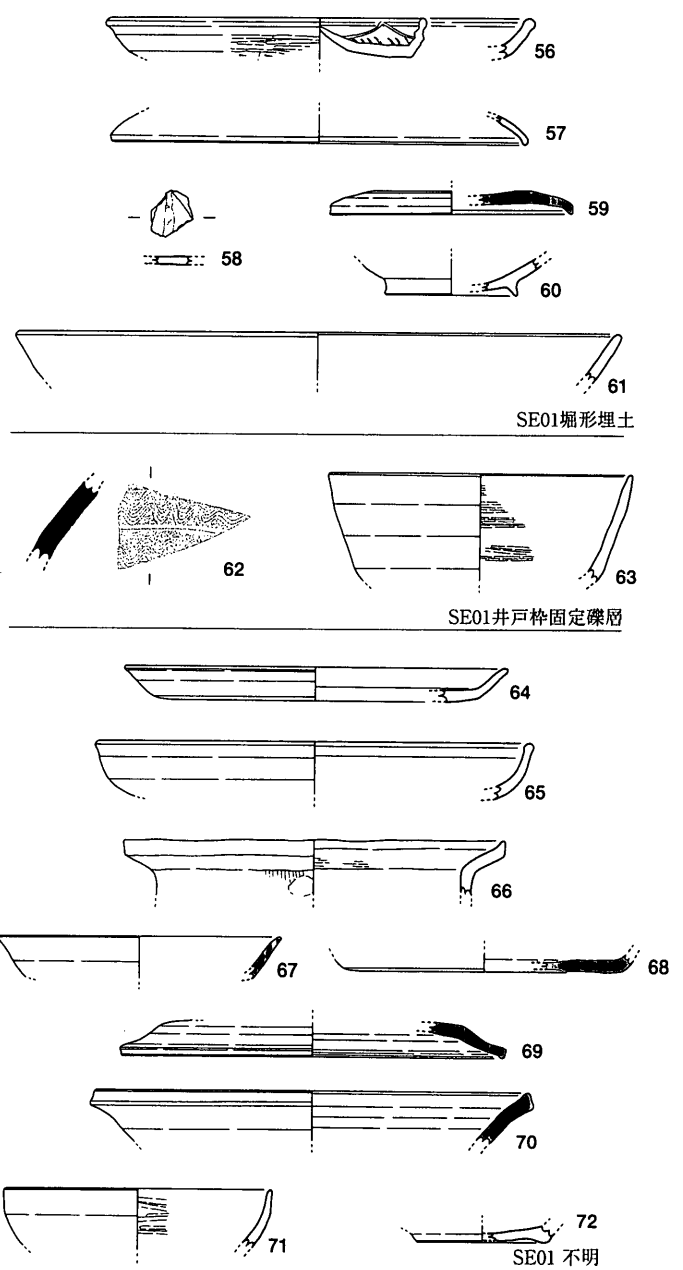
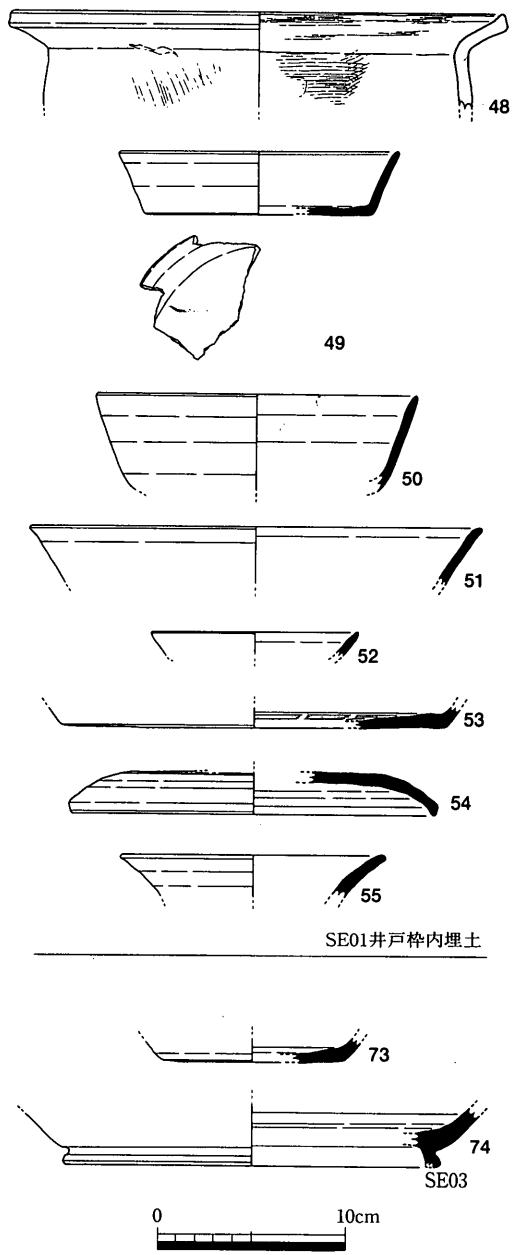
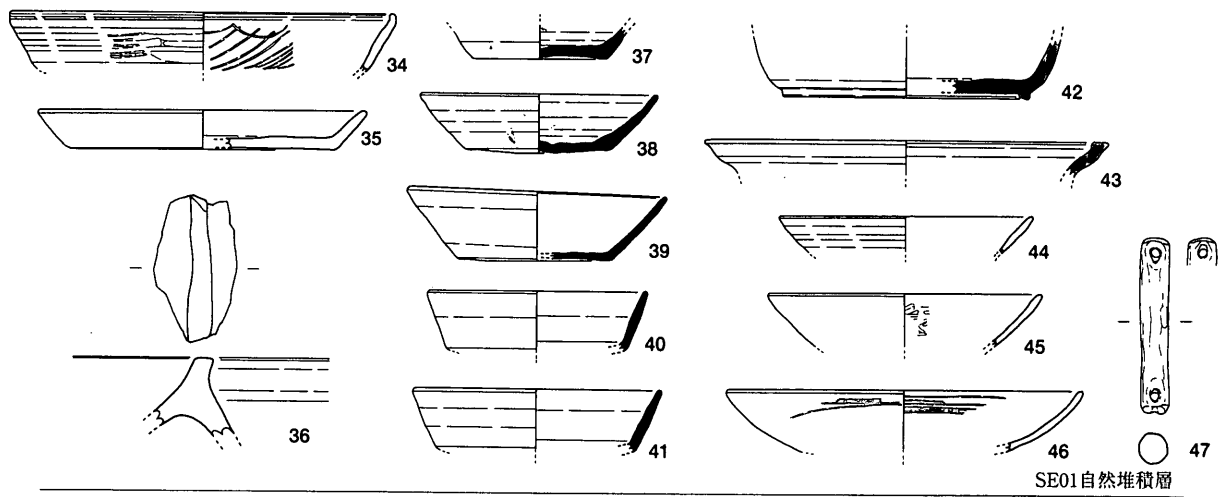
L=22.250m



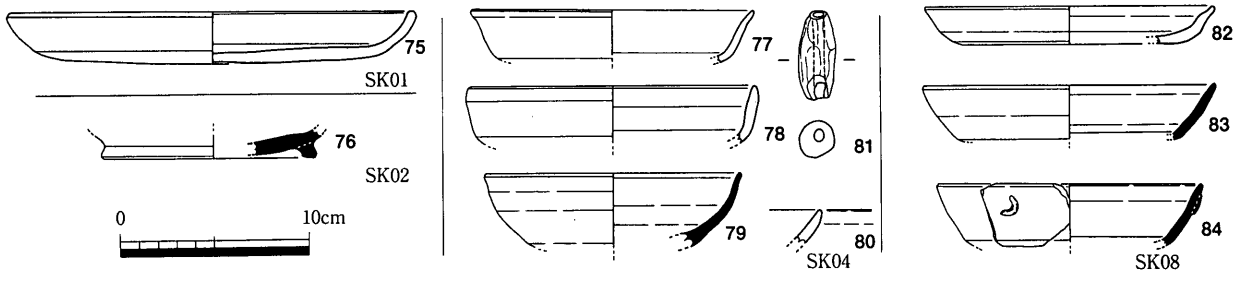
第94図 SX07遺物出土状況 (1/10)



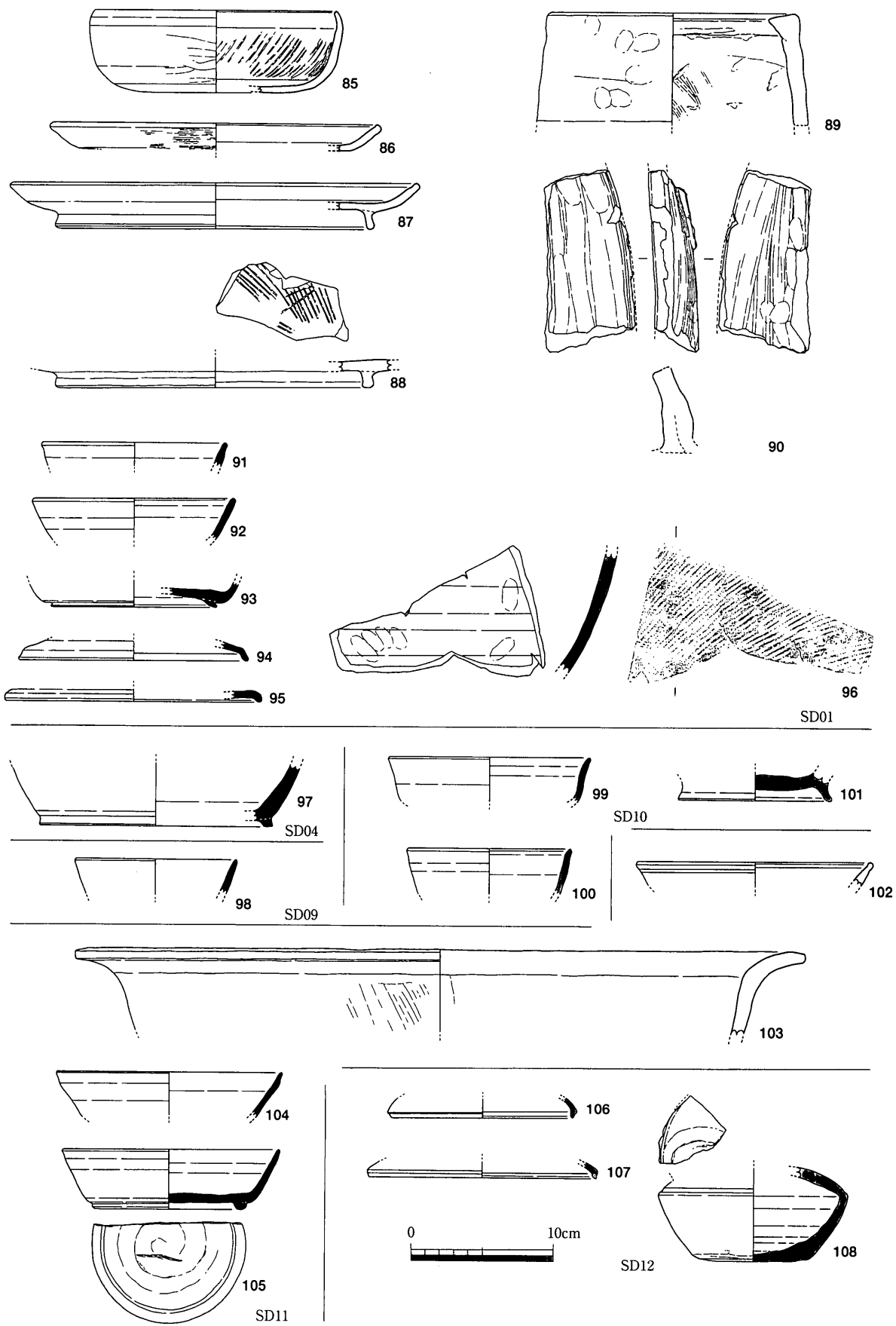
第95図 SB・SP出土遺物



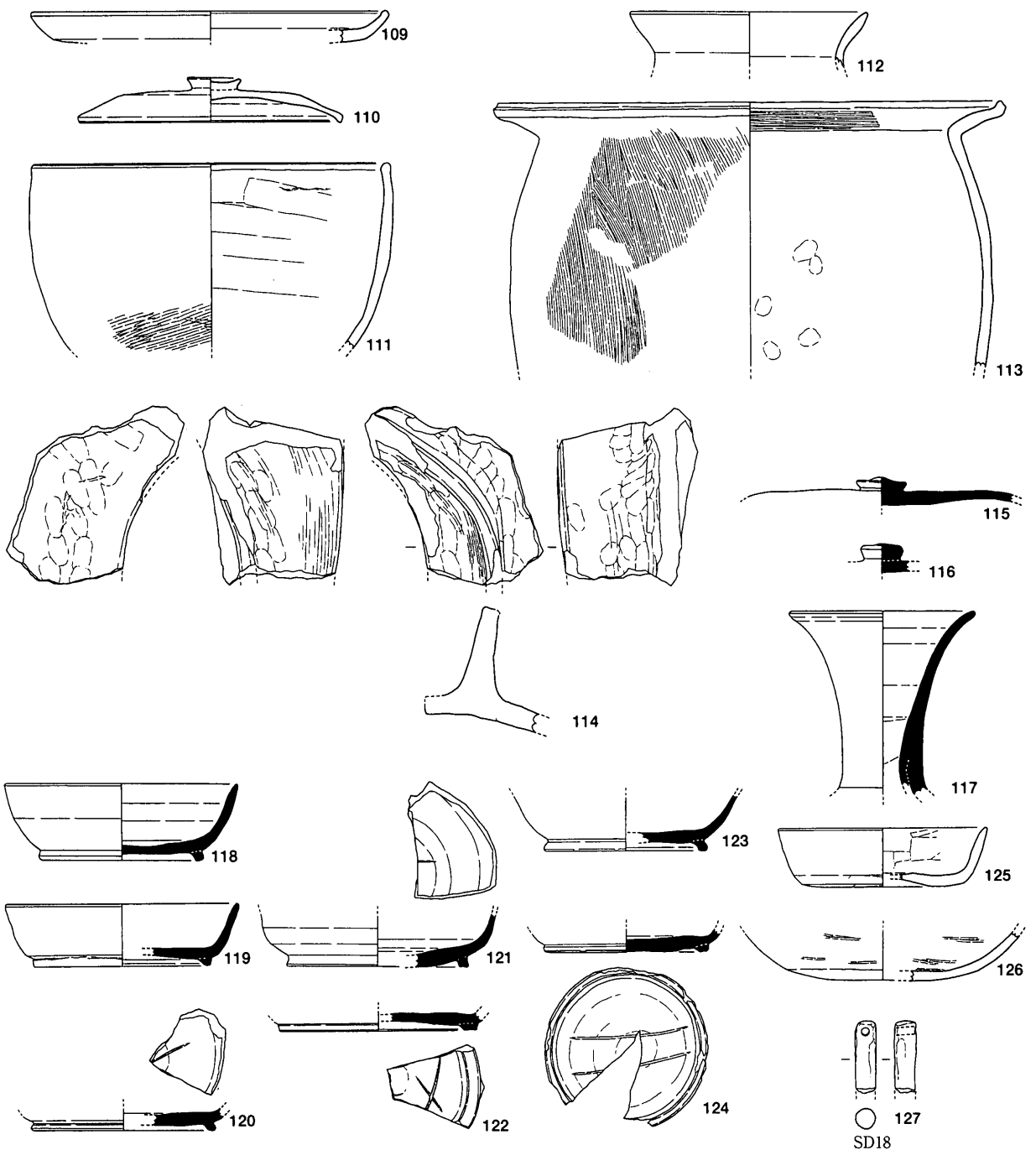
第96図 SE01・SE03出土遺物



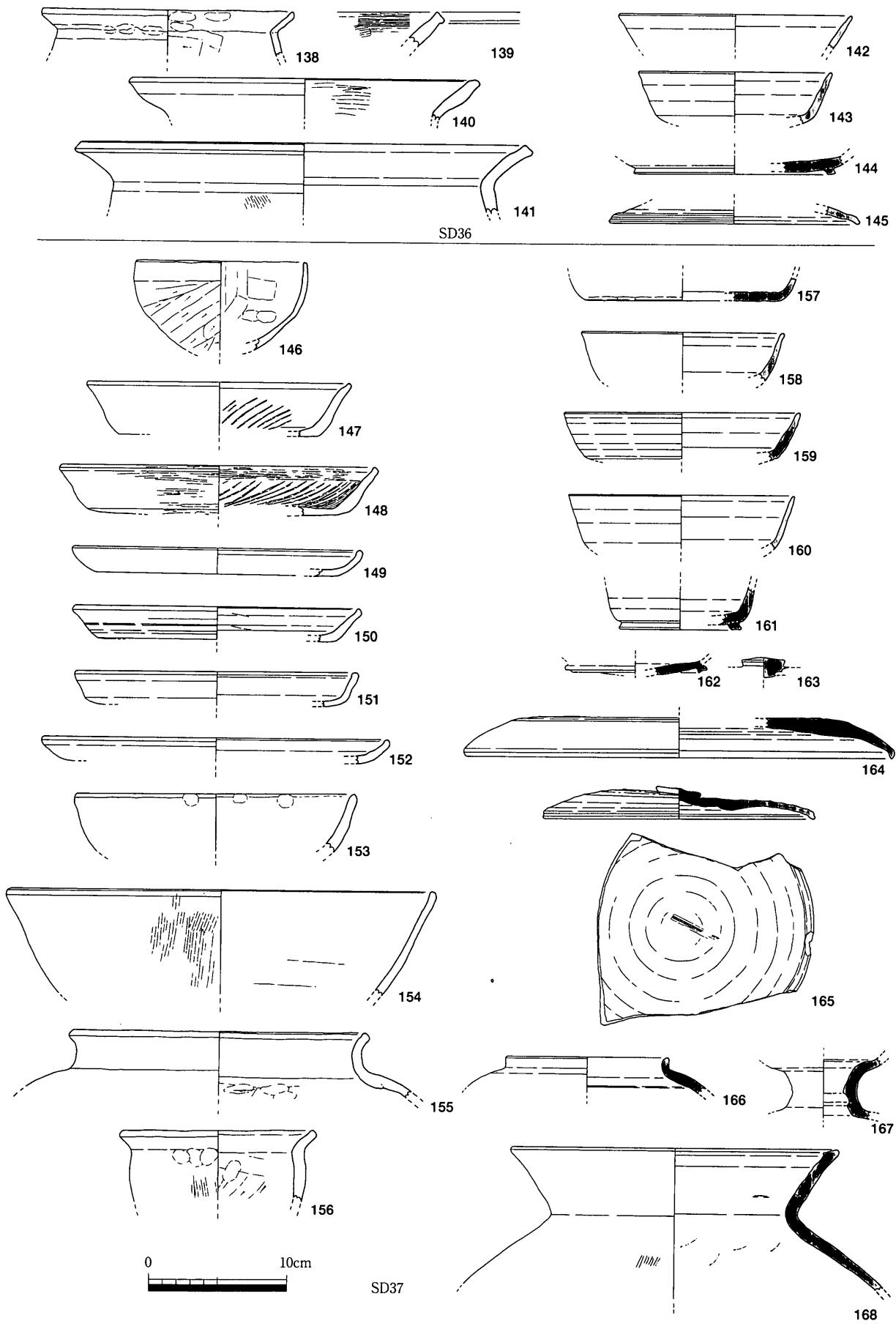
第97図 SK01・02・04・08出土遺物



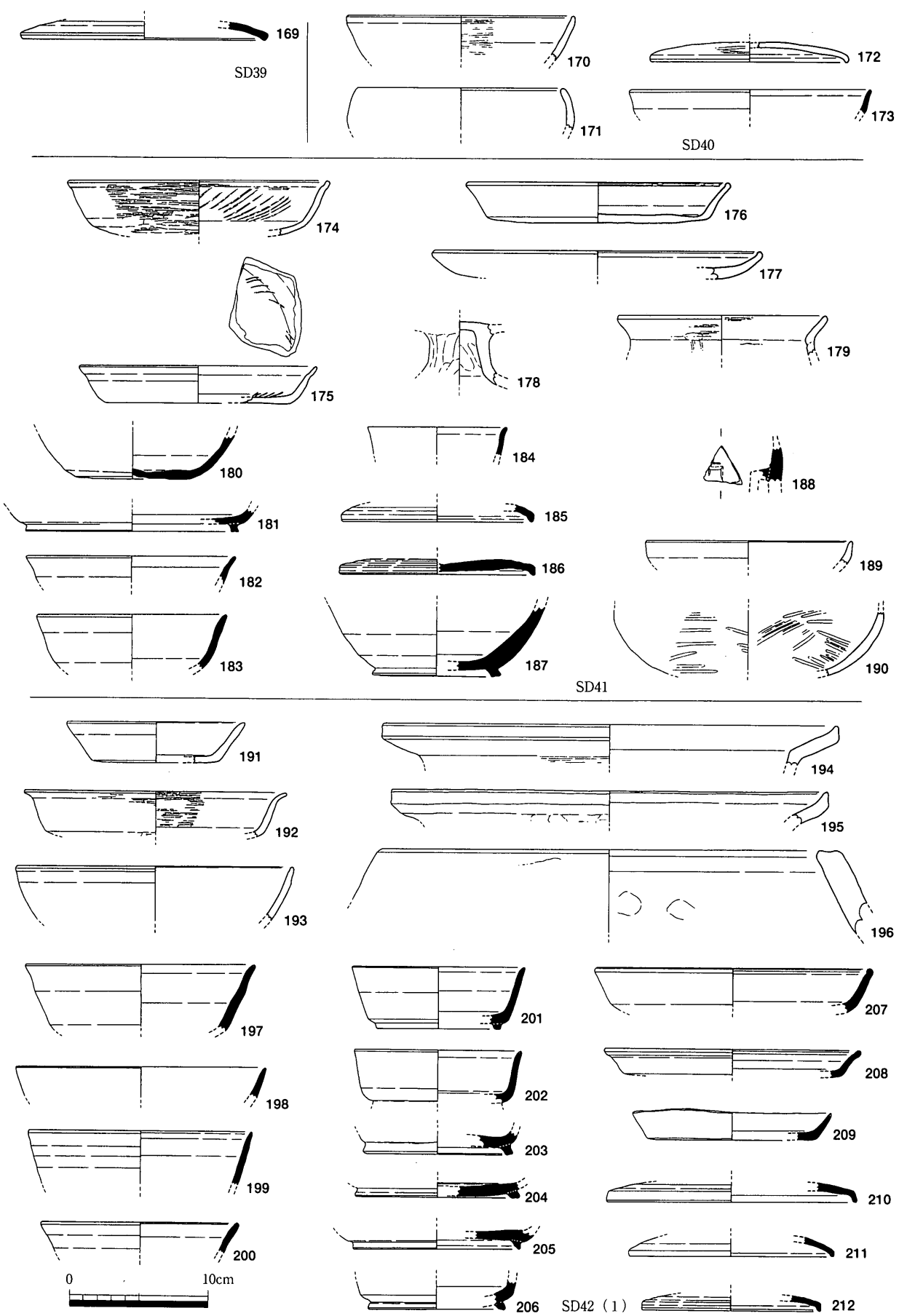
第98図 SD01・04・09・10・11・12出土遺物



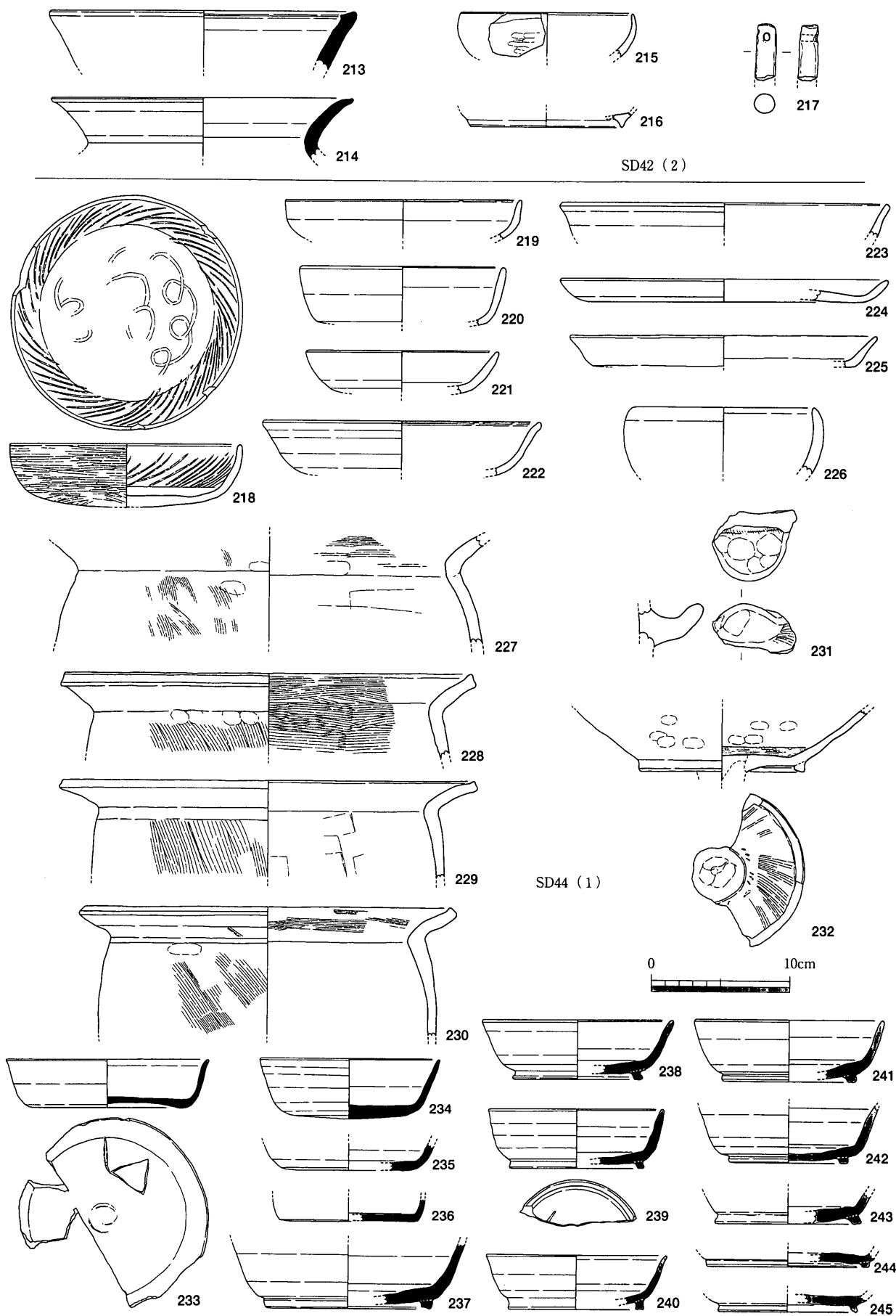
第99圖 SD18・20・30・31出土遺物



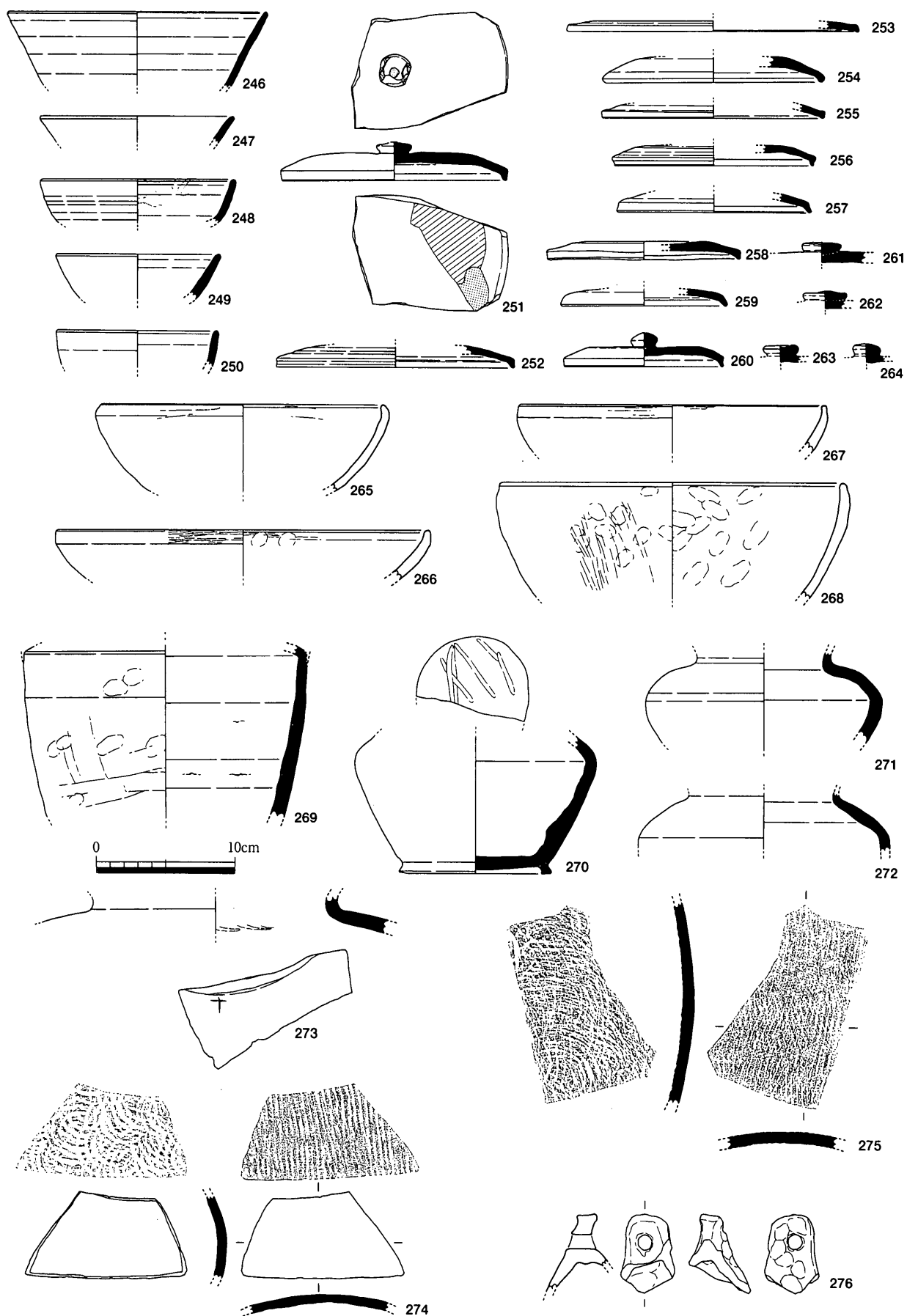
第100図 SD36・37出土遺物



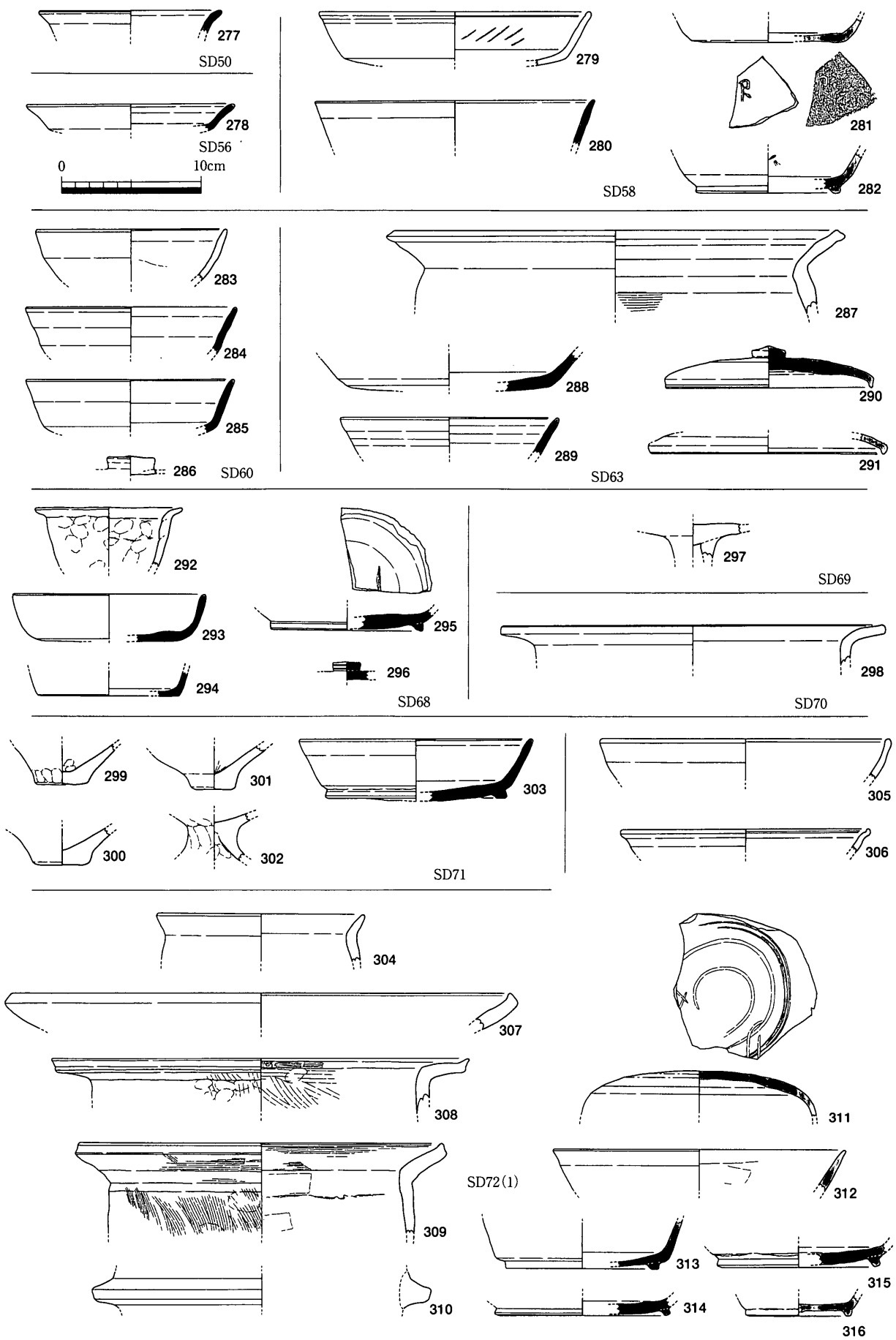
第101図 SD39~41, 42 (1) 出土遺物



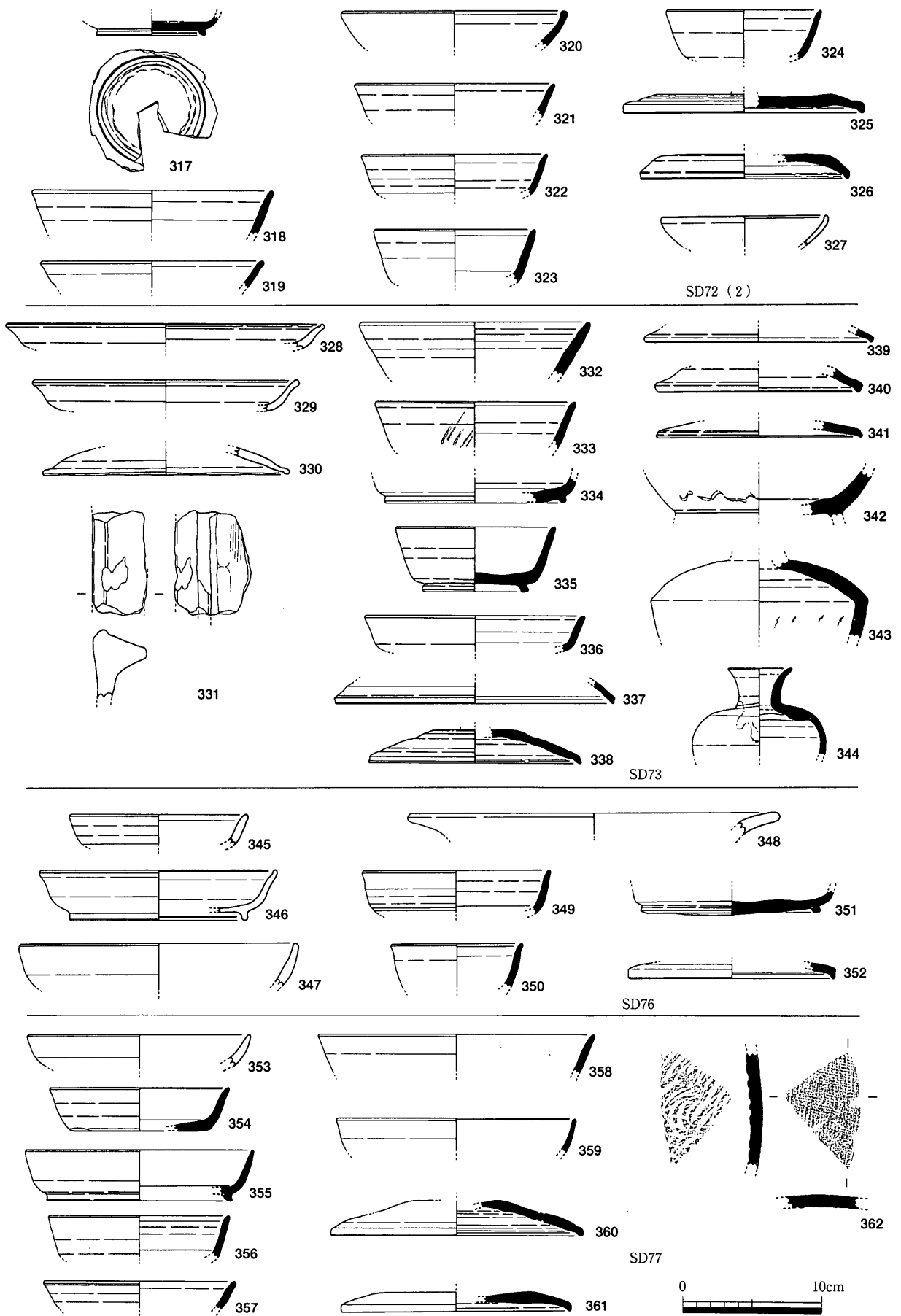
第102図 SD42 (2) · SD44 (1) 出土遺物



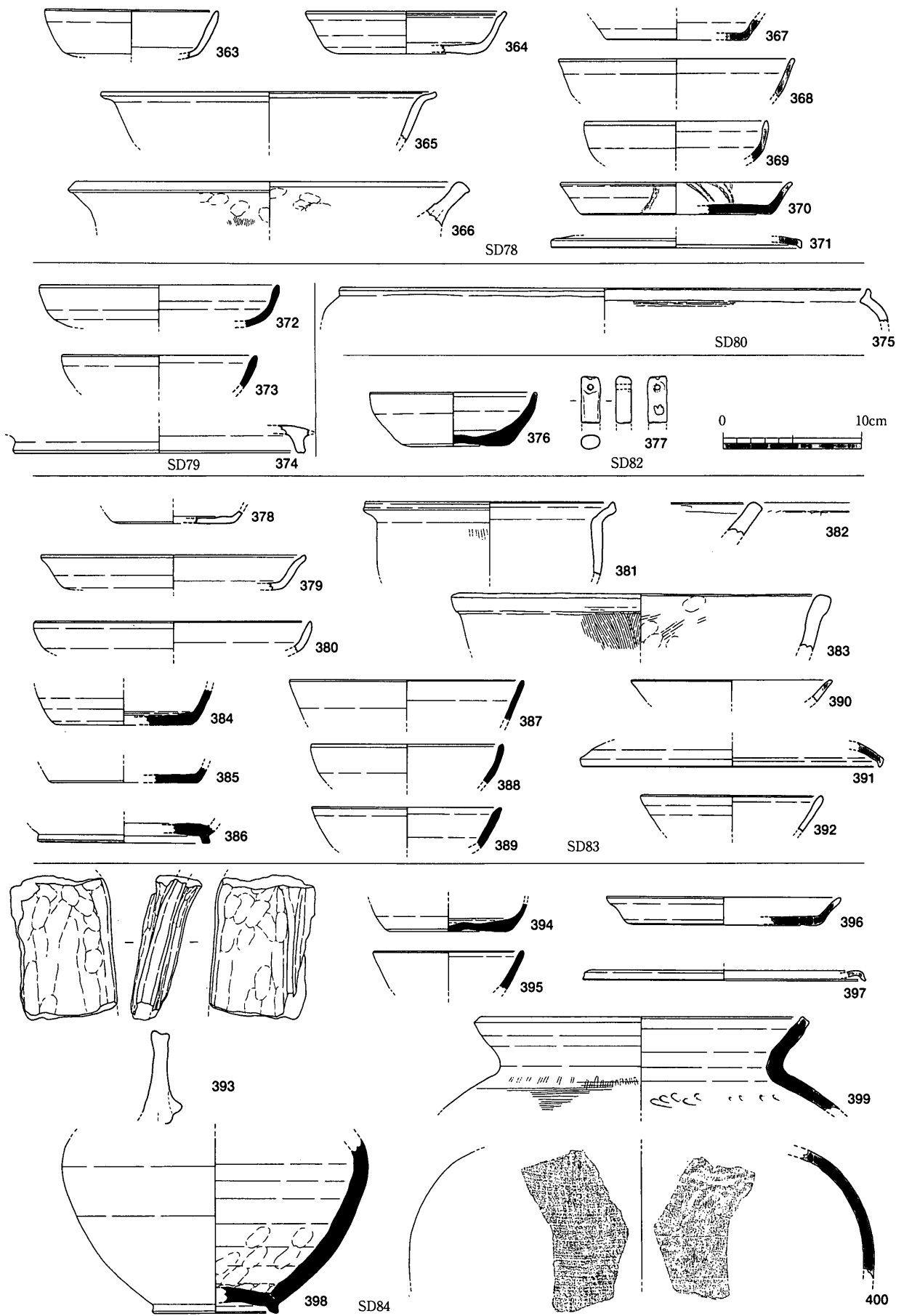
第103图 SD44 (2) 出土遺物



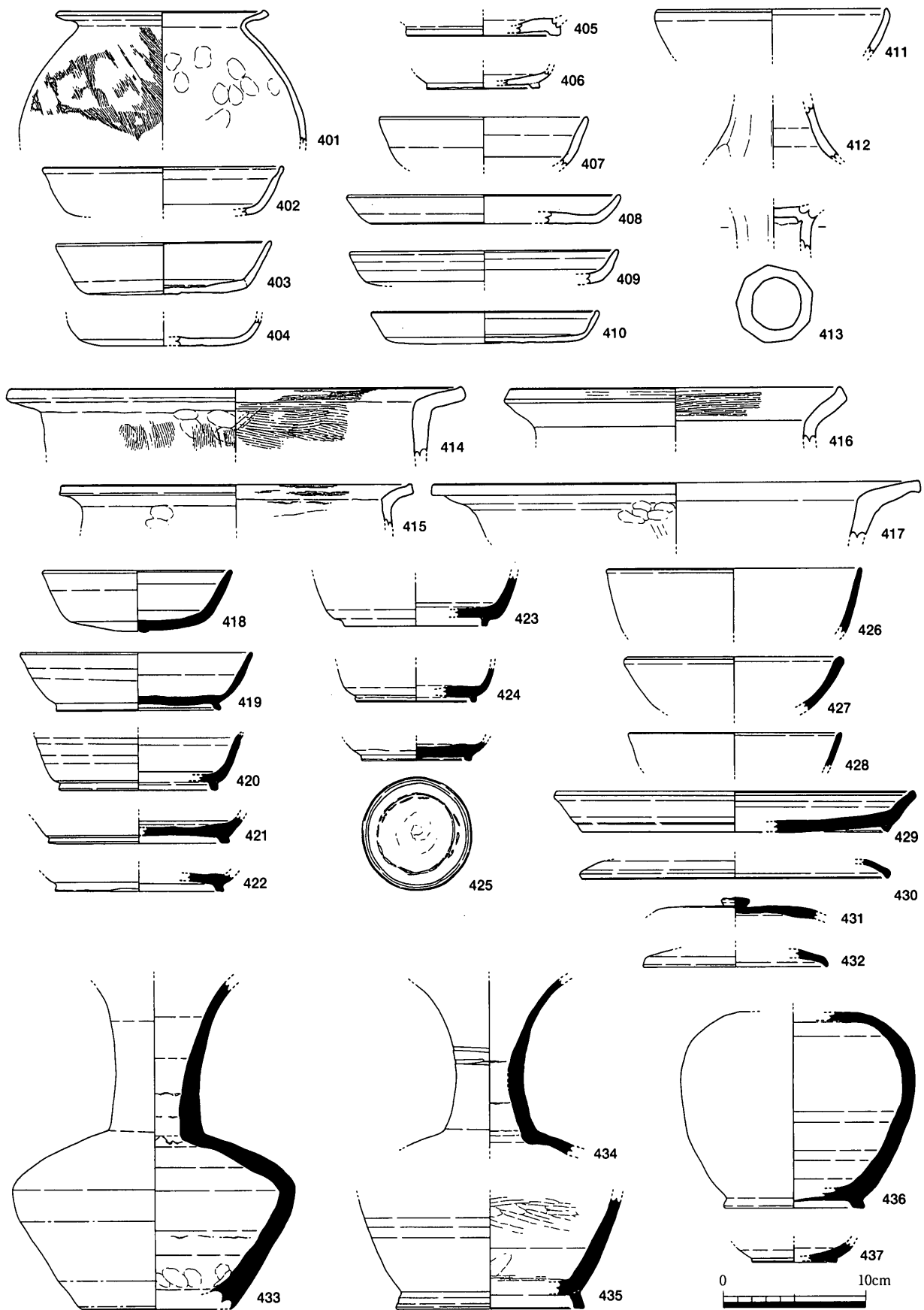
第104図 SD50・56・58・60・63・68～71, 72(1) 出土遺物



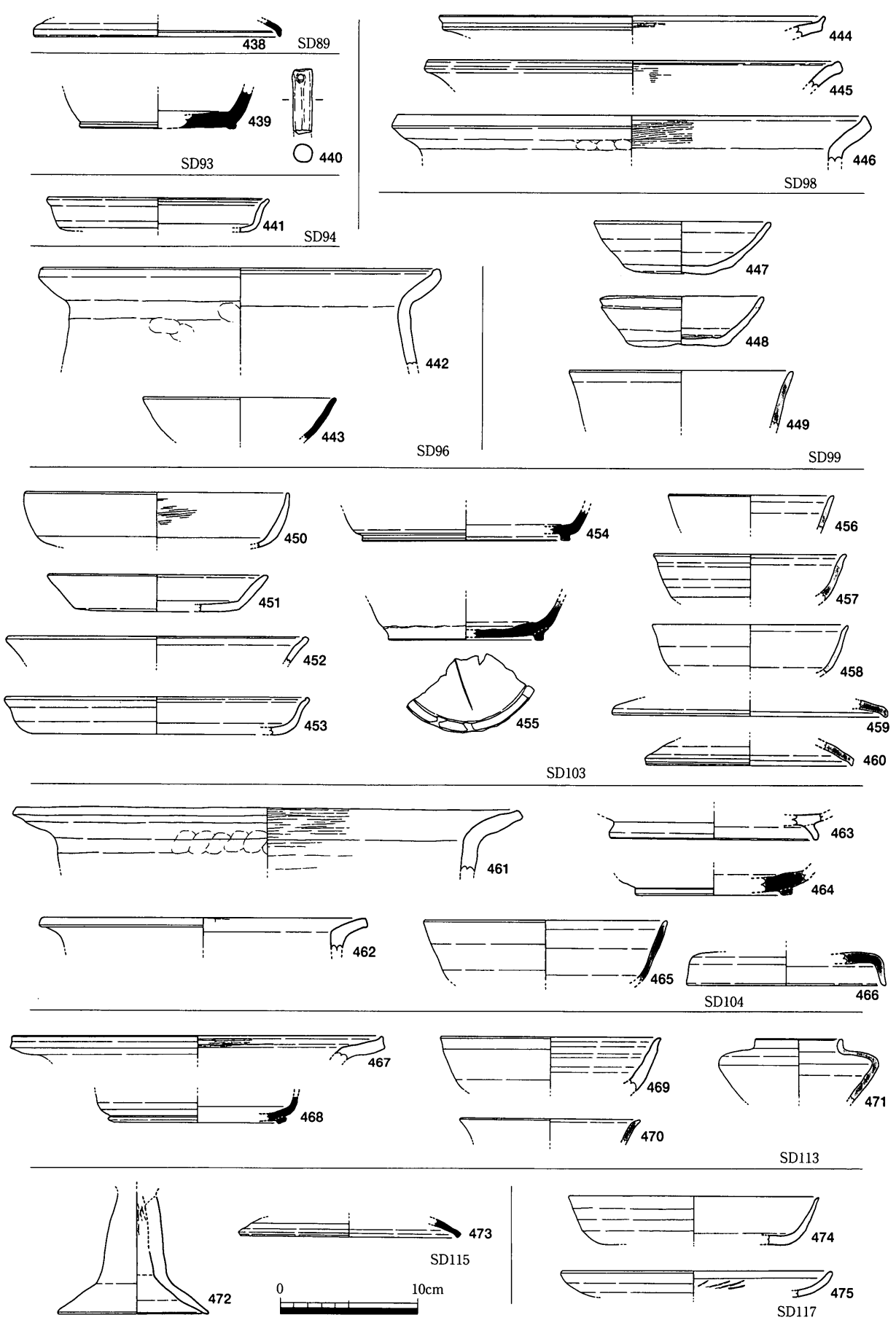
第105図 SD72 (2)・73・76・77出土遺物



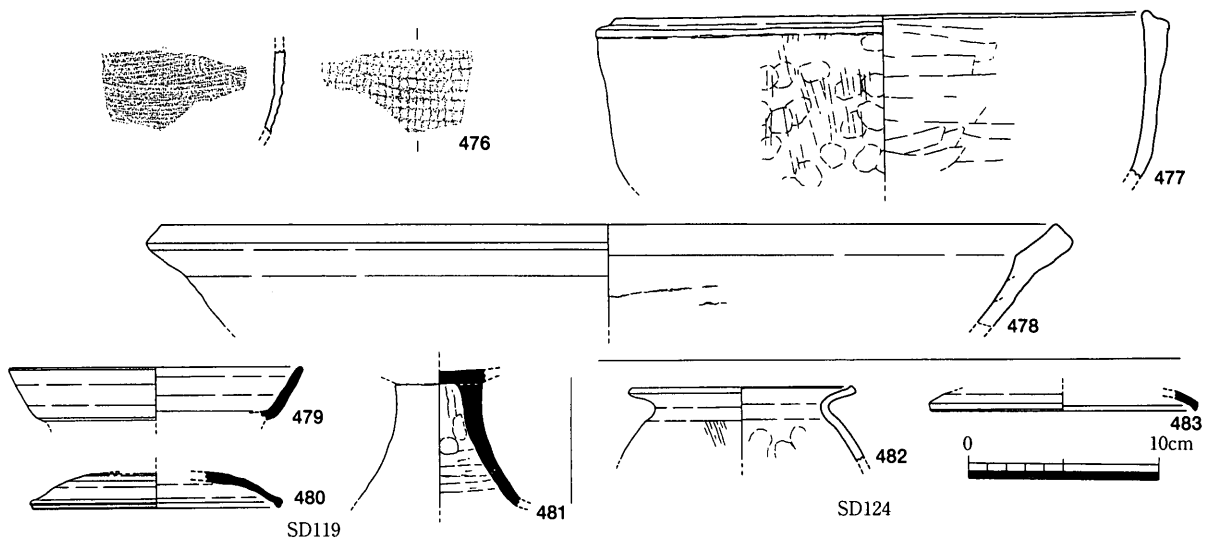
第106図 SD78~80, 82~84出土遺物



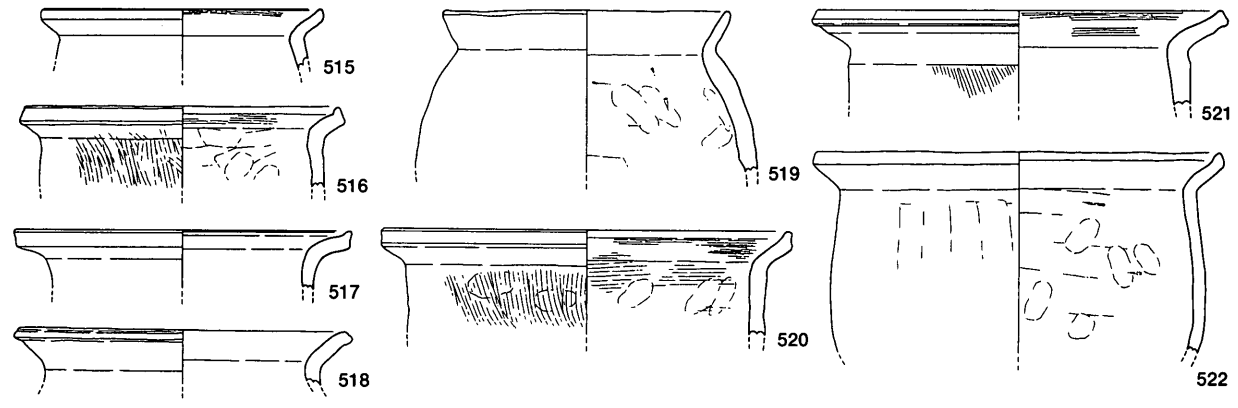
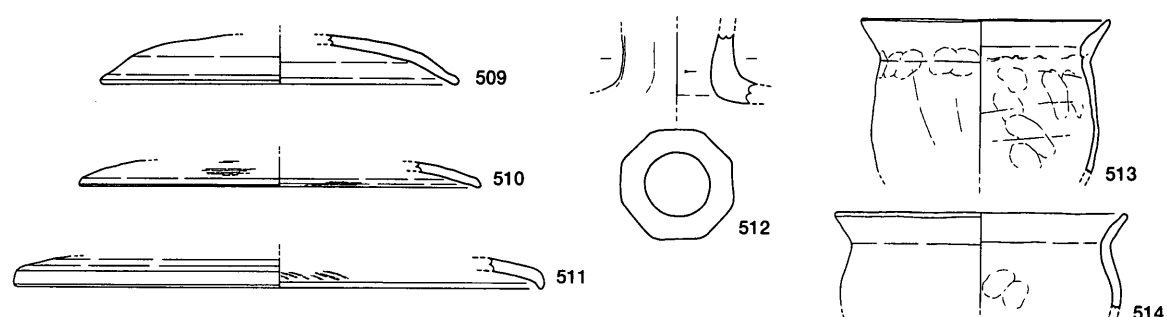
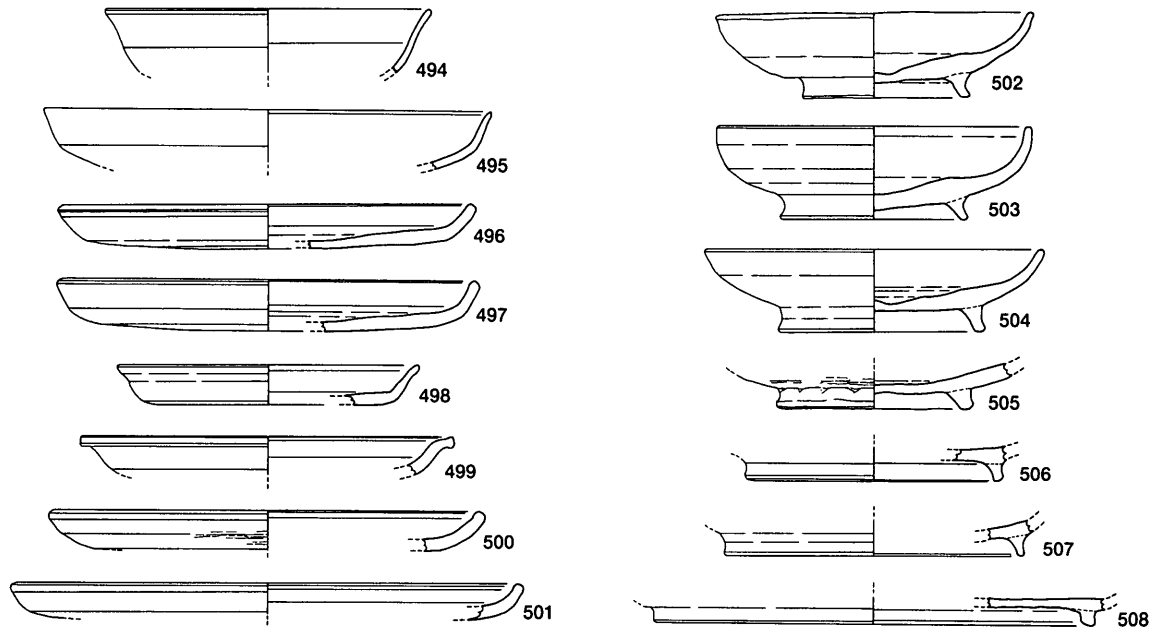
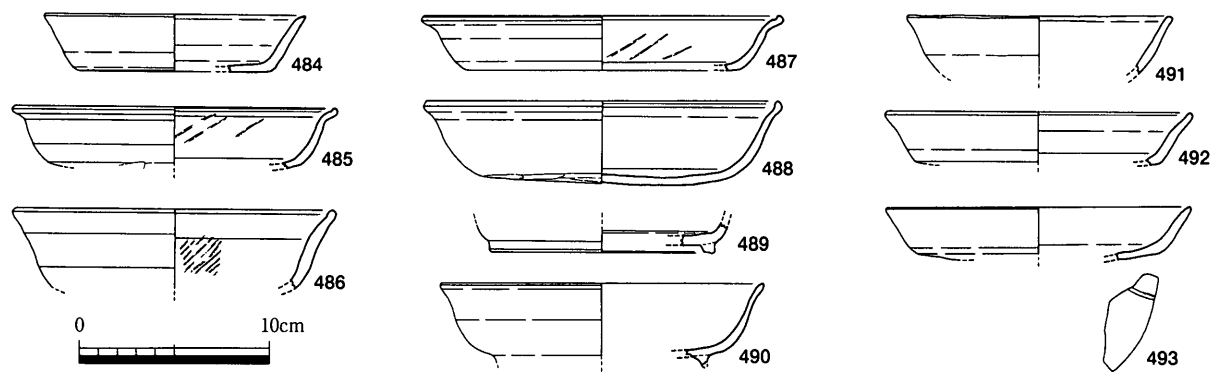
第107図 SD86出土遺物



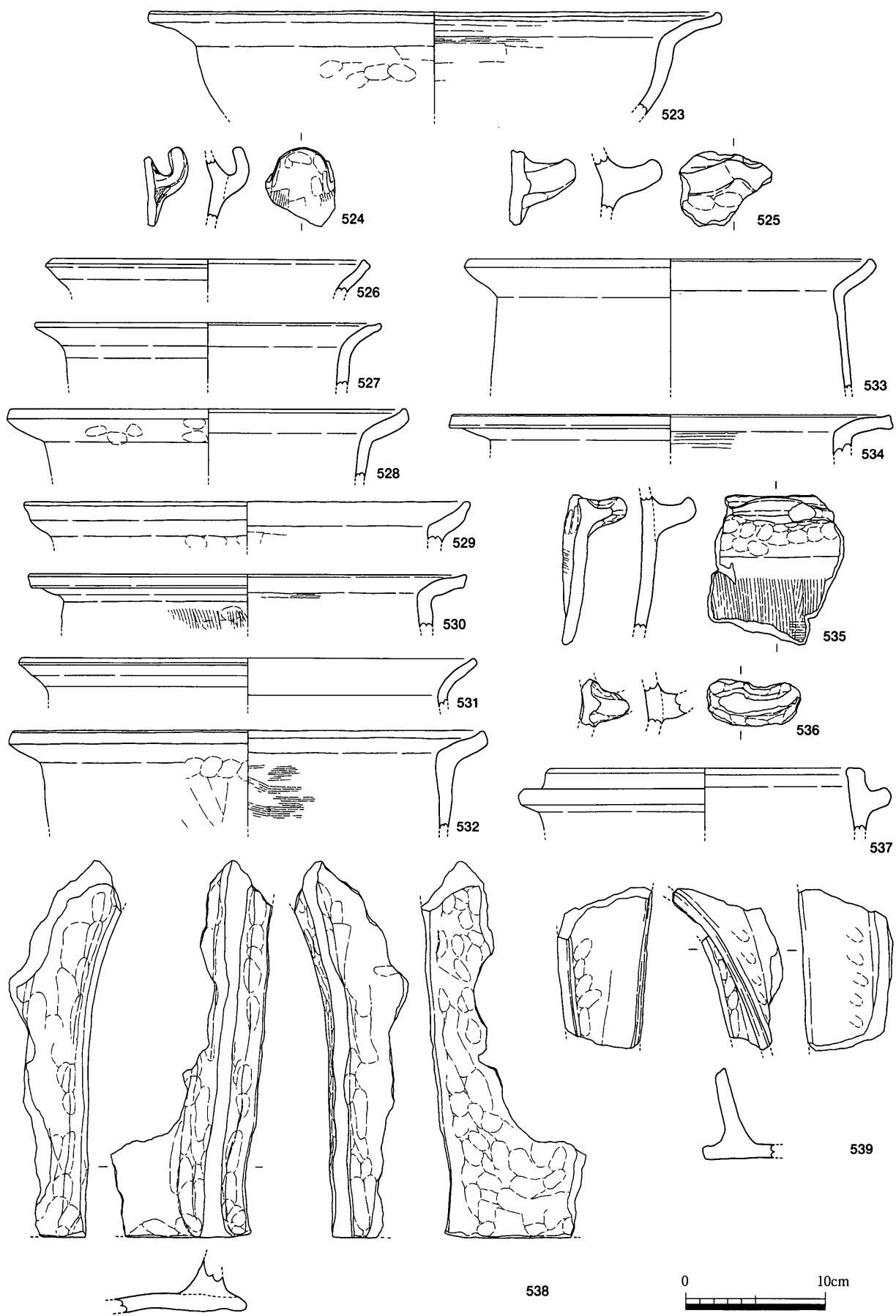
第108图 SD89·93·94·96·98·99·103·104·113·115·117出土遺物



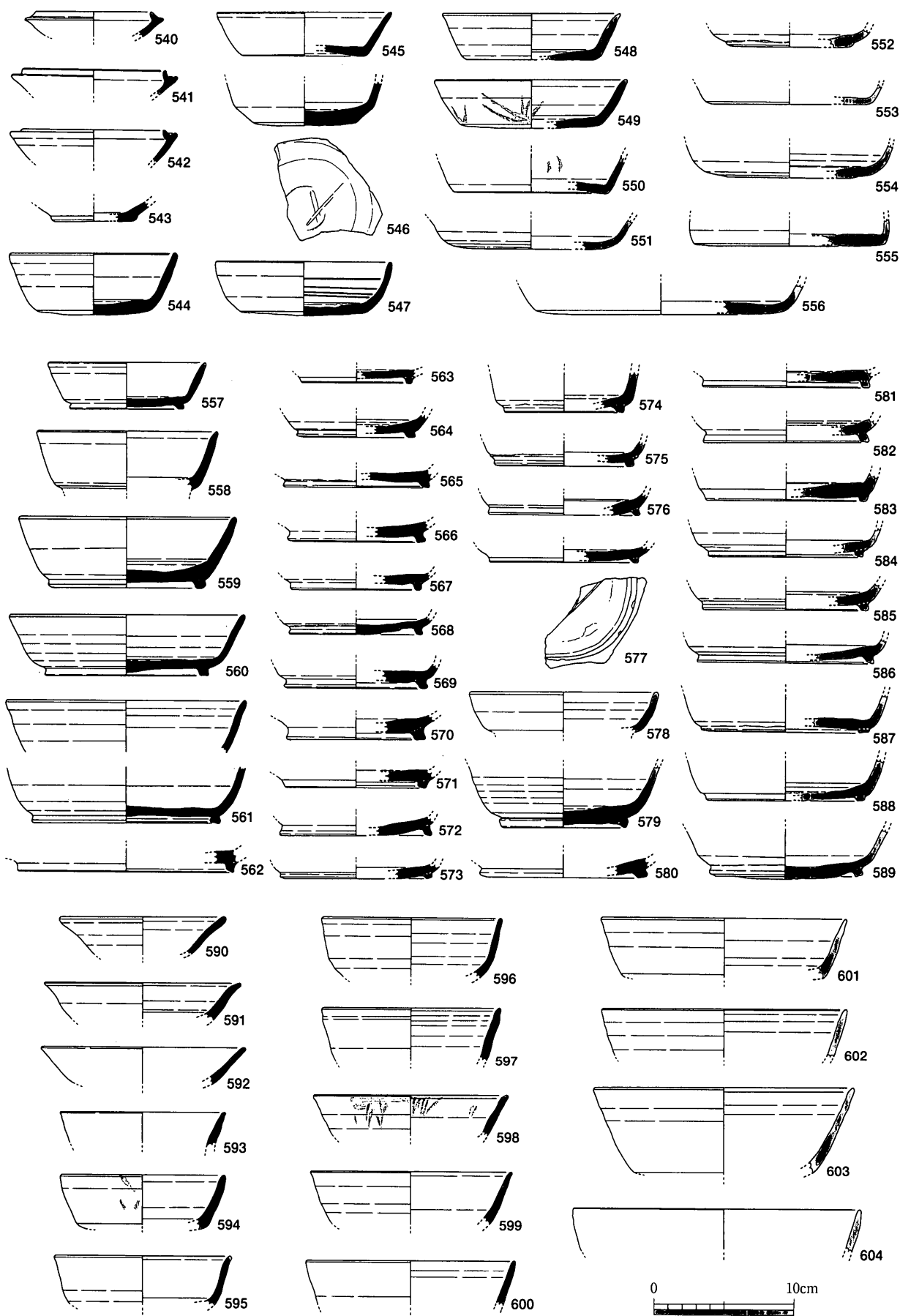
第109図 SD119・124出土遺物



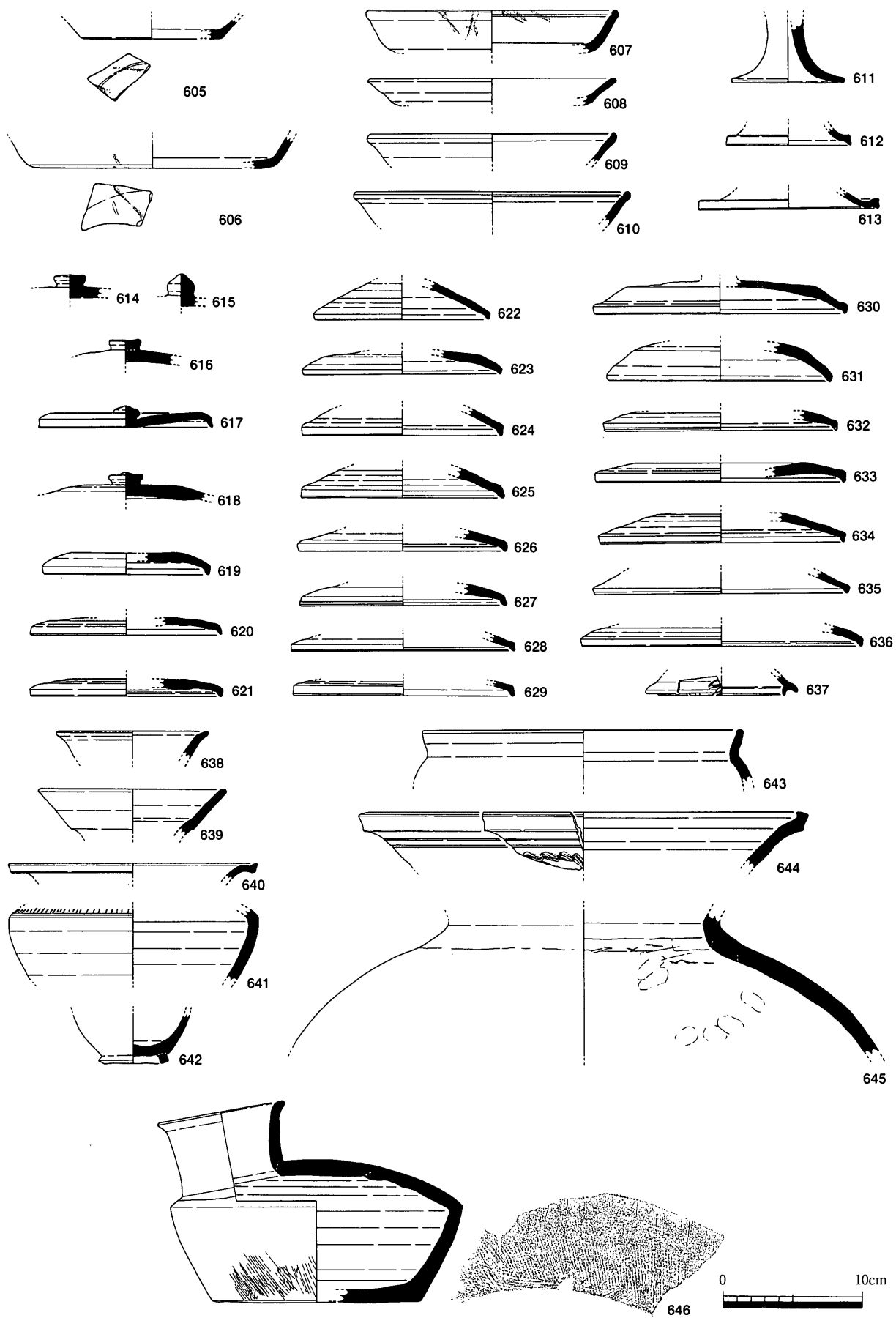
第110図 SR01 (1) 出土遺物



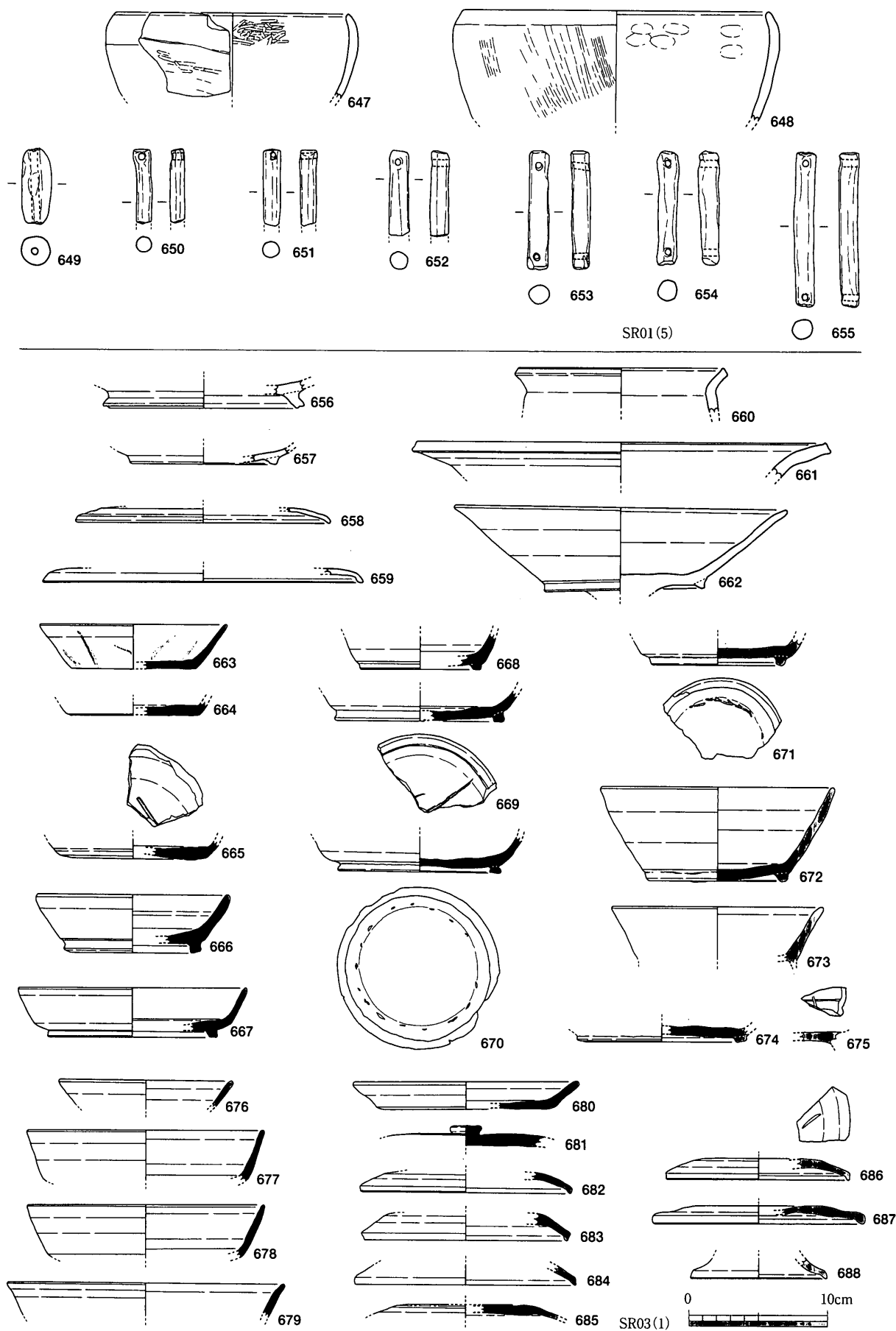
第111图 SR01 (2) 出土遗物



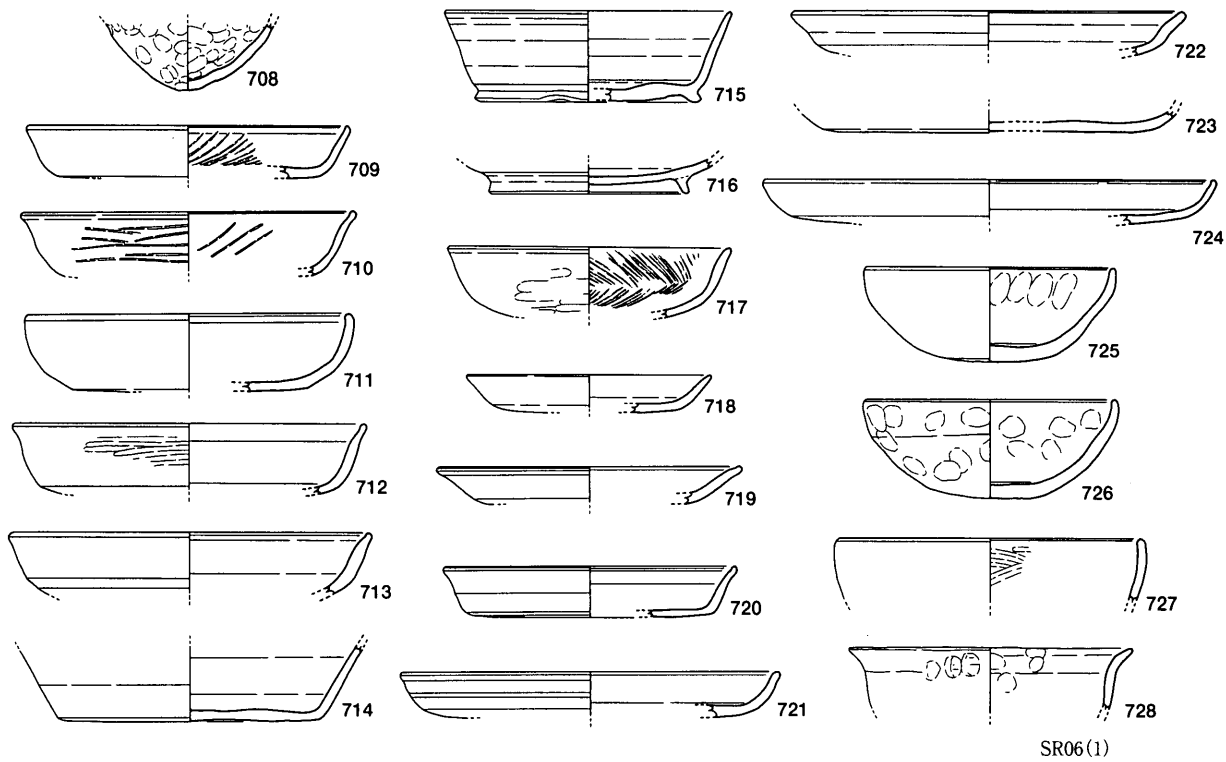
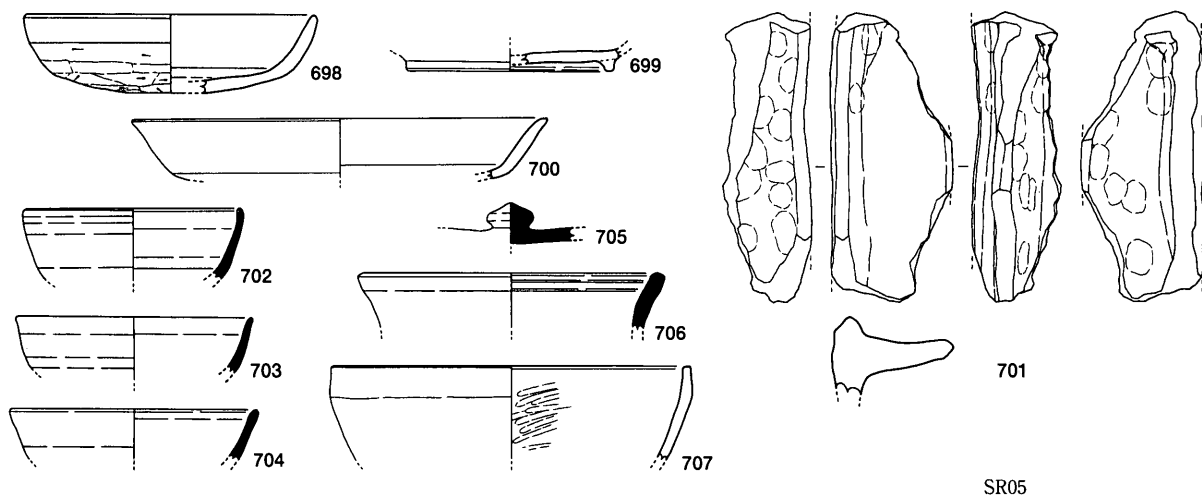
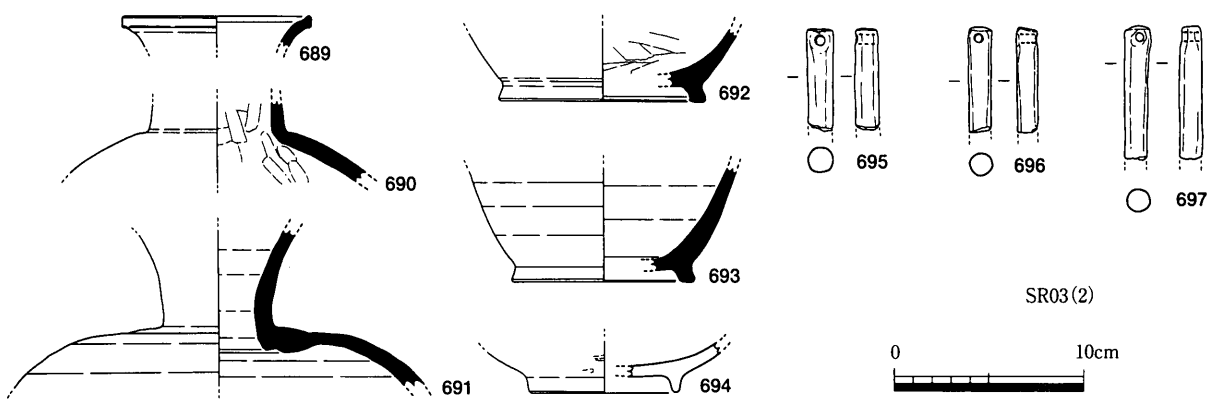
第112図 SR01 (3) 出土遺物



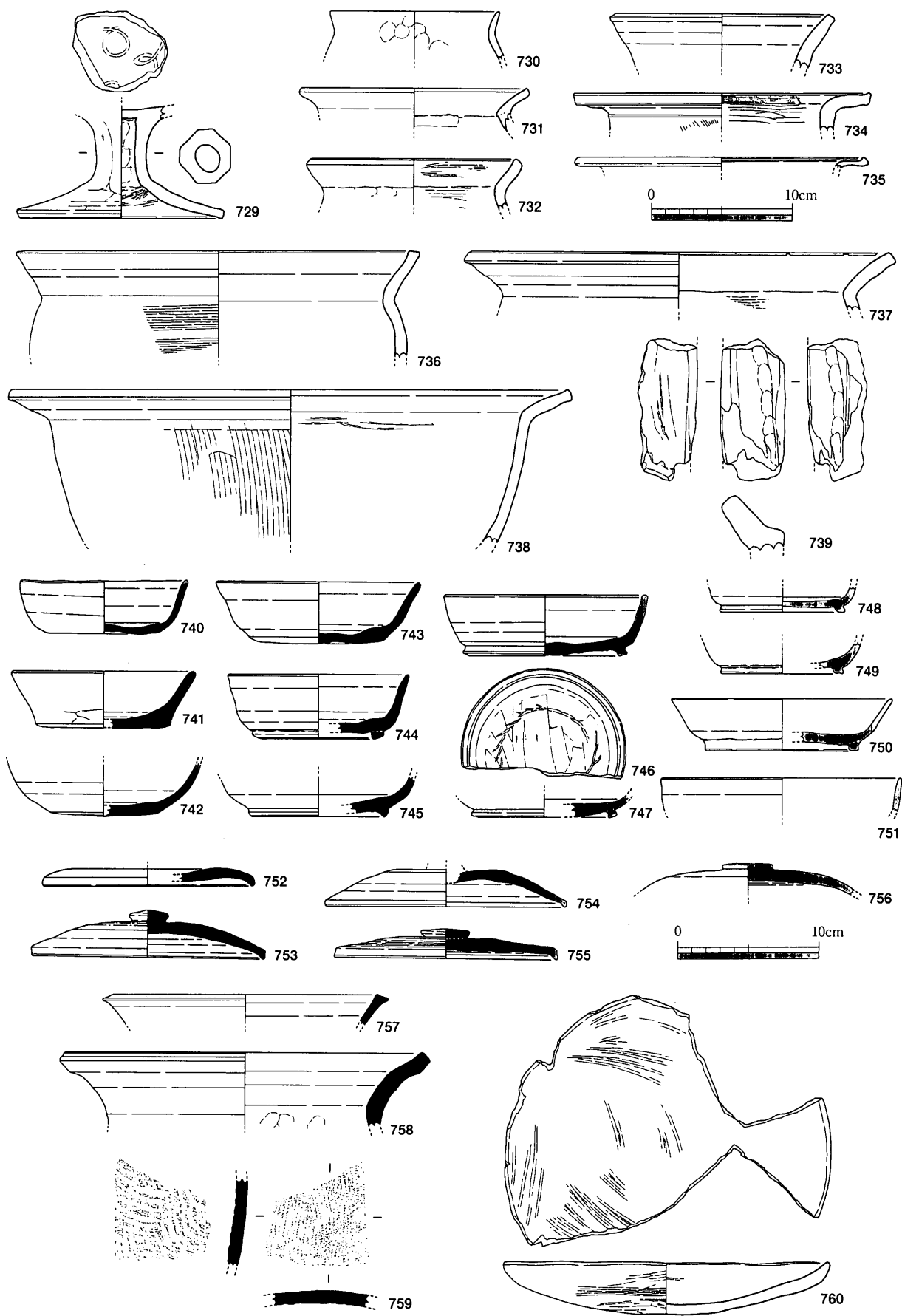
第113图 SR01 (4) 出土遺物



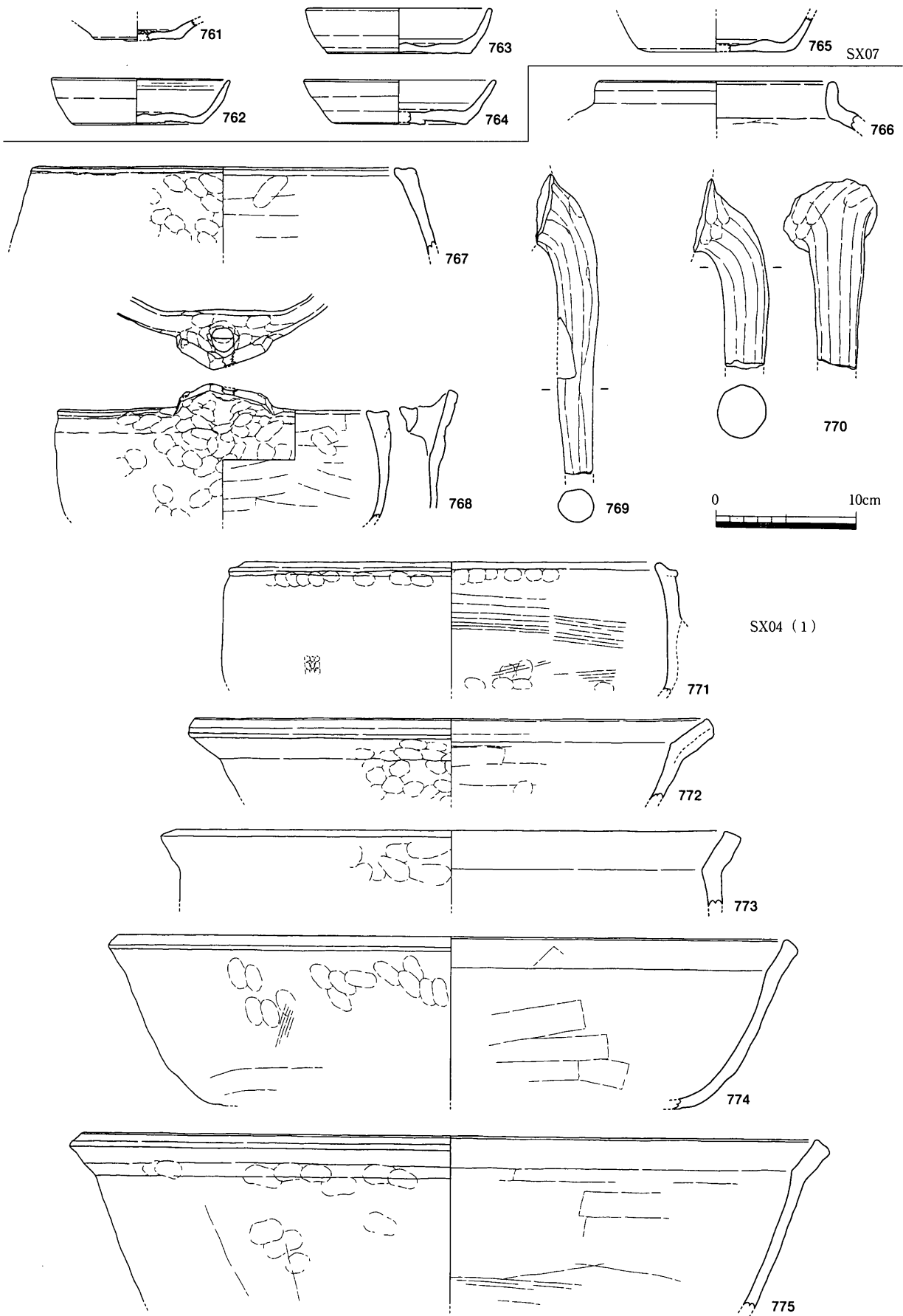
第114图 SR01(5)·SR03(1) 出土遺物



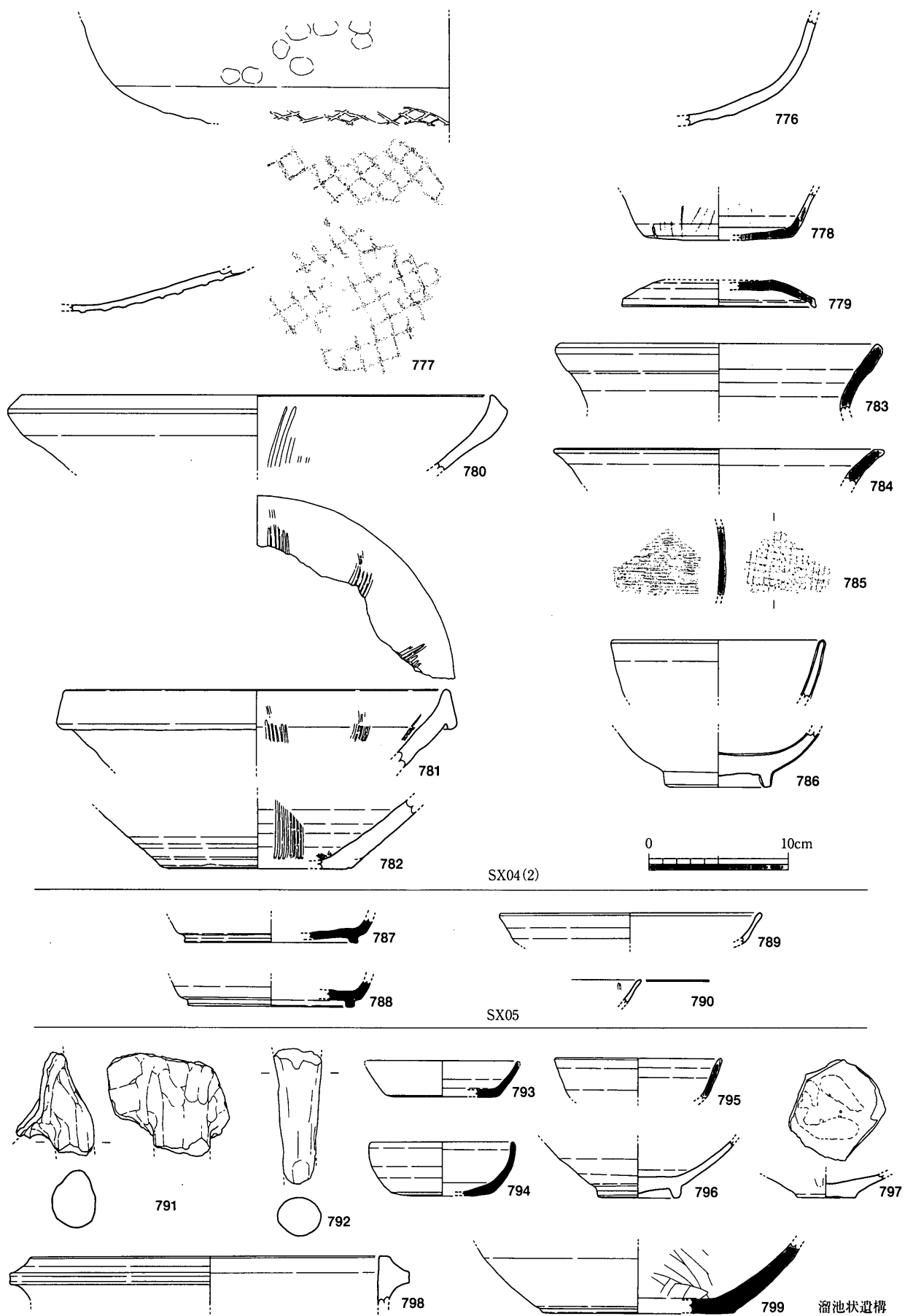
第115図 SR03 (2)・SR05・SR06 (1) 出土遺物



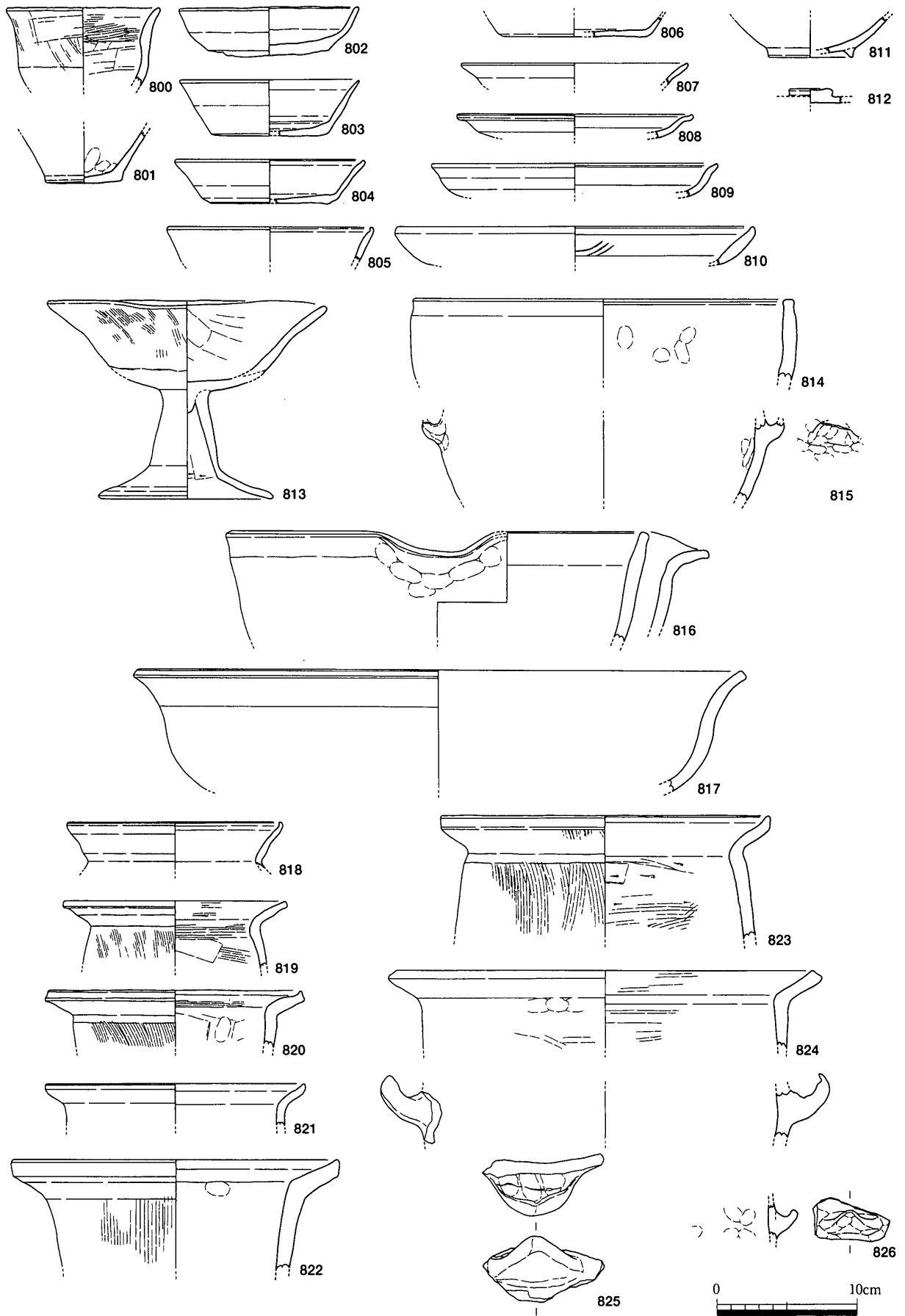
第116图 SR06(2) 出土遺物



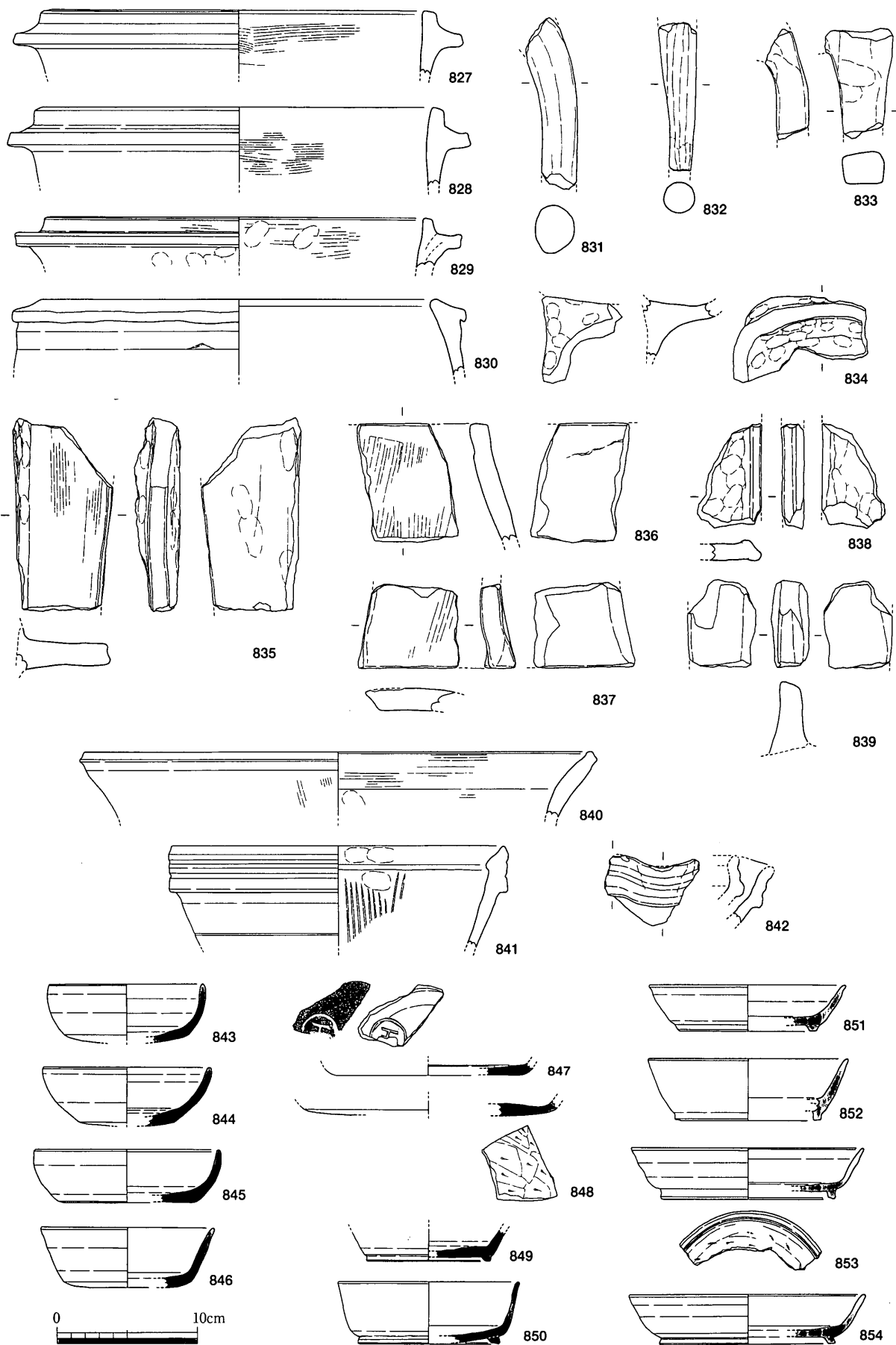
第117図 SX07・SX04 (1) 出土遺物



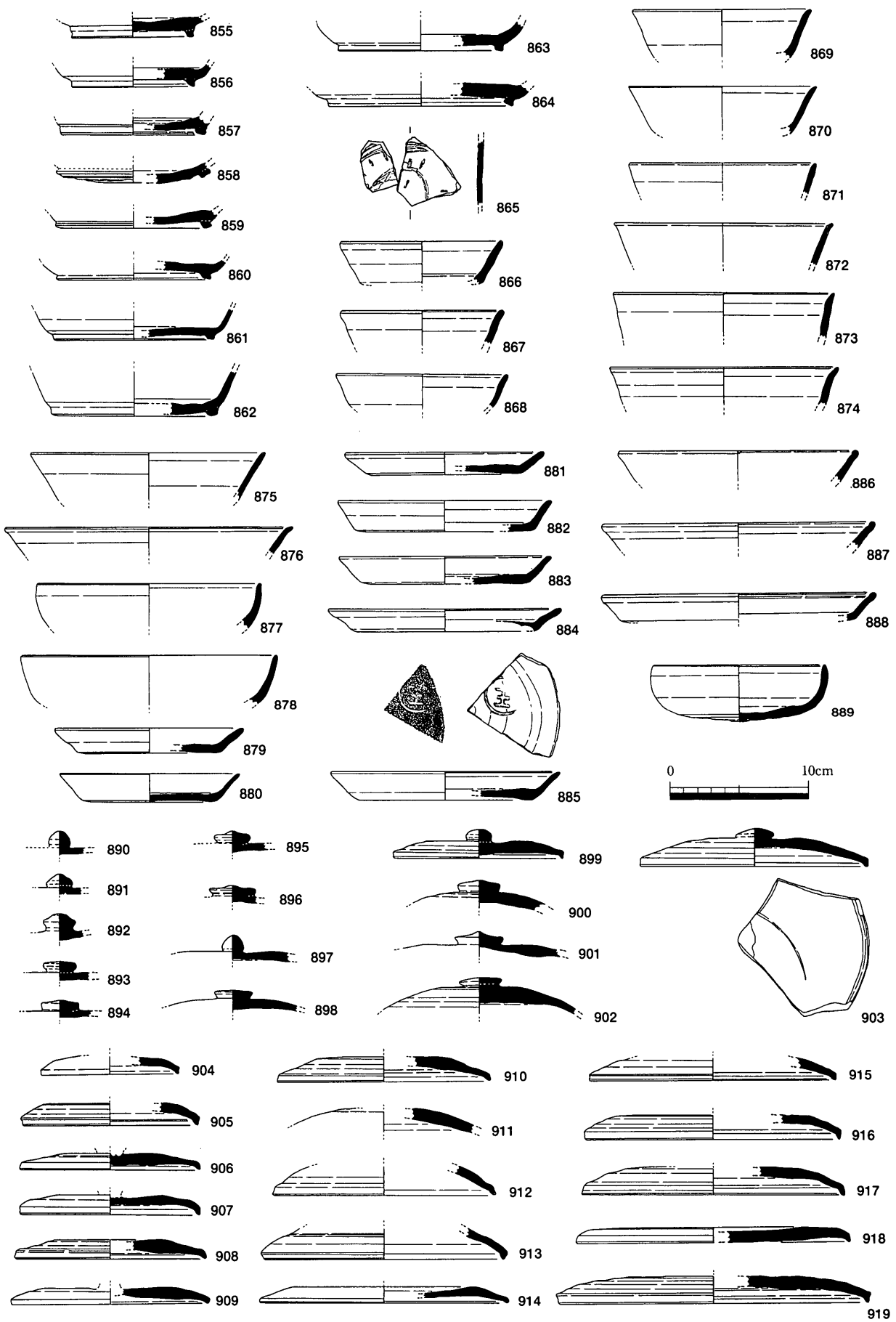
第118図 SX04(2)・SX05・溜池状遺構出土遺物



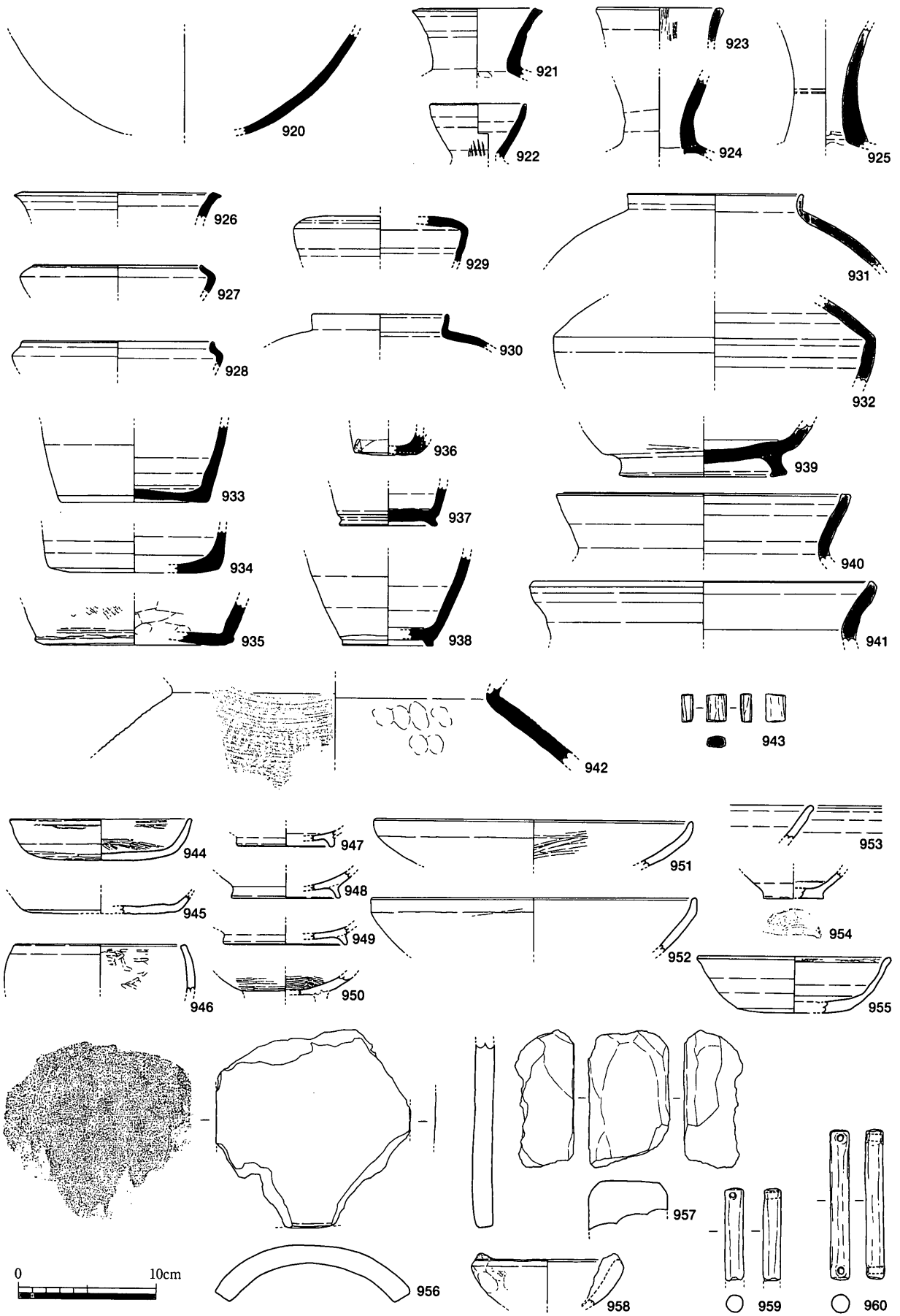
第119图 I区包含層(1)出土遺物



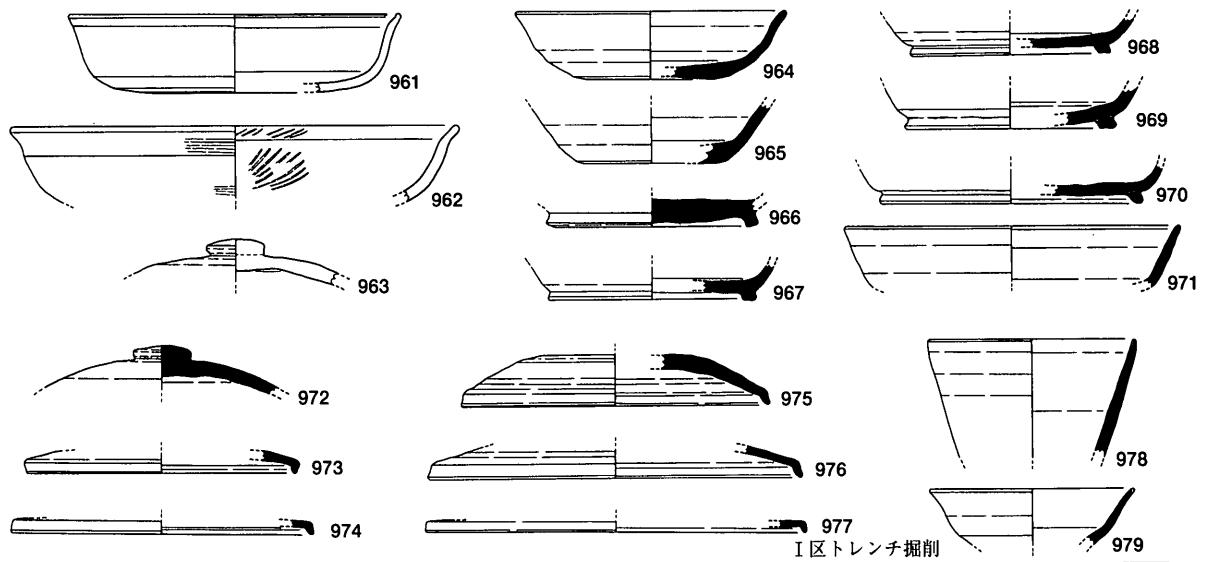
第120图 I区包含層(2)出土遺物



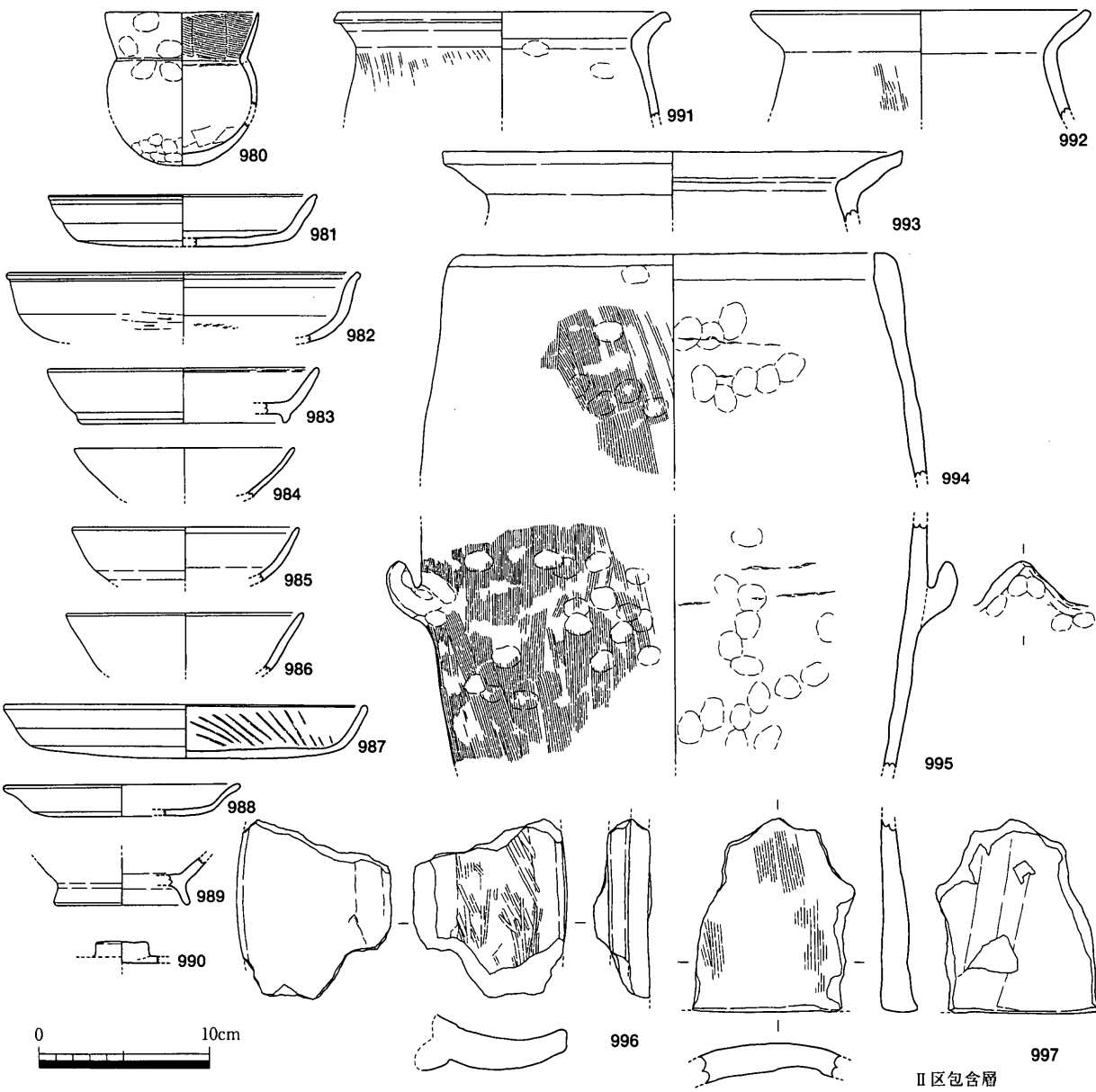
第121图 I区包含層(3)出土遺物



第122图 I区包含层(4)出土遗物

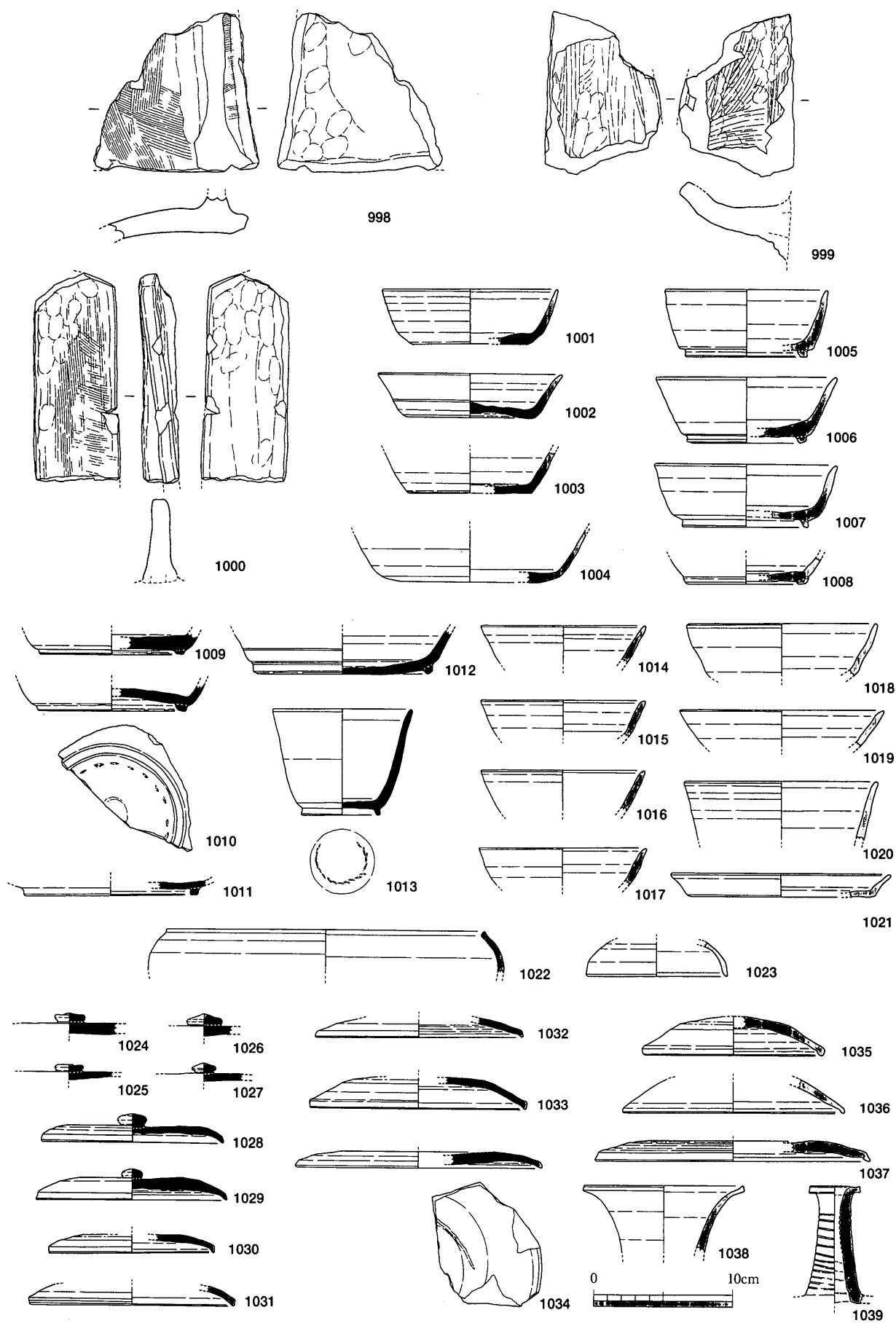


I区トレンチ掘削

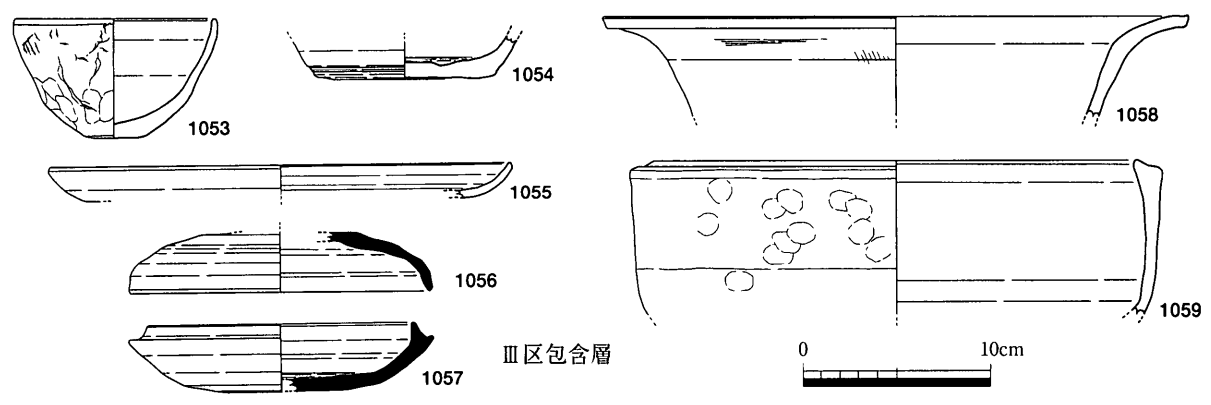
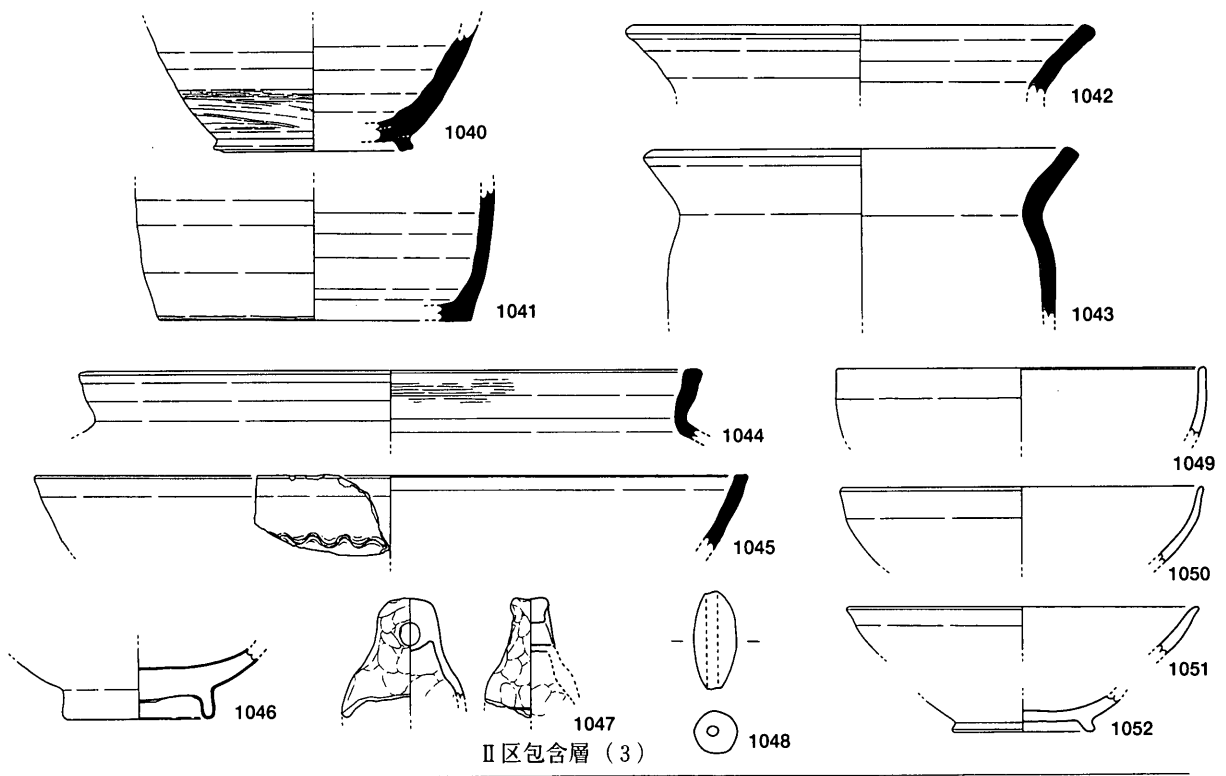


II区包含層

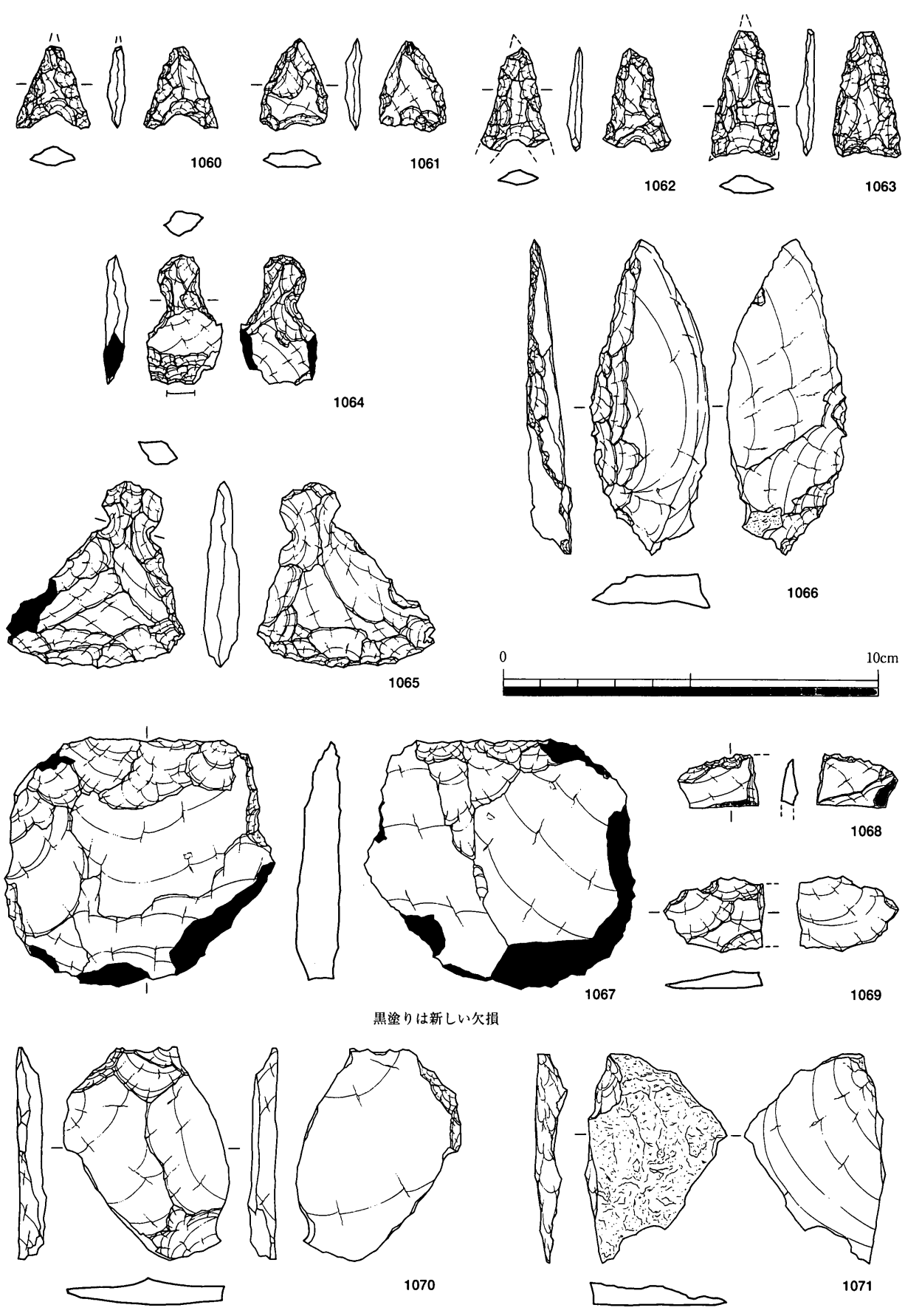
第123図 I区トレンチ掘削, II区包含層(1)出土遺物



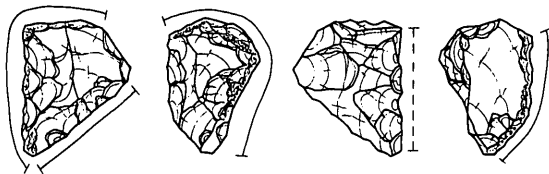
第124图 II区包含層(2)出土遺物



第125图 II区包含層(3)·III区包含層出土遺物

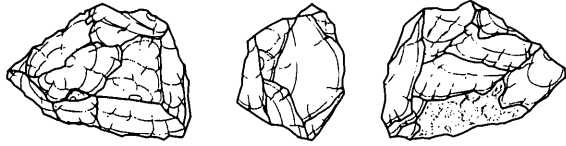


第126図 出土石器(1)



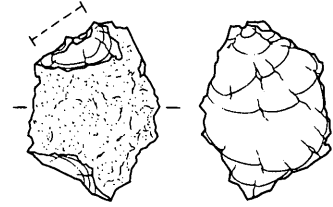
青緑色チャート

1072



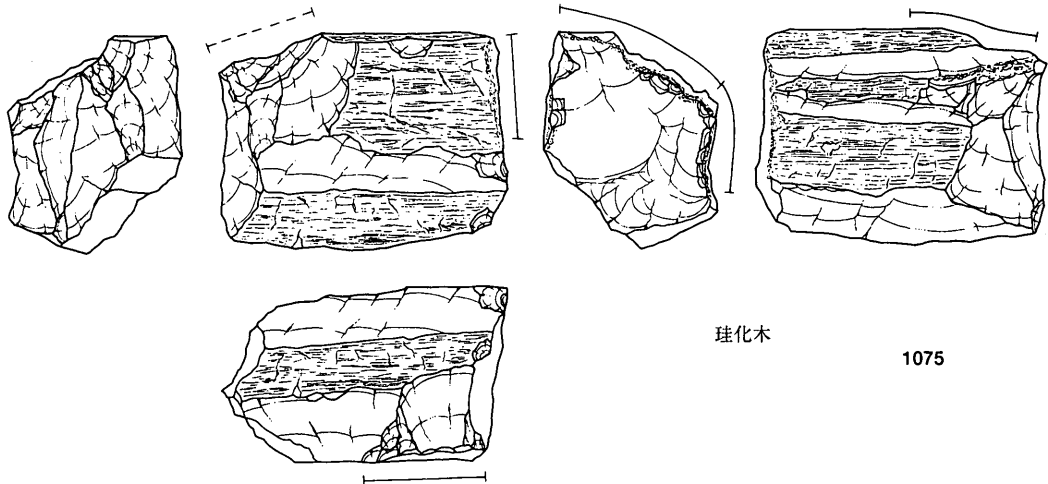
赤色チャート

1073



1074

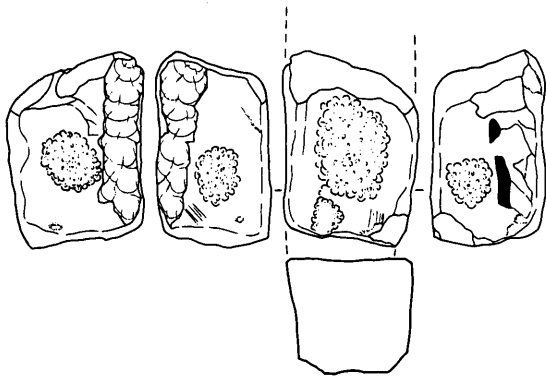
サヌカイト



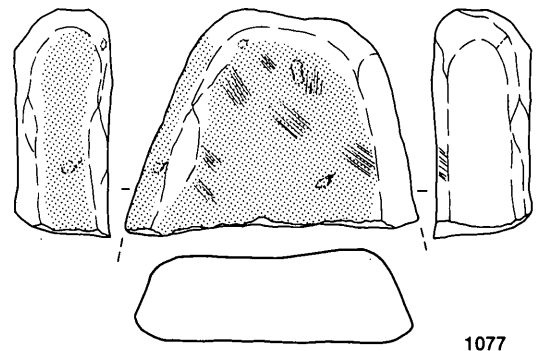
珪化木

1075

—— 顕著な使用痕
- - - 軽微な使用痕



1076

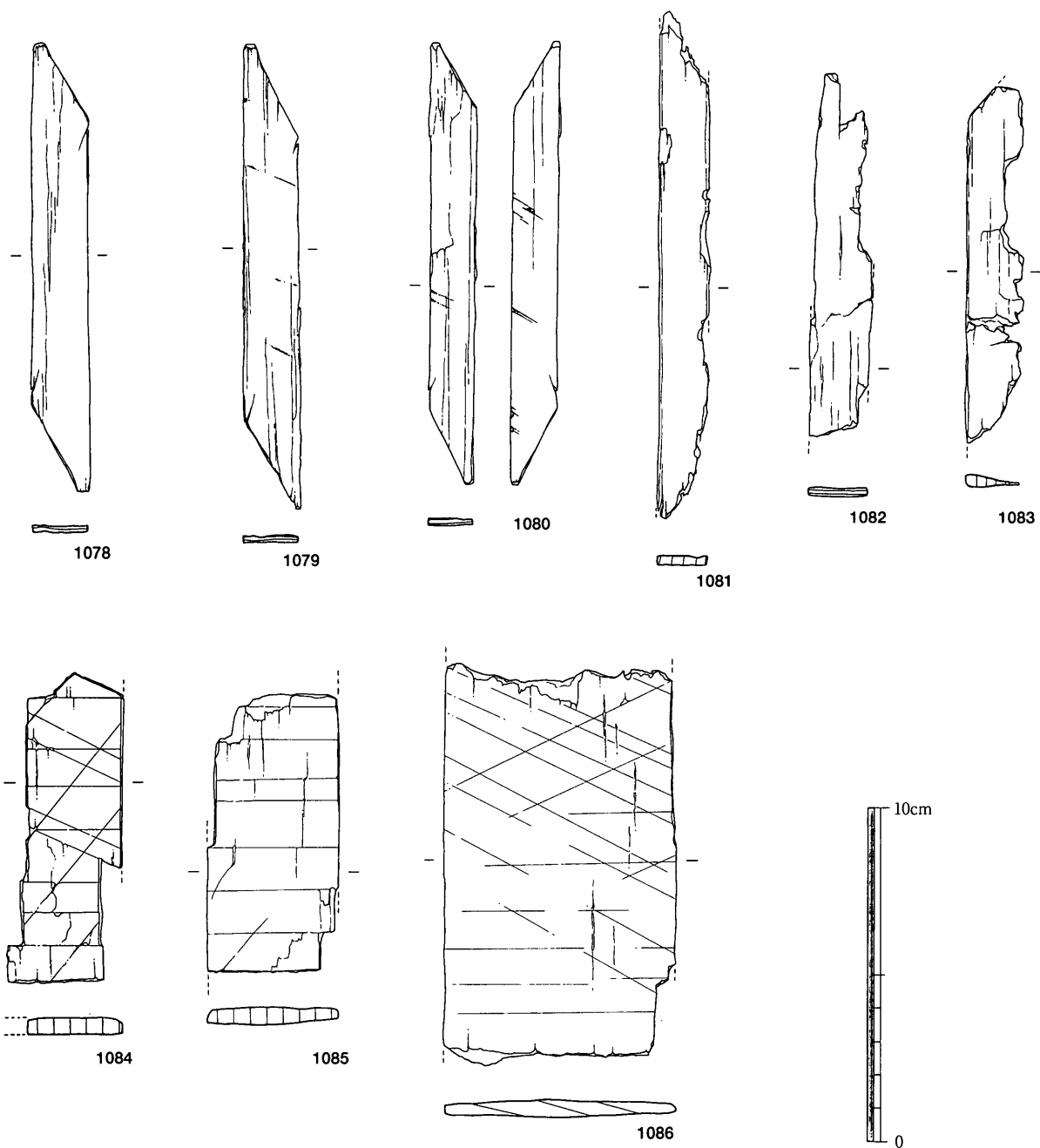


1077

トーンは顕著な摩滅痕



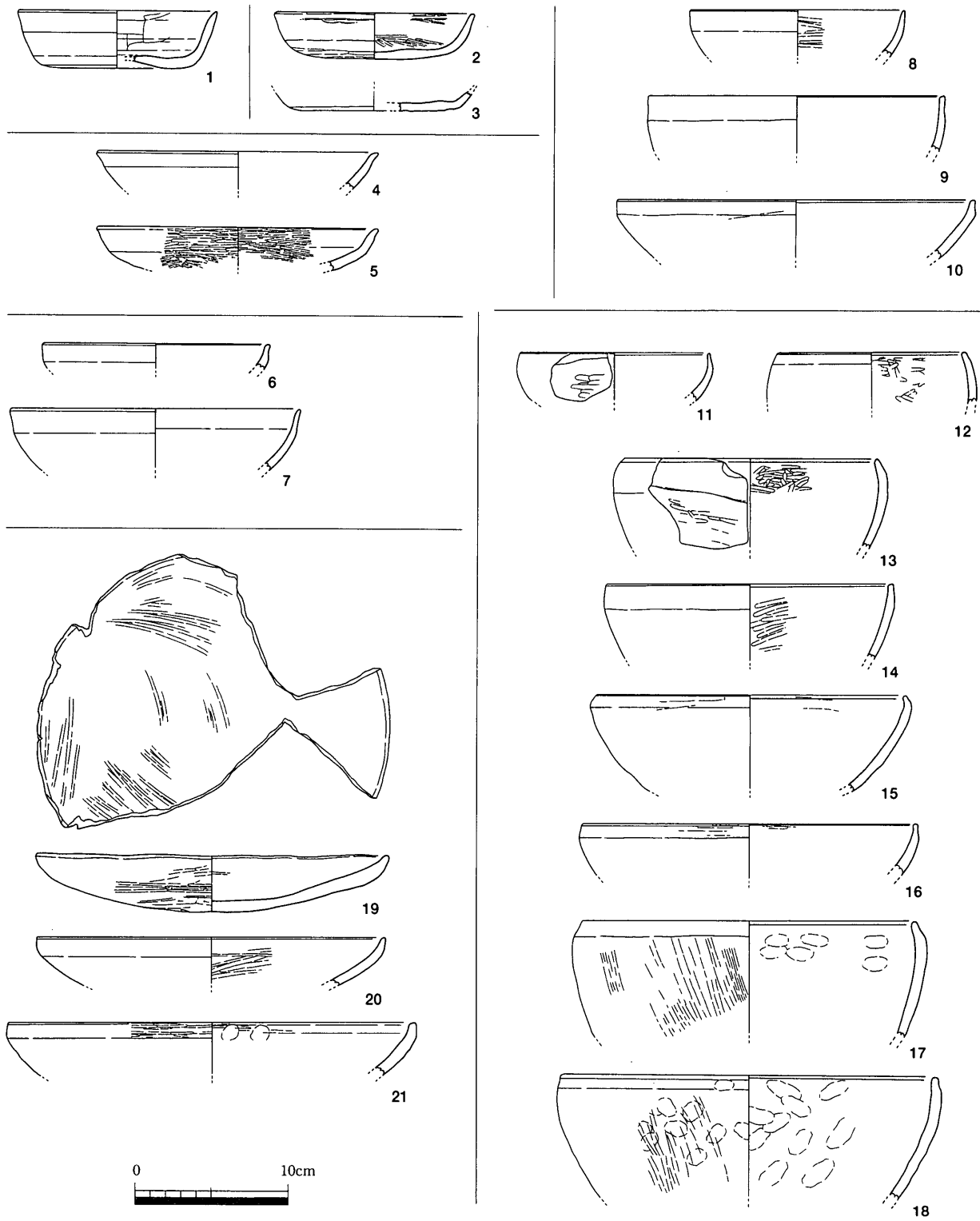
第127図 出土石器(2)



第128図 SE01出土木製品

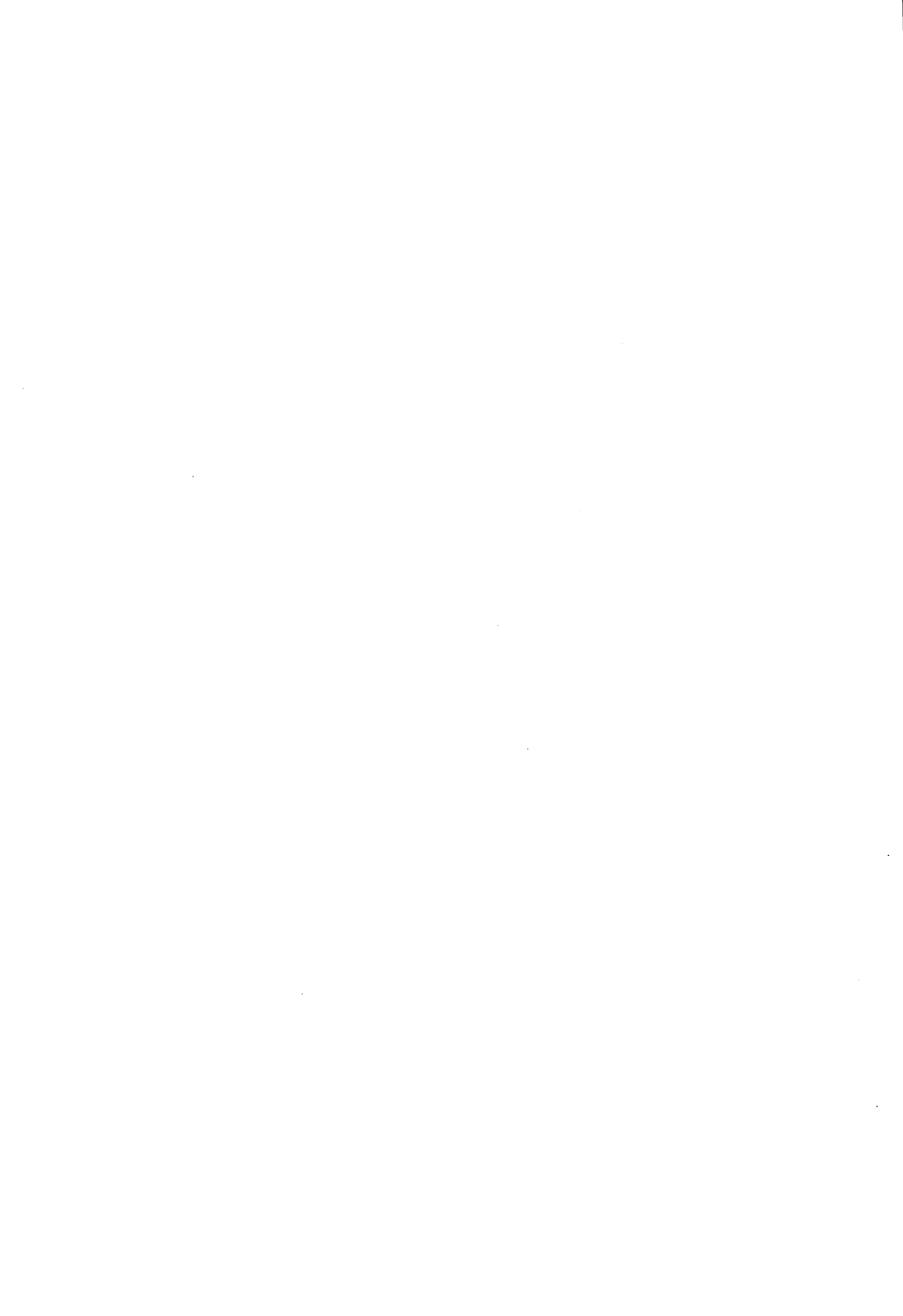


第129図 遺跡周辺地割図及び旧状地割図



第130图 坪井遺跡出土黑色土器集成図

土器觀察表



| 編文 番号 | 挿入 番号 | 挿入 図版 | 写真 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 断面 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|----------|--------|-------|-------|--------|--------|----------|----------|----------------------------|---|------|--|----|-----|----------|----|----|
| | | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内面 | 外面 | |
| 1 | 95 | I区-② | SB03-P01 | 須恵器 | 須恵器 | 杯 | (13.4) | (2.9) | 7.5Y5/1 | 7.5Y5/1 | 2.5Y6/1 | 断 | 良好 | 密 | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 2 | 95 | I区-② | SB03-P01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | 杯蓋 | (13.1) | (1.5) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y6/1 | | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 3 | 95 | I区-③ | SB05-P04 | 土師器 | 皿蓋 | 皿蓋 | (16.6) | (1.7) | 5YR5/8 | 5YR5/8 | 2.5YR5/8 | | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 4 | 95 | I区-③ | SB05-P11 | 土師器 | 皿 | 皿 | (13.1) | (2.9) | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | | 良好 | 密 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む他カクセン石を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 5 | 95 | I区-③ | SB05-P13 | 土師器 | 壺 | 壺 | (13.1) | (4.45) | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | (外側)10YR7/4 (中心)2.5Y6/1 | | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 6 | 95 | I区-③ | SB06-P08 | 土師器 | 棒状土埴 | 棒状土埴 | (7.1) | (1.9) | 2.5Y6/4 | 2.5Y6/4 | 2.5Y6/4 | | 良 | 密 0.5~3mmの石英・長石粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 7 | 95 | I区-③ | SB06-P08 | 土師器 | 棒状土埴 | 棒状土埴 | (7.8) | (1.4) | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR7/3 | | 良 | 密 0.5~3mmの石英・長石粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 8 | 95 | I区-③ | SB06-P11 | 須恵器 | 皿 | 皿 | (13.6) | (1.6) | 2.5Y4/2 | 10YR6/6 | 10YR7/4 | | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 9 | 95 | I区-③ | SB06-P12 | 土師器 | 杯 | 杯 | (13.7) | (3.5) | 5YR5/6 | 5YR4/4 | 5YR5/6 | | 良好堅緻 | 緻密(精製) | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 10 | 95 | I区-③ | SB07-P09 | 須恵器 | 杯 | 杯 | (13.6) | (3.4) | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | | やや不良 | 粗 0.1~2mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 11 | 95 | I区-② | SB07-P11 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | 高台付杯蓋 | (15.5) | (1.4) | 10YR8/1 | 5Y6/1 | (外側)5Y8/1 (中心)5Y6/1 | | やや不良 | 密 1mm前後の石英・長石粒を若干含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 12 | 95 | I区-① | SB07-P11 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | 高台付杯蓋 | (15.9) | (0.9) | 10B5/1 | N5/0 | N5/0 | | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 13 | 95 | II区 | SB07-P11 | 瓦器 | 埴 | 埴 | (15.0) | (3.1) | 2.5Y8/2 | 5Y7/1 | 5Y8/1 | | やや不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 14 | 95 | I区-② | SB08-P03 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | 高台付杯蓋 | (16.6) | (1.1) | 10YR7/1 | 10YR7/1 | 10YR7/1 | | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 15 | 95 | II区 | SB09-P04 | 須恵器 | 杯 | 杯 | (10.6) | (2.2) | 5Y5/1 | 5Y5/1 | N7/0 | | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 16 | 95 | II区 | SB09-P04 | 黒色土器A類 | 杯 | 杯 | (10.6) | (1.4) | 5Y3/1 | 5Y3/1 | (外側)5Y3/1 (中心)2.5Y7/1 | | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む他2mm前後の石英粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 17 | 95 | II区 | SB09-P07 | 土師器 | 皿 | 皿 | (24.5) | (1.95) | 7.5YR5/6 | 7.5YR5/6 | 7.5YR5/4 | | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他同程度の黒色・長石・黒色粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 18 | 95 | I区-① | SP09 | 須恵器 | 杯 | 杯 | (14.7) | (2.6) | 10Y6/1 | 10Y6/1 | 10YR6/3 | | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 19 | 95 | I区 | SP25 | 土師質 | 壺 | 壺 | (20.5) | (7.8) | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 7.5YR8/4 | | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他3~5mmの石英・長石粒を多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 20 | 95 | I区-② | SP30 | 土師器 | 壺 | 壺 | (14.6) | (1.4) | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 7.5YR6/6 | | 良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石・赤紫した長石粒を大量に含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 21 | 95 | I区-② | SP36 | 須恵器 | 高台付杯身 | 高台付杯身 | 13.2 | 5.0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y8/1 | | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 22 | 95 | I区-② | SP37 | 黒色土器B類 | 杯 | 杯 | (18.3) | (2.8) | 2.5Y4/1 | 5Y3/1 | 2.5Y4/2 | | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 23 | 95 | I区-③ | SP43 | 須恵器 | 杯 | 杯 | (14.9) | (2.6) | N7/0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 24 | 95 | I区-③ | SP43 | 須恵器 | 埴 | 埴 | (14.0) | (3.15) | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | | 良好堅緻 | 密 1mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |
| 25 | 95 | I区-③ | SP58 | 土師器 | 壺 | 壺 | (33.4) | (1.9) | 10YR7/4 | 7.5YR7/6 | 5Y8/1 | | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他3~5mmの石英・長石粒を僅かに含む | 胎土 | 残存量 | 内面 | 外面 | 備考 |

| 報文 番号 | 挿入 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 調 | 断 | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の程度 | | 備考 |
|----------|----------|------|-------|------------|-------|----------------|----------------|---------------|------------------------|----------|-------------------------------|--------------|--|-----|---------------------------|---|------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | | 内 | 外 | |
| 26 | 95 | I区② | SP71 | 土師器 | 甕 | (33.1) | (4.1) | | 2.5Y4/2 | 10YR4/4 | 2.5Y6/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | ハケ | 体部：ハケ 頸部から口縁部：強い 指ナデ | 反転復元 | |
| 27 | 95 | I区② | SP71 | 須恵器 | 坏 | (12.0) | (2.3) | | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y6/2 | やや不良 やや含む | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 28 | 95 | I区② | SP71 | 須恵器 | 甕 | | | | N7/0 | 5PB7/1 | 2.5Y7/1 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む他0.5mm以下の石英・長石粒を大量に含む | | 青梅波文 | タタキのちらかき目 | | |
| 29 | 95 | II区 | SP77 | 土師器 | 甕 | | (20.3) | | 10YR4/3 | 2.5Y6/3 | 2.5Y5/2 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む以下のカクセン石を僅かに含む | | 指押さえのち板ナデ | ハケ | 反転復元 | |
| 30 | 95 | III区 | SP103 | 土師器 | 皿蓋 | (23.6) | (1.4) | | 5YR7/6 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/8 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | ヘラミガキのち放射状状 文 | ヘラミガキ(摩滅) | 反転復元 | |
| 31 | 95 | II区 | SP79 | 須恵器 | 蓋 | (18.0) | (2.35) | | N7/0 | 5Y7/1 | N8/0 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む他0.5mm前後のカクセン石を微量含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 32 | 95 | II区 | SP86 | 須恵器 | 甕 | | | | N7/0 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 粗 1mm以下の石英・長石粒を大量に含む他0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 青梅波文のちナデ消し | タタキのちらかき目 | | |
| 33 | 95 | III区 | SP117 | 土師器 | 坏 | (9.5) | (2.1) | | 10YR6/4 | 2.5Y5/2 | 7.5YR8/4 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 34 | 96 | I区② | SE01 | 土師器 | 無台坏 | (20.0) | (3.0) | | 5YR6/6 | 5YR6/4 | 5YR7/4 | 良好 | 密(精製) | | ヘラミガキのち放射状状 文、口縁部皿下に連弧 | ヘラミガキ | 反転復元 | |
| 35 | 96 | I区② | SE01 | 土師器 | 無台皿 | (17.2) | 2.1 | (13.8) | 10YR5/4 | 10YR7/6 | 10YR6/4 | 良好 | 密 1~3mm長石粒を多く含む | 1/5 | 摩滅 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 36 | 96 | I区② | SE01 | 土師器 | 甕 | | | | 7.5YR7/4 | 5YR7/6 | 2.5YR6/6 | 良好 | 粗 2~5mmの石英・長石粒を多く含む | | 摩滅 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 37 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 無台坏 | | (2.2) | (7.1) | 5YR4/3 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | 密(精製) | | 回転指ナデ | 体部：回転指ナデ 底部：ヘラ削りのち不定 方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 38 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 無台坏 | (12.3) | 3.1 | (7.9) | 2.5Y7/1 (一部)5Y5/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良 | やや密 0.5mm以下の長石・黒色粒をやや多く含む | 1/4 | 回転指ナデ | 体部：回転指ナデ 底部：ヘラ削りのち 指ナデ | 反転復元 | |
| 39 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 無台坏 | 13.6 | 3.9 | 8.2 | 10YR7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む他カクセン石を僅かに含む | 1/2 | 摩滅 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 40 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 坏 | (11.5) | (3.05) | | N6/0 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 良好 | 密 0.5mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 41 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 坏 | (12.8) | (3.2) | | 2.5Y4/1 | 2.5Y4/1 | 2.5Y5/2 | 良好 | やや密 0.5mm以下の長石粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 42 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (3.0) | (13.0) | 5PB5/1 | 5Y5/1 | 7.5YR4/2 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | 回転指ナデ | 体部：回転指ナデ 底部： 回転ヘラ削りのち丁寧な ナデ | 反転復元 | |
| 43 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 甕 | (20.0) | (1.9) | | N4/0 | N5/0 | N4/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 44 | 96 | I区② | SE01 | 黒色土器 A類 | 埴 | (13.4) | (1.9) | | 2.5Y3/1 | 10YR6/4 | 10YR6/4 10YR6/1 2.5Y3/1 | 良好 | 密 0.5~1mm石英・長石粒・0.5mm以下のカクセン石を多量に含む | | ヘラミガキ | 指ナデ 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 45 | 96 | I区② | SE01 | 黒色土器 A類 | 埴 | (14.4) | (2.7) | | 5Y3/1 | 2.5Y7/2 | (外側)2.5Y7/2 (内側)2.5Y6/1 | 良 | 密 0.5mm以下の長石粒を多く含む他2mm前後の長石粒を僅かに含む | | ヘラミガキ(摩滅) | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 46 | 96 | I区② | SE01 | 黒色土器 A類 | 埴 | (17.0) | (3.2) | | 5Y3/1 | 10YR7/3 | (外側)2.5Y7/2 (中心)2.5Y4/1 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | ヘラミガキ | ヘラミガキ 下半：摩滅 | 反転復元 | |
| 47 | 96 | I区② | SE01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (9.1) | (現存幅) (1.6) | (厚さ) (1.6) | 7.5YR6/4 | | | 良 | やや密 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む他カクセン石を若干含む | 1/1 | 指ナデ | | 反転復元 | |
| 48 | 96 | I区② | SE01 | 土師器 | 甕 | (25.8) | (5.0) | | 5YR7/6 (一部)7.5YR8/1 | 2.5YR7/8 | 7.5YR6/4 | 良好 | やや粗 1~3mmの石英・長石粒を多く含む | | 指ナデ 口縁部：ハケのち指ナデ | 体部：ハケ 口縁部：指ナデ | 反転復元 | |
| 49 | 96 | I区② | SE01 | 須恵器 | 無台坏 | (14.7) | 3.3 | (12.2) | 7.5Y5/1 (乳白)7.5Y6/1 | 10BC4/1 | (底部)7.5Y5/1 | 良好 | やや密 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 体部：回転指ナデ 底部： ヘラ削りのち不定方向の 丁寧なナデ | 反転復元 | |

| 種文 番号 | 種図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------|------|------------|-------|--------|--------|--------|--------------------------|----------------------------|------|--|-------|-----|----------|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 50 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 坏 | (16.9) | (5.0) | | 5Y4/1 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 51 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 坏 | (23.8) | (3.0) | | 10Y3/1 | 10Y4/1 | 良好 | やや粗 1mm前後・2mm前後の石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 52 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 皿 | (11.0) | (1.3) | | 2.5Y7/1 | 5Y6/1 | 良 | やや密 | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 53 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 皿 | (20.4) | (1.1) | | 2.5Y6/1 | N7/0 | 良好 | やや密 0.5~1mmの長石粒を多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 54 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (19.0) | (2.2) | | N3/0 N4/0 | 5YR3/3 | 良好堅緻 | 密 0.5~1mmの長石粒を若干含む他0.5mm以下の長石粒を大量に含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 55 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 壺 | (13.9) | (2.2) | | 5Y6/1 | 2.5YR4/2 | 良好堅緻 | 密(精製) | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 56 | 96 | | I区-② | SE01 | 土師器 | 無台皿 | (22.1) | (2.1) | | 10YR6/3 | 5YR6/6 | 良好 | 密(精製) 1mm前後の長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 57 | 96 | | I区-② | SE01 | 土師器 | 皿蓋 | (21.8) | (1.5) | | 7.5YR7/3 | 7.5YR7/3 | 良 | やや密 1~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 58 | 96 | 41 | I区-② | SE01 | 土師器 | 皿蓋 | | | | 2.5Y5/2 (一部)7.5YR5/4 | 2.5Y5/2 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの長石粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 59 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (12.7) | (1.0) | | (外側)2.5Y6/1 (中心)5Y5/1 | N5/0 | 良 | やや粗 1mm前後の石英・長石・黒色粒を多く含む他3mm前後の石英長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 60 | 96 | | I区-② | SE01 | 黒色土器 A類 | 埴 | | 2.0 | (6.85) | 5Y4/1 | 5Y4/1 | 良好 | やや密 0.5mm以下のカクセン石・金雲母を含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 61 | 96 | 41 | I区-② | SE01 | 緑釉陶器 | 埴 | (31.5) | (2.6) | | 2.5Y8/3 | 2.5Y8/3 | やや不良 | やや粗(精製) | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 62 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 甕 | | | | 10YR6/1 | (外側)2.5Y6/1 (中心)2.5Y6/2 | 良好堅緻 | やや粗 2mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 63 | 96 | | I区-② | SE01 | 瓦器 | 埴 | (15.8) | (5.6) | | N3/0 | N7/0 | 良好 | やや密 | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 64 | 96 | | I区-② | SE01 | 土師器 | 無台皿 | (20.0) | (1.75) | | 7.5YR6/6 | 5YR6/8 | 良 | 密(精製) 1mm前後の石英・長石粒をやや多く含む他赤色粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 65 | 96 | | I区-② | SE01 | 土師器 | 無台皿 | (22.6) | (2.9) | | 2.5Y7/2 | 7.5YR6/6 | 良好 | 密(精製) 0.5mm以下の石英粒を僅かに含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 66 | 96 | | I区-② | SE01 | 土師器 | 甕 | (20.0) | (2.8) | | 7.5YR7/4 | 5YR7/6 | 良 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を大量に含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 67 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 皿 | (14.9) | (2.1) | | N6/0 | N6/0 | 良 | やや密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 68 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 無台皿 | | (0.9) | (14.8) | 2.5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | やや密 0.5mm前後の長石粒をやや多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 69 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (20.0) | (1.8) | | 2.5Y4/1 | 5Y5/1 | 良好 | 密 1mm前後の長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 70 | 96 | | I区-② | SE01 | 須恵器 | 甕 | (22.7) | (2.7) | | N6/1 | 2.5YR4/2 | 良好堅緻 | 密 1mm前後の長石粒を多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 71 | 96 | | I区-② | SE01 | 黒色土器 B類 | 埴 | (14.0) | (3.0) | | 7.5Y3/1 | 5Y4/1 | 良好 | 緻密 0.5mm以下の長石雲母をやや多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 72 | 96 | 41 | I区-② | SE01 | 緑釉陶器 | 埴 | | (0.9) | (6.6) | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 良 | やや密 0.1mm以下の赤色粒をやや多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 73 | 96 | | II区 | SE03 | 須恵器 | 無台坏 | | (1.3) | (9.6) | 10Y5/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 74 | 96 | | II区 | SE03 | 須恵器 | 壺 | | (3.1) | (19.8) | 5PB6/1 | (外側)5PB7/1 (中心)2.5YR5/3 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 75 | 97 | 41 | I区-① | SK01 | 土師器 | 無台皿 | (21.5) | 2.7 | | 2.5Y7/3 | (外側)2.5Y7/2 (中心)7.5Y6/4 | 良 | 密(精製) 0.5mm以下の石英・長石粒を大量に含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 76 | 97 | | I区 | SK02 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.4) | (10.9) | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 不良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 77 | 97 | | II区 | SK04 | 土師器 | 坏 | (14.8) | (2.7) | | 7.5YR4/6 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | 回転指ナデ | | 回転指ナデ | 反転復元 | |

| 報告番号 | 写真番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|------|------|-------|------------|---------|-------|--------------|--------|-------------------|----------|----------------------------|------|----------------------------|-----|-------------------------|-----------------------------------|------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 78 | 97 | I 区 | SK01 | 土師器 | 埴 | (15.0) | (3.0) | 7.5YR6/6 | 7.5YR6/6 | 7.5YR6/6 | やや不良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 79 | 97 | II 区 | SK04 | 須恵器 | 埴 | (13.4) | (3.8) | 10YR7/4 | 2.5Y8/2 | 5Y8/2 | 不良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | 摩滅により不明(ヘラミガキ?) | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 80 | 97 | II 区 | SK04 | 黒色土器 A類 | 埴 | (現存長) 4.6 | 1.7 | 5Y3/1 | 2.5Y8/2 | 5Y5/1 | 良 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | ヘラミガキ(摩滅) | | |
| 81 | 97 | II 区 | SK04 | 土師器 | 管状土埴 | (現存長) 4.6 | 1.9 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/6 | 7.5YR6/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | 4/5 | 穿孔 四角柱状の棒状工具により両端から穿孔 | ヘラ削りのち指ナデ | | |
| 82 | 97 | II 区 | SK08 | 土師器 | 皿 | (15.7) | 2.0 | 5YR6/8 | 7.5YR7/8 | 7.5YR7/8 | やや不良 | 密(精製) 1~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 剥落により不明 | 剥落により不明 | 反転復元 | |
| 83 | 41 | II 区 | SK08 | 須恵器 | 杯 | (15.4) | (2.9) | 2.5Y8/2 | 5Y7/1 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 84 | 97 | II 区 | SK08 | 須恵器 | 埴 | (13.7) | (3.3) | 2.5Y8/2 | 5Y5/2 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 85 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師器 | 無台付 | (17.0) | 5.65 | 5YR4/6 | 2.5YR5/6 | 7.5YR6/4 | 良好 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | 1/3 | ヘラミガキのち一段の放射状 | ヘラミガキ(摩滅) 底部:手持ちヘラ削り(摩滅) | | |
| 86 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師器 | 皿 | (22.6) | (1.8) | 7.5YR7/3 | 10YR7/4 | 2.5YR7/6 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅 | 横ナデヘラミガキ(摩滅) | 反転復元 | |
| 87 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師器 | 高台付皿 | (28.3) | 3.1 | 10YR7/2 5YR3/6 | 7.5YR8/4 | 10YR7/2 | 良好 | 密(精製) 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | ヘラミガキ(摩滅) 赤色顔料塗布 | ヘラミガキ(摩滅) 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 88 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師器 | 高台付皿 | (現存長) (17.1) | (7.6) | 2.5YR6/6 | 2.5Y8/3 | 2.5Y8/2 | 良好 | やや粗 2mm前後の石英・長石を若干含む | | 見込・放射状暗文 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 89 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師質 | 甕 | (現存長) (12.4) | (6.4) | 2.5YR6/8 | 5YR6/8 | 2.5YR6/8 | 良好 | 密(精製) 1mm以下の石英・長石粒を多く含む | | ハケのち板ナデ | 摩滅 | 反転復元 | |
| 90 | 98 | I 区-① | SD01 | 土師質 | 甕 | (現存長) (12.4) | (6.4) | 10YR6/3 | 10YR7/4 | 10YR6/2 | 良 | 粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 指ナデ | 板ナデ | | |
| 91 | 98 | I 区-① | SD01 | 須恵器 | 杯 | (12.7) | (1.7) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好 | 密 0.1mm以下の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 92 | 98 | I 区-① | SD01 | 須恵器 | 杯 | (13.9) | (2.9) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 93 | 98 | I 区-① | SD01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (1.6) | (1.6) | 5B6/1 | 5B6/1 | 5B6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 見込:丁寧な不定方向の指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 94 | 98 | I 区-① | SD01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (16.0) | (1.3) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 95 | 98 | I 区-① | SD01 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (17.5) | (0.8) | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 96 | 98 | I 区-① | SD02 | 須恵器 | 甕 | (2.5Y6/1) | 10Y3/1 | 2.5Y6/1 | 10Y3/1 | (外側)2.5Y7/1 (中心)2.5Y7/2 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | タタキ | | |
| 97 | 98 | I 区-① | SD04 | 須恵器 | 高台付壺 | (4.3) | (4.3) | N4/0 | N6/0 | 2.5YR5/1 | 良好 | 密 1mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 自然袖付着のため不明 | 反転復元 | |
| 98 | 98 | I 区-① | SD09 | 須恵器 | 杯 | (11.3) | (2.4) | N6/0 | 10Y5/1 | 7.5YR6/3 | 良好 | 密 0.1mm以下の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 99 | 98 | I 区-① | SD10 | 須恵器 | 杯 | (14.0) | (3.1) | 5P85/1 | 5P86/1 | 5P87/1 | 良 | 粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 100 | 98 | I 区-① | SD10 | 須恵器 | 杯 | (11.5) | (3.2) | 5P7/1 | 5B7/1 | 7.5R7/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 101 | 98 | I 区-① | SD10 | 須恵器 | 高台付壺 | (1.95) | (1.95) | 5P7/1 | 5P86/1 | 2.5Y8/1 | 良 | やや粗 1mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 102 | 98 | I 区-① | SD11 | 土師器 | 杯 | (16.4) | (1.6) | 5YR6/6 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 赤色顔料塗布 | 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 103 | 98 | I 区-① | SD11 | 土師器 | 土鍋 | (50.8) | (5.7) | 10YR7/2 | 7.5YR4/6 | 5YR5/6 | 良好 | 粗 1~3mm石英・長石粒を大粒に含む | | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 104 | 98 | I 区-① | SD11 | 須恵器 | 杯 | (15.1) | (3.3) | 2.5Y6/1 | 5P87/1 | N7/0 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒・黒色粒子を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 105 | 98 | I 区-① | SD11 | 須恵器 | 高台付杯 | (15.1) | 4.2 | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良好 | やや粗 1mm前後の長石・黒色粒を多く含む | 1/2 | 体部:回転指ナデ 見込:不定方向の指ナデ | 体部:回転指ナデ 見込:不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 106 | 98 | I 区-① | SD12 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (12.6) | (1.4) | 10Y7/1 | 5Y7/1 | 10Y7/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 107 | 98 | I 区-① | SD12 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (16.0) | (1.1) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 108 | 98 | I 区-① | SD12-SR03? | 須恵器 | 平皿 | (6.6) | (7.6) | N6/0 | 5Y6/1 | (外側)5Y6/1 (中心)10YR7/2 | 良好 | 密(精製) | 1/2 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデのち布ナデ 底部:ヘラ削りのち手持ちヘラ削り | 反転復元 | |

| 種文 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 断面 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徵 | | 備考 |
|----------|----------|------------|-------------|------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------------|-------------------------|------|--|-----|-----------------------------------|---|------|
| | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 109 | 99 | I区-③ | SD18 | 土師器 | 皿 | (22.2) | (1.9) | 5YR6/6 | 5YR6/8 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒・カク セシ石の粒をやや多く含む | | 指ナデ 赤色顔料塗布 | 体部:指ナデ 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 110 | 99 | I区-① | SD18 | 土師器 | 皿蓋 | 16.5 | 2.8 | 5YR4/8 | 5YR4/8 | 良好 | 密(精製) | 2/3 | ヘラミガキ(磨滅) | 手持ちヘラ削り(磨滅) 握み天井部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 111 | 99 | I区-① | SD18 | 土師器 | 鉢 | (22.2) | (11.5) | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を含む や他1~3mmの長石粒を若干含む | | 板ナデ | 体部:磨滅 口縁部:ヘラ削り底部: ハケ | 反転復元 |
| 112 | 99 | I区-③ | SD18 | 土師器 | 甕 | (14.8) | (3.5) | 10YR8/4 | 10YR8/2 | やや不良 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を多く含む | | 指ナデ(磨滅) | 指ナデ(磨滅) | 反転復元 |
| 113 | 99 | I区-① | SD18 | 土師器 | 甕 | (31.6) | (16.4) | 7.5YR6/6 (一部5YR4/6) | 7.5YR6/6 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く 含む他2~5mmの石英・長石粒を若干 含む | | 体部:指押さえのち板ナ デ(磨滅) 口縁部:ハケ | 体部:ハケ 口縁部:ハケのち指ナデ | 反転復元 |
| 114 | 99 | I区-② | SD18 | 土師質 | 甕 | (現存長) (11.0) | (現存幅) (11.2) | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/6 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を大量 に含む他3mm前後の石英・長石粒を若干 含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのちハケ・指ナ デ併用 | |
| 115 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (転用説?) | | (1.7) | 5P86/1 | (上部)10G5/1 (下部)5R5/1 | 良好堅緻 | 緻密 1mm前後の長石粒を若干含む | 1/3 | 回転指ナデ 方向の指ナデ | 自然袖付着 | 反転復元 |
| 116 | 99 | I区-② | SD18 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (握みのみ) | | (1.8) | N7/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm前後の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 握みのみ |
| 117 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 長頸甕 | (11.4) | (11.4) | 5Y6/1 | 5Y6/1 (一部5Y5/1) | 良好堅緻 | 密(精製) | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 118 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | (14.6) | 4.9 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 粗 1mm前後の石英・長石粒を大量に 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 119 | 99 | I区-② | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | (14.6) | 3.9 | (上部)N7/0 (下部)N6/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多 く含む他0.5mm以下の長石粒を多く含む | 1/3 | 回転指ナデ見込:不定方 向の指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 120 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.4) | 7.5Y5/1 | 7.5Y5/1 | やや不良 | 粗 1mm以下の石英・長石粒を多く含む や多く含む | | 回転指ナデ見込:一文字 のヘラ削り | 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 121 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (3.3) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好 | 密 0.5~2mmの長石粒を多く含む | | 回転指ナデ見込:一文字 のヘラ削り | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 122 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.2) | N7/0 | 5Y7/1 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を若干含む や多く含む | | 回転指ナデ | 高台付杯部以外は未調 整 XFlのヘラ削り 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 123 | 99 | I区-③ | SD18 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (3.5) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をや や多く含む他0.5mm以下の長石粒を多く 含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 124 | 99 | I区③ II区 | SD18 包含層 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.5) | N7/0 | 5P86/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干 含む | 4/5 | 回転指ナデ | 回転ヘラ削り 高台周 辺:回転指ナデ 底部: 2条の一文字のヘラ削り | 反転復元 |
| 125 | 99 | I区 | SD18 | 黒色土器 A類 | 杯 | (13.0) | 3.75 | 5Y3/1 | 10YR7/4 10Y3/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く 含む | 1/3 | 体部:不連続な横方向の 指ナデ 底部:不定方向の指ナデ | 体部:不連続な横方向の 指ナデ 底部:ヘラ削りのち外縁 部のみ手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 126 | 99 | I区 | SD18 | 黒色土器 B類 | 鉢 | | (3.4) | 5Y3/1 | 5Y4/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を若干 含む | | ヘラミガキ | 体部:ヘラミガキ 底部:ヘラ削り | 反転復元 |
| 127 | 99 | I区-③ | SD18 | 土師器 | 棒状土鉢 | | (現存幅) (1.3) | 7.5YR6/8 | 10YR7/4 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く 含む | | 指ナデ | 指ナデ | |
| 128 | 99 | I区-① | SD20 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.6) | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | やや不良 | 見込:回転指ナデのち不 定方向の指ナデ | | 見込:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 高台周辺:指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 129 | 99 | I区-② | SD30 | 土師器 | 皿 | (28.0) | (2.4) | 7.5YR7/4 | 2.5YR5/6 | 良好 | 緻密(精製) | | 磨滅 | 磨滅 | 反転復元 |
| 130 | 99 | I区-② | SD30 | 土師器 | 高台付皿 | (24.1) | 3.3 | 7.5YR7/4 | 5YR4/6 | 良好 | 緻密(精製) | | 磨滅 | 磨滅 | 反転復元 |
| 131 | 99 | I区-② | SD30 | 須恵器 | 杯 | (17.5) | (4.6) | 5B6/1 | 10G5/6/1 | 良好堅緻 | 密 0.1mm以下の金雲母を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 132 | 99 | I区-② | SD30 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (14.0) | (1.4) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 1mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 133 | 99 | I区-② | SD30 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (13.5) | (1.6) | 5Y6/1 | (外側)N7/0 (中心)5YR7/1 | 良好堅緻 | 密 0.1mm以下の金雲母を多く含む他黒 色粒を若干含む | 1/5 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回 転ヘラ削りヘラ削り | 反転復元 |

| 種文 番号 | 種別 器種 | 構造名 | 調査区 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 調 断 | 焼成 | 胎土 | 熟存品 | 彫形・調整の特徵 | | 備考 |
|----------|----------|---------------|------|--------------|--------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------|-----------------------|-------------------------|---|-------------------------|------------------------|------|----|
| | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内 | 外 | |
| 134 | 99 | I区② SD30 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (12.1) | (1.8) | 5Y6/1 | 2.5Y7/1 (一部)5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の長石粒を多く含む | 回転指ナデ | 向の指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 135 | 99 | I区② SD30 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (14.0) | (0.8) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや密 0.5mm以下の長石粒をやや多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 136 | 99 | I区② SD30 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (14.9) | (1.1) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや密 1mm以下の長石粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 137 | 99 | I区② SD31 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (14.4) | (1.4) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 不良 | 緻密 1mm前後の長石・黒色粒をやや多く含む | 摩滅 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 138 | 100 | I区③ SD36 | 土師器 | 甕 (18.0) | (3.2) | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/4 | (外側)10YR8/2 (中心)7.5YR7/4 | 7.5YR8/2 | やや不良 | 密 1~3mmの石英・長石粒を多く含む他金霰赤色粒を若干含む | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 139 | 100 | I区② SD36 | 土師器 | 甕 (2.45) | (2.45) | 5YR6/8 | 5YR6/8 | 10YR6/2 | 5YR6/6 | 良 | やや粗 1~3mmの石英・長石粒を多く含む他カクセ石を若干含む | ハケ | 指ナデ | | |
| 140 | 100 | I区① SD16 | 土師器 | 甕 24.8 | 2.8 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/6 | 良好 | やや密 1mm以下の石英・長石粒を多く含む | ハケのち指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 141 | 100 | I区② SD36 | 土師器 | 甕 (31.6) | (4.8) | 5YR6/6 | 10YR8/3 | 10YR8/6 | 10YR8/2 | やや不良 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を大量に含む | 体部:ハケ(摩滅) 口縁部:指ナデ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 142 | 100 | I区② SD36 | 須惠器 | 杯 (16.6) | (2.4) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | N6/0 | 5Y6/1 | 良 | 密 0.5mm前後の長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 143 | 100 | I区② SD36 | 須惠器 | 杯 (13.8) | (3.5) | 7.5YR5/1 | 7.5YR5/1 | N6/0 | 10YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mmの石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 144 | 100 | I区② SD36 | 須惠器 | 高台付杯身 (1.3) | (1.3) | N6/0 | N6/0 | 5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を大量に含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 145 | 100 | I区② SD36 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (17.0) | (1.3) | N7/0 | N7/0 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | 密 0.5mm以下の長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 146 | 100 | I区② SD37 | 弥生土器 | 鉢 (12.0) | (6.3) | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | (外側)2.5Y6/3 (中心)10YR2/1 | 1/5 | やや粗 1~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | 指押さえのち板ナデ | 指押さえのち板ナデ | ヘラ削りのち指ナデ | 反転復元 | |
| 147 | 100 | I区③ SD37 | 土師器 | 無台杯 (19.0) | (3.8) | 7.5YR4/4 | 7.5YR4/4 | 10YR5/4 | 10YR5/4 | 良好 | やや密 0.5mm以下の石英・長石粒・金霰母をやや多く含む | ヘラミガキのち放射状暗文赤色顔料散布 | 体部:ヘラミガキ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 148 | 100 | I区③ SD12・SD37 | 土師器 | 無台杯 (22.5) | (3.5) | 2.5YR4/8 | 2.5YR4/8 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/6 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を大量に含む他0.1mm以下のカクセ石を僅かに含む | ヘラミガキ 体部:放射状暗文赤色顔料散布 | 体部:ヘラミガキ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 149 | 100 | I区② SD37 | 土師器 | 皿 (20.4) | 1.8 | 5YR6/8 | 5YR6/8 | 5YR4/4 | 2.5YR5/8 | 良好 | 密(精製) | 指ナデ(摩滅) | 指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 150 | 100 | I区② SD37 | 土師器 | 皿 (20.4) | (2.45) | 2.5YR4/8 | 2.5YR4/8 | 7.5YR6/4 | 7.5YR4/4 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | 指ナデ | 体部:ヘラミガキ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 151 | 100 | I区③ SD37 | 土師器 | 無台皿 (20.2) | (2.4) | 5YR7/4 | 5YR7/4 | 7.5YR7/6 | 7.5YR7/6 | 良好 | 密(精製) | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 152 | 100 | I区② SD37 | 土師器 | 無台皿 (24.8) | (1.7) | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 5YR5/6 | 5YR6/6 | 良好 | 密 5mm以下の長石粒・金霰母を若干含む | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 153 | 100 | I区③ SD37 | 土師器 | 埴 (20.0) | (4.1) | 7.5YR5/3 | 7.5YR5/3 | 10Y5/1 | 10Y5/1 | 良好堅緻 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を大量に含む | 指押さえのち横ナデ(摩滅) | 指押さえのち横ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 154 | 100 | I区③ SD37 | 土師器 | 鉢 (31.0) | (7.4) | 2.5YR5/8 | 2.5YR5/8 | 2.5YR6/8 | 2.5YR6/8 | 良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | 板ナデ | ハケ | 反転復元 | |
| 155 | 100 | I区② SD37 | 土師器 | 甕 (20.7) | (4.7) | 10YR6/3 | 7.5YR6/4 | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 良 | 密(精製?) 1mm前後の長石粒をやや多く含む | 摩滅 | 摩滅 | 反転復元 | |
| 156 | 100 | I区③ SD37 | 土師器 | 甕 (13.6) | (5.1) | 2.5Y3/1 (一部)2.5YR6/8 | 2.5Y3/1 (一部)2.5YR6/8 | 2.5YR5/6 | 2.5YR6/8 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 157 | 100 | I区③ SD37 | 須惠器 | 無台杯 (1.6) | (1.6) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | 密 0.5~1mmの黒色粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ 見込:不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 158 | 100 | I区② SD37 | 須惠器 | 杯 (14.4) | (3.4) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 2.5Y5/1 | (外側)5Y7/1 (中心)N6/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mm石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 159 | 100 | I区③ SD37 | 須惠器 | 杯 (16.9) | (3.4) | N6/0 | N6/0 | (外側)N6/0 (中心)5YR5/2 | 5Y7/1 | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を含む他2~3mmの石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 160 | 100 | I区③ SD37 | 須惠器 | 杯 (16.1) | (3.9) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | 密 0.5~1mmの黒色粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 161 | 100 | I区② SD37 | 須惠器 | 高台付杯身 (3.1) | (3.1) | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y4/1 | 良好 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他1mm以下の黒色粒を大量に含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 162 | 100 | II区① SD37 | 須惠器 | 高台付杯身 (1.0) | (1.0) | N7/0 | N7/0 | 2.5Y6/1 | N7/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 163 | 100 | I区③ SD37 | 須惠器 | 高台付杯蓋 (横みのみ) | | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 横みのみ | |

| 編 号 | 種 類 | 写真 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種 別 | 器 種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 調 | | 焼 成 | 胎 土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備 考 |
|-----|-----|----------|--------------|----------------------|-----|----------------|--------|--------|-----------------------|-----------------------|---|------|-----|-------------------|---------------------------------------|-----------------------|-----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 面 | 外 面 | |
| 164 | 100 | | I区-③ | SD37 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (30.6) | (2.8) | 5Y7/1 | 10Y7/1 (中心)N5/0 | 10Y7/1 | | 1/5 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 回転復元 | |
| 165 | 100 | 42 51 | I区-③ | SD37 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (19.2) | (2.4) | 5PB6/1 | N6/0 | N7/0 | 良好 | 3/4 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 回転復元 | |
| 166 | 100 | | I区-② | SD37 | 須恵器 | 短頸壺 | (11.6) | (2.75) | 5PB5/1 | 2.5Y6/1 | (外側)カラ 2.5Y7/1, 5PB4/1, 5P5/1, 5PB5/1 | 良好 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 167 | 100 | | I区-③ | SD37 | 須恵器 | 壺 | (4.6) | (4.6) | 2.5Y7/1 (一部)10Y3/2 | 2.5Y6/1 (一部)10Y3/2 | (外側)2.5Y8/1 (中心)2.5Y6/1 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 濃緑灰色自然軸 | 回転復元 159と同一 個体? | |
| 168 | 100 | | I区-② I区-③ | 包含層 SD37・機械 掘削 | 須恵器 | 壺 | (23.4) | (10.1) | 5PB5/1 | 5PB5/1 (一部)N5/0 | 7.5R5/2 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 体部:タタキのち回転指 ナデ 口縁部:回転指ナデ | 回転復元 | |
| 169 | 101 | | I区-② | SD39 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.6) | (1.2) | 2.5Y6/1 | 2.5Y5/1 | (外側)2.5Y6/1 (中心)N5/0 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 不定方向の指ナデ | 回転復元 | |
| 170 | 101 | | I区-② | SD40 | 土師器 | 坏 | (16.2) | (3.3) | 7.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/4 | 良好 | | 指ナデ | 指ナデ | 回転復元 | |
| 171 | 101 | | I区-② | SD40 | 土師器 | 埴 | (14.8) | (3.0) | 7.5YR6/6 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 良好 | | 指ナデ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 指ナデ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 回転復元 | |
| 172 | 101 | | I区-② | SD40 | 土師器 | 皿蓋 | (14.2) | (1.4) | 5YR5/8 | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 良好 | 1/5 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 赤色顔料塗布 | 回転復元 | |
| 173 | 101 | | I区-② | SD40 | 須恵器 | 坏 | (17.4) | (1.8) | 2.5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 174 | 101 | | I区-② | SD41 | 土師器 | 無台坏 | (18.7) | (3.9) | 7.5YR7/4 | 5YR5/6 | 5YR7/6 | 良好 | | 回転指ナデ | 体部:ヘラミガキ 底部:手持ヘラ削り | 回転復元 | |
| 175 | 101 | | I区-② | SD41 | 土師器 | 無台坏 | 17.2 | | 7.5YR3/3 | 10YR5/4 | 7.5YR6/6 | 良好 | | 回転指ナデ | 手持ヘラ削り 体部:指ナデ 赤色顔料塗布 | 回転復元 | |
| 176 | 101 | 42 | I区-② | SD41・SD42 | 土師器 | 無台坏 | (18.9) | 2.9 | 7.5Y5/4 | 7.5Y5/4 | 7.5Y5/4 | 良好 | 1/2 | 磨滅 | 体部:指ナデ(磨滅) 底部:手持ヘラ削り (磨滅)赤色顔料塗布 | 回転復元 | |
| 177 | 101 | | I区-② | SD41 | 土師器 | 皿 | (23.6) | (1.9) | 7.5Y5/4 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 良 | | 磨滅 | 磨滅 | 回転復元 | |
| 178 | 101 | | I区-② | SD41 | 土師器 | 高坏 | | (4.5) | 5YR7/6 | 5YR7/6 | 5YR7/6 | 良好 | | 磨滅 | 脚部:ヘラ削りによる 面取り | 回転復元 | |
| 179 | 101 | | I区-② | SD41 | 土師器 | 壺 | (14.9) | (2.8) | 5YR5/6 | 5YR6/6 | 5YR7/6 | 良好 | | ハケ | ハケ口唇部:指ナデ | 回転復元 | |
| 180 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 無台坏 | | (3.4) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | 1/3 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:ヘラ削りのち回転 指ナデ(磨滅) | 回転復元 | |
| 181 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.6) | 5Y5/1 | N6/0 | (外側)N6/0 (中心)5Y5/1 | 良好 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 182 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 坏 | (15.0) | (2.0) | 5Y6/1 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 良好 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 183 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 坏 | (13.7) | (3.9) | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 良好 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 184 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 坏 | (10.0) | (2.0) | 5Y3/1 | 5Y3/1 | 5YR5/2 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 185 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (13.6) | (1.2) | 5Y4/1 | 5Y5/1 | (外側)5Y5/1 (中心)7.5YR6/1 | 良好堅緻 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 186 | 101 | | I区-② | SD41 | 須恵器 | 高台付坏蓋 (転用破) | (14.0) | (1.1) | N5/0 | N6/0 | N6/0 | 良好堅緻 | 1/3 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:磨滅 | 回転復元 | |

| 編入 番号 | 種別 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 構成 | 胎土 | 残存区 | 整形・調整の跡 | | 備考 |
|----------|----------|------|---------------|------------|-------|-----------------|----------------|---------------|----------------------|-------------|----------------------------|---------|-------|---------------------|---------------------|----------------------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 187 | 101 | I区-② | SD41・SD42 | 須臾器 | 高台付壺 | (5.0) | (5.0) | (8.0) | N6/0 | 5Y4/1 | (外側)2.5Y7/1 (中心)5B6/1 | 2.5Y6/1 | 反転指ナデ | 見込:反転方向の指ナデ | 反転指ナデ | 反転復元 |
| 188 | 101 | I区-② | SD41 | 須臾器 | 把手 | | | | 2.5Y6/1 | 5B6G/1 | 2.5Y6/1 | 反転指ナデ | | | | 189と同一 個体? |
| 189 | 101 | I区-② | SD41 | 黒色土器 A類 | 壺 | (14.8) | (1.7) | (15.7) | 5Y3/1 | 2.5Y8/2 | (外側)2.5Y8/2 (中心)2.5Y8/1 | 2.5Y4/2 | 反転指ナデ | ヘラミガキ(磨滅) | 口縁部周辺のみ指ナデ | 反転復元 |
| 190 | 101 | I区-② | SD41 | 黒色土器 B類 | 鉢 | (14.3) | (4.9) | (15.7) | 5Y3/1 | 5Y4/1 | 2.5Y4/2 | 2.5Y4/2 | 反転指ナデ | 精緻なヘラミガキ | 精緻なヘラミガキ | 反転復元 |
| 191 | 101 | I区-② | SD42 | 土師器 | 坏 | (12.8) | 2.95 | (9.2) | 10YR7/4 | 10YR7/2 | (外側)10YR8/2 (中心)5Y4/1 | | 反転指ナデ | 赤色顔料塗布 | 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 192 | 101 | I区-② | SD42 | 土師器 | 坏 | (18.9) | (3.2) | (15.7) | 7.5YR6/4 | 10YR6/4 | 7.5YR6/4 | | 反転指ナデ | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 193 | 101 | I区-② | SD42 | 土師器 | 坏 | (20.0) | (3.6) | (15.7) | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | | 反転指ナデ | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 194 | 101 | I区-③ | SD42 | 土師器 | 壺 | (32.7) | (3.6) | (3.6) | 10YR4/3 | 10YR4/2 | 7.5YR6/6 | | 反転指ナデ | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 |
| 195 | 101 | I区-③ | SD42 | 土師器 | 壺 | (31.4) | (2.2) | (2.2) | 10YR5/4 | 10YR5/4 | 10YR5/4 | | 反転指ナデ | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 |
| 196 | 101 | I区-② | SD42 | 土師質 | 壺 | (現存長) (33.0) | (現存幅) (6.0) | (厚さ) (6.0) | 7.5YR4/6 | 10YR5/4 | 7.5YR5/4 | | 反転指ナデ | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 |
| 197 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 坏 | (16.7) | (4.8) | (4.8) | 2.5Y6/1 | 5Y5/1 | (外側)5Y5/1 (中心)N5/0 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 198 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 坏 | (18.2) | (2.2) | (2.2) | N6/0 | N6/0 | (外側)N6/0 (中心)5Y7/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 199 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 坏 | (16.1) | (3.85) | (3.85) | N7/0 | N4/0 | 5YR5/2 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 200 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 坏 | (14.1) | (2.2) | (2.2) | 10Y5/1 | 5Y5/1 | 10Y6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 201 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | (12.5) | 4.4 | (8.9) | N6/0 | N4/0 | N6/0 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 202 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | (12.1) | (3.75) | (3.75) | 5Y5/1 | N5/0 | (外側)N5/0 (中心)5YR5/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 203 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | | (1.7) | (10.1) | N5/0 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 204 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | | (1.1) | (11.8) | 2.5Y6/1 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 205 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | | (1.4) | (12.0) | N5/0 | 5B4/1 | N7/0 (外側)7.5R5/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 206 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 高台付坏身 | | (2.1) | (9.8) | 2.5Y7/1 | 5Y6/1,5Y5/1 | 5Y6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 207 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 皿C | (19.7) | (3.3) | (3.3) | 10B5/1 | 10B5/1 | 10B6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 208 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 皿C | (18.3) | (2.0) | (14.3) | 10B5/1 | 10B5/1 | 10B6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 209 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 無台皿 | (14.3) | (1.8) | (10.8) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 210 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (18.0) | (1.4) | (1.4) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 211 | 101 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (14.8) | (1.4) | (1.4) | 10G5/1 | 10B4/1 | 10G6/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 212 | 101 | I区-③ | SD42 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (12.8) | (1.1) | (1.1) | N7/0 | 5B6G/1 | 10Y7/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 213 | 102 | I区-② | SD42 遺構面精査 | 須臾器 | 壺 | (22.0) | (4.1) | (4.1) | 5Y5/1 | N5/0 | 2.5YR5/2 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 95と同一 個体? |
| 214 | 102 | I区-② | SD42 | 須臾器 | 壺 | (22.0) | (4.3) | (4.3) | 2.5Y7/1 (下方)5Y8/1 | 2.5Y5/1 | (外側)5Y7/1 (中心)5Y5/1 | | 反転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |

| 神文 番号 | 神図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 断面 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------------|--------------|------------|------|----------------|--------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|------|---|-----|-----------------------------|--|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内 | 外 | |
| 215 | 102 | | I区② | SD42 | 黒色土器 A類 | 埴 | (12.5) | (3.1) | 5Y6/1 | 7.5YR6/6 | (外側)7.5YR6/6 (中心)5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 外部 体部:ヘラミガキ 口縁部周辺:指ナデ | 反転復元 | |
| 216 | 102 | | I区③ | SD42 | 黒色土器 A類 | 埴 | (現存長) (4.1) | (1.1) | 10YR7/2 | 5YR8/3 | 5YR7/3 | 不良 | 密(精製) 1mm以下の赤色粒を多く含む | | 摩滅 | 外部 摩滅 | 反転復元 | |
| 217 | 102 | | I区③ | SD42 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (4.1) | (1.5) | 10YR6/3 (一部) 2.5YR6/6 | 2.5Y6/2 2.5Y4/1 | 10YR6/3 10YR6/3 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒を若干含む0.5mm以下のカクセン石・金雲母を多く含む | 1/1 | 指ナデ | 外部 全面:ヘラミガキ | 反転復元 | |
| 218 | 102 | 42 53 | I区② | SD44 | 土師器 | 無台杯 | 16.7 | 4.6 | 10YR7/3 (一部) 2.5YR6/6 | 7.5YR7/4 | 10YR6/3 10YR6/3 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 摩滅により不明 赤色顔料塗布 | 外部 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 219 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 杯 | (17.0) | (2.8) | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 指ナデ 赤色顔料塗布 | 外部 体部:指ナデ 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 220 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 杯 | (14.6) | (4.1) | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 7.5YR7/4 | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 指ナデ 赤色顔料塗布 | 外部 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 221 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 杯 | (13.8) | (3.0) | 5YR5/6 | 5YR6/8 | 2.5YR5/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 外部 体部:ヘラミガキ(摩滅) 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 222 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 杯 | (20.0) | (3.85) | 10YR6/4 | 7.5YR6/4 | 10YR7/4 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | ヘラミガキのち放射状暗文(摩滅)赤色顔料塗布 | 外部 体部:ヘラミガキ(摩滅) 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 223 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 杯 | (23.5) | (2.4) | 7.5YR5/4 | 5YR4/6 | 7.5YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他3mm程度の長石粒を僅かに含む | | 摩滅 | 外部 ヘラミガキ(摩滅) | 反転復元 | |
| 224 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 無台皿 | (23.7) | 1.6 | 10YR5/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR7/6 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む | | 剥落 | 外部 体部:剥落 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 225 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 皿 | (22.2) | (2.2) | 10YR4/4 | 10YR6/4 | 7.5YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む他カクセン石・金雲母を僅かに含む | | 摩滅により不明 赤色顔料塗布 | 外部 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 226 | 102 | | I区② I区③ | SD44 SD68 | 土師器 | 埴 | (13.0) | (4.7) | 5YR4/4 | 5YR5/4 | (外側)5YR5/4 (中心)5GY6/1 | 良好堅緻 | 粗 1~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 精緻な指ナデ | 外部 指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 227 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 甕 | (7.7) | (7.7) | 10YR7/4 | 7.5YR7/5 | 7.5YR7/5 | 良好 | 粗 0.5~1mm以下の石英・長石粒を大量に含む他3mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 体部:板ナデ 口縁部:ハケ | 外部 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 228 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 甕 | (29.4) | (6.1) | 2.5Y5/3 | 2.5Y5/3 | 7.5YR6/6 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | ハケ | 外部 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 229 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 甕 | (30.0) | (7.0) | 2.5Y6/2 | 2.5Y7/3 | 2.5Y7/3 | 良好 | 粗 0.5~3mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 外部 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 230 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 甕 | (26.6) | (9.1) | 5YR4/6 | 5YR4/4 | 5YR5/6 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む | | 体部:板ナデ(摩滅) 口縁部:ハケのち一部指ナデ | 外部 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 231 | 102 | | I区② | SD44 | 土師器 | 甕把手 | | | 5YR6/6 | 10YR7/2 (一部) 2.5YR7/6 | 7.5YR7/4 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 指押さえで本体に貼付け | 外部 指押さえと指ナデで成形したのち、体部外面ハケ調整ハケは把手部分分まで及ばず | 反転復元 | |
| 232 | 102 | | I区① | SD44 | 土師器 | 高杯 | | (5.5) | 2.5Y6/2 | 2.5Y7/3 | 2.5Y5/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む他5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 見込:ハケ 体部:ハケのち板ナデ | 外部 突帯部:不連続な回転指ナデ 体部:ハケのち板ナデ 口縁部:接合部、手びねりで作出し 底部:脚から外へ向けて放射状にハケ | 反転復元 | |
| 233 | 102 | 42 51 | I区② | SD30・SD44 | 須恵器 | 無台杯 | (14.6) | (3.5) | N7/0 | N6/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 密 1~2mm前後の石英・長石粒を若干含む他1mm以下の黒色粒を大量に含む | 2/3 | 精緻な回転指ナデ | 外部 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 234 | 102 | | I区① | SD44 包含層 | 須恵器 | 無台杯 | (13.0) | 4.4 | 2.5YR6/1 | 5PB7/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 外部 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち不定方向の指ナデ | 反転復元 | |

| 報文 番号 | 種別 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 通称名 | 種別 | 器種 | 口径(mm) | 器高 | 底径 | | 色調 | | 断 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------|-----------|-----|--------------|--------|-------|--------|-----------------|---------|----------------------------|------|-----------|---|-----|------------------------------------|-----------------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 内 | 外 | | | | | 内 | 外 | |
| 235 | 102 | | I区-③ | SD44 | 須惠器 | 無台坏 | | (2.0) | (10.0) | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 良 | やや粗 含む | 0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ 底部:回転へう切りのみ 未調整 | 回転指ナデ 底部:回転へう切りのみ 未調整 | 反転復元 |
| 236 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 無台坏 | | (1.6) | (10.1) | 5PB7/1 | 5PB6/1 | 5RP7/1 | 良好堅緻 | 密 | | | 回転指ナデ 底部:回転へう切り | 回転指ナデ 底部:回転へう切り | 反転復元 |
| 237 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (4.8) | (11.9) | 5PB6/1 | 5B4/1 | (外側)5PB6/1 (中心)2.5YR6/1 | 良好堅緻 | やや粗 含む | 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデのち見込に 不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転へう切り | 反転復元 |
| 238 | 102 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | (13.8) | 4.4 | (9.1) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 含む | 0.5~2mmの赤色粒を多く含む | 1/3 | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 239 | 102 | | I区-② | SD39・SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | (12.5) | 4.3 | (9.6) | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 緻密 | 1mm以下の黒色粒を大量に含む | | 体部:回転指ナデ 見込:回転指ナデのち不定 方向の指ナデ | 精緻な指ナデ | 反転復元 播磨産? |
| 240 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | (13.0) | 4.0 | (9.8) | N7/0 | N6/0 | 5Y7/1 | 良好 | やや粗 含む | 0.5~2mmの黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 241 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | (13.6) | 4.6 | (9.5) | 5Y7/1 | 7.5Y5/1 | 10Y8/1 | やや不良 | 粗 含む | 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へう切り | 反転復元 |
| 242 | 102 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (4.2) | (7.8) | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 不良 | やや粗 含む | 0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | 1/3 | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 243 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (2.3) | (10.6) | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 含む | 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転へう切り | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転へう切り | 反転復元 |
| 244 | 102 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.1) | (6.6) | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 含む | 0.5mm以下の石英・長石粒を含む 1~5mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 245 | 102 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.2) | (10.0) | N7/0 | N7/0 | 2.5Y8/1 | 良好 | 密 | 0.5mm以下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転へう切り | 反転復元 |
| 246 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 坏 | (18.6) | (5.2) | | 10BG5/1 | 10BG5/1 | 10BG5/1 | 良好 | 粗 含む | 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む 他3~5mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 247 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 坏 | (13.8) | (1.9) | | 10YR5/2 | 2.5Y5/2 | 2.5Y5/1 | 不良 | 密 | 0.5mm以下の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 248 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 坏 | (13.7) | (3.1) | | N6/0 | N7/0 | N7/0 | 良 | やや粗 含む | 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 249 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 坏 | (13.8) | (3.2) | | 5PB7/1 | N7/0 | N7/0 | 良 | やや粗 含む | 1mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 250 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 坏 | (11.8) | (2.4) | | N7/0 | 5Y6/1 | N7/0 | 良好 | やや粗 含む | 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 251 | 103 | 42 | I区-① | SD44 | 須惠器 | 坏B蓋 (転用説) | (16.2) | (2.7) | | 5PB7/1 | N6/0 | N7/0 | 良好 | 密 | 1~2mmの石英・長石粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデ 天井部:回転へう切り | 回転指ナデ 天井部:回転へう切り | 反転復元 |
| 252 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (17.0) | (1.6) | | 10Y6/1 | N5/0 | 10Y6/1 | 良好 | 密 | 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 253 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (20.8) | (0.7) | | 10BG5/1 | 5PB6/1 | 10BG5/1 | 良好 | 密 | 0.5mm以下の石英・長石粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 254 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (15.6) | (1.8) | | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y8/1 | 不良 | 粗 含む | 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 255 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (15.8) | (1.0) | | 5B3/1 5PB6/1 | 5R5/1 | 2.5YR4/3 | 良好堅緻 | 緻密 | | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 256 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (14.2) | (1.5) | | 5PB7/1 | 2.5Y6/1 | 7.5R6/1 | 良好堅緻 | やや粗 含む | 2mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち天井部 に不定方向の指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転へう切り | 反転復元 |
| 257 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (13.9) | (1.3) | | N7/0 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 含む | 0.5mm前後の長石・黒色粒を やや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 258 | 103 | | I区-① | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (13.7) | (1.3) | | 5PB7/1 | 5P4/1 | (外側)5PB5/1 (中心)2.5YR5/2 | 良好堅緻 | 密 含む | 1mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 1/3 | 回転指ナデのち天井部 に不定方向の指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転へう切り | 反転復元 |
| 259 | 103 | | I区-② | SD44 | 須惠器 | 高台付坏蓋 | (11.8) | (1.2) | | 5Y6/1 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 含む | 0.5mm前後の長石・黒色粒を やや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |

| 編文 番号 | 標記 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 口径 | | 断面 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-------------------------------|------------|---------------------|--------|--------|----------|----------------------------|-----------------------------|--------------|---|-----|--------------------------|---|-----------------------|----|----|
| | | | | | | | | | 口径 | 底径 | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 260 | 103 | 42 | I区-① SD44 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (備みのみ) | (11.4) | (2.4) | 5P7/1 | 5PB7/1 (自然軸)10Y4/2 | N7/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む他1mm以下の長石粒を若干含む | 1/2 | 回転指ナデ 天井部・回転へら削り | 回転指ナデ 天井部・回転へら削り | 反転復元 | | |
| 261 | 103 | | I区-② SD44 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (備みのみ) | (1.4) | (1.2) | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 握み頂部・指ナデ | 握み頂部・指ナデ | | | |
| 262 | 103 | | I区-② SD44 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (備みのみ) | (1.2) | (1.2) | 7.5Y5/1 | 5Y5/1 | 2.5GY6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 握み頂部・回転指ナデの ち不定方向の指ナデ | 握み頂部・回転指ナデの ち不定方向の指ナデ | | | |
| 263 | 103 | | I区-② SD44 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (備みのみ) | (1.2) | (1.2) | 10BG5/1 | 10GS/1 | 10BG6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 握み頂部・回転指ナデ | 握み頂部・回転指ナデ | | | |
| 264 | 103 | | I区-② SD44 | 須恵器 | 高台付杯蓋 (備みのみ) | (1.3) | (1.3) | 10Y7/1 | N7/0 | 10Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多 く含む | | 回転指ナデ(磨減) | 回転指ナデ(磨減) | | | |
| 265 | 103 | | I区-① 包含層 I区-② SD44 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (20.4) | (6.2) | 5Y3/1 | 5YR5/6 | (外側)2.5YR6/6 (中心)2.5Y6/2 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多 く含む | | ヘラミガキ(磨減) | 体部・磨減により不明 口縁部・指ナデ | 反転復元 | | |
| 266 | 103 | | I区-① 包含層 I区-② SD44 | 黒色土器 B類 | 鉢 | 26.4 | 3.5 | 5Y3/1 | 5YR4/6 | (外側)5YR6/6 (中心)2.5Y6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多 く含む他同程度の金雲母を僅かに含む | | ヘラミガキ(磨減) | 体部・磨減により不明 口縁部・ヘラミガキ 口縁部・指ナデ | 反転復元 | | |
| 267 | 103 | | I区-① SD44 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (21.9) | (3.4) | 5Y3/1 | 2.5Y4/1 2.5YR6/8 | 5Y3/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | ヘラミガキ(磨減) | 体部・磨減により不明 口縁部・指ナデ | 反転復元 | | |
| 268 | 103 | 42 | I区-① SD44 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (24.3) | (8.2) | 5Y2/1 | 5Y3/1 5YR4/6 | 10Y6/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・金雲 母を多く含む | | 指押さえのち指ナデ(磨 減) | 体部・ハケ 口縁部・指ナデ | 反転復元 53と同一 個体? | | |
| 269 | 103 | 42 | I区-② SD44 | 須恵器 | 壺 | | (12.3) | N7/0 | 2.5Y6/1 | N7/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を僅かに 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 148と同一 個体? | | |
| 270 | 103 | | I区-③ SD44 | 須恵器 | 高台付壺 | | (9.8) | 5Y7/1 | 10Y5/1 | (外側)5Y7/1 (中心)N6/0 | 良好 | 0.5~1mmの長石粒を多く含む他0.5mm以 下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部・回転指ナデ 方向の強い指ナデ | 反転復元 | | |
| 271 | 103 | | I区-③ SD44 遺構面精査 機械短削 | 須恵器 | 短頸壺 | | (6.6) | 5Y7/1 | 10GY4/1 (底部)N7/0 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm前後の長石粒を若干含む他 3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む 0.5mm以下の黒色粒を少量に含む | | 回転指ナデ | 回転へら削りのち精緻な 指ナデ・肩部・3~5mmの へら削りの痕跡 | 反転復元 | | |
| 272 | 103 | | I区 I区-① 包含層 | 須恵器 | 短頸壺 | | (4.1) | 5PB7/1 | 5PB6/1 | (外側)5PB7/1 (中心)7.5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに 含む | | 回転指ナデ | 体部・ 精緻な回転へら削り 肩部から頸部・精緻な回 転指ナデ | 反転復元 | | |
| 273 | 103 | 51 | I区-② SD44 | 須恵器 | 甕 | | (2.7) | 5PB6/1 | 7.5Y6/1 (自然軸) 10Y4/2 | 2.5Y6/1 | 良好堅緻 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに 含む | | 体部・青海波文のち 指ナデ | タタキ目(自然軸により不 明瞭) 肩部・十字のへら記号 | 反転復元 | | |
| 274 | 103 | | I区-② SD44 | 須恵器 | 甕 | | | 5PB5/1 | 5PB6/1 | 5R5/1 | 良好堅緻 | 密 1mm以下の石英・長石粒をやや多く 含む | | 青海波文 | タタキのちナデ消し | | | |
| 275 | 103 | | I区-① SD44 包含層 | 須恵器 | 甕 | | | 5PB5/1 | 5PB6/1 | (外側)5PB6/1 (中心)2.5YR5/2 | 良好堅緻 多く含む | 緻密 0.5mm前後の石英・長石粒をやや 多く含む | | 青海波文 | タタキのち指ナデ | | | |
| 276 | 103 | | I区-① SD44 | 土師器 | 蛸壺 (現存長 (5.6) | | (4.4) | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 7.5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~2mm前後の石英・長石粒を多く 含む | | 指押さえ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 | | |
| 277 | 104 | | I区-③ SD50 | 須恵器 | 壺 | (13.0) | (1.7) | 5BG5/1 | 10G5/1 | 7.5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の長石粒をやや多く 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | | |
| 278 | 104 | | I区-③ SD56 | 須恵器 | 皿 | (14.9) | (1.9) | 5Y7/2 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや 多く含む他2mm前後の石英・長石粒を 僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | | |
| 279 | 104 | | I区-③ SD58・SD68 | 土師器 | 無台杯 | (19.4) | (3.8) | 5Y7/6 | 7.5YR8/4 (中心)5YR7/6 | (外側)7.5YR8/4 (中心)5YR7/6 | 良好 | 密 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む 他0.5mm以下のカクセン石を多く含む | | ヘラミガキのち体部に放 射状跡文 | ヘラミガキ(磨減) | 反転復元 | | |
| 280 | 104 | | I区-③ SD58 | 須恵器 | 杯 | (20.2) | (3.25) | 5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含 む他1mm前後の石英・長石粒をやや多く 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | | |

| 観文 番号 | 写真 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色外 | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|-------------|--------------|------|----------------|--------|--------|--------------|---------------------|----------|--------------------------|-----|-----|---|------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 281 | 104 | I区③ II区① | SD58 トレンチ | 須臾器 | 無台杯 | | (1.7) | (10.1) | 10YR3/1 | N5/0 | 5YR5/4 | | | 体部:回転指ナデ 底部:回転へろ削りのち 回転指ナデ ①印の線刻 | 反転復元 | |
| 282 | 104 | I区③ | SD58 | 須臾器 | 高台付杯身 | | (2.9) | (10.3) | N6/0 | N5/0 | N7/0 | | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 283 | 104 | I区③ | SD60 | 土師器 | 杯 | (13.7) | (3.7) | | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 5YR6/6 | | | 板ナデ(磨滅) 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 284 | 104 | I区③ | SD60 | 須臾器 | 杯 | (15.0) | (3.3) | | 5Y6/1 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 285 | 104 | I区③ | SD60 | 須臾器 | 杯 | (14.8) | (3.7) | | 7.5Y5/1 | 5Y6/1 | 5Y5/1 | | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 286 | 104 | I区③ | SD60 | 土師器 | 高台付皿蓋 (筒のみ) | | (1.4) | (筒み径) 3.5 | 7.5YR8/3 | 7.5YR8/4 | | | | 磨み頂部:回転指ナデ | | |
| 287 | 104 | I区③ | SD63 | 土師器 | 甕 | (32.0) | (5.8) | | 10YR6/4 | 10YR5/3 | 10YR5/3 | | | 体部:ハク 口縁部:ハクのち指ナデ (磨滅) | 反転復元 | |
| 288 | 104 | I区③ | SD63 | 須臾器 | 杯 | | (2.7) | (14.8) | 2.5GY5/1 | 2.5GY6/1 | | | | 体部:回転指ナデ 底部:回転へろ削り | 反転復元 | |
| 289 | 104 | I区③ | SD63 | 須臾器 | 杯 | (15.6) | (2.6) | | 2.5Y5/2 | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/1 | | | 回転指ナデ 二次焼成? | 反転復元 | |
| 290 | 104 | I区③ | SD63 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (14.9) | 2.9 | | 2.5Y8/2 (一部)N4/0 | 5Y6/1 | 2.5Y8/2 | 1/3 | | 回転指ナデ 天井部:不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 291 | 104 | I区③ | SD63 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (16.8) | (1.4) | | 5B4/1 | N6/0 | N6/0 | | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 292 | 104 | I区③ | SD68 | 弥生土器 | 鉢 | (10.4) | (4.2) | | 2.5Y5/2 | 10YR4/3 | 10YR6/2 | | | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 | |
| 293 | 104 | I区③ | SD68 | 須臾器 | 無台杯 | (14.0) | (3.4) | | 10Y3/1 | 10Y5/1 | 2.5Y8/1 | 1/5 | | 回転指ナデ(磨滅) | 反転復元 | |
| 294 | 104 | I区③ | SD68 | 須臾器 | 無台杯 | | (1.8) | (10.0) | 10Y7/1 | N6/0 | N6/0 | | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 295 | 104 | I区③ | SD68 | 須臾器 | 高台付杯身 | | (1.6) | (10.9) | 2.5Y8/1 | 2.5YR7/1 | (外側)2.5Y7/1 (中心)5B6/1 | | | 見込:回転指ナデ一文字 のへろ記号 | 反転復元 | |
| 296 | 104 | I区③ | SD68 | 須臾器 | 高台付杯蓋 (筒のみ) | | (1.2) | (筒み径) 2.0 | N7/0 | 5Y7/1 | (外側)5Y7/1 (中心)10YR6/1 | | | 磨み頂部:回転指ナデ | | |
| 297 | 104 | II区 | SD69 | 土師器 | 高杯 | | (2.5) | | 7.5YR8/6 | 7.5YR8/6 | | | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 298 | 104 | II区 | SD70 | 土師器 | 甕 | (17.3) | (2.9) | | 7.5YR8/2 | 7.5YR6/2 | 7.5YR8/1 | | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 299 | 104 | II区 | SD71 | 弥生土器 | 甕 | | (2.4) | (3.6) | 5Y4/1 | 5YR7/4 | 5Y4/1 | | | 体部:磨滅により不明 底部:指押さえ | 反転復元 | |
| 300 | 104 | II区 | SD71 | 弥生土器 | 甕 | | (2.6) | 3.1 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 7.5Y4/1 | | | 磨滅により不明 | | |
| 301 | 104 | II区 | SD71 | 弥生土器 | 甕 | | (3.1) | 2.4 | 10YR8/3 | 2.5Y7/3 | 5Y3/1 | | | 板ナデ | | |
| 302 | 104 | II区 | SD71 | 弥生土器 | 高杯 | | (3.4) | | 10YR7/4 | 7.5YR7/4 | 10Y5/1 | | | 磨滅 | | |
| 303 | 104 | II区 | SD71 | 須臾器 | 高台付杯身 | (16.7) | (4.4) | (12.8) | 10YR8/1 | 10YR8/2 | (外側)10YR8/2 (中心)N5/0 | 1/2 | | 体部:回転指ナデ 底部:回転へろ削りのち 回転指ナデ(磨滅) | 反転復元 | |
| 304 | 104 | II区 | SD72 | 土師器 | 甕 | (14.7) | (3.35) | | 5YR5/6 | 5YR5/6 | 5YR5/6 | | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |

| 製文 番号 | 補図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|-----------|------------|-------|--------|--------|--------|------------|----------|-----------------------------------|------|--|-----|-----------------------|-------------------------------|-----------------------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 305 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 坏 | (20.6) | (2.9) | | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/4 | (外側)7.5YR8/4 (中心)5Y4/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む他0.1mm以下の金雲母を多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | ヘラミガキ(磨滅) | 反転復元 |
| 306 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 皿 | (17.6) | (1.8) | | 10YR7/3 | 10YR7/3 | | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む他0.1mm以下の金雲母を多く含む | | | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 307 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 甕 | (36.0) | (2.5) | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の金雲母を若干含む | | | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 308 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 甕 | (30.0) | (3.9) | | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10B62/1 | 良好 | 粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む他3~5mmの石英・長石粒を若干含む | | 体部:ハケ 口縁部:ハケ | 体部:ハケのち指ナデ 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 |
| 309 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 甕 | (26.0) | (6.5) | | 10YR4/4 | 10YR4/4 | 10YR6/3 | 良好 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を大量に含む他0.1mm以下の金雲母を多く含む | | 体部:板ナデ 口縁部:ハケのち指ナデ | 体部:ハケ 口縁部:ハケのち指ナデ | 反転復元 |
| 310 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 土師器 | 罎付壺 | | (2.6) | | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む他0.1mm以下の金雲母を多く含む | | | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 311 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏蓋 | | (3.1) | | 10B64/1 | 10B66/1 | | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他1~3mmの石英・長石粒を若干含む | 1/3 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 312 | 104 | | Ⅱ区 | SD72・SD73 | 須恵器 | 坏 | (21.0) | (3.05) | | 5Y3/1 | 5Y4/1 | | 良 | 密 1mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 313 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 高台付坏身 | (7.1) | (3.8) | (10.9) | 7.5YR8/2 | 10YR8/2 | | 不良 | 密 1mm前後の石英・長石粒を若干含む他6mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 1/5 | 回転指ナデ(磨滅) | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底面:不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 314 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.3) | (12.2) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | | 不良 | 粗 0.5mm以下の長石粒を大量に含む他1mm以下の黒色粒を若干含む | | 底面:回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底面:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 315 | 104 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.7) | (11.1) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | | 不良 | やや粗 0.5mm以下の長石粒をやや多く含む他0.5~1mmの黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 316 | 104 | | Ⅱ区 | SD72・SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.5) | (7.3) | 2.5GY6/1 | 2.5GY6/1 | | やや不良 | 密 0.5mm以下の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 底面:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 317 | 105 | 53 | Ⅱ区 | SD72・SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.2) | 7.8 | 5P86/1 | 5P86/1 | 5P7/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む他1mm以下の黒色粒を僅かに含む | 4/5 | 底面:回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 底面:回転指ナデ | 反転復元 |
| 318 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (17.2) | (3.0) | | 2.5GY5/1 | 2.5GY6/1 | | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を若干含む他3mm前後の石英粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 319 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (15.9) | (1.9) | | 5Y6/1 | 5Y7/1 | | 不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む他1mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 320 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (16.0) | (2.5) | | 7.5Y5/1 | 10Y5/1 | N7/0 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 321 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (14.4) | (3.4) | | N6/0 | N6/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 1mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 322 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (13.3) | (3.0) | | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良好堅緻 | 密 1~3mmの長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 323 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (11.6) | (3.8) | | 5P87/1 | N5/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 密 0.5~3mmの黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 274と同一 個体? |
| 324 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 坏 | (11.0) | (3.5) | | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 密 1mm前後の石英・長石粒をやや多く含む他1mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 325 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.2) | (1.3) | | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | 回転指ナデ | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 326 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.0) | (1.75) | | N6/0 5Y4/1 | 10Y5/1 | (外側) 10Y4/1 N8/0 (中心)10Y5/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む他0.5mm以下の黒色粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 327 | 105 | | Ⅱ区 | SD72 | 黒色土器 B類 | 埴 | (11.9) | (2.1) | | 5Y3/1 | 5Y3/1 | | 良 | 粗 1~2mm前後の石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 328 | 105 | | Ⅱ区 | SD73 | 土師器 | 皿 | (23.1) | (2.3) | | 10YR4/4 | 10YR4/4 | 5YR5/6 | 良好 | 密 0.5mm以下の長石粒を若干含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |

| 報文 番号 | 写真 番号 | 調査区 図版 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|-----------|------|-----|------------|----------------|----------------|---------------|----------------------|-------------------------------------|---------------------|----------------------|---|-----|-------------------------------|-----------------------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 329 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 土師器 | 皿 | (19.0) | (2.2) | | 7.5YR7/1 7.5YR7/4 | 7.5YR8/2 5Y5/1 | 7.5YR8/3 10YR8/4 | やや不良 密 | 1~5mmの長石粒を僅かに含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 330 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 土師器 | 皿蓋 | (17.7) | (1.9) | | 10YR7/4 | 5YR7/8 (外側)10YR7/1 (中心)5YR7/8 | 10YR6/4 | 不良 | 緻密 1mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 331 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 土師質 | 甕 | (現存長) (7.4) | (現存幅) (5.5) | (厚さ) (1.2) | 10YR6/4 | 7.5YR5/8 | 10YR6/4 | 良好 | 粗 3mm以下の石英・長石粒を大量に含む | | 指ナデのちハケ | 反転復元 | |
| 332 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 坏 | (16.4) | (3.8) | | N7/0 | 5Y7/1 | N7/0 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 333 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 坏 | (14.3) | (3.4) | | N5/0 | N5/0 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 334 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.9) | (12.7) | 2.5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5mm以下の長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 335 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏身 | (11.4) | 4.6 | (7.2) | N6/0 | N5/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 3mm以下の黒色粒を大量に含む | | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底部:ヘラ切り未調整 | 反転復元 256と同一 個体? | |
| 336 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 皿 | (15.9) | (2.5) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 1mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 337 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (20.0) | (1.6) | | 10B6/4/1 | 5B4/1 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 338 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.2) | (2.3) | | 7.5YR4/4 | 7.5YR5/2 | N6/0 | 良好堅緻 微(二次 焼成?) | 緻密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む他1mm前後の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 339 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.3) | (1.0) | | 5Y5/1 | 5Y6/1 | N6/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5~1mmの黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 340 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.4) | (1.7) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 1~2mmの黒色粒を多く含む他3mm前後の黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 341 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.7) | (1.1) | | 7.5YR4/3 | 7.5YR5/4 | N5/0 | 良好堅緻 微(二次 焼成?) | 緻密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 342 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 台付壺 | | (3.25) | | N6/0 | N7/0 | 10YR7/1 | 良好堅緻 | 緻密 1mm前後の長石粒を僅かに含む | | 体部:回転指ナデ 底面見込:不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 343 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 壺 | | (5.6) | | 5P6/1 | 5Y7/1 | 10YR7/1 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm以下の長石粒を若干含む | | 体部:精緻なヘラ削り 肩部から頸部:自然釉により不明 | 反転復元 | |
| 344 | 105 | Ⅱ区 | SD73 | 須恵器 | 壺 | (4.5) | (6.3) | | 5P6/1 | 5P5/1 | 7.5R6/1 | 良好堅緻 | 緻密 1mm前後の黒色粒を僅かに含む | | 自然釉により不明 | 反転復元 | |
| 345 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 土師器 | 坏 | (12.7) | (2.3) | | 10YR4/3 | 2.5YR7/8 | | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 346 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 土師器 | 高台付坏身 | (17.2) | 3.6 | (12.7) | 5YR5/6 | 5YR4/6 | 10YR7/3 | 良好堅緻 | 緻密(精製) 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む他2mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ(摩滅) ヘラミガキの可能性あり | 反転復元 | |
| 347 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 土師器 | 壺(線の可能性あり) | (19.8) | (3.1) | | 10YR6/4 | 2.5YR6/4 | 7.5Y4/1 | 良好 | 粗 0.5~3mm程度の石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 348 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 土師器 | 壺 | (26.2) | (1.7) | | 2.5YR6/6 | 2.5YR5/6 | 2.5YR5/6 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 349 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 須恵器 | 坏 | (13.5) | (3.1) | | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm以下の長石・黒色粒を僅かに含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 350 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 須恵器 | 坏 | (9.4) | (3.2) | | N7/0 | N6/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 1mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 351 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.9) | (12.2) | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 見込:回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 352 | 105 | Ⅱ区 | SD76 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.8) | (1.1) | | N8/0 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 353 | 105 | Ⅱ区 | SD77 | 土師器 | 坏 | (16.0) | (2.3) | | 10YR8/3 | 10YR8/2 | 10YR8/2 | 良 | 密2mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 | |
| 354 | 105 | Ⅱ区 | SD77 | 須恵器 | 無台坏 | (13.0) | 3.1 | (10.3) | 5Y5/1 | 5Y5/1 | N7/0 | 良好 | 密 1mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |

| 観文 番号 | 種別 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | | 断面 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|----------------------|-----|-------|----------------|--------|--------|----------------|--------------------|--------------------------|------|--|--------------------|---------------------|----------|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 調 | | | | | 内 | 外 | |
| 355 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 高台付坏身 | (16.5) | 3.6 | (13.5) | 5Y7/1 | 10Y5/1 | 7.5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を 多く含む他1mm以下の黒色粒を大量 に含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 356 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 坏 | (13.0) | (3.0) | | N6/0 | N4/0 | N7/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を やや多く含む他0.5mm以下の黒色粒を 含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 357 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 坏 | (13.8) | (2.0) | | 7.5Y6/1 | 7.5Y6/1 | 7.5Y7/1 | やや不良 | 粗 0.5mm以下の長石粒をやや多く含む 他0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含 む他1mm前後の長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 358 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 坏 | (20.0) | (2.7) | | 10Y4/1 | 10Y3/1 | 10Y6/1 | 良好 | 粗 0.5mm以下の長石粒をやや多く含む 他0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含 む他1mm前後の長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 359 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 坏 | (17.2) | (2.4) | | 5Y6/1 | 5Y7/2 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多 く含む | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 360 | 105 | | II区 | SD77・SD79 SR06.ア7 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (18.0) | (2.5) | | 5Y6/1 5Y7/6 | 5Y7/6 | 5Y6/1 | 不良 | 密 1mm前後の黒色粒を多く含む他1mm 以下の長石粒を同程度含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 361 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.6) | (1.4) | | 5Y7/1 | N7/0 | 5Y8/1 | 不良 | 粗 0.5~2mm前後の石英・長石・黒色粒 を多く含む他3mm前後の長石粒を若干 含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部・回転へラ削り | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 362 | 105 | | II区 | SD77 | 須恵器 | 壺 | | | | 2.5Y7/1 | N5/0 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の長石・黒色粒をやや多 く含む | 青海散文 | タタキのちカキ目 | | | |
| 363 | 106 | | II区 | SD78 | 土師器 | 坏 | (12.4) | (3.4) | | 10Y7/3 | 10Y7/4 | 5Y3/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む 他3mm前後の石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 364 | 106 | | II区 | SD78 | 土師器 | 坏 | (14.4) | 3.0 | (9.6) | 7.5Y8/3 | 7.5Y8/2 | 7.5Y8/2 | やや不良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く 含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 365 | 106 | | II区 | SD78 | 土師器 | 鉢 | (24.2) | (3.6) | | 10Y5/4 | 7.5Y8/5/6 | 7.5Y7/6 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石・金雲母・ カクセン石を僅かに含む | 摩滅により不明 赤色顔料散布 | 摩滅により不明 赤色顔料散布 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 366 | 106 | | II区 | SD78 | 土師器 | 壺 | (28.0) | (3.2) | | 10Y7/4 | 10Y8/4 | 10Y4/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を 濃に含む他3mm前後の長石粒を僅かに 含む | 指ナデ | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 367 | 106 | | II区 | SD78 | 須恵器 | 無台坏 | | (1.4) | (10.2) | 2.5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の長石・黒色粒を僅 かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部・へラ削り | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 368 | 106 | | II区 | SD78 | 須恵器 | 坏 | (17.0) | (2.8) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の長石粒をやや多く 含む他2mm前後の黒色粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 369 | 106 | | II区 | SD78 | 須恵器 | 坏 | (13.1) | (2.9) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の長石粒をやや多く 含む他2mm前後の黒色粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 370 | 106 | | II区 | SD78 | 須恵器 | 無台皿 | (16.6) | 2.3 | (13.4) | 10Y6/1 | 10Y6/1 | 10Y7/1 | 良好堅緻 | 極密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む やや粗 0.5mm以下の長石・黒色粒を やや多く含む | 精緻な回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 371 | 106 | | II区 | SD78 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (18.0) | (0.8) | | 5Y6/1 | 7.5Y5/1 | 7.5Y7/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の長石・黒色粒を やや多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 372 | 106 | | II区 | SD79 | 須恵器 | 坏 | (17.2) | (3.0) | | 5Y6/1 | 10Y6/1 | 5Y6/1 | 良好 | 密 0.5mm前後の長石粒を多く含む他2 mm前後の長石粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 373 | 106 | | II区 | SD79 | 須恵器 | 坏 | (14.0) | (2.4) | | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y7/2 | 不良 | やや粗 0.5~2mmの赤色粒をやや多く 含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 374 | 106 | | II区 | SD79 | 土師器 | 高台付皿 | | (1.9) | (21.0) | 10Y5/4 | 7.5Y5/4 | 5Y6/6 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の長石粒をやや多く 含む他0.5mm以下の黒色粒をやや多く 含む | 高台周辺・回転指ナデ | 高台周辺・回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 375 | 106 | | II区 | SD80 | 土師器 | 鉢 | (37.9) | (2.4) | | 5Y4/8 | 5Y5/6 | 7.5Y7/6 | 良好堅緻 | 極密 0.5mm以下の長石粒を僅かに含む 他1mm前後の黒色粒を含む | 体部・ハケ 口縁部・強い指ナデ | 指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 376 | 106 | | II区 | SD82 | 須恵器 | 無台坏 | 11.9 | 3.8 | 7.8 | 5Y5/1 | 5Y7/1 | (外側)5Y7/1 (中心)5Y5/1 | 不良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む 他5mm前後の長石・黒色粒を多く含む | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 377 | 106 | | II区 | SD82 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (2.3) | (1.35) | | (厚さ) (1.0) | 7.5Y6/4 2.5Y7/2 | 7.5Y6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒 色粒・金雲母を多く含む | 指ナデ | 指ナデ | 指ナデ | 反転復元 | |
| 378 | 106 | | II区 | SD83 | 土師器 | 坏 | (1.0) | (1.0) | (8.9) | 10Y5/3 | 10Y7/3 | (外側)10Y7/3 (中心)10Y5/1 | やや不良 | やや粗 2mm前後の長石・赤色粒を若干 含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 379 | 106 | | II区 | SD83 | 土師器 | 皿 | (19.0) | (2.5) | | 5Y8/3 | 5Y8/4 | 7.5Y8/2 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下・3mm前後の石英・長 石粒を若干含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |

| 編文 番号 | 種別 番号 | 種別 名称 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 熟存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|---------------|-------|-----------------|-------|----------------------|---------------|----------------------------|------|---|-----|---------------|------------------------------|------|
| | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 380 | 106 | SD83 | 土師器 | 皿 | (20.0) | (2.2) | 5YR6/6 | 7.5YR6/6 | 5YR7/6 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 381 | 106 | SD83 | 土師器 | 甕 | (18.0) | (5.3) | 10YR4/4 | 7.5YR4/4 | 5YR4/4 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の金雲母を若干含む | | 指ナデ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 382 | 106 | SD83 | 土師器 | 甕 | (2.4) | (2.4) | 7.5YR8/2 5YR6/4 | 7.5YR7/3 | N4/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の長石粒を若干含む | | 指ナデ | 体部:ハケ | 反転復元 |
| 383 | 106 | SD83 | 土師器 | 甕 | (26.0) | (4.0) | 5YR5/6 | 7.5YR6/6 | 5YR6/6 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の金雲母を若干含む | | 指押さえのちハケ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 384 | 106 | SD83 | 須恵器 | 無台杯 | (2.5) | (2.5) | 5PB5/1 | 5PB5/1 | 5P7/1 | 良好 | 密 2mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 385 | 106 | SD83 | 須恵器 | 無台杯 | (1.2) | (1.2) | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 386 | 106 | SD83 | 須恵器 | 高台付杯身 | (1.4) | (1.4) | N7/0 | 5Y7/1 | (外側)5Y7/1 (中心)N7/0 | やや不良 | やや粗 1mm前後の長石粒を僅かに含む他0.5mm以下の黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 387 | 106 | SD83 | 須恵器 | 杯 | (16.9) | (2.9) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 388 | 106 | SD83 | 須恵器 | 杯 | (13.9) | (2.8) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他2mm前後の黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 389 | 106 | SD83 | 須恵器 | 杯 | (13.7) | (2.9) | N6/0 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良好 | 密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 390 | 106 | SD83 | 須恵器 | 皿 | (14.6) | (1.6) | 5Y7/1 | N7/0 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 391 | 106 | SD83 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (21.6) | (1.8) | 5PB5/1 | N6/0 | N6/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他2mm前後の黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 392 | 106 | SD83 | 瓦器 | 埴 | (13.0) | (2.6) | 2.5Y7/1 | 10Y3/1 | 2.5Y8/1 | 不良 | 粗 1mm以下の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 393 | 106 | SD84 | 土師質 | 瓦 | (現存長) (10.3) | (7.0) | 5YR4/8 7.5YR6/6 | 5YR4/8 | 2.5YR5/6 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の金雲母を若干含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 394 | 106 | SD84 | 須恵器 | 無台杯 | (2.0) | (2.0) | 10YR8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 395 | 106 | SD84 | 須恵器 | 杯 | (10.8) | (2.7) | 10Y5/1 | 2.5Y6/1 | (外側)7.5Y6/4 (中心)10Y5/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 396 | 106 | SD84 | 須恵器 | 皿 | (17.0) | (2.0) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 397 | 106 | SD84 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (20.4) | (0.7) | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 398 | 106 | SD84 | 須恵器 | 高台付壺 | (12.7) | (1.2) | N7/0, N5/0 | 2.5Y8/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む他3~7mmの長石粒を若干含む | | 指押さえのち回転指ナデ | 体部:摩滅により不明 底部:指押さえのち回転指ナデ | 反転復元 |
| 399 | 106 | SD84 | 須恵器 | 甕 | (23.4) | (6.7) | 5PB5/1 | 7.5R6/1 | (外側)2.5YR6/1 (中心)5PB7/1 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 青海波文のち回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 口縁部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 400 | 106 | SD84 | 須恵器 | 甕 | (9.3) | (9.3) | 5PB5/1 | 5YR5/1 | (外側)5YR6/1 (中心)5PB7/1 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 青海波文のち回転指ナデ | 体部:タタキのちカキ目 口縁部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 401 | 107 | SD86 | 弥生土器 | 甕 | (14.4) | (9.0) | 2.5YR5/2 2.5YR5/6 | 10YR5/4 | (外側)10YR5/3 (中心)10YR4/1 | 良好 | 密 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒をやや多く含む他同程度のカクセシ石を若干含む、0.5mm以下の金雲母を大量に含む | | 指押さえのち板ナデ(摩滅) | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 402 | 107 | SD86 | 土師器 | 杯 | (16.8) | (3.4) | 5YR6/6 | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/3 | やや不良 | 密(精製) 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 403 | 107 | 43 | SD86 遺構面精査 | 無台杯 | 15.0 | 3.5 | 2.5Y7/2 5Y3/1 | 2.5Y8/2 5Y3/1 | 2.5Y7/2 | 不良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 4/5 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 404 | 107 | SD86 | 土師器 | 無台杯 | (1.8) | (1.8) | 10YR5/2 | 10YR6/3 | 10YR7/2 | 良 | 密(精製) 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 指ナデ | 体部:指ナデ 底部:手持ちヘラ削り (摩滅) | 反転復元 |
| 405 | 107 | SD86 | 回転土師器 | 高台付杯身 | (1.2) | (1.2) | 10YR5/4 | 2.5Y3/3 | (外側)10YR7/2 (中心)2.5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む他3mm前後の長石粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 406 | 107 | SD86 | 土師器 | 高台付杯身 | (1.0) | (1.0) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の長石・黒色粒を多く含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |

| 綴文 番号 | 挿入 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | | 色 | | 調 | 断 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の程度 | | 備考 |
|----------|----------|--------|--------------|-----|-------|--------|-------|---------------------|--------------------|--|----------|----------|------|---|-----|----------------------|-----------------------------------|------|----|
| | | | | | | | | 内 | 外 | 内 | 外 | | | | | | | | |
| 407 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 坏 | (14.6) | (3.4) | 5Y4/1 | 2.5Y7/2 | 5Y4/1 | 5Y4/1 | 5Y4/1 | 不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | 1/5 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 408 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 無台皿 | (19.1) | 2.0 | 7.5YR5/4 | 5YR5/6 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を含む他0.5mm以下の空孔を大量に含む | 1/5 | 摩滅により不明 | 体部:指ナデ(摩滅) 底部:手持ちへら削り(摩滅) | 反転復元 | |
| 409 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 皿 | (18.6) | (2.4) | 5YR7/6 | 7.5YR5/4 | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/4 | やや不良 | 密(精製) | | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 410 | 107 | 43 II区 | SD86 | 土師器 | 無台皿 | 15.9 | 2.1 | 7.5YR8/4 10YR7/4 | 10YR7/4 5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | やや不良 | 密(精製) 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の長石粒を若干含む | 2/3 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | | |
| 411 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 埴 | (16.2) | (3.1) | 10YR5/3 | 10YR5/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | へら削りにより不明 | へら削りにより不明 | 反転復元 | |
| 412 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 高坏 | | (3.7) | 10YR6/4 | 7.5YR4/6 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 良好 | 密(精製) 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む他1~5mmの石英粒をやや多く含む | | 強い指ナデ | へら削りのちへらミガキ(摩滅) | 反転復元 | |
| 413 | 107 | 43 II区 | SD86 | 土師器 | 高坏 | | (3.1) | 10YR7/4 | 10YR8/3 10YR7/4 | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | 良好 | 密(精製) 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を若干含む | | 板ナデ | へら削りのちナデ(摩滅) 赤色顔料塗布 | | |
| 414 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 甕 | (31.5) | (4.4) | 7.5YR5/4 | 7.5YR4/3 | 5YR5/6 | 5YR5/6 | 5YR5/6 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm程度の黒色粒・8mm程度の砂を若干含む | | ハケ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 415 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 甕 | (24.6) | (3.0) | 2.5YR5/6 | 5YR4/6 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 良好 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を多く含む他4mm前後の長石粒を僅かに含む | | 体部:板ナデ 口縁部:ハケ | 体部:摩滅により不明 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 416 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 甕 | (23.0) | (3.6) | 10YR6/2 | 7.5YR6/4 | 10YR8/4 | 10YR8/4 | 10YR8/4 | 良好 | 粗 0.5mm前後の赤変した長石粒を大量に含む | | 体部:強い指ナデ 口縁部:ハケ | 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 | |
| 417 | 107 | II区 | SD86 | 土師器 | 網 | (24.0) | (3.9) | 5YR6/6 | 5YR4/6 | 10R6/8 | 10R6/8 | 10R6/8 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他3~5mmの石英粒をやや多く含む | | 体部:板ナデ 口縁部:ハケ(摩滅) | 体部:摩滅により不明 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 | |
| 418 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 無台坏 | (13.0) | 4.3 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 不良 | 粗 1mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | 1/3 | 回転指ナデ | 底部:回転指ナデのち不定方向指ナデ | 反転復元 | |
| 419 | 107 | 43 II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | 16.3 | 4.0 | 2.5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を若干含む | 3/4 | 底部:回転指ナデのち不定方向指ナデ | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底部:へら削り全体的に摩滅 | | |
| 420 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (3.9) | N7/0 | 10Y5/1 | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良好 | 緻密 1mm前後の長石粒を含む他同程度の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 421 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.7) | 5P87/1 | 5Y4/1 N7/0 | (外側)SP87/1 (内側)SP86/1 (中心)2.5YR6/1 | | | 良好 | 緻密 | | 見込:回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 | |
| 422 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.2) | N7/0 | N6/0 | 2.5Y8/2 | | | 良好 | 密 1mm前後の長石・黒色粒を若干含む | | 精緻な回転指ナデ | 高台周辺:精緻な回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 | |
| 423 | 107 | II区 | SD86 SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (3.3) | 2.5Y7/1 | 5Y6/1 | (外側)SP85/1 (中心)10R5/2 | | | 良好 | 緻密 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | 精緻な回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 | |
| 424 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (2.3) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 10YR6/3 | | | 不良 | やや粗 1mm前後の長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部:へら削り | 反転復元 | |
| 425 | 107 | 53 II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付坏身 | | (1.4) | 10YR7/3 N5/0 | 10YR7/3 N5/0 | (外側)10YR7/3 (中心)10YR6/2 | | | 不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 高台周辺:回転指ナデ 底部:へら削りのち爪形底 全体的に摩滅 | 反転復元 | |
| 426 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 坏 | (17.7) | (4.5) | 5P7/1 | 2.5Y5/1 | (外側)SP7/1 (中心)10R5/1 | | | 良好 | 緻密 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を若干含む他2mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 427 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 坏 | (15.0) | (3.7) | N8/0 | N5/0 | 10B6/1 | | | 良好 | 緻密 0.5mm前後の長石・黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 428 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 坏 | (14.8) | (2.5) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5mm以下の長石粒を大量に含む他2mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |

| 製文 番号 | 挿入 図番 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|--------|---------------------------------------|-----|-------|----------|-----------|----------|---------------------|---|------|--|-----|-------------------|--|------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 429 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付皿 | (25.0) | (2.8) | (21.9) | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | 1/6 | 回転指ナデのち口縁直下に1条の沈線 | 高台周辺から体部・精緻な指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち精緻な指ナデ全体的に磨減 | 反転復元 |
| 430 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (21.5) | (1.3) | | 5Y7/1 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の長石・黒色粒を含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 431 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | | (1.6) | (満み径)2.0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を多く含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ(磨減) | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 432 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (12.8) | (2.2) | | N6/0 | 7.5Y8/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を大量に含む他0.5mm以下の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 433 | 107 | 43 II区 | SD72 SD77 SD86 SD117 SR06 | 須恵器 | 長頸壺 | (22.8) | (10.4) | (10.4) | 5Y6/1 | (外側)5Y6/1 (内側)N5/0 (中心)N5/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を僅かに含む | 2/3 | 回転指ナデ | 体部から肩部:精緻な回転ヘラ削り 頸部:精緻な回転指ナデほぼ全面に自然釉 | 反転復元 |
| 434 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 長頸壺 | (12.2) | (7.8) | (13.2) | 5B5/1 | 2.5YR6/3 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 精緻な回転指ナデ | 精緻な回転指ナデのち頸部中央部に2条の沈線 | 反転復元 |
| 435 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付壺 | | (7.8) | | 2.5Y6/1 | (外側)2.5Y6/1 (内側)N6/0 (中心)2.5YR6/2 | 良好堅緻 | 0.5~1mmの長石粒をやや多く含む | | 精緻な回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 |
| 436 | 107 | 43 II区 | SD86 SD113 SR06 | 須恵器 | 高台付壺 | (13.65) | (9.65) | (9.65) | N5/0 | 5R7/1 | 良好堅緻 | | 1/4 | 回転指ナデ | 体部から肩部:精緻な回転ヘラ削り 底部:回転ヘラ削りのち精緻な指ナデ 大半に自然釉 | 反転復元 |
| 437 | 107 | II区 | SD86 | 須恵器 | 高台付壺 | (1.3) | 5.8 | | N5/0 | 2.5Y7/1 | 良好堅緻 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 438 | 108 | II区 | SD89 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (17.7) | (1.2) | | N5/0 | N5/0 | 良好 | 密 0.5mm前後の長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 439 | 108 | II区 | SD93 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.7) | (11.0) | N6/0 | N6/0 | 良 | 粗 0.5~1mmの長石・黒色粒を含む他4mm前後の長石粒をやや含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち精緻な指ナデ | 反転復元 |
| 440 | 108 | II区 | SD93 | 土師器 | 梯状土埴 | (現存長)4.6 | (現存幅)1.45 | (厚さ)1.3 | 10YR4/4 | 10YR4/4 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒・金粒を多く含む | | | | 反転復元 |
| 441 | 108 | II区 | SD94 | 土師器 | 杯 | (15.9) | (2.4) | (14.2) | 7.5YR8/3 10YR6/1 | 10YR7/2 | やや不良 | 密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | | 磨減により不明 | 磨減により不明 | 反転復元 |
| 442 | 108 | II区 | SD96 | 土師器 | 甕 | (28.5) | (6.9) | | 7.5YR8/6 | (外側)7.5YR8/6 (中心)7.5Y3/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 磨減により不明 | 指押さえのち指ナデ(磨減) | 反転復元 |
| 443 | 108 | II区 | SD96 | 須恵器 | 杯 | (17.4) | (2.7) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 磨減により不明 | 磨減により不明 | 反転復元 |
| 444 | 108 | II区 | SD98 | 土師器 | 甕 | (27.7) | (1.5) | | 10YR5/3 | 5Y4/1 | 良好 | 粗 1~2mmの石英・長石粒を多く含む | | ハケ | 板ナデ 口縁部:指でつまみあげのち回転指ナデ | 反転復元 |
| 445 | 108 | II区 | SD98 | 土師器 | 甕 | (29.6) | (1.85) | | 10YR5/2 | 7.5YR7/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒・金粒を大量に含む | | ハケ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 446 | 108 | II区 | SD98 | 土師器 | 甕 | (33.8) | (3.3) | | 10YR4/2 | 10YR5/3 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・赤変した長石粒を大量に含む | | ハケ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 447 | 108 | 43 II区 | SD99 | 土師器 | 無台杯 | 12.5 | 3.8 | 7.9 | 2.5Y6/2 | 7.5YR7/4 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・赤変した長石粒を含む他5~8mmの長石粒を僅かに含む | 4/5 | 回転指ナデ(磨減) | 体部:回転指ナデ 底部:ヘラ削りのち不定方向の破ナデ | 反転復元 |
| 448 | 108 | 43 II区 | SD99 | 土師器 | 無台杯 | 11.3 | 3.7 | 6.7 | 2.5Y7/3 | 7.5YR7/6 | 良 | やや粗 2~3mmの長石・赤変した長石粒を若干含む | 1/1 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:ヘラ削り未調整 | 反転復元 |
| 449 | 108 | II区 | SD99 | 須恵器 | 杯 | (17.0) | (3.95) | | N3/0 | 10R6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |

| 種文 番号 | 種文 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 調 | | 焼成 | 粘土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|----------------|------------|-------|--------|--------|--------|--------------------|--------------------|----------------------------|----------|------|------------------------------|-----|--------------------|--------------------|------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 450 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 土師器 | 杯 | (18.7) | (3.9) | (17.3) | 10YR6/4 | 7.5YR5/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | へらミガキ(摩滅) | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 451 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 土師器 | 無台皿 | (15.8) | 2.65 | (9.6) | 7.5YR8/4 | 7.5YR8/3 | (外側)10YR8/1 (中心)2.5Y5/1 | 7.5YR7/4 | やや不良 | 密(精製) | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 452 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 土師器 | 皿 | (21.6) | (1.9) | | 5YR5/6 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 7.5YR7/4 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 453 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 土師器 | 皿 | (21.7) | 2.7 | (18.1) | 10YR8/4 | 10YR8/3 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | やや不良 | 密 1~2mmの長石粒を僅かに含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 454 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 高台付杯身 | (2.15) | (2.15) | (14.4) | N6/0 | N6/0 | 2.5YR5/2 | 2.5YR5/2 | 良好堅緻 | 緻密 | | 精緻な回転ナデ | 精緻な回転ナデ | 反転復元 |
| 455 | 108 | 51 | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (3.0) | (11.0) | 10YR8/1 | 10YR8/1 | 10YR8/1 | 10YR8/1 | 良 | 粗 0.5~3mm前後の石英・長石粒を大量に含む | 1/4 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 456 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 杯 | (11.9) | (2.4) | | 5P86/1 | 5P85/1 | 5P87/1 | 5P87/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 457 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 杯 | (13.7) | (3.4) | | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 密 0.5~1mmの黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 458 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 杯 | (14.1) | (3.5) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 459 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (19.6) | (1.2) | | N7/0 | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 密 0.5mm前後の長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 460 | 108 | | Ⅱ区 | SD103 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (14.8) | (1.8) | | 7.5Y6/1 | 7.5Y6/1 | 7.5Y7/1 | 7.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 1mm前後の黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 461 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 土師器 | 甕 | (36.2) | (4.5) | | 10YR6/2 | 2.5YR5/6 | 7.5YR7/2 | 7.5YR7/2 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 462 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 土師器 | 甕 | (2.32) | (2.25) | | 7.5YR6/4 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 板ナデ | 板ナデ | 反転復元 |
| 463 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 土師器 | 高台付杯身 | | (1.9) | (14.8) | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 464 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.8) | (11.3) | 7.5Y5/1 | 2.5CY6/1 | 2.5CY6/1 | 2.5CY6/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 465 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 須恵器 | 杯 | (17.4) | (4.3) | | 10YR7/1 | 10YR7/1 | 10YR7/1 | 10YR8/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 466 | 108 | | Ⅱ区 | SD104 | 須恵器 | 壺蓋 | (14.2) | (2.4) | | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 10Y6/1 | 良好堅緻 | 緻密 1~2mmの黒色粒をやや多く含む | | 天井部:回転へら削りのち指ナデ | 天井部:回転へら削りのち指ナデ | 反転復元 |
| 467 | 108 | | Ⅱ区 | SD113 | 土師器 | 甕 | (26.8) | (1.8) | | 10YR6/3 | 10YR4/2 | 10YR5/1 | 10YR5/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石・赤変した長石粒を多く含む | | 強い指ナデ | 強い指ナデ | 反転復元 |
| 468 | 108 | | Ⅱ区 | SD113 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.0) | (12.0) | N6/0 | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 469 | 108 | | Ⅱ区 | SD113 | 土師器 | 杯 | (15.8) | (4.0) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 470 | 108 | | Ⅱ区 | SD113 | 須恵器 | 杯 | (13.0) | (1.6) | | 2.5Y5/2 | N6/0 | (外側)N6/0 (中心)2.5Y7/1 | N6/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 471 | 108 | 43 | Ⅱ区 | SD113 SD117 | 須恵器 | 短頸壺 | (6.2) | (4.5) | | 5P86/1 | N5/0 | 5P87/1 | 5P87/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 体部から肩部:精緻な回転へら削り | 体部から肩部:精緻な回転へら削り | 反転復元 |
| 472 | 108 | | Ⅱ区 | SD115 | 土師器 | 高杯 | | (8.8) | (10.7) | 7.5YR8/6 5YR7/4 | 7.5YR8/5 5YR7/4 | 10YR6/1 | 10YR6/1 | やや不良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 473 | 108 | | Ⅱ区 | SD115 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | (15.7) | (1.4) | | N6/0 N5/0 | 7.5Y5/1 | N7/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 474 | 108 | | Ⅱ区 | SD117 | 回転台 土師器 | 杯 | (16.0) | (3.5) | (13.8) | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 体部:回転指ナデ | 体部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 475 | 108 | | Ⅱ区 | SD117 | 土師器 | 無台皿 | (19.4) | (1.9) | | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | へらミガキのち放射状嘴文赤色顔料塗布 | へらミガキのち放射状嘴文赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 476 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 土師質 | 甕 | | | | 7.5Y5/1 7.5Y3/1 | 5Y6/2 | 2.5Y5/3 | 2.5Y5/3 | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | ハケ | ハケ | 反転復元 |

| 編文 番号 | 写真 番号 | 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 胎土 | 残存量 | 形状・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----|-----|-------|------|-------|--------|-------|----------|---------------------------|----------|--|------------------|--|---------|------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | 内面 | 外面 | |
| 477 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 土師器 | 土釜 | (27.8) | (8.7) | 10YR7/3 | 7.5YR7/2 7.5YR7/4 | 2.5Y6/1 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他3~5mmの石英・長石粒をやや多く含む | 板ナデ | 指押さえのちハケ(磨滅) 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 | |
| 478 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 土師器 | 鍋 | (47.0) | (5.3) | 2.5Y6/3 | 10YR8/2 5YR7/6 | 5YR5/6 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | 板ナデ(剥落) | 剥落 | 反転復元 | |
| 479 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 須恵器 | 高台付坏身 | (15.4) | (2.8) | 5Y6/1 | (外側)PB6/2 (中心)2.5YR6/1 | 2.5YR6/2 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 480 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (13.0) | (1.9) | 2.5YR6/1 | N6/0 | 2.5YR6/2 | 緻密 | 回転指ナデ | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 481 | 109 | | Ⅲ区 | SD119 | 須恵器 | 高坏 | | (7.1) | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/1 | 7.5YR7/4 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 指ナデ | 指押さえのち粗い指ナデ | 反転復元 | |
| 482 | 109 | | Ⅲ区 | SD124 | 弥生土器 | 甕 | (11.6) | (3.8) | 5YR5/8 | 7.5YR4/6 | 5YR5/8 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む他1mm以下の金剛砂を多く含む | 指ナデ | 指押さえのち板ナデ | 反転復元 | |
| 483 | 109 | | Ⅲ区 | SD124 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.0) | (1.0) | N6/0 | 7.5Y6/0 | N6/0 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 484 | 110 | 44 | I区 | SR01 | 土師器 | 無台坏 | (13.8) | 2.9 | 2.5YR6/6 | 7.5YR5/3 | 7.5YR5/3 | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 485 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 無台坏 | (16.8) | (3.1) | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR8/3 | やや粗(精製) | 射状暗文 | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 486 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 無台坏 | (16.6) | (4.1) | 7.5YR7/1 | 7.5YR5/4 | 10YR7/3 | 良 | 射状暗文 | ヘラミガキのち体部に放 | 反転復元 | |
| 487 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 無台坏 | (19.6) | (2.8) | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 10YR7/3 | 良 | 射状暗文 | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 488 | 110 | 44 | I区 | SR01 | 土師器 | 無台坏 | (18.4) | 4.4 | 7.5YR7/3 | 5YR6/6 | 2.5YR6/8 | 良 | 1/2 | 体部:下半がヘラミガキ(磨滅) 上半から口縁部:強い指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 489 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付坏身 | | (1.4) | 10YR7/3 | 10YR7/2 | 10Y7/1 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・赤石粒を若干含む | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 490 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付坏身 | (17.0) | (4.2) | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y4/2 | 良 | ヘラミガキ(磨滅) | 体部:ヘラミガキ全体的に磨滅 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 | |
| 491 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 坏 | (13.8) | (3.0) | 2.5YR7/4 | 2.5YR7/3 | | やや不良(精製) 0.5~2mm前後の赤色粒を多く含む | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 492 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 坏 | (16.0) | (2.7) | 7.5YR5/4 | 10YR5/3 | 10YR6/4 | 良 | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 493 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 坏 | (16.0) | (2.7) | 10YR7/4 | 7.5YR7/4 | 10YR8/3 | やや不良 | 磨滅により不明 | 体部:指ナデ 底部:手持ちヘラ削り 文字のヘラ記号? | 反転復元 | |
| 494 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 坏 | (17.0) | (3.3) | 2.5Y8/1 | 2.5Y7/2 | 2.5Y8/1 | 良 | ヘラミガキ(磨滅) | ヘラミガキ(磨滅) | 反転復元 | |
| 495 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 坏 | (23.4) | (3.0) | 2.5YR7/4 | 5YR7/6 | 10YR8/3 | やや粗 1~3mmの石英・長石粒を僅かに含む | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 496 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 無台皿 | (21.5) | (2.3) | 10YR7/4 | 10YR7/3 | 5YR6/6 | 良 | 指ナデ | 体部:指ナデ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 497 | 110 | 44 | I区 | SR01 | 土師器 | 無台皿 | (21.5) | (3.6) | 10YR7/3 | 10YR7/4 | 10YR7/3 | 良 | 指ナデ | 体部:指ナデ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 498 | 110 | | I区 | SR01 | 土師器 | 皿 | (15.8) | 2.1 | 10YR6/3 | 2.5Y7/2 | 2.5Y6/3 | 良 | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 | |

| 論文 番号 | 写真 種号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徵 | | 備考 |
|----------|----------|-----|------|-----|------|--------|--------|--------|-----------------------------|----------|-----------------------------|------|---|-----|-------------------------|-------------------------------------|------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 499 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 皿 | (19.6) | (2.0) | | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 10YR8/2 | 良 | 密(精製) | | 摩滅により不明 | ヘラミガキ(摩滅) 口縁端部:強い指ナデに より面取り | 反転復元 |
| 500 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 皿 | (22.4) | (2.1) | (18.2) | 10YR8/3 | 10YR7/3 | 10YR8/3 | 良 | 密(精製) | | 精緻な指ナデ(摩滅) | 体部:ヘラミガキ(摩滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 501 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 皿 | (26.4) | (1.9) | (25.0) | 5YR6/6 | 5YR7/4 | 5YR7/4 | 良 | やや粗(精製) | 4/5 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 502 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | 16.4 | 4.5 | 8.5 | 5YR8/4 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量 に含む他3~5mm前後の石英・長石粒を やや多く含む | 4/5 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 503 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | 16.4 | 4.8 | 9.7 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量 に含む他2~4mmの石英・長石粒を多く 含む | 4/5 | 不連続な回転指ナデ | 不連続な回転指ナデ | |
| 504 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | 17.8 | 4.3 | 10.7 | 10YR6/3 | 10YR5/3 | 7.5YR6/4 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く 含む他3mm前後の石英・長石粒を若干 含む0.5mm以下の黒色粒・金雲母を多く 含む | 1/1 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | |
| 505 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | | (2.4) | (9.9) | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/2 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・黒雲母 を若干含む | | 摩滅により不明 | 高台周辺:指ナデ | 反転復元 |
| 506 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | | (1.8) | (13.4) | 5YR7/6 | 5YR7/4 | 5YR6/6 | 良好堅緻 | 密(精製) | | ヘラミガキ(摩滅) | 高台周辺:不連続な回転 指ナデ | 反転復元 |
| 507 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高台付皿 | | (1.9) | (15.4) | 10YR7/3 | 10YR7/3 | 10YR8/2 | 良 | 密(精製) | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 508 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 盤 | | (1.4) | (22.9) | 5YR4/8 | 5YR6/8 | 5YR6/8 | 良好堅緻 | 密(精製) | | 剥落により不明 | 底部:ヘラミガキ削落によ り不明 | 反転復元 |
| 509 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 皿蓋 | | (2.5) | (18.7) | 5YR7/4 | 5YR7/4 | 5YR6/4 | やや不良 | 含む | 1/6 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 510 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 蓋 | (21.0) | (1.2) | | 5YR5/6 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/3 | 良好 | やや粗 | | ヘラミガキ(摩滅) | ヘラミガキ(摩滅) | 反転復元 |
| 511 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 鉢蓋 | (27.7) | (1.6) | | 5YR5/6 | 5YR5/6 | 10YR6/4 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若 干含む | | ヘラミガキのち放射状暗 文 赤色顔料塗布 | ヘラミガキ(摩滅) 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 512 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 高坏 | | (3.6) | | 7.5YR8/4 | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 良好堅緻 | 密(精製) | | 板ナデ(摩滅) | ヘラ削り(摩滅) | |
| 513 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (12.9) | (8.0) | | 10YR5/3 | 2.5YR7/6 | (外側)2.5YR6/4 (中心)2.5Y4/1 | やや不良 | 含む | | 指ナデ 口縁部:指ナデ | 体部:摩滅により不明 頸部:指ナデ 口縁部:摩滅により不明 | 反転復元 |
| 514 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (14.9) | (5.0) | | 2.5YR5/6 | 7.5YR6/4 | 2.5YR5/6 | やや不良 | 粗 2mm前後の石英・長石粒を大量に 含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 515 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | 14.5 | 3.4 | | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 2.5Y3/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 体部:板ナデ(摩滅) 口縁部:ハケ | 頸部から口縁端部: 指ナデ | 反転復元 |
| 516 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (16.4) | (4.3) | | 10YR5/2 | 10YR5/2 | 2.5Y5/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 体部:指ナデ 口縁部:ハケ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 517 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (17.6) | (3.0) | | 10YR4/2 | 2.5YR5/6 | 5YR6/6 | 良 | 粗 1~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 518 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (17.2) | (2.8) | | 7.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | 5YR6/6 | 良 | 粗 1~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 体部:ハケ(摩滅) | 頸部から口縁端部:強い 指ナデ | 反転復元 |
| 519 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (15.0) | (8.6) | | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 良 | 粗 2mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 520 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (21.4) | (5.4) | | (口縁部) 10YR5/3 2.5Y3/2 | 10YR3/2 | 7.5YR5/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 体部:指ナデ 頸部から体部:ハケ | 体部:ハケ 頸部から口縁端部:強い 指ナデ | 反転復元 |
| 521 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (21.2) | (5.0) | | 10YR5/3 | 7.5YR5/4 | 10YR5/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | 体部:板ナデ 口縁部:ハケ | 体部:ハケ 頸部から口縁端部:強い 指ナデ | 反転復元 |
| 522 | 110 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (21.0) | (10.5) | | 10YR5/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む他5mm前後の石英・長石粒を僅か に含む | | 指ナデのち板ナデ | ハケ 口縁部:指ナデ全体的に 摩滅 | 反転復元 |

| 観文 番号 | 補図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徵 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-------|------|-----|-----|-----------------|----------------|---------------|---------------------|-------------------|------|---|-----|-------------------|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 523 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 鉢 | (40.4) | (7.4) | | 10YR6/2 | 2.5YR6/4 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 524 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 鉢把手 | | | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好堅緻 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他1mm以下の黒色粒を多く含む | | ハケのち指ナデ | | |
| 525 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 鉢把手 | | | | 10YR6/3 7.5YR6/6 | 5YR6/6 10YR6/3 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む他1mm以下の黒色粒を多く含む | | 指ナデ | | |
| 526 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (22.4) | (2.3) | | 7.5YR5/4 | 5YR5/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 527 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (25.0) | (4.1) | | 10YR7/4 | 10YR6/4 | 不良 | 粗 2~3mmの長石粒を多く含む他4mm前後の黒石粒を僅かに含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 528 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (28.6) | (4.4) | | 5YR5/6 | 2.5YR6/6 | 良 | 粗 0.5~2mm前後の石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 529 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (32.0) | (2.9) | | 10YR6/4 | 7.5YR6/4 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を多く含む | | 口縁部:指ナデ | 反転復元 | |
| 530 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (31.4) | (3.8) | | 10YR7/3 | 7.5YR6/4 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・赤変した長石粒を大量に含む | | ハケ口縁部:板ナデ | 反転復元 | |
| 531 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (34.0) | (3.4) | | 5YR5/6 | 5YR6/8 | やや不良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 532 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (33.8) | (7.1) | | 2.5YR5/6 | 2.5YR5/6 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | ハケ | 反転復元 | |
| 533 | 111 | 44 | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (29.0) | (9.1) | | 5YR5/6 | 2.5YR5/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 534 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | (31.4) | (2.9) | | 7.5YR7/3 | 2.5Y6/2 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | ハケ | 反転復元 | |
| 535 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕 | | (6.8) | | 7.5YR5/4 | 10YR6/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他4mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 指押さえのちハケ | | |
| 536 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 甕把手 | | | | 7.5YR6/4 7.5Y3/1 | 7.5YR7/4 | 良 | 粗 0.5~2mm前後の石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 指押さえのち指ナデ | | |
| 537 | 111 | | I区 | SR01 | 土師器 | 土釜? | (22.2) | (4.5) | | 10YR5/3 | 10YR5/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他0.5mm前後のカクセン石をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 538 | 111 | | I区 | SR01 | 土師質 | 甕 | (現存長) (26.9) | (現存幅) (9.9) | (厚さ) (1.1) | 2.5YR5/8 | 10YR8/3 | 良 | 粗 0.5~8mm程度の石英・長石粒をやや多く含む | | 接合部指押さえのち全面指ナデ | | |
| 539 | 111 | | I区 | SR01 | 土師質 | 甕 | (現存長) (11.5) | (現存幅) (6.8) | (厚さ) (1.0) | 7.5YR5/6 | 7.5YR7/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他3~5mmの石英・長石粒を多く含む | | 接合部指押さえのち全面指ナデ | | |
| 540 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏H身 | (6.3) | (1.7) | | 10YR6/1 | 10YR6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 541 | 112 | | I区 | SR01 | 須恵器 | 坏H身 | (10.2) | (1.7) | | 5PB7/1 | 5PB7/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 542 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏H身 | (10.2) | (2.3) | | N7/0 | 5P7/1 | 良好堅緻 | 粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 543 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 坏 | | (1.3) | (6.0) | 5Y7/1 | 2.5Y8/1 | やや不良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 544 | 112 | 45 | I区-① | SR01 | 須恵器 | 無台坏 | (11.8) | 4.4 | (8.2) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む | 1/4 | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 545 | 112 | 45 | I区-②③ | SR01 | 須恵器 | 無台坏 | 12.6 | 3.1 | 8.7 | N7/0 | N8/0 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を多く含む | 1/2 | 回転指ナデ | 反転復元 | |

| 報文 番号 | 挿入 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------|------|-----|--------|--------|-------|----------|----------|---------------------------------------|----------|------|----------------------------------|-----|-----------|---|------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 546 | 112 | 53 | I区 | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (7.6) | (3.0) | 10YR7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良好 | 粗 2mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:へら切り未調整 底部中央付近に×印の へら記号 | 反転復元 |
| 547 | 112 | 45 | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (9.1) | 3.8 | N7/0 | N6/0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 548 | 112 | 45 | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (9.3) | 3.3 | N7/0 | N8/0 | N8/0 | N8/0 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をや や多く含む | 1/4 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 549 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (10.2) | (3.4) | N7/0 | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅か に含む | 1/6 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 550 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (11.0) | (2.7) | N6/0 | 10BG5/1 | N7/0 | N7/0 | 良好 | 緻密 | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:へら切りのち不定 方向の指ナデ | 反転復元 |
| 551 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (11.8) | (2.2) | N6/0 | N5/0 | N7/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色 粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:へら切りのち不定 方向の指ナデ | 反転復元 |
| 552 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 杯 | (9.5) | (1.3) | 5Y6/1 | 2.5Y6/1 | (外側)2.5Y6/1 (内側)5Y6/1 (中心)5G6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 摩滅 | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り 精緻な回転へら削り | 反転復元 |
| 553 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (12.0) | (1.2) | 2.5Y8/1 | 7.5Y7/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 1mm前後のクサリ層を若干含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 |
| 554 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (9.0) | (2.3) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:へら切りのち不定 方向の指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 555 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 杯(壺蓋?) | (13.7) | (1.9) | 5PB6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を僅か に含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 556 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 無台杯 | (18.0) | (2.1) | 5BG5/1 | 5BG5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 557 | 112 | 45 | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (11.2) | 3.3 | 10G5/1 | 10G5/1 | N6/0 | N6/0 | 良好 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く 含む | 1/4 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削りのち 不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 558 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (12.8) | (4.3) | N6/0 | N4/0 | N6/0 | N6/0 | 良好 | 密 | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 559 | 112 | 45 | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | 15.4 | 5.0 | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに 含む | 4/5 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 560 | 112 | 45 | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (16.8) | 4.3 | N5/0 | N5/0 | N6/0 | N6/0 | 良好 | 密 1~3mmの石英・長石粒を僅かに 含む | 1/4 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り 高台内面:爪形圧痕 | 反転復元 |
| 561 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (17.0) | (4.0) | 10YR8/1 | 10YR8/1 | (外側)10YR8/1 (中心)N5/0 | 10YR8/1 | 良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 562 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (15.5) | (1.5) | N6/0 | N5/0 | 7.5YR5/2 | 7.5YR5/2 | 良好 | 緻密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅か に含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 563 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (0.9) | (0.9) | 2.5CY5/1 | 2.5CY5/1 | 2.5CY6/1 | 2.5CY6/1 | 良 | 密 | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 564 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (1.6) | (1.6) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色 粒を多く含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 摩滅 | 反転復元 |
| 565 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (10.5) | (1.3) | 5P7/1 | N6/0 | 5R6/1 | 5R6/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 566 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (9.9) | (1.4) | 7.5YR6/1 | 10YR5/1 | 10YR6/1 | 10YR6/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大盛に 含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |
| 567 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (9.2) | (1.2) | 5PB5/1 | 5PB4/1 | (外側)5PB5/1 (中心)5R5/1 | 5PB5/1 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多 く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転へら削り | 反転復元 |

| 観文 番号 | 補図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------|------|-----|--------------------|--------|--------|----------|----------|----------|--|-----------------------|---|-------|---|------------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 568 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.2) | (9.6) | N7/0 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良 | やや粗 含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:ヘラ切り未調整 | 回転 反転復元 | |
| 569 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.7) | (10.0) | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | やや粗 かに含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 回転 反転復元 | |
| 570 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.7) | (9.8) | 10YR7/1 | N7/0 | 2.5Y7/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 571 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.3) | (10.0) | 5Y5/1 | 10Y5/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む 他2mm前後の黒色粒を僅かに含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 572 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.3) | (10.9) | 5Y6/1 | N6/0 | 5BC6/1 | 良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を大 量に含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 573 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.0) | (10.4) | 5PB6/1 | 10G5/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含 む他2~3mmの黒色粒を僅かに含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 574 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.8) | (6.5) | N5/0 | N5/0 | N6/0 | 良好 | 密 | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 575 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.8) | (9.4) | N6/0 | N6/0 | N7/0 | 良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含 む他1mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデのち見込に 不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 576 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.4) | (10.8) | 10BC5/1 | 10BC5/1 | 2.5GY5/1 | 良好 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く 含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 577 | 112 | 52 | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.1) | (10.7) | N6/0 | N5/0 | N6/0 | 良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多 く含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 578 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | (13.4) | (2.85) | | 2.5GY5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含 む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 579 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (4.3) | (8.8) | 2.5Y7/1 | 5G5/1 | 10YR7/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色 粒を多く含む | | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 580 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.4) | (10.8) | 2.5Y8/2 | 2.5Y7/2 | N7/0 | 不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を大量に 含む | | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 581 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.2) | (11.9) | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をや や多く含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 582 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.7) | (11.8) | 5PB6/1 | 10BC5/1 | 5YR6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をや や多く含む | | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 583 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.1) | (11.4) | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色 粒を僅かに含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:ヘラ切りの ち不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 584 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.1) | (10.9) | 10YR8/1 | 10YR8/1 | N6/0 | 良好 | やや粗 1mm以下の石英・長石粒をやや 多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 585 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.9) | (11.9) | N6/0 | N6/0 | N6/0 | 良 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を大量に 含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 586 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (1.8) | (12.6) | 5B5/1 | 5B4/1 | (外側)5F5/1 (内側)5Y7/1 | 良好堅緻 | 密 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒をや や多く含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 587 | 112 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.7) | (12.1) | N5/0 | 7.5Y6/1 | (外側)7.5Y6/1 (内側)N5/0 (中心)10YR6/2 | 良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに 含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 588 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (2.9) | (11.2) | 2.5GY5/1 | 2.5GY6/1 | (外側)2.5GY6/1 (中心)10YR7/2 | 良 | 密 | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 589 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 | | (3.6) | 10.9 | 2.5Y5/1 | 2.5Y7/1 | (外側)2.5Y7/1 (中心)2.5Y5/1 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若干 含む | | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 590 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高台付杯身 環 (蓋?) | (12.0) | (2.6) | 2.5Y6/1 | 2.5Y4/1 | 2.5Y4/1 | (外側)5PB3/1 (中心)5R4/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 591 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 環 | (14.2) | (2.6) | 7.5YR5/1 | 10YR5/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 反転復元 | | |

| 編入 番号 | 種別 番号 | 種別 図版 | 調査区 | 連機名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の指致 | | 備考 |
|----------|----------|----------|------|------|-----|-------|--------|--------|--------|-----------------|----------------------------|------|-----|-----|----------|-------|------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 592 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (14.8) | (2.8) | | 2.5Y7/1 | N4/0 | やや不良 | 粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 593 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (12.0) | (2.5) | | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 594 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (11.8) | (4.9) | | 10BG6/1 | 5Y6/1 | 良好 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 595 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (12.7) | (3.5) | | 5PB6/1 | 5YR5/2 | 良好堅緻 | 密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 596 | 112 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 坏 | (12.8) | (4.3) | | 5Y4/1 | 5Y5/1 | 良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 597 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (12.8) | (3.9) | | 5Y6/1 | 5Y5/1 | 良好堅緻 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 598 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (13.8) | (3.0) | | 10BG4/1 | 10Y6/1 | 良好堅緻 | 密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 599 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (14.5) | (3.8) | | 10Y5/1 | 7.5Y6/1 | 良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 600 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (15.0) | (3.2) | | 2.5GY6/1 | 10Y6/1 | 良好 | 密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 601 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (17.6) | (5.2) | | 7.5Y5/1 | (外側)7.5Y6/1 (中心)10YR7/2 | 良好 | 密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 602 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (17.5) | (3.4) | | 5PB5/1 | 5YR5/2 | 良好堅緻 | 微密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 603 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (18.6) | (6.1) | | 5B5/1 | 5B5/1 5B1/3 | 良好堅緻 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 604 | 112 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 坏 | (19.6) | (3.0) | | N5/0 | 7.5YR5/2 | 良好堅緻 | 微密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 605 | 113 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台皿 | | (1.3) | (10.4) | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/1 | 良 | 密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 606 | 113 | 52 | I区-② | SR01 | 須恵器 | 無台皿 | | (2.25) | (18.0) | N6/0 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 607 | 113 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 皿C | (17.8) | (3.0) | | 5B5/1 | 5B5/1 | 良好 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 608 | 113 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 皿 | (17.5) | (1.9) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 609 | 113 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 皿 | (17.6) | (2.0) | | N6/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 610 | 113 | | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 皿C | (19.7) | (2.4) | | 10BG6/1 | 5B6/1 | 良好 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 611 | 113 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高坏 | | (4.5) | (8.0) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 612 | 113 | | I区-① | SR01 | 須恵器 | 高坏 | | (1.2) | (6.9) | 10GY4/1 | 5B6/1 | 良好堅緻 | 微密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 613 | 113 | | I区-② | SR01 | 須恵器 | 高坏 | | (1.2) | (12.9) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 614 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.6) | (2.3) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 615 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (2.3) | (1.95) | 5PB7/1 | 10R6/1 | 良好堅緻 | 微密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 616 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.7) | (2.3) | 2.5Y6/1 | 5Y7/1 | 良 | やや粗 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 617 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (12.5) | 1.55 | | N6/0 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良好 | やや粗 | 1/3 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 618 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (2.0) | (2.4) | 10BG5/1 | 5YR6/3 | 良好堅緻 | 微密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |

| 種文 番号 | 挿入 図版 | 調査区 | 速構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徵 | | 備考 |
|----------|----------|------|------|-----|-----------------|--------|--------|--------------------|-------------------------|--|------|---|-----|------------------------------------|-----------------------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 619 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (11.8) | (1.5) | 2.5Y7/1 7.5Y5/1 | 10BG5/1 | 7.5Y6/1 | 良 | やや粗 1mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む他3mm前後の長石・黒色粒を含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 620 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (13.6) | (1.25) | N7/0 | N7/0 | 5Y7/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 621 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (13.8) | 1.3 | 7.5Y4/1 | 5P7/1 | 2.5YR6/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 622 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (12.4) | (3.2) | 10YR7/1 | 2.5Y6/3 | 10YR7/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | 1/5 | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 623 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.2) | (1.6) | 10BG4/1 | 10BG4/1 | (外側)10BG4/1 (中心)7.5YR5/2 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む他2mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 624 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.4) | (1.9) | N6/0 | N5/0 | N7/0 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む他1mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 625 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.6) | (2.1) | 7.5Y5/1 | 7.5Y6/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 626 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.0) | (1.5) | N6/0 | N6/0 | 5Y7/1 | 良 | 密 2mm以下の黒色粒を若干含む | | 精緻な回転指ナデ | 回転復元 | |
| 627 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.8) | (1.5) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 628 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.1) | (1.1) | 10YR8/1 | 2.5Y7/1 | (外側)10YR8/1 (中心)2.5Y7/1, 2.5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mm以下の石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 629 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.8) | (1.1) | N7/0 | N6/0 (自然軸) 10Y4/2 | N7/0 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 630 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 (転用説?) | (18.0) | (2.3) | N5/0 | 7.5Y5/1 | 5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む他2mm前後の長石粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 631 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.9) | (2.7) | 5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 632 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.5) | (1.4) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 633 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.8) | (1.4) | N6/0 | 2.5Y5/1 | N6/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 634 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.4) | (2.1) | 10GY4/1 | 5B4/1 | 10BG6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 635 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (18.3) | (1.5) | N5/0 | N6/0 | N7/0 N4/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 636 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (20.0) | (1.4) | 5B5/1 | N6/0 | (外側)10BG6/1 (中心)7.5YR6/2 | 良好堅緻 | 緻密 | | 精緻な回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 576と同一 個体? | |
| 637 | 113 | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 坏蓋 | (9.0) | (1.4) | 2.5GY6/1 | 5B6/1 | N6/0 | 良好 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 638 | 113 | I区-② | SR01 | 須恵器 | 壺 | (10.9) | (1.9) | 5Y4/1 | 5Y3/2 | 5Y6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ 自然軸により不明瞭 | 回転復元 | |
| 639 | 113 | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 壺 | (13.4) | (3.3) | 2.5Y7/1 | 5Y6/2 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ 自然軸により不明瞭 | 回転復元 | |
| 640 | 113 | I区-③ | SR01 | 須恵器 | 壺 | (17.9) | (1.1) | 2.5Y6/1 | 7.5Y4/2 | 2.5Y6/1 | 良好堅緻 | 緻密 1mm以下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ (自然軸により不明瞭) | 回転復元 | |
| 641 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 壺 | | (5.1) | 5Y7/1 | N6/0 | 10YR7/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ 体部:精緻な回転へラ削り 肩部:列点文・凸線 | 回転復元 | |
| 642 | 113 | I区 | SR01 | 須恵器 | 高台付壺 | | (3.5) | N7/0 | 5Y6/1 | 5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 643 | 113 | I区-② | SR01 | 須恵器 | 壺 | (22.9) | (3.7) | N8/0 | 2.5Y8/1 | N8/0 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 精緻な回転指ナデ | 回転復元 | |

| 編入 番号 | 挿入 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-------------|--------------|------------|---------------|----------------|-----------------|---------------|---------------------|-------------------|------------------------------|------|--|----------------------------|------------------------------------|------|-----------------------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 644 | 113 | | I区 | SR01 | 須恵器 | 甕 | (30.8) | (4.1) | | 5PB6/1 | 10YR5/2 | 10YR5/2 | 良好堅緻 | やや粗 多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデの波状文 | 反転復元 | |
| 645 | 113 | | I区 II区-① | SR01 機械掘削 | 須恵器 | 甕 | (10.0) | (10.0) | | 7.5YR5/1 | 2.5YR5/2 | 2.5YR5/2 | 良好堅緻 | 緻密 | 精緻な指ナデ | 自然軸により不明 | 反転復元 | |
| 646 | 113 | 45 | I区 | SR01 | 須恵器 | 平皿 | 8.85 | 14.5 | 15.2 | 5Y5/1 | N6/0 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を大量に 含む | 回転指ナデ 天井部:円盤充填 | | | 反転復元 |
| 647 | 114 | | I区 | SR01 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (16.9) | (5.9) | | 7.5Y2/1 10YR6/2 | 7.5Y2/1 5YR6/6 | 2.5Y7/2 5YR6/6 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色 粒をやや多く含む | ヘラミガキ下半:磨滅 | | | 反転復元 |
| 648 | 114 | | I区 | SR01 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (21.8) | (7.6) | | 5YR6/6 | 5YR6/6 | (外側)5YR6/6 (中心)5Y6/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒・金雲 母を多く含む | 指押さえのち指ナデ (磨滅) | | | 反転復元 725と同一 個体? |
| 649 | 114 | 46 | I区 | SR04 | 土師器 | 管状土埴 | (現存長) 5.3 | (現存幅) 2.1 | (厚さ) 2.0 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | 1/1 | 精緻な指ナデ | | |
| 650 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (5.2) | (現存幅) (1.3) | (厚さ) (1.1) | 10YR8/2 | 10YR8/1 | 10YR8/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を大 量に含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 651 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (5.4) | (現存幅) (1.2) | (厚さ) (1.2) | 5YR6/3 10YR7/2 | 5YR7/3 10YR8/1 | 5YR7/3 10YR8/1 | 良 | 密 1mm前後の石英・長石粒を僅かに 含む | | 精緻な指ナデ(磨滅) | | |
| 652 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (6.0) | (現存幅) (1.45) | (厚さ) (1.3) | 10YR5/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多 く含む他0.5mm以下の金雲母を大 量に含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 653 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) 8.4 | (現存幅) 1.5 | (厚さ) 1.4 | 10YR6/4 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多 く含む | 1/1 | 精緻な指ナデ | | |
| 654 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) 8.0 | (現存幅) 1.6 | (厚さ) 1.5 | 2.5Y6/4 7.5YR6/3 | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含 む他0.5mm以下の金雲母を多く 含む | 1/1 | 磨滅により不明 | | |
| 655 | 114 | 46 | I区 | SR01 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) 10.9 | (現存幅) 1.4 | (厚さ) 1.4 | 10YR6/4 | 10YR6/3 | 10YR6/3 | 良好 | 密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を多 く含む | 1/1 | 精緻な指ナデ | | |
| 656 | 114 | | I区-① | SR03 | 土師器 | 高台付皿 | (2.0) | (2.0) | (13.5) | 10YR8/2 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 良 | 緻密(精製) | ヘラミガキ(磨滅) 指ナデ | | 反転復元 | |
| 657 | 114 | | I区-② | SR03 | 土師器 | 高台付埴 | (1.2) | (1.2) | (10.2) | 10YR6/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をや や多く含む | 指ナデ 赤色顔料塗布 | | 反転復元 | |
| 658 | 114 | | I区-① | SR03 | 土師器 | 皿蓋 | (18.0) | (1.1) | | 7.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | (外側)7.5YR5/4 (中心)7.5YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多 く含む | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | | 反転復元 | |
| 659 | 114 | | I区-③ | SR03 | 土師器 | 皿蓋 | (22.9) | (1.0) | | 5YR7/6 | 5YR7/8 | 5YR7/8 | やや不良 | 密(精製) | 磨滅により不明 | | 反転復元 | |
| 660 | 114 | | I区-③ | SR03 | 土師器 | 甕 | (14.6) | (3.1) | | 7.5YR6/4 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 良好 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を大量に 含む | 回転指ナデ 天井部:磨滅 口縁部:指ナデ | | 反転復元 | |
| 661 | 114 | | I区-③ | SR03 | 土師器 | 甕 | (29.4) | (2.4) | | 7.5YR7/4 | 2.5Y6/3 | 7.5YR7/4 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に 含む | 指ナデ | | 反転復元 | |
| 662 | 114 | 46 | I区-③ | SR03 | 土師器 | 高坏 | (23.8) | (5.8) | | 10YR7/2 | 10YR5/1 | 10YR5/1 | 良好 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多 く含む他5mm前後の長石粒をやや多 く含む | 1/2 | 突帯周辺:強い指ナデ 体部:板ナデ 脚部接合部:指押さえ | 反転復元 | |
| 663 | 114 | | I区-③ | SR03 | 須恵器 | 無台坏 | (13.3) | (3.2) | (8.9) | 7.5Y6/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多 く含む | 1/6 | 回転指ナデのち見込に 不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 664 | 114 | | I区-③ | SR03 | 須恵器 | 無台坏 | | (0.9) | (8.1) | N5/0 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多 く含む | 回転指ナデ 底面:回転指ナデ | | 反転復元 | |
| 665 | 114 | 52 | I区-③ | SR03 | 須恵器 | 無台坏(転 用破?) | | (1.4) | (10.6) | N6/0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 緻密 | 回転指ナデ見込: 一文字のヘラ記号 | | 反転復元 | |
| 666 | 114 | | I区-② | SR03 | 須恵器 | 高台付坏身 | (13.8) | 4.1 | (8.7) | N5/0 | 10CY5/1 | N5/0 | 良好 | やや粗 1mm前後・5mm前後の長石粒を 僅かに含む | 回転指ナデのち見込に 不定方向の指ナデ | | 反転復元 | |

| 報文 番号 | 種別 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 連構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 調 | | 焼成 | 粘土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|--------------|--------------|------------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------|----------------------------|----------|--------|------|--|-----|------------------------|--|------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 内 | 外 | | | | 内 | 面 | |
| 690 | 115 | | I区-② | SR03 | 須恵器 | 壺 | | (4.2) | | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 良 | やや粗 0.5~2mm前後の石英・長石粒を やや多く含む | | 板ナデ | 精緻な指ナデ | 反転復元 |
| 691 | 115 | | I区-② I区-③ | 機械掘削 SR03 | 須恵器 | 壺 | | (8.0) | | 2.5Y6/1 | (外側)5PB7/1 (中心)7.5YR6/2 | | | 良好堅緻 | 密 0.5mm前後の黒色粒を多く含む | | 精緻な回転指ナデ | 肩部: 精緻な回転ヘラ削り 頸部: 精緻な回転指ナデ 底部: 精緻な指ナデ | 反転復元 |
| 692 | 115 | | I区-① I区-③ | 包含層 SR03 | 須恵器 | 高台付壺 | | (3.85) | (10.6) | 5Y5/1 | 10YR7/1 | 10YR7/1 | | 良好 | やや粗 1mm以下の黒色粒を大量に含 む | | 不定方向の指ナデ | 体部: 精緻な指ナデ 底部: 精緻な指ナデ | 反転復元 |
| 693 | 115 | | I区-① I区-② | 包含層 SR03 | 須恵器 | 高台付壺 | | (6.9) | (9.7) | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若 干含む | | 回転指ナデ | 体部: 精緻な回転ヘラ削り 底部: 回転指ナデ | 反転復元 |
| 694 | 115 | | I区-② | SR03 | 黒色土器 A類 | 高台付壺 | | (2.65) | (7.6) | 7.5YR8/6 | 2.5Y4/1 | 2.5Y4/1 | | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 695 | 115 | | I区-③ | SR03 | 土師器 | 棒状土鉢 | (現存長) (5.4) | (現存幅) (1.4) | (厚さ) (1.3) | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | | 良好 | やや粗 1mm以下の石英・長石・黒色粒 を大量に含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 696 | 115 | | I区-④ | SR03 | 土師器 | 棒状土鉢 | (現存長) (5.5) | (現存幅) (1.25) | (厚さ) (1.1) | 2.5Y6/2 | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒・金雲母を やや多く含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 697 | 115 | | I区-③ | SR03 | 土師器 | 棒状土鉢 | (現存長) (7.0) | (現存幅) (1.35) | (厚さ) (1.15) | 2.5Y6/3 | 2.5Y5/2 | 2.5Y5/2 | | 良好 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒・金雲母を 多く含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 698 | 115 | | II区 | SR05 | 土師器 | 無台杯 | (15.4) | (4.1) | (12.1) | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | | 良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く 含む | | 指ナデ | 体部: 指ナデ 高台周辺: 指ナデ 底部: 手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 699 | 115 | | II区 | SR05 | 土師器 | 高台付皿 | | (1.3) | (10.8) | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒・金雲母を やや多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 700 | 115 | | II区 | SR05 | 土師器 | 皿 | (22.0) | (3.1) | (2.5Y8/2) | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | 2.5Y8/2 | | やや不良 | やや粗 2mm前後の石英・長石粒を僅か に含む | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 701 | 115 | | II区 | SR05 | 土師質 | 苺 | (現存長) 15.0 | (現存幅) 6.5 | (厚さ) — | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | | 指押さえ | 指押さえのち指ナデ | |
| 702 | 115 | | II区 | SR05 | 須恵器 | 杯 | (11.3) | (3.7) | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 703 | 115 | | II区 | SR05 | 須恵器 | 杯 | (12.4) | (2.9) | | 5B6/1 | 5B6/1 | 5B6/1 | | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を僅かに 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 704 | 115 | | II区 | SR05 | 須恵器 | 杯 | (13.0) | (2.6) | | 5G5/1 | 5G5/1 | 5G5/1 | | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや 多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 705 | 115 | | II区 | SR05 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | | (2.05) | (精み径) 2.4 | 7.5Y6/1 | (外側)N6/0 (中心)2.5YR6/1 | | | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデのち不定方 向の指ナデ | 回転指ナデ | |
| 706 | 115 | | II区 | SR05 | 須恵器 | 甕 | (15.4) | (2.9) | | 5Y7/1 | 5Y6/2 | 5Y6/2 | | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をや や多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 707 | 115 | | II区 | SR05 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (18.9) | (4.9) | | 5Y3/1 | (外側)7.5YR8/4 (中心)5Y6/1 | | | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く 含む他3~5mm程度の石英・長石粒を僅 かに含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部: 磨滅 口縁部と口縁端部: 指ナデ | 反転復元 |
| 708 | 115 | | II区 | SR06 | 弥生土器 | 鉢 | | (3.5) | | 2.5Y6/3 | 10Y7/1 | 10Y7/1 | | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む 他0.5mm以下の黒色粒・金雲母を多く 含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 709 | 115 | | II区 | SR06 | 土師器 | 無台杯 | (17.0) | (2.7) | (13.9) | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | 7.5YR6/4 | | 良好 | 密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒・金 雲母を多く含む | | ヘラミガキのち放射状骨 文 | 体部: 磨滅により不明 底部: 手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 710 | 115 | | II区 | SR06 | 土師器 | 無台杯 | (16.6) | (3.4) | | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 10YR8/3 | | やや不良 | やや密 0.5mm前後の石英・長石粒を若 干含む他0.5mm以下の黒色粒をやや多く 含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部: ヘラミガキ(磨滅) 底部: 手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 711 | 115 | | II区 | SR06 | 土師器 | 無台杯 | (16.9) | (4.1) | (12.3) | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | | 良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多 く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部: 磨滅 底部: 手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 712 | 115 | | II区 | SR06 | 土師器 | 無台杯 | (18.6) | (3.7) | | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 10YR8/3 | | やや不良 | やや密 0.5mm前後の石英・長石粒を若 干含む他0.5mm以下の黒色粒をやや多く 含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部: ヘラミガキ(磨滅) 底部: 手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 713 | 115 | | II区 | SR06 | 土師器 | 無台杯 | (18.8) | (3.3) | | 5YR5/4 | 7.5YR4/6 | 5YR6/4 | | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色 粒・金雲母をやや多く含む | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 714 | 115 | | II区 | SR06 | 回転台 土師器 | 無台杯 | | (4.1) | (14.0) | 5YR6/6 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | | やや不良 | 密 0.5~3mm前後の石英・長石粒を若干 含む | 1/5 | 回転指ナデのち見込に 不定方向の指ナデ | 体部: 回転指ナデ(磨滅) 底部: 回転ヘラ削り | 反転復元 |

| 編 号 | 調査区 | 遺構名 | 種 別 | 器 種 | 口径 (cm) | 器高 | 底径 | 色 調 | | 焼 成 | 胎 土 | 残存量 | 整形・調整の痛傷 | | 備 考 |
|-----|-----|------|-------|-------|---------|-------|--------|----------|--|------|--|-----|--|--|------|
| | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 面 | 外 面 | |
| 715 | II区 | SR06 | 回配土師器 | 高台付杯身 | (15.1) | 4.7 | (11.3) | 10YR8/3 | 10YR8/4 (外側)7.5YR8/4 (中心)10YR8/2 | 不良 | 密(精製) | 1/4 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部・指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 716 | II区 | SR06 | 土師器 | 高台付皿 | (1.8) | (1.8) | (10.2) | 10YR6/4 | 5YR5/6 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒・金雲母をやや多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 高台周辺から体部・指ナデ 底部:手持ちヘラ削り (磨滅)赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 717 | II区 | SR06 | 土師器 | 杯C | (1.48) | (3.7) | | 7.5YR8/4 | 5YR7/6 | 良好堅緻 | 緻密(精製) 1~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 見込:不定方向の指ナデの放射状構文(右上がり) 体部:ヘラミガキのち放射状構文(左上がり) | 体部:指ナデのち下半ヘラミガキ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 718 | II区 | SR06 | 土師器 | 皿 | (12.8) | (2.0) | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む他0.5mm以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 指ナデ(磨滅) | 反転復元 |
| 719 | II区 | SR06 | 土師器 | 皿 | (16.2) | (2.0) | | 10YR8/2 | 2.5YR/2 | やや不良 | やや粗(精製) | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 720 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台皿 | (15.4) | 2.3 | (12.5) | 10YR7/4 | 7.5YR8/4 | やや不良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 1/4 | ヘラミガキ(磨滅) | 体部:磨滅により不明 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 721 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台皿 | (20.0) | (2.4) | (17.7) | 10YR8/3 | 10YR8/3 | やや不良 | やや粗(精製) 0.5mm前後の白色粒を若干含む | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 722 | II区 | SR06 | 土師器 | 皿 | (20.5) | (2.3) | | 7.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 723 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台皿 | | (1.1) | (17.5) | 7.5YR5/3 | 7.5YR5/4 | 良好 | 密 0.5~2mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 手持ちヘラ削り(磨滅) | 反転復元 |
| 724 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台皿 | (23.8) | (2.4) | (20.8) | 10YR4/2 | 7.5YR5/4 | 良好 | 密 0.5~2mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 手持ちヘラ削り(磨滅) | 反転復元 |
| 725 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台埴 | 13.1 | 5.0 | 5.0 | 5YR5/6 | 5YR6/8 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の黒色粒・金雲母を多く含む | 1/1 | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | |
| 726 | II区 | SR06 | 土師器 | 無台埴 | 13.2 | 5.2 | 5.2 | 7.5YR5/4 | 10YR8/2 2.5Y6/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の黒色粒・金雲母を多く含む | 1/2 | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | |
| 727 | II区 | SR06 | 土師器 | 埴 | (15.9) | (3.2) | | 7.5YR5/4 | 10YR6/2 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒・金雲母を多く含む | | ヘラミガキ | ヘラミガキ(磨滅) | 反転復元 |
| 728 | II区 | SR06 | 土師器 | 鉢 | (15.0) | (3.2) | | 7.5YR5/3 | 7.5YR5/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒・金雲母をやや多く含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ 頸部:指押さえ半時計回りに押引状に施す | 反転復元 |
| 729 | II区 | SR06 | 土師器 | 高杯 | | (7.9) | (14.3) | 7.5YR8/3 | 7.5YR8/6 | 良 | やや粗(精製) | | 脚部上半:指ナデ 脚部下半:ハケ(磨滅) 外側:ヘラミガキのちらせん状構文 | 脚部上半:ヘラ削り脚部 下半:ヘラミガキ | |
| 730 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (12.0) | (3.4) | | 7.5YR5/4 | 5YR5/8 | 良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒・金雲母をやや多く含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 731 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (16.0) | (3.0) | | 10YR6/3 | 2.5YR7/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 体部:ハケのち板ナデ 口縁部:ハケのち板ナデ | 剥落により不明 | 反転復元 |
| 732 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (14.6) | (3.6) | | 10YR4/3 | 2.5YR6/8 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 口縁部:ハケのち板ナデ | 剥落により不明 | 反転復元 |
| 733 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (15.2) | (3.8) | | 7.5YR7/4 | 7.5YR6/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 強い指ナデ | 強い指ナデ | 反転復元 |
| 734 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (21.1) | (2.6) | | 10YR6/4 | 10Y5/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石・赤変した長石粒をやや多く含む | | ハケ | 体部:ハケ 頭部から口縁端部:強い指ナデ 体部と口縁部の間に段あり | 反転復元 |
| 735 | II区 | SR06 | 土師器 | 壺 | (20.4) | (0.7) | | 5YR4/6 | 5YR5/8 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む他2mm前後の長石粒をやや多く含む | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |

| 編入 番号 | 挿入 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|-------|------|-----|-------|-----------------|----------------|----------|---------|--------------------|------|---|-----|------------------------------------|---|------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断面 | | | | 内面 | 外面 | |
| 736 | 116 | II区 | SR06 | 土師器 | 甕 | (27.4) | (7.4) | 2.5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y8/1 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ(磨滅) | 体部:カキ目 頸部から口縁端部:回転指ナデ | 反転復元 | |
| 737 | 116 | II区 | SR06 | 土師器 | 甕 | (29.7) | (4.0) | 7.5YR5/4 | 5YR6/6 | 7.5YR6/3 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 | |
| 738 | 116 | 47 | SR06 | 土師器 | 甕 | (39.8) | (10.65) | 2.5Y5/2 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の長石粒を若干含む | | 体部:ハケ 口縁部:板ナデ | 体部:ハケ 頸部から口縁端部: 強い指ナデ | 反転復元 | |
| 739 | 116 | II区 | SR06 | 土師器 | 甕 | (現存径) (9.95) | (現存幅) (4.6) | 10YR5/2 | 10YR5/2 | 2.5Y4/1 10YR6/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石・赤変した長石粒を大量に含む | | 指押さえ | 指押さえのち指ナデ | | |
| 740 | 116 | 47 | SR06 | 須恵器 | 無台坏 | 11.9 | 3.8 | N7/0 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | 密 2mm前後の石英・長石粒・灰白色チャートを僅かに含む | 2/3 | 見込:回転指ナデのち 不定方向の指ナデ | 体部から口縁端部: 指ナデ 底部:ヘラ削り糸調整 | 反転復元 | |
| 741 | 116 | 47 | SR06 | 須恵器 | 無台坏 | (13.0) | 4.0 | 5Y7/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデ | 体部から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り 底面:強い不連続な回転指ナデ | 反転復元 | |
| 742 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 無台坏 | (7.7) | (3.7) | 2.5Y8/1 | 10YR8/2 | 2.5Y8/1 | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | 1/4 | 回転指ナデ(磨滅) | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち 不定方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 743 | 116 | 47 | SR06 | 須恵器 | 無台坏 | 14.4 | 4.4 | 10YR6/2 | 7.5Y6/1 | 5Y5/1 | 不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | 4/5 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち 不定方向の指ナデ | | |
| 744 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (12.8) | 4.6 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y7/1 | 良好 | やや粗 1mm前後の黒色粒をやや多く含む | 1/5 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 745 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (2.8) | (9.5) | 10YR6/1 | 5Y8/2 | 5Y8/1 | 不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 746 | 116 | II区-② | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (14.2) | (4.3) | 5Y7/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を若干含む 粗 1~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | 1/2 | 体部:回転指ナデ 底部:回転指ナデのち 不定方向の指ナデ | 高台内外部から体部に かけて回転指ナデ 底部:手押へラ削り | 反転復元 | |
| 747 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (1.6) | (9.6) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ見込:不定方 向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 748 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (1.8) | (1.8) | 7.5Y6/1 | 7.5Y6/1 | 7.5Y7/1 | やや不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ見込:不定方 向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 749 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (2.2) | (2.2) | N6/0 | 7.5Y6/1 | N7/0 | 良好 | 粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ見込:不定方 向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 750 | 116 | 48 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏身 | (15.6) | 3.2 | N7/0 | N7/0 | 5Y7/1 | 良 | やや粗 | 1/4 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 751 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 坏 | (17.0) | (2.3) | 5B6/1 | 5B6/1 | 5B6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 752 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.0) | (1.2) | 5B6/1 | 5B6/1 | 10BG7/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち天井部 へラ削り | 回転指ナデ天井部:回転 ヘラ削り | 反転復元 | |
| 753 | 116 | 48 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.5) | 3.4 | 2.5Y7/1 | N6/0 | N7/0 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | 1/3 | 回転指ナデのち不定方 向の指ナデ | 回転指ナデ天井部:回転 ヘラ削り | 反転復元 | |
| 754 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.1) | (2.6) | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/2 | 7.5Y6/2 | 不良 | やや粗 0.5~2mmのククサリ礫をやや多く含む | | 回転指ナデ(磨滅) | 回転指ナデ(磨滅) 天井部:回転ヘラ削り(磨滅) | 反転復元 | |
| 755 | 116 | 48 | SR06 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.8) | 2.1 | N7/0 | 5Y7/1 | N7/0 | 良好 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | 1/2 | 回転指ナデのち天井部 に不定方向の指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |

| 編文 番号 | 挿入 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 (横み径) | 断面 | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|------|--------------|--------|-------|--------|--------|--------------|---------------------|---|------|---|-----------|------------------------------------|-----------------------------------|------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 756 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 高台付杯蓋 | | (2.2) | (横み径) 3.6 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | 反転復元 |
| 757 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 壺 | (19.0) | (2.2) | | 7.5Y5/1 | 7.5Y5/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 758 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 甕 | (25.5) | (5.4) | | 10YR7/1 | 5PB7/1 | 良好堅緻 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒・クサリ礫を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 759 | 116 | II区 | SR06 | 須恵器 | 甕 | | | | N7/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 青海波文のち弱い指ナデ | タタキのちハケメ | |
| 760 | 116 | 48 | SR06 | 黒色土器A類 | 皿 | 23.2 | 3.7 | 11.7 | 5Y2/1 | 2.5Y8/2 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む 他3~5mmの石英・長石粒を僅かに含む | 2/3 | ヘラミガキ | 体部:ヘラミガキ 口縁部:指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | |
| 761 | 117 | III区 | SX07 | 土師器 | 小皿 | | (1.5) | (6.2) | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/3 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | 1/4 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:ヘラ切りのち外周部のみ指ナデ | 反転復元 |
| 762 | 117 | 48 | SX07 | 土師器 | 無台杯 | (12.6) | 3.2 | 9.4 | 10YR7/2 | 10YR7/2 | 良 | 粗 1~3mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒を若干含む | 2/3 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 763 | 117 | III区 | SX07 機械鋳削 | 土師器 | 無台杯 | (13.0) | (3.2) | (10.4) | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | 1/2 | 回転指ナデ | ヘラ切りのち板ナデ 体部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 764 | 117 | 48 | SX07 | 土師器 | 無台杯 | (13.6) | (3.2) | 9.7 | 7.5YR8/4 | 10YR8/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒を若干含む | 2/3 | 回転指ナデ | 底部:ヘラ切りのち板ナデ | 反転復元 |
| 765 | 117 | III区 | SX07 | 土師器 | 無台杯 | (16.8) | (3.5) | (9.6) | 10YR7/2 | 10YR7/3 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | 1/4 | 回転指ナデ | ヘラ切りのち板ナデ 体部:回転指ナデ | 反転復元 |
| 766 | 117 | III区 | SX04 | 土師器 | 壺 | (16.8) | (3.5) | (9.6) | 10YR5/3 | 10YR5/3 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む 他3~6mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 767 | 117 | III区 | SX04 | 土師質 | 土鍋 | (26.5) | (6.1) | | 7.5YR7/3 | 2.5YR6/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 板ナデ | 指ナデ 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 |
| 768 | 117 | 48 | SX04 | 土師質 | 土釜 | (23.2) | (10.1) | | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/2 | 良好 | 粗 1mm前後の石英・長石粒を大量に含む | | 板ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |
| 769 | 117 | 48 | SX04 | 土師質 | 土釜 | | | | 7.5Y7/4 | 5YR7/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 脚部 4/5 | 表:指ナデ 前面から裏面:粗い指ナデ 接合部:強い指ナデ | | |
| 770 | 117 | III区 | SX04 | 土師質 | 土釜 | | | | 2.5Y8/2 | (外側)2.5YR7/2 (中心)2.5Y8/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 脚部:指ナデ 接合部:指押さえのち強い指ナデ | | |
| 771 | 117 | 48 | SX04 | 土師質 | 土釜 | (29.5) | (9.0) | | 10YR8/4 | 5YR6/6 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | ハケのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ 底部:格子目タタキ | 反転復元 |
| 772 | 117 | III区 | SX04 | 土師質 | 土鍋 | (36.5) | (5.8) | | 2.5YR7/8 | 10YR3/2 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む 他5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 板ナデ | 指押さえのち指ナデ 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 |
| 773 | 117 | III区 | SX04 | 土師質 | 鍋 | (39.0) | (5.3) | | 2.5YR5/6 | 5YR6/6 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む 他3mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 板ナデ | 指押さえのち指ナデ 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 |
| 774 | 117 | 48 | SX04 | 土師質 | 鍋 | (47.4) | (12.1) | | 2.5Y6/2 | 10YR3/2 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む 他5~8mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 板ナデ | 指押さえのち指ナデ 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 |
| 775 | 117 | III区 | SX04 | 土師質 | 鍋 | (52.1) | (12.0) | | 2.5Y6/2 | 10YR6/2 | 良 | 粗 0.5~1mm以下の石英・長石粒を多く含む (粥浸または不明) | | 板ナデ | 指押さえ | 反転復元 |
| 776 | 118 | III区 | SX04 | 土師質 | 土釜 | | (7.4) | | 7.5YR5/4 10YR5/2 | 7.5YR7/6 (外側)7.5YR7/4 (中心)10YR6/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む 他3~5mmの石英・長石粒を多く含む | | 板ナデ | 体部:指押さえ 底部:格子目タタキ | 反転復元 |
| 777 | 118 | III区 | SX04 | 土師質 | 土釜 | | | | 7.5Y5/3 | 10YR5/3 2.5YR6/8 | 良 | 粗 0.5~2mm程度の石英・長石粒をやや多く含む | | 板ナデ | 格子目タタキ | |

| 欄文 番号 | 挿入 番号 | 写真 番号 | 調査区 図版 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 調 | | | 焼 成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備 考 |
|----------|----------|----------|-----------|-------|------------|-------|---------------------|-------|--------|---------|--------------------------------|---------|------|---|--------------------------------|--------------------------------|---------------|-----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | 所 | | | | 内 面 | 外 面 | |
| 778 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 須恵器 | 無台坏 | ∮7/0 | (3.3) | (10.7) | ∮7/0 | ∮7/0 | ∮7/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒をやや多く含む他5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 体部:回転指ナデ 底面:回転指ナデ 方向の指ナデ | 体部:回転指ナデ 底面:回転指ナデ 方向の指ナデ | 回転復元 | |
| 779 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | ∮6/0 | (1.9) | | ∮6/0 | ∮6/0 | ∮6/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~2mmの黒色粒をやや多く含む | 回転指ナデのち天井部に不定方向の指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 780 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 土師器 | 槽鉢 | 2.5YR5/4 | (5.4) | (34.0) | 5YR7/6 | 5YR7/6 | 10YR8/3 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | 板ナデのち3条または6条の沈線 | 指指さえ(剥落) 口縁端部:強い指ナデ | 回転復元 | |
| 781 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 備前 | 槽鉢 | 7.5YR3/3 | (5.6) | (27.4) | 7.5Y4/3 | (外側)2.5Y4/1 (中心)2.5YR6/3 | 10YR8/3 | 良好堅緻 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む他5mm前後の石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデのち6条のおろし目 | 粗い回転指ナデ | 回転復元 | |
| 782 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 備前 | 槽鉢 | 5YR6/1 | (5.0) | (12.8) | 10YR4/1 | (外側)∮5/0 (中心)2.5Y5/3 | 10YR4/1 | 良好堅緻 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデのち8条のおろし目 | 体部:回転指ナデ 底面:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 783 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 須恵器 | 壺 | ∮6/0 | (4.8) | (22.8) | ∮6/0 | ∮6/0 | ∮6/0 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒をやや多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 784 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 須恵器 | 壺 | 5G5/1 | (2.6) | (22.7) | 10Y6/1 | (外側)5YR4/1 (中心)5YR5/2 | 10Y6/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以上の石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 785 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 須恵器 | 甕 | 5Y4/1 | (4.8) | | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 2.5Y7/2 | 良好 | 密 1mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | ハケ | タタキ | | |
| 786 | 118 | | Ⅲ区 | SX04 | 青磁 | 高台付碗 | 10Y5/2 | (3.9) | (7.7) | 10Y5/2 | (一部)∮8/0 (基台外側) 2.5YR7/8 | 10Y5/2 | 良好堅緻 | 施軸高台内面: 軸2cm軸削 | 施軸 | | 回転復元 | |
| 787 | 118 | | Ⅲ区 | SX05 | 須恵器 | 高台付坏身 | ∮6/0 | (1.7) | (12.5) | 5Y8/1 | (外側)5Y8/1 (中心)5YR5/1 | 5Y8/1 | 良好堅緻 | 精密 1mm前後の黒色粒を若干含む | 高台周縁から体部:回転指ナデ 底面:回転へラ削り | 高台周縁から体部:回転指ナデ 底面:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 788 | 118 | | Ⅲ区 | SX05 | 須恵器 | 高台付坏身 | 2.5Y7/1 | (1.9) | (11.1) | 5Y7/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良好堅緻 | 精密 1mm前後の黒色粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 789 | 118 | | Ⅲ区 | SX05 | 瓦器 | 埴 | 2.5Y8/2 | (2.2) | (18.8) | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 10YR6/4 | 不良 | やや粗 | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 回転復元 | |
| 790 | 118 | | Ⅲ区 | SX05 | 瓦器 | 埴 | 5Y4/1 | (1.7) | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/3 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を若干含む | へラミガキ(摩滅) | 回転指ナデ(摩滅) | | |
| 791 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 土師質 | 土釜 | 2.5YR7/6 | | | 10YR6/6 | 10YR6/6 | 10YR6/6 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | 板ナデ | 体部:板ナデ 脚接合部:強い指ナデ | | |
| 792 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 土師質 | 土釜 | 2.5Y8/2 | | | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | 指ナデ | 指ナデ | | |
| 793 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 須恵器 | 無台坏 | 2.5Y7/1 | 2.55 | (7.0) | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | 2.5Y5/1 | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む他0.5mm以下の黒色粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底面:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 794 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 須恵器 | 坏身(G) | 2.5Y7/1 | 3.9 | (7.4) | 10Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 密 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の黒色粒を多く含む | 1/4 | 体部:回転指ナデ 底面:へラ削り未調整 | 回転復元 7C未調整 | |
| 795 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 須恵器 | 坏 | 5Y7/1 | (2.9) | (12.0) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石・黒色粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 796 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 白磁 | 高台付碗 | 2.5Y7/1 (軸)5Y6/1 | (3.1) | (5.8) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | ∮7/0 | 良好堅緻 | 細密 | 施軸純目軸削 | 削出高台体部:回転へラ削り | 回転復元 | |
| 797 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 陶器 (唐津) | 無台碗 | 5Y7/1 (軸)5Y5/3 | (1.7) | 4.2 | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/2 | ∮7/0 | 良好堅緻 | 細密 | 施軸砂目織み | 体部:回転指ナデ 底面:糸切り未調整 | 回転復元 | |
| 798 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 土師質 | 土鍋 | 10YR5/4 | (3.2) | (25.8) | 10YR4/4 | 2.5Y6/2 | 2.5Y6/2 | 良 | 粗 1mm以下の石英・長石粒を多く含む他2~4mmの石英・長石粒を僅かに含む | 摩滅により不明 | 強い指ナデ | 回転復元 | |
| 799 | 118 | | I区 | 福池状遺構 | 須恵器 | 裡ね鉢 | 10Y6/1 | (4.7) | (12.1) | 10Y6/1 | 10Y6/1 | 10Y6/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他10mm前後の青色ナットを僅かに含む | 不定方向の板ナデ | 体部:回転指ナデ 底面:回転へラ削りのち指ナデ | 回転復元 | |
| 800 | 119 | | I区 | 包含層 | 弥生土器 | 鉢 | 7.5Y2/1 | (5.5) | (11.0) | 10YR4/1 | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | 良好 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他3~5mmの長石粒を僅かに含む | 体部:板ナデ 口縁部:ハケ(摩滅) | 板ナデのち指ナデ 底面:板ナデ | 回転復元 | |
| 801 | 119 | | I区 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | 10YR6/4 | (3.8) | (5.5) | 2.5Y3/1 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む他5~10mmの石英・長石粒をやや多く含む | 摩滅により不明 | 強い指ナデ | 回転復元 | |
| 802 | 119 | 49 | I区 | 包含層 | 土師器 | 無台坏 | 2.5Y8/2 | 3.4 | 8.6 | 5Y8/2 | (外側)2.5Y8/2 (中心)10CY | 5Y8/2 | 良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底面:へラ削り未調整 | 回転復元 | |

| 編文 番号 | 補図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 断面 | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|-----|------------|------|--------|-------|--------------|----------|------------------------------|---------------|--|-----|-----------|---------------------------------|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内面 | 外面 | |
| 803 | 119 | 49 | I区 | 包含層 | 回転台 土師器 | 無台杯 | (13.0) | 4.0 | (6.2) | 7.5YR6/6 | 2.5Y6/2 | やや不良 やや不具合 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデ(磨滅) | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 回転復元 | |
| 804 | 119 | | I区 | 包含層 | 回転台 土師器 | 無台杯 | (13.5) | 3.1 | (8.2) | 10YR7/3 | 10YR7/2 | やや不良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を僅かに含む他0.1mm以下の産露母ないし火山ガラスを大量に含む | 1/4 | 回転指ナデ(磨滅) | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 回転復元 | |
| 805 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 杯 | (14.6) | (2.5) | | 10YR8/4 | (外側)10YR7/4 (中心)2.5YR8/1 | やや不良 | 密(精製) | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 806 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 無台皿 | | (1.4) | (10.2) | 10YR7/4 | 2.5YR8/4 | 不良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | | 回転指ナデ(磨滅) | 回転復元 | |
| 807 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 皿 | (16.2) | (1.6) | | 7.5Y7/1 | 5Y6/2 | 良 | やや粗 0.5~1mmの黒色粒をやや多く含む | | | 回転指ナデ | 回転復元 | |
| 808 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 皿 | (16.8) | (1.7) | | 2.5YR5/6 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | | 下半:磨滅 口縁部:不連続な回転指ナデ 赤色顔料塗布 | 回転復元 | |
| 809 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 皿 | (20.3) | (2.4) | | 2.5YR6/8 | 5YR6/6 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 810 | 119 | 49 | I区 | 包含層 | 土師器 | 皿 | (25.6) | (2.7) | | 2.5YR6/4 | 7.5YR5/4 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を多く含む | | | ヘラミガキ(磨滅) 体部:放射状暗文(磨滅) | 回転復元 | |
| 811 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 高台付塊 | | (2.8) | (6.0) | 2.5YR5/6 | 2.5YR6/2 | 良好 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 812 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 皿蓋 | | (1.1) | (幅み盛) 3.1 | 10YR5/4 | 10YR6/3 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | | 磨滅により不明 回転指ナデ 赤色顔料塗布 | | |
| 813 | 119 | 49 | I区 | 包含層 | 土師器 | 高杯 | 18.5 | 14.05 | 12.05 | 10YR6/3 | 7.5YR7/3 | 良好 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒をやや多く含む他5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 4/5 | | 杯部:指押さえのち不連続な回転指ナデ 脚部:精緻な指ナデ | | |
| 814 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 鉢 | (27.0) | (5.7) | | 2.5YR6/8 | 5YR5/6 | 良 | 密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | | 精緻な指ナデ | 回転復元 | |
| 815 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 鉢 | | (5.8) | | 2.5YR6/8 | 5YR6/8 | 良 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | | 精緻な指ナデ(磨滅) | 回転復元 | |
| 816 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 鉢 | (29.4) | (7.7) | | 2.5YR5/8 | (外側)2.5YR5/3 (中心)7.5YR6/4 | 良 | 密 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | | 精緻な指ナデ 片口部:指押さえのち指ナデ | 回転復元 | |
| 817 | 119 | 49 | I区 | 包含層 | 土師器 | 鉢 | (42.9) | (8.7) | | 5YR5/8 | 2.5YR6/8 | やや不良 | 緻密(精製) 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 818 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (15.2) | (3.1) | | 5Y7/2 | 7.5YR7/4 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む他2~4mmの結晶片岩を若干含む | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 819 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (16.0) | (4.7) | | 2.5YR6/6 | 2.5YR6/6 | 良好 | 密 0.5~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | | | 体部:ハケのち板ナデ 頸部から口縁部:ハケの強い指ナデ | 回転復元 | |
| 820 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (18.0) | (4.1) | | 10YR7/4 | 10YR7/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒をやや多く含む | | | ハケ 頸部から口縁部: 強い指ナデ | 回転復元 | |
| 821 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (18.6) | (3.0) | | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | | | 磨滅により不明 | 回転復元 | |
| 822 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (23.4) | (7.9) | | 10YR5/4 | 10YR5/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm前後の黒色粒・産露母を多く含む | | | ハケ 頸部から口縁部: 強い指ナデ | 回転復元 | |
| 823 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (23.5) | (8.8) | | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | | ハケ 頸部及び口縁部: 強い指ナデ | 回転復元 | |

| 種文 番号 | 種図 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 選様名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色外調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 | |
|----------|----------|----------|-----|-----|-----|---------|-----------------|----------------|----------------|----------|----------|------|---|-----|---|-----------------------------------|----------------------|--|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | | |
| 824 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 壺 | (30.0) | (5.6) | | 7.5YR5/4 | 7.5YR7/2 | 良 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | ハケのち板ナデ | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 825 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 壺 | | | | 7.5YR4/4 | 2.5YR6/6 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | | 板ナデ(摩滅) | 把手部分外側: 強い指ナデ 内側:指押さえの強い指ナデ | 反転復元 | |
| 826 | 119 | | I区 | 包含層 | 土師器 | 瓿把手 | (現存長) (2.8) | (現存幅) (5.4) | (厚さ) (0.4) | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 良好 | 緻密(精製) | | | 摩滅により不明 | | |
| 827 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | (26.2) | (4.4) | | 10YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | ハケ | 強い指ナデ | 反転復元 | |
| 828 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | (27.6) | (5.25) | | 7.5YR6/4 | 7.5YR4/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の黒色粒をやや含む | | ハケ | 摩滅により不明 口縁部:強い指ナデ | 反転復元 | |
| 829 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | (26.3) | (3.4) | | 7.5YR6/4 | 5Y7/2 | 良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を大量に含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | ハケ | 強い指ナデ | 反転復元 | |
| 830 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | (27.8) | (5.25) | | 2.5Y7/4 | 7.5YR7/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 板ナデ | 強い指ナデ 指押さえのちハケ指ナデによる折り返し | 反転復元 | |
| 831 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | | | | 10YR8/3 | 10YR8/3 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | | 表面:強い指ナデ 裏面:ヘラ削り | | |
| 832 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | | | | 10YR5/3 | 2.5Y7/2 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | | 全面:ヘラ削りのち 精緻な指ナデ | | |
| 833 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | | | | 10YR6/4 | 5Y5/1 | やや不良 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | | 全面:ヘラ削りのち 指ナデ(摩滅) | | |
| 834 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (5.95) | (現存幅) (9.5) | (厚さ) (1.0) | 7.5YR4/4 | 2.5Y7/2 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 大損により不明 | 指押さえ | | |
| 835 | 120 | 49 | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (13.6) | (現存幅) (6.8) | (厚さ) (1.6) | 7.5YR5/4 | 7.5YR5/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒・益母母を大量に含む | | 指押さえのちハケ指ナデ | 指押さえのちハケ指ナデ | | |
| 836 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (8.4) | (現存幅) (6.6) | (厚さ) (1.4) | 5YR7/6 | 7.5YR8/6 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅 | ハケ | | |
| 837 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (5.9) | (現存幅) (7.2) | (厚さ) (1.7) | 7.5YR6/4 | 10YR7/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 摩滅 | ハケ | | |
| 838 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (7.3) | (現存幅) (4.5) | (厚さ) (1.2) | 10YR6/4 | 10YR7/4 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む他0.5mm程度の石英・長石粒を僅かに含む | | 摩滅 | 摩滅 | | |
| 839 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (現存長) (6.1) | (現存幅) (4.9) | (厚さ) (1.55) | 7.5YR5/4 | 10YR6/2 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を大量に含む | | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 | |
| 840 | 120 | | I区 | 包含層 | 土師質 | 甗 | (36.0) | (4.6) | | 7.5YR6/4 | 10Y6/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | ハケ | 下半:ハケ 口縁部:強い板ナデ | 反転復元 | |
| 841 | 120 | | I区 | 包含層 | 陶器 | 槽鉢 | (23.4) | (7.0) | | 2.5YR4/2 | 10R6/8 | 良好堅緻 | 緻密 0.5~3mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち9条以上 のおろし目 口縁部:おろし目を入れ たのち再度回転指ナデ | 回転指ナデ 回転指ナデのち 2条の沈線 | 反転復元 増産か | |
| 842 | 120 | | I区 | 包含層 | 陶器 | 槽鉢 | | | | N4/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 口縁部:2条の沈線 | 16C末~ 17C初頭 備前 | |
| 843 | 120 | | I区 | 包含層 | 須恵器 | 無台坏(G?) | (10.8) | (5.1) | (8.8) | N7/0 | 5Y6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 844 | 120 | | I区 | 包含層 | 須恵器 | 無台坏 | (11.8) | (4.2) | (6.8) | 5Y6/1 | 7.5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む 他カケレン石を僅かに含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 845 | 120 | | I区 | 包含層 | 須恵器 | 無台坏 | (13.0) | (3.7) | (8.9) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 | |
| 846 | 120 | 49 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 無台坏 | (12.2) | (4.15) | (9.0) | 10BG5/1 | 5B5/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | 1/4 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |

| 報文 番号 | 種別 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 速轉名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底徑 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--------|---------|---------------------------|---|--|----------|---------------------------------|---|-----------------------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 847 | 120 | 52 | I区 | 包含層 | 須惠器 | 無台坏 | | (0.9) | (13.0) | 7.5Y5/1 | 5GY5/1 | 10Y7/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ 見込「王」字刻印あり | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 927と同一 個体? |
| 848 | 120 | 54 | I区 | 包含層 | 須惠器 | 無台坏 | | (1.1) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | (外側)5Y6/1 (中心)5Y7/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち見込み に不定方向の指ナデ | 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 849 | 120 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (2.1) | (8.8) | 5G5/1 | 5G5/1 | 10BG6/1 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む 他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削りのち 不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 850 | 120 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | (12.8) | 4.4 | (9.9) | N7/0 | 7.5Y5/1 | (外側)2.5Y7/1 (内側)5PB6/1 (中心)5YR6/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち見込み に不定方向の指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 851 | 120 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | (13.9) | 3.2 | (9.6) | 5PB6/1 | 10BG6/1 | 10YR6/1 | 密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 852 | 120 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | (14.0) | (4.45) | (9.6) | N6/0 | 5PB5/1 | (外側)5PB5/1 (中心)5Y7/1 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 853 | 120 | 54 | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | (16.2) | 3.6 | (12.0) | N7/0 | 5PB7/1 | 5PB7/1 | 密 0.5mm以下の黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 854 | 120 | 49 | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | (16.6) | 3.5 | (12.4) | 10YR7/1 | 5Y5/1 | 2.5Y7/1 | 密 3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 1/4 | 回転指ナデのち不定方 向の指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 855 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.4) | (8.8) | 5Y7/1 | 10Y7/1 | (外側)10Y7/1 (内側)5Y7/1 (中心)5Y4/1 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む 他3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ(隆減) | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 856 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.6) | (8.8) | 10BG6/1 | 10BG5/1 | (外側)10BG5/1 (中心)10BG6/1 | 密 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 857 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.3) | (10.4) | 5PB6/1 | 5PB5/1 | 10Y6/1 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 858 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.4) | (10.1) | 2.5Y7/1 | 5Y8/1 | 5Y7/2 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁端部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 859 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.3) | (10.7) | 5B5/1 | 5B5/1 | (外側)5B5/1 (中心)5YR5/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 860 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.35) | (11.2) | 5PB7/1 | 5PB7/1 | 5PB6/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 861 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (2.2) | (11.5) | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 7.5YR6/1 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデのち不定方 向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 862 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (3.2) | (11.0) | N6/0 | N6/0 | N5/0 | 粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 863 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (2.2) | (11.8) | 10BG6/1 | 10BG6/1 | 10YR7/1 | 緻密 3mm前後の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち不定方 向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 864 | 121 | | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | (1.2) | (13.3) | 10BG5/1 | 10BG5/1 | (外側)N6/0 (中心)5YR6/2 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち見込み に不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 865 | 121 | 52 | I区 | 包含層 | 須惠器 | 高台付坏身 | | | 5B6/1 | 5B6/1 | (外側)5B6/1 (中心)2.5YR6/2 | 良好堅緻 緻密 2mm前後の長石粒を僅かに含む | | 不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部:回転 指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 | |

| 竣工 番号 | 植図 番号 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--------------|---------|----------|---------------------------|-----|----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|----|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 866 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (11.8) | (3.1) | | 5Y6/2 | N7/0 | 7.5Y6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 867 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (11.6) | (2.5) | | 5PB6/1 | 5PB7/1 | 3BC6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 868 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (12.4) | (2.4) | | 5Y7/1 | N6/0 | 5Y7/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 869 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (12.9) | (3.5) | | N7/0 | 10Y4/1 | N7/0 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 870 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (13.6) | (3.4) | | 5Y5/1 | 10Y3/1 | N7/0 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 871 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (13.4) | (2.3) | | 10YR6/1 | 10YR6/2 | 5Y7/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 二次焼成 (密熟)痕 あり | |
| 872 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (15.8) | (3.0) | | 5PB6/1 | 5PB5/1 | 2.5YR5/3 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 873 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (15.9) | (3.3) | | 5PB6/1 | 10GY4/1 | 2.5YR5/2 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 954と同一 個体か？ | |
| 874 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (16.4) | (2.7) | | 5PB6/1 | 10Y4/1 | (外側)5PB7/1 (中心)5R6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 948と同一 個体？ | |
| 875 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (15.8) | (3.5) | | 5PB6/1 | 5PB5/1 | 5PB6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 876 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (20.8) | (2.0) | | 5PB6/1 | 5PB6/1 | (外側)5PB6/1 (中心)5YR6/3 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 877 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (16.2) | (3.2) | | 5Y6/1 | 10Y6/1 | 5Y7/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 878 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 坏 | (18.4) | (3.5) | | N7/0 | N7/0 | N7/0 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 879 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (13.6) | 1.7 | (10.4) | N5/0 | 10BG5/1 | 5BC6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 880 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (13.0) | 2.0 | (8.8) | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 881 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (14.3) | 1.6 | (11.4) | 5Y6/1 | 7.5Y6/1 | 7.5Y6/1 | 1/3 | 回転指ナデ 見込：一文字の浅いヘラ 記号 | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 882 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (15.4) | (2.2) | (13.1) | 5Y6/1 | 5Y7/1 | (外側)5Y6/1 (中心)7.5YR6/3 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 883 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (15.4) | 1.95 | (12.4) | 10BG5/1 | 5B5/1 | 5P6/1 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 884 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 皿 | (16.8) | (1.65) | (12.9) | 10YR6/4 | 2.5Y5/3 | 2.5Y7/3 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：刺磨により不明 | 反転復元 | |
| 885 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台皿 | (16.7) | 2.0 | (12.7) | 5Y7/2 | 5Y7/2 | 5Y7/2 | | 回転指ナデ 見込：1.5mm印刷あり | 回転指ナデ 底部：回転ヘラ削り | 反転復元 928と同一 個体？ | |
| 886 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 皿C | (17.0) | (2.3) | | 5B5/1 | 5B5/1 | 5B6/1 | | 回転指ナデのうち 口縁直下に1条の沈線 | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 887 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 皿C | (19.3) | (1.9) | | 10GY5/1 | 2.5GY5/1 | 10GY6/1 | | 回転指ナデのうち 口縁直下に1条の沈線 | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 888 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 皿C | (19.6) | (2.0) | | 5B4/1 | 5B4/1 | 5B4/1 | | 回転指ナデのうち 口縁直下に1.5条の沈線 | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 889 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 無台埴 | (12.3) | 4.2 | (8.9) | 5Y5/1 | 5Y5/1 | (外側)2.5Y6/1 (中心)5Y5/1 | 1/4 | 回転指ナデ | 回転指ナデ 底部：ヘラ切のち不定 方向の指ナデ | 反転復元 | |
| 890 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | | (1.7) | (横み径) 1.5 | 10BC6/1 | 10BG5/1 | 10BG7/1 | | 回転指ナデのうち 不方向の指ナデ | 回転指ナデ | | |

| 報文 番号 | 挿入 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 断 | 焼成 | 胎土 | 残存品 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|-----|-----|-------|--------|--------|---------------|---------|---------------------------|--------------------------|------|------------------------------|-----|---------------------------|-----------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内 | 外 | |
| 891 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.35) | (幅み径) 1.95 | 7.5Y5/1 | 7.5Y4/2 | N6/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:受 煎による剥落跡あり | 反転復元 |
| 892 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.8) | (幅み径) 2.4 | 5Y7/1 | 2.5Y7/2 | 5Y8/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 補綴座? |
| 893 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.35) | (幅み径) 2.4 | N6/0 | N6/0 | N7/0 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 894 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.3) | (幅み径) 2.8 | 5Y6/1 | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 微み頂部:回転指ナデ | |
| 895 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.5) | (幅み径) 2.6 | 10Y6/1 | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | |
| 896 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.3) | (幅み径) 3.4 | N7/0 | N6/0 | 2.5Y8/1 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | |
| 897 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.8) | (幅み径) 1.6 | 5PB7/1 | 5B6/1 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 天井部:回転ヘラ削り | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 898 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.55) | (幅み径) 2.8 | N7/0 | 2.5Y7/1 | N7/0 | やや不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に含む | | 天井部:回転ヘラ削り | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 899 | 121 | 49 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (12.3) | 2.1 | (幅み径) 1.9 | 5PB7/1 | 5Y6/1 | (外側)5Y7/1 (中心)5Y7/0 | 良好 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒をやや含む | 1/3 | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 900 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (2.0) | (幅み径) 3.1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 天井部:回転ヘラ削り | 天井部:回転ヘラ削り | |
| 901 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.8) | (幅み径) 3.55 | 2.5Y6/1 | N6/0 | (外側)N7/0 (中心)2.5Y7/1 | 良好 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 902 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (2.75) | (幅み径) 3.1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 903 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (16.4) | (3.7) | (幅み径) 2.8 | N6/0 | 7.5Y5/1 | 7.5Y6/1 | 良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | 1/4 | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 904 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (10.0) | (1.35) | | N7/0 | N7/0 (自然軸)10Y4/2 | 2.5Y7/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む | 1/3 | 自然軸により不明 | 自然軸により不明 | 反転復元 |
| 905 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (12.7) | (1.6) | | N6/0 | 2.5Y5/1 | (外側)08G6/1 (中心)08G6/2 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 906 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (13.0) | (1.2) | | 7.5Y5/1 | 10BG6/1 | (外側)08G6/1 (中心)5Y8S/1 | 良好 | 微密 | 1/6 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 907 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (13.0) | (1.4) | | 5PB7/1 | 5B5/1 (自然軸) 7.5Y3/2 | 5Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | 1/4 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 908 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (13.8) | (1.4) | | N7/0 | 5Y6/1 | N7/0 | やや不良 | やや粗 0.5~5mmの石英・黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 909 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (13.3) | (1.2) | | 7.5Y5/1 | 10BG5/1 | 7.5Y6/1 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒をやや多く含む | 1/5 | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 回転指ナデのうち天井部 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 910 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (15.5) | (1.8) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 不良 | 粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を多く含む | 1/5 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 911 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | | (1.7) | | 5Y6/1 | N6/0 | 5Y6/1 | 不良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 912 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (16.0) | (2.1) | | 7.5Y6/1 | 5G6/1 | 10Y6/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 913 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (17.4) | (2.3) | | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良 | 粗 0.5mm前後の長石粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 914 | 121 | | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付杯蓋 | (18.0) | (1.2) | | 2.5Y6/4 | 2.5Y7/3 | 2.5Y7/3 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |

| 報文 番号 | 挿入 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|-----|-----|-----|-------|--------|--------|--------|----------|----------------------------|------|---|-----|----------|---|------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 915 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (11.8) | (1.7) | | N7/0 | N7/0 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む他0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 916 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (18.3) | (1.8) | | 10C5/1 | 10C5/1 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデのうち天井部に回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 917 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (19.1) | (2.0) | | N6/0 | N6/0 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデのうち天井部に回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 918 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (19.8) | (1.1) | | 5P85/1 | 7.5YR5/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデのうち天井部に不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 919 | 121 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 高台付坏蓋 | (22.3) | (2.0) | | 5C6/1 | 2.5C16/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデのうち天井部に不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 920 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 鉢形土器 | | (7.1) | | 5PB6/2 | 5PB7/1 | 良好 | 緻密 0.5~1mmの黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 |
| 921 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | (8.4) | (4.9) | | 5PB6/1 | 5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 中央付近に浅い条の沈線 | 反転復元 |
| 922 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | (6.7) | (3.9) | | 10BC6/1 | 5B6/1 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 接合部付近に5条のヘラ記号 | 反転復元 |
| 923 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | (8.9) | (2.3) | | N6/0 | 2.5GY4/1 | 良好堅緻 | 密 | | 回転指ナデ | 口縁端部; 回転指ナデ | 反転復元 |
| 924 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | | (5.6) | | 5PB6/1 | 5B5/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 925 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 長頸壺 | | (8.4) | | N6/0 | 2.5Y7/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 頭部中央に残り条の沈線 | 反転復元 |
| 926 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | (13.8) | (1.8) | | 7.5YR5/3 | 7.5YR6/2 | 良好堅緻 | 緻密 0.5~3mmの黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 927 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 短頸壺 | (12.1) | (1.9) | | 10YR6/4 | 5V6/1 | やや不良 | やや粗 0.5~3mmの黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 928 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 短頸壺 | (13.7) | (1.8) | | N7/0 | N7/0 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの黒色粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 929 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | | (3.1) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 天井部; 回転ヘラ削り 底部; 回転指ナデ | 反転復元 |
| 930 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 短頸壺 | (9.8) | (2.4) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 (自然軸) 10Y3/2 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ 層部; 自然軸付着 | 反転復元 |
| 931 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 短頸壺 | (12.5) | (5.2) | | 5PB7/1 | (外側)10YR6/1 (中心)10YR8/1 | 良好堅緻 | 緻密 1mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 |
| 932 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | | (5.8) | | N7/0 | 10BG5/1 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部; 精緻な回転ヘラ削り 層部; 回転指ナデ | 反転復元 |
| 933 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | | (5.4) | (9.8) | N5/0 | 10BG4/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部; 精緻な回転ヘラ削り のち上半のみ不定方向の指ナデ 底部; 回転ヘラ削りのち不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 934 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺? | | (2.9) | (9.4) | 7.5YR7/1 | 10GY4/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 体部; 回転指ナデ 底部; 回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 935 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺 | | (3.1) | (13.2) | 5PB6/1 | (外側)5PB7/1 (中心)5YR6/2 | 良好堅緻 | 密 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 体部; 格子目タキのち 回転指ナデ 底部; 回転ヘラ削りのち不定方向の指ナデ | 反転復元 |
| 936 | 122 | I区 | 包含層 | 須臾器 | 壺? | | (1.65) | (4.8) | N4/0 | 2.5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 体部; 不連続な回転ヘラ削り 底部; 回転ヘラ削り(煤体付着により不明瞭); 底部付近に把手状の突起物 | 反転復元 |

| 調査区 | 調査区 | 取得名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色調 | | 断面 | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|-----|-----|-----|-----|------------|-----------------|---------|--------|--------------------------|---|-----------------|-------------|--|-----|--|-----------------------|----|
| | | | | | | | | 内 | 外 | | | | | 内面 | 外面 | |
| 937 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 葦底部? | (2.7) | (6.9) | 5B5/1 | 5B5/1 | 5B5/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をややく含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底面: 回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 938 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付蓋 | (6.5) | (6.6) | N6/0 10CY4/1 | 2.5YR6/1 | 2.5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底面: 回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 939 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付蓋 | (3.7) | (10.2) | N7/0 (自然釉) 7.5Y4/2 | N7/0 | 5YR6/1 | 良 | やや粗 1~3mmの石英・長石粒を若干含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底面: 回転ヘラ削りのち不定方向の精緻な指ナデ | 反転復元 | |
| 940 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | (4.8) | (4.8) | 5Y6/1 | 10YR6/1 | 10YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 口縁部: 強い回転指ナデ 自然釉付着 | 反転復元 | |
| 941 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | (4.2) | (4.2) | 5PB6/1 | 5Y8/1 | 5Y8/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をややく含む他5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 | |
| 942 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | (5.3) | (5.3) | N7/0 | (外側)5B7/1 (中心)5YR6/1 | 2.5Y6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・赤色粒を若干含む | | 体部: タタキのちカキ目 頸部: 強い回転指ナデ 側面: 側面: ヘラ削り | 反転復元 | |
| 943 | 122 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 提瓶把手? | | | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良好堅緻 | 緻密 | | 側面: 側面: ヘラ削り | | |
| 944 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 B類 | 無台坏 | 2.9 | 6.1 | 5Y3/1 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好堅緻 く含む | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をややく含む | | 体部: ヘラミガキ 見込: ヘラミガキ (磨滅) | | |
| 945 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 B類 | 無台坏 | (1.3) | (1.4) | 5Y3/1 | 5Y4/1 | 5Y4/1 | 良好 | 密 0.5~1mmの石英・長石粒をややく含む | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 946 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 B類 | 坑 | (3.4) | (3.4) | 5Y2/1 | 5Y5/1 | 5Y5/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒・金雲母を少し含む | | ヘラミガキ | 反転復元 | |
| 947 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 A類 | 高台付坑 | (1.2) | (6.6) | 10YR5/3 | 7.5Y3/1 | 7.5YR6/4 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を多く含む | | ヘラミガキ (磨滅) | 反転復元 | |
| 948 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 A類 | 高台付坑 | (2.0) | (7.5) | 5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 949 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 A類 | 高台付坑 | (1.3) | (8.6) | 2.5Y7/3 | 2.5Y4/1 | 5Y5/1 | やや不良 | 密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む他2mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 950 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 B類 | 高台付坑 | (1.3) | | 10Y2/1 | 10Y2/1 | 10Y2/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 体部: ヘラミガキ 高台貼り付け部: 2条の 沈澱を入れて後台強度 を計る 底面: 指ナデ | 反転復元 | |
| 951 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (22.8) | (3.2) | 5Y3/1 | (外側)5Y3/1 (内側)5YR4/6 (中心)7.5YR7/1 | 5YR4/6 5Y3/1 | 良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の金雲母を大量に含む | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 952 | 122 | I区 | 包含層 | 黒色土器 A類 | 鉢 | (23.4) | (3.9) | 7.5Y3/1 | 7.5YR4/6 | 5Y6/1 | 良 | やや粗 1mm前後の石英・長石粒を多く含む他0.5mm以下の金雲母を大量に含む | | 磨滅により不明 | 反転復元 | |
| 953 | 122 | I区 | 包含層 | 緑釉陶器 | 耳皿 | (2.4) | (2.4) | 7.5Y3/2 | N6/0 (釉)7.5Y5/2 | N6/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ | 883と同一 個体? | |
| 954 | 122 | I区 | 包含層 | 緑釉陶器 | 耳皿 | (2.0) | (4.3) | 7.5Y3/2 | N6/0 (釉)7.5Y5/2 | N6/0 | 良好堅緻 | 緻密 0.5mm以下の黒色粒を大量に含む | | 回転指ナデ 底面: 糸切り | 反転復元 884と同一 個体? | |
| 955 | 122 | 50 | 包含層 | 瓦器 | 無台坑 | (4.0) | (6.2) | 5Y7/1 | 5Y7/1 N4/0 | 5Y7/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む他0.5mm以下の黒色粒を僅かに含む | 1/3 | 体部: 回転指ナデ 底面: 回転ヘラ削り | 反転復元 | |
| 956 | 122 | 50 | 包含層 | 丸瓦 | (現存長) (14.3) | (14.05) | (1.3) | 10YR7/3 | 2.5Y7/3 | 10YR7/4 | 不良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む他4~6mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 表面: 磨滅により不明 精緻なヘラ削りか? | | |
| 957 | 122 | I区 | 包含層 | 不明 土製品 | (現存長) (10.0) | (5.8) | | 5YR5/4 | 5YR5/4 | 2.5YR4/6 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む他5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 指ナデ | | |

| 調査区 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 | 色外調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形調整の特徴 | | 備考 |
|-----|------|--------|------|-------|-----------------|----------------|---------------|------------------|----------------------------|---------------|---|-----|-------------------------------------|----|-----------------------|
| | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内面 | 外面 | |
| 958 | I区 | 包含層 | | ろっぽ | (10.1) | (3.2) | | 10Y7/1 10Y2/1 | 5PB6/1 | 良好 緻(二次焼成) | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含む | | 付着物により不明 | | 反転復元 |
| 959 | I区 | 包含層 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) (6.55) | (現存幅) (1.3) | (厚さ) (1.2) | 2.5Y6/3 | 10Y6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む他同程度の黒色粒を大量に含む | | 精緻な指ナデ | | |
| 960 | I区 | 包含層 | 土師器 | 棒状土埴 | (現存長) 10.7 | (現存幅) 1.4 | (厚さ) 1.3 | 10Y6/4 | | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | 1/1 | 精緻な指ナデ | | |
| 961 | I区-① | トレンチ掘削 | 土師器 | 無台坏 | (17.3) | (5.1) | (12.9) | 2.5Y7/3 | (外側)2.5Y7/3 (中心)10CY2/1 | 良好 | 密 | 1/5 | ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | | 反転復元 |
| 962 | I区-① | トレンチ掘削 | 土師器 | 坏 | (23.4) | (4.0) | | 7.5YR8/2 | 7.5YR8/2 | 良好 | 緻密(精製) | | ヘラミガキ | | 反転復元 |
| 963 | I区-① | トレンチ掘削 | 土師器 | 高台付坏蓋 | (14.1) | (2.4) | (狭み径) 3.1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 天井部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 964 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 無台坏 | (6.4) | 3.55 | (6.4) | 5PB6/1 | 5PB7/1 | 良好 | 密 | 1/6 | 体部:回転指ナデ 底部:回転指ナデのち 不定方向の指ナデ | | 反転復元 |
| 965 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 無台坏 | (8.0) | (3.1) | (8.0) | N6/0 | N7/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 966 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏身 | (10.2) | (1.45) | (10.2) | 2.5Y5/1 | 5Y6/1 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒をやや多く含む他黒色粒を若干含む | | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 967 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏身 | (10.9) | (1.8) | (10.9) | 2.5GY5/1 | 2.5GY5/1 | やや不良 | 密 0.5mm前後の長石粒を僅かに含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 968 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏身 | (10.3) | (1.8) | (10.3) | N7/0 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 969 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏身 | (10.9) | (2.1) | (10.9) | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を 若干含む他2mm前後の石英粒を僅かに含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ(磨滅) 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 970 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏身 | (13.7) | (2.0) | (13.7) | N6/0 | N6/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | | 反転復元 760と同一 個体? |
| 971 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 坏 | (17.4) | (3.2) | | N6/0 | N7/0 | 良 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 760と同一 個体? |
| 972 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (2.5) | (2.5) | (狭み径) 3.05 | 2.5Y6/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 天井部:回転ヘラ削り | | 反転復元 |
| 973 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.2) | (1.1) | | N5/0 | N6/0 | 良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 974 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.8) | (0.8) | | N6/0 | N6/0 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 975 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (16.1) | (2.7) | | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | 1/5 | 回転指ナデのち天井部 に不定方向の指ナデ | | 反転復元 |
| 976 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (19.5) | (1.6) | | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | やや不良 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 977 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (19.9) | (0.7) | | N6/0 | 10C6/1 | 良好 | やや粗 0.5mm以下の長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 978 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 壺 | (10.8) | (6.1) | | 5B6/1 | 10BG7/1 | 良好堅緻 | 密 | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 979 | I区-① | トレンチ掘削 | 須恵器 | 壺 | (10.7) | (2.9) | | N6/0 | N6/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm以下の黒色粒を多く含む | | 回転指ナデ | | 反転復元 |
| 980 | II区 | 包含層 | 弥生土器 | 小形丸底壺 | (9.0) | (8.9) | | 10YR7/3 | N4/0 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | 1/3 | 体部:指押さえのち 指ナデ 肩部から口縁部:板ナデ | | 反転復元 |

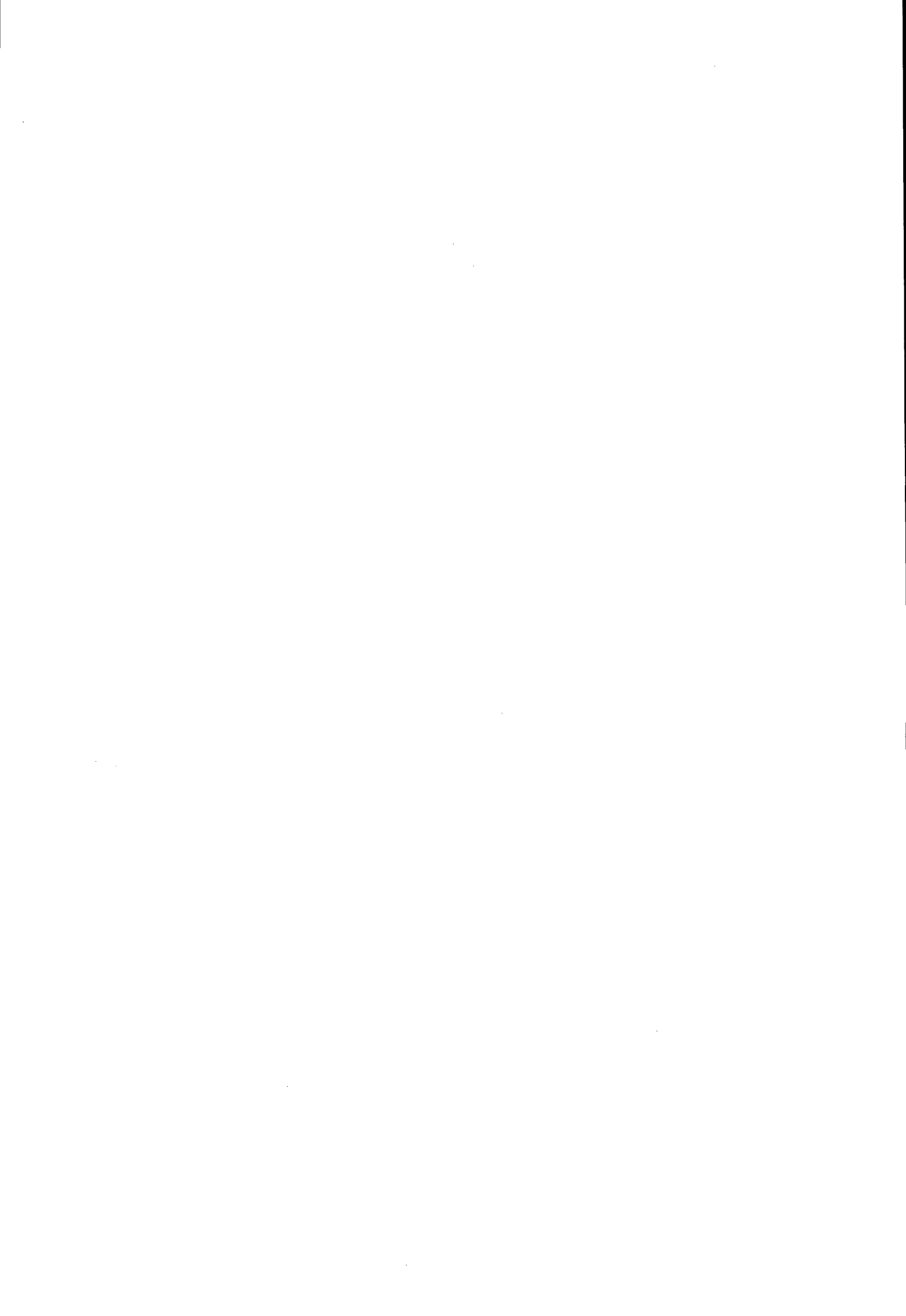
| 編 号 | 種 類 | 写 真 番 号 | 調 査 区 画 | 遺 構 名 | 種 別 | 器 種 | 口 径 (cm) | 器 高 | 底 径 | 色 外 調 | | 焼 成 | 胎 土 | 残 存 量 | 整 形 ・ 調 整 の 特 徴 | | 備 考 |
|--------|--------|------------------|------------------|-------------|--------|-----------------|-----------------|----------------|----------|-------------|----------------------------|--------|---|-------------|---|--|--------|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 面 | 外 面 | |
| 981 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 無台杯 | (1.5.6) | (3.0) | (12.3) | 7.5YR5/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を 多く含む他0.5mm以下の黒色粒を若干 含む | 1/4 | ヘラミガキ(磨滅) 赤色顔料塗布 | 体部: 不連続な回転指ナデ 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 982 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 無台杯 | (20.4) | (4.2) | | 2.5YR5/6 | 5YR4/6 | 2.5YR5/6 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色 粒を若干含む | | ヘラミガキ(磨滅) | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 983 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 高台付杯身 | (15.9) | 3.25 | (12.0) | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 10YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干 含む | | 不連続な回転指ナデ 赤色顔料塗布 | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 984 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 杯 | (12.9) | (2.9) | | 7.5YR7/6 | 5YR7/6 | 7.5YR7/6 | やや不良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに 含む | | ヘラミガキ(磨滅) | ヘラミガキ(磨滅) | 反転復元 |
| 985 | 123 | II区 | 包含層 | 回転土師器 | 杯 | (13.3) | (3.2) | | 2.5Y6/2 | 10YR8/2 | 2.5Y7/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの赤色粒をやや多く 含む | | 回転指ナデ(磨滅) | 回転指ナデ(磨滅) | 反転復元 |
| 986 | 123 | II区 | 包含層 | 回転土師器 | 杯 | (13.9) | (3.4) | | 2.5Y8/2 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒をやや多く 含む | | 回転指ナデ(磨滅) | 回転指ナデ(磨滅) | 反転復元 |
| 987 | 123 | 50 | 包含層 | 土師器 | 無台杯 | (21.1) | 3.1 | (18.3) | 2.5YR4/8 | 10YR6/4 | 5YR6/4 | 良好 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに 含む | 2/3 | ヘラミガキのうち見込に らせん状暗文 体部:放射状暗文(磨滅) 赤色顔料塗布 | 体部:ヘラミガキ(磨滅) 底部:手持ちヘラ削り 赤色顔料塗布 | 反転復元 |
| 988 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 無台皿 | (13.7) | 1.85 | (10.5) | 10YR8/2 | 7.5YR7/4 | 5Y7/1 | やや不良 | 密 | 1/4 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 989 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 高台付碗 | | (2.9) | (7.6) | 2.5Y5/2 | 2.5YR5/6 | 10R5/6 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を 多く含む他0.5mm以下の金雲母を大量に 含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 990 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 皿蓋 | | (1.3) | (摘み径) 3.1 | 5YR5/6 | 10YR7/4 | (外側)5YR5/6 (中心)10YR8/3 | やや不良 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を僅かに 含む | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | |
| 991 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 壺 | (19.2) | (6.0) | | 10YR6/4 | 2.5YR4/8 | 2.5YR5/8 | 良好 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に含 む他2mm前後の長石粒の比率が比較的 高い | | 板ナデ | 体部:ハケ 頸部から口縁端部: 指ナデ | 反転復元 |
| 992 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 壺 | (19.4) | (6.35) | | 10YR6/2 | 5YR6/6 | (外側)5YR6/6 (中心)2.5YR5/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 体部:板ナデ 頸部から口縁端部: 指ナデ | 体部:ハケ 頸部から口縁端部: 指ナデ | 反転復元 |
| 993 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 壺 | (26.9) | (4.2) | | 10YR7/3 | 7.5YR7/6 | 2.5Y7/2 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 994 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 瓶 | (25.0) | (13.0) | | 10YR7/4 | 7.5YR7/4 | 10BG5/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む他8mm前後の石英・長石粒を僅かに 含む | | 指ナデ | ハケ | 反転復元 |
| 995 | 123 | II区 | 包含層 | 土師器 | 瓶 | | (14.2) | | 10YR8/4 | 5YR5/4 | 2.5Y5/1 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む他8mm前後の石英・長石粒を僅かに 含む | | 指ナデ | ハケ | 反転復元 |
| 996 | 123 | II区 | 包含層 | 土師質 | 匚 | (現存長) (10.5) | (現存幅) (9.0) | (厚さ) (1.65) | 10YR6/4 | 10YR5/3 | 10YR6/4 | 良 | 粗 0.5~3mmの石英・長石粒を多く含む | | 板ナデ | 磨滅 | |
| 997 | 123 | II区 | 包含層 | 土師質 | 匚 | (現存長) (11.3) | (現存幅) (8.8) | (厚さ) (1.6) | 7.5YR5/4 | 10YR5/4 | 10YR6/4 | 良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く 含む他3~5mmの石英・長石粒を多く 含む | | 板ナデ | ハケ | |
| 998 | 124 | II区 | 包含層 | 土師質 | 匚 | (現存長) (11.4) | (現存幅) (12.0) | (厚さ) (1.3) | 10YR7/3 | 10YR8/4 | N5/0 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大量に 含む | | 指ナデのち板ナデ | 指ナデ、指押さえのち ハケ | |
| 999 | 124 | II区 | 包含層 | 土師質 | 匚 | (現存長) (11.6) | (現存幅) (8.2) | (厚さ) (1.6) | 10YR5/4 | 10YR6/4 | 10YR6/3 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く 含む他3mm前後の石英・長石粒を多く 含む | | 裏面:ハケ(磨滅) | 正面:指押さえのちハケ | |
| 1000 | 124 | II区 | 包含層 | 土師質 | 匚 | (現存長) (14.9) | (現存幅) (6.2) | (厚さ) (1.3) | 10YR5/4 | 10YR4/4 | 10YR5/4 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多 く含む他3mm前後の石英・長石粒を若干 含む | | 強い指ナデ | ハケ | |
| 1001 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台杯 | (12.) | (3.9) | (8.3) | 5P7/1 | 2.5Y7/1 | N7/0 | 良 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1002 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台杯 | (13.2) | 3.1 | (9.0) | N5/0 | 7.5Y5/1 | (外側)7.5Y7/1 (中心)10R6/1 | 良好 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | 1/3 | 回転指ナデのうち中央付 近に不定方向の指ナデ | 体部:回転ヘラ削り 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |

| 観文 番号 | 種別 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 口径 | 色 調 | | | 焼 成 | 胎 土 | 残存量 | 形 状・調整の特徴 | | 備 考 |
|----------|----------|----------|-----|-----|-------|--------|-------|-------------------|---------|----------|-------------------------|------|--|-----|----------------------|---------------------------------------|------------------------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断 | | | | 内 面 | 外 面 | |
| 1003 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台杯 | (9.0) | (2.9) | (9.0) | 5Y5/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 良好 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ 見込:不定方向の指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り 底縁と体部の境付近に沈線 | 反転復元 |
| 1004 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台杯 | (10.0) | (3.8) | (10.0) | 5Y8/1 | 7.5Y5/1 | 7.5Y5/1 | 不良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | | 回転指ナデ(摩滅) | 体部:回転指ナデ(摩滅) 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1005 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏身 | (11.6) | 4.8 | (8.7) | 2.5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや不良 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | 1/3 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁部部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1006 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏身 | (12.8) | 4.7 | (7.6) | 10BG5/1 | 10BG5/1 | 10BG5/1 | 良好 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石・黒色粒を僅かに含む | 1/5 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁部部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1007 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏身 | (13.0) | 4.45 | (9.0) | N7/0 | N7/0 | N7/0 | 良好堅緻 | やや粗 0.5~2mmの黒色粒を多く含む | | 回転指ナデのち見込に不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1008 | 124 | 54 | II区 | 包含層 | 須恵器 | | (1.6) | (7.9) | 2.5Y6/1 | 2.5Y7/1 | 2.5Y7/1 | 良 | やや粗 0.5~3mmの石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデのち見込に不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1009 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏身 | (10.4) | (1.5) | (10.4) | 5B5/1 | 2.5YR5/2 | 2.5YR5/2 | 良好堅緻 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1010 | 124 | 54 | II区 | 包含層 | 須恵器 | | (2.0) | (10.8) | 10CG5/1 | 10CG5/1 | 10CG5/1 | 良好堅緻 | 密 | 1/3 | 精緻な回転指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1011 | 124 | 54 | II区 | 包含層 | 須恵器 | | (1.0) | (12.5) | N6/0 | N7/0 | N7/0 | 良好 | 緻密 | | 回転指ナデのち見込に不定方向の指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1012 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏身 | (12.4) | (2.9) | (12.4) | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む他3mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 1/5 | 回転指ナデ | 高台周辺から体部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1013 | 124 | 50 54 | II区 | 包含層 | コップ形B | 10.1 | 7.6 | 5.6 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 5PB6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | 1/1 | 回転指ナデ | 高台周辺から口縁部部: 回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | |
| 1014 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (11.9) | (2.2) | (11.9) | 7.5Y5/1 | 10Y6/1 | 10Y6/1 | 良 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1015 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (11.9) | (2.6) | (11.9) | 2.5Y7/1 | N6/0 | 外側)5Y8/1 (中心)N6/0 | 良好 | 密 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 1062と同 一物体? |
| 1016 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (11.8) | (2.9) | (11.8) | 5PB6/1 | 2.5GY4/1 | 外側)N6/0 (中心)5YR5/1 | 良好堅緻 | 密 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1017 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (12.1) | (2.7) | (12.1) | 10Y7/1 | 10Y5/1 | 5Y7/1 | 良好 | 密 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 1061と同 一物体? |
| 1018 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (13.6) | (3.8) | (13.6) | 5Y7/1 | 2.5Y8/1 | 2.5Y8/1 | 良 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1019 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (14.7) | (3.7) | (14.7) | 5Y6/1 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや不良 | 密 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1020 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | (13.8) | (4.2) | (13.8) | 5PB7/1 | 5B5/1 | 5YR6/1 | 良好堅緻 | 緻密 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1021 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台皿 | (15.9) | (1.7) | (12.7) | 5Y5/1 | N6/0 | 7.5Y6/1 | 良 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1022 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 坑 | (23.0) | (2.9) | (23.0) | 10BG7/1 | 10BG4/1 | 5YR6/4 | 良好堅緻 | 緻密 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | | 精緻な回転指ナデ | 精緻な回転指ナデ | 反転復元 |
| 1023 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 杯H蓋 | (10.1) | (2.5) | (10.1) | 10CG5/1 | 10CG5/1 | 10CG5/1 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の長石粒を多く含む | | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 |
| 1024 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.5) | (10YR7/1 2.2) | N7/0 | 10YR7/1 | 外側)N7/0 (中心)7.5YR6/1 | 良好堅緻 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | | 回転指ナデのち見込に不定方向の指ナデ | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1025 | 124 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.1) | (10YR7/1 2.05) | N7/0 | 5Y6/1 | N7/0 | 良好 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒をやや多く含む | | 回転指ナデのち見込に不定方向の指ナデ | 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |

| 紙文 番号 | 種別 番号 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高 | 底径 (幅み径) | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 残存量 | 整形・調整の特徴 | | 備考 |
|----------|----------|----------|-----|-----|--------|-------|--------------|--------------|---------------|---------------------|---------------------|------------------------------|---|------------------------|-------------------|------|----|
| | | | | | | | | | | 内 | 外 | | | | 内 | 外 | |
| 1026 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.6) | (幅み径) 2.35 | 2.5CY6/1 | 10CY6/1 | N7/0 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | 回転指ナデ | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1027 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | | (1.3) | (幅み径) 1.75 | 5B6/1 | 5B5/1 | (外側)5B7/1 (中心)7.5YR5/2 | 緻密 0.5~1mmの石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデのち不定方向の指ナデ | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1028 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (13.2) | 2.0 | (幅み径) 2.05 | 10Y6/1 | 7.5Y6/1 | 7.5Y6/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデのち天井部:精緻な回転へラ削り | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1029 | 124 | 50 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | 13.7 | 2.2 | (幅み径) 1.5 | 5Y6/1 | 10B6G7/1 | 5Y7/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒をやや多く含む | 回転指ナデのち天井部:精緻な回転へラ削り | 天井部:精緻な回転へラ削り | | |
| 1030 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (12.0) | (1.3) | | 5Y6/1 | N6/0 | 7.5Y7/1 | 粗 0.5~1mmの石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデのち天井部:精緻な回転へラ削り | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1031 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (14.8) | (1.4) | | 5B4/1 | 10B6G5/1 | (外側)5B6/1 (中心)5YR6/2 | 緻密 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1032 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.0) | (1.4) | | 5Y6/2 | 5Y6/1 | 5Y6/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1033 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (15.6) | (2.3) | | 7.5Y5/1 5Y7/1 | 7.5Y5/1 | 7.5Y7/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を多く含む | 精緻な回転指ナデのち天井部:不定方向の指ナデ | 回転指ナデのち天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1034 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (17.9) | (1.15) | | N5/0 | 5G5/1 | 5G5/1 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む | 回転指ナデのち不定方向の指ナデへラ削り | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1035 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (12.7) | (2.8) | | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | やや粗 0.5~3mmの黒色粒を多く含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1036 | 124 | | II区 | 包含層 | 土師器 | 高台付坏蓋 | (15.0) | (2.4) | | 10YR7/3 | 10YR7/2 | 2.5Y7/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転へラ削りのち | 反転復元 | |
| 1037 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付坏蓋 | (19.9) | (1.45) | | N7/0 | 5Y5/2 | (外側)10B6G6/1 (中心)2.5YR6/1 | 緻密 0.5mm前後の石英・長石粒を僅かに含む | 回転指ナデのち天井部:回転へラ削り | 天井部:回転へラ削り | 反転復元 | |
| 1038 | 124 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | (11.4) | (4.9) | | N7/0 | N7/0 | 2.5Y8/1 | やや粗 0.5~1mmの石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1039 | 124 | 50 | II区 | 包含層 | 須恵器 | 水甌 | 3.6 | (8.4) | | 5Y7/1 | 5Y7/2 | 2.5Y8/1 | 緻密 | 精緻な回転指ナデをせん状の沈線 | 天井部:回転へラ削り | | |
| 1040 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 高台付壺 | | (6.6) | (9.5) | N6/0 | 7.5Y5/1 | (外側)10YR7/1 (中心)N6/0 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を若干含む | 回転指ナデ | 体部上半と高台周辺:回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1041 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 無台壺 | | (6.9) | (16.5) | N6/0 | 10B6G5/1 | N6/0 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石・黒色粒を若干含む | 回転指ナデ | 体部:精緻な回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1042 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | (24.0) | (3.6) | | 2.5YR5/1 | N5/0 | 10B6/1 | 緻密 | 回転指ナデ | 回転指ナデ | 反転復元 | |
| 1043 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | (22.0) | (8.85) | | 2.5Y8/1 | 5Y7/1 | 5Y8/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒を若干含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 1044 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | (31.4) | (3.7) | | 5Y4/1 | 2.5Y7/1 | (外側)10YR7/3 (中心)5Y7/1 | やや粗 0.5mm前後の石英・長石粒をやや多く含む | ハツのち強い指ナデ | 強い指ナデ | 反転復元 | |
| 1045 | 125 | | II区 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | (37.5) | (4.2) | | 5R7/1 | 5R7/1 | 5Y7/1 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他3~5mmの長石粒を僅かに含む | 回転指ナデ | 回転指ナデのち中央付近に波状文 | 反転復元 | |
| 1046 | 125 | | II区 | 包含層 | 青磁 | 高台付碗 | | (3.65) | (7.4) | 10Y5/2 | 10Y5/2 | 5Y7/1 | 緻密 | 施軸により不明 | 高台内部のみ蛇の目状細刺定 | 反転復元 | |
| 1047 | 125 | 50 | II区 | 包含層 | 土師器 | 蛸壺 | | (6.2) | | 7.5YR6/4 | 10YR5/4 | 7.5YR4/6 | 粗 0.5~2mmの石英・長石粒を大盛に含む他0.5mm以下の黒色粒を多く含む | 指押さえのち指ナデ | 指押さえのち指ナデ | | |
| 1048 | 125 | | II区 | 包含層 | 土師器 | 管状土埴 | (現存長) 5.2 | (現存幅) 2.3 | | 7.5YR6/6 2.5Y7/3 | 7.5YR6/6 2.5Y7/3 | | やや粗 0.5~2mmの石英・長石・黒色粒を多く含む | | 強い指ナデ | | |
| 1049 | 125 | | II区 | 包含層 | 黒色土器A類 | 鉢 | (19.4) | (3.6) | | 5Y3/1 | 5YR6/6 | 5YR6/6 | やや粗 0.5~2mmの石英・長石粒を多く含む他3mm前後の長石粒を僅かに含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |
| 1050 | 125 | | II区 | 包含層 | 黒色土器B類 | 埴 | (19.0) | (4.0) | | 5Y3/1 | 5Y4/1 | 2.5Y6/1 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | へラミガキ(摩滅) | へラミガキ(摩滅) | 反転復元 | |
| 1051 | 125 | | II区 | 包含層 | 黒色土器B類 | 埴 | (18.4) | (2.5) | | 5Y3/1 | 5Y4/1 | 5Y4/1 | やや粗 0.5mm以下の石英・長石粒をやや多く含む | 摩滅により不明 | 摩滅により不明 | 反転復元 | |

| 編 号 | 写 真 番 号 | 調 査 区 | 遺 構 名 | 種 別 | 器 種 | 口 径 (cm) | 器 高 | 底 径 | 色 調 | | | 焼 成 | 残 存 量 | 整形・調整の特徴 | | 備 考 |
|--------|------------------|-------------|-------------|------------|--------|----------------|--------|--------|----------|-------------------|----------------------------|-----|-------|-------------------|--------------------------------|------|
| | | | | | | | | | 内 | 外 | 断 | | | 内 面 | 外 面 | |
| 1052 | 125 | Ⅱ区 | 包含層 | 黒色土器 入埴 | 高台付埴 | | (1.8) | (7.3) | 7.5Y4/1 | 5YR5/6 | (外側)5YR5/6 (中心)7.5Y4/1 | 良 | | 磨滅により不明 | 磨滅により不明 | 反転復元 |
| 1053 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 弥生土器 | 鉢 | (10.6) | 6.2 | 2.2 | 2.5Y6/3 | 2.5Y6/3 | (外側)2.5Y6/3 (中心)2.5Y4/1 | 良好 | 1/2 | 指押さえのち板ナデ | 体部:指押さえのち指ナ デ 底部:指ナデ | 反転復元 |
| 1054 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 土師器 | 無台埴 | | (2.0) | (7.6) | 10YR7/4 | 10YR6/4 | 10YR7/4 | 良好 | | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り 板ナデ | 反転復元 |
| 1055 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 土師器 | 皿 | (24.4) | (1.9) | | 7.5YR4/4 | 7.5YR5/4 | 7.5YR6/4 | 良好 | | ヘラミガキ | 体部: 不連続な回転指ナデ 底部:手持ちヘラ削り | 反転復元 |
| 1056 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 須恵器 | 坏H蓋 | (15.8) | (3.2) | | 5B6/1 | 10BG7/1 | 10YR7/1 | 良好 | | 回転指ナデ | 回転指ナデ 天井部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1057 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 須恵器 | 坏H身 | (14.1) | (3.55) | (5.0) | N7/0 | 5Y7/1 | 5Y7/1 | 良 | 1/4 | 回転指ナデ | 体部:回転指ナデ 底部:回転ヘラ削り | 反転復元 |
| 1058 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 土師器 | 甕 | (30.9) | (5.2) | | 5YR6/4 | 5YR5/4 10YR5/2 | 10YR7/3 | 良 | | 体部:板ナデ 口縁部:指ナデ | 体部:ハケ 口縁部:指ナデ | 反転復元 |
| 1059 | 125 | Ⅲ区 | 包含層 | 土師質 | 土釜 | (25.4) | (8.2) | | 10YR8/3 | 2.5Y3/1 | 10YR8/2 | 良 | | 指ナデ | 指押さえのち指ナデ | 反転復元 |

No.928備考欄:927では不明であつた調整と刻印の前後関係はこの資料により全調整が終了したのちに施される事が判明



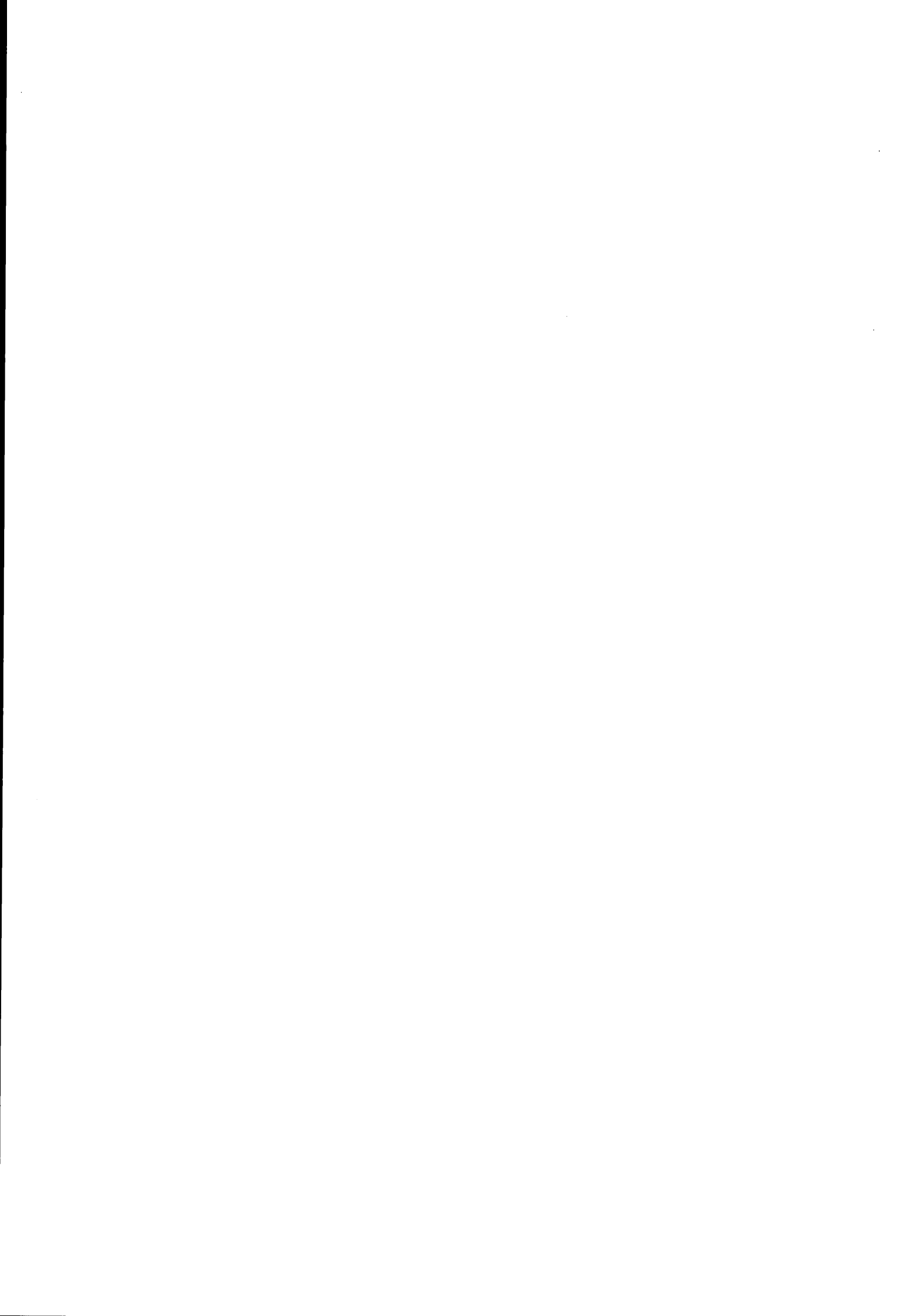
石器觀察表



| 遺物 番号 | 挿図 番号 | 図版 番号 | 器種 | 地区名 | 遺構名 | 長さ (mm) | 幅(mm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|----------|----------|----------|--------|--------|----------|------------|-------|--------|-------|------------------------------------|
| 1060 | 126 | 55 | 石鏃 | I区-③ | SD43 | 21.5 | 19.5 | 1.39 | サヌカイト | 素材の表裏にやや丁寧な調整・表裏共に素材面残置・先端部欠損 |
| 1061 | 126 | 55 | 石鏃 | II区-① | SD03 | 24.0 | 18.0 | 1.53 | サヌカイト | 素材の表裏に粗い調整・表裏共に素材面残置 |
| 1062 | 126 | 55 | 石鏃 | I区-① | 包含層 | 27.0 | 18.0 | 1.55 | サヌカイト | 素材全周からのやや精緻な調整・表裏に素材面残置・先端および両脚端を欠 |
| 1063 | 126 | 55 | 石鏃 | I区-③ | SR03 | 33.0 | 18.0 | 2.21 | サヌカイト | やや精緻な調整・表裏に素材面残置・先端および両脚端を欠損 |
| 1064 | 126 | 55 | 石匙 | I区-① | SR01 | 33.8 | 20.2 | 4.36 | サヌカイト | 表裏共に粗い調整・正面刃部にやや細かい調整 |
| 1065 | 126 | 55 | 石匙 | I区-① | SR01 | 48.5 | 47.5 | 17.69 | サヌカイト | 全体的に粗い調整・裏面刃部のみやや単位の細かい調整 |
| 1066 | 126 | 55 | スクレイパー | II区-① | 下層確認トレンチ | 31.5 | 83.0 | 25.98 | サヌカイト | |
| 1067 | 126 | 55 | 楔形石器 | I区-② | SD18 | 65.5 | 72.0 | 77.35 | サヌカイト | |
| 1068 | 126 | 55 | 剥片 | I区-③ | SR03 | 14.2 | 21.5 | 1.31 | サヌカイト | |
| 1069 | 126 | 55 | 剥片 | I区-② | SD18 | 27.0 | 20.0 | 1.91 | サヌカイト | |
| 1070 | 126 | 55 | 剥片 | I区-③ | 下層確認トレンチ | 56.5 | 44.0 | 21.48 | サヌカイト | |
| 1071 | 126 | 55 | 剥片 | I区-③ | SR03 | 56.0 | 37.5 | 11.57 | サヌカイト | |
| 1072 | 127 | 56上 | 火打石 | I区-② | SR01 | 17.5 | 12.0 | 2.78 | チャート | |
| 1073 | 127 | 56上 | 火打石 | I区-② | SR01 | 23.0 | 17.5 | 5.69 | チャート | |
| 1074 | 127 | 56上 | 火打石 | III区-① | SX01 | 23.0 | 17.5 | 1.64 | サヌカイト | |
| 1075 | 127 | 56上 | 火打石 | I区-③ | 包含層 | 28.0 | 37.8 | 31.86 | 珪化木 | |
| 1076 | 127 | 56上 | 凹石 | I区-③ | SD18 | 76.0 | 53.5 | 237.79 | 凝灰岩 | |
| 1077 | 127 | 56上 | 砥石 | I区-② | SD04 | 89.0 | 115.5 | 542.73 | 砂岩 | |



木製品觀察表



| 遺物 番号 | 挿図 番号 | 図版 番号 | 器種 | 現存長(mm) | 最大幅(mm) | 最大幅(mm) | 木取り | 備考 |
|----------|----------|----------|----|---------|---------|---------|-----|------|
| 1078 | 128 | 56下 | 斎串 | 134.0 | 17.0 | 2.0 | 板目 | |
| 1079 | 128 | 56下 | 斎串 | 138.0 | 17.0 | 2.0 | 板目 | 墨書あり |
| 1080 | 128 | 56下 | 斎串 | 132.0 | 14.0 | 2.0 | 板目 | 墨書あり |
| 1081 | 128 | 56下 | 斎串 | 152.0 | 15.0 | 3.0 | 柁目 | |
| 1082 | 128 | 56下 | 斎串 | 108.0 | 17.0 | 3.0 | 板目 | |
| 1083 | 128 | 56下 | 斎串 | 106.0 | 16.0 | 3.0 | 柁目 | |
| 1084 | 128 | 56下 | 曲物 | 93.0 | 29.0 | 5.0 | 柁目 | |
| 1085 | 128 | 56下 | 曲物 | 83.0 | 40.0 | 6.0 | 柁目 | |
| 1086 | 128 | 56下 | 曲物 | 122.0 | 71.0 | 5.0 | 板目 | |

版 图



I区-① 全景



I区-② 全景



I区-③ 全景



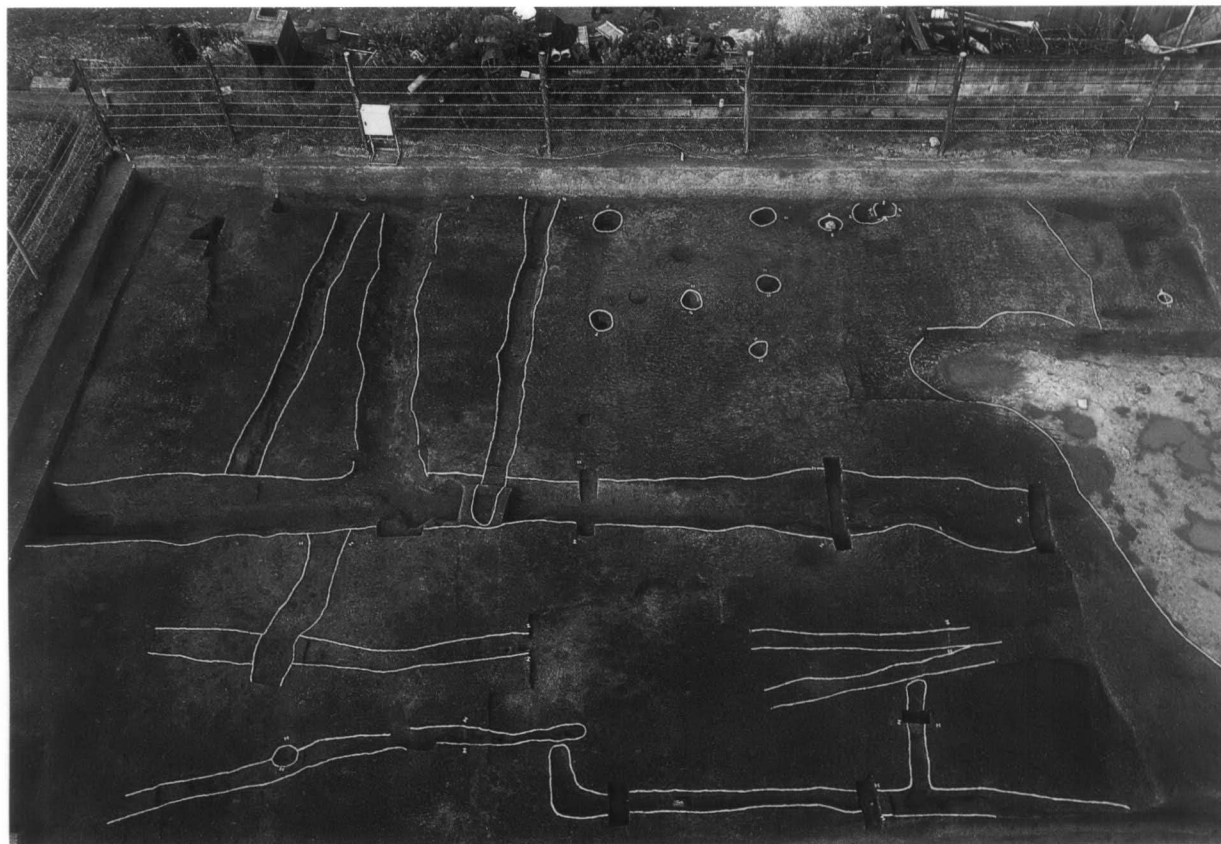
II区-①·III区-① 全景



II区一② 全景



III区一② 全景



I区一① 南西部 全景 (東上から)



I区一① 南半部 全景 (北東上から)



I区-② 南半部 全景 (東から)



I区-② 北半部 全景 (東から)



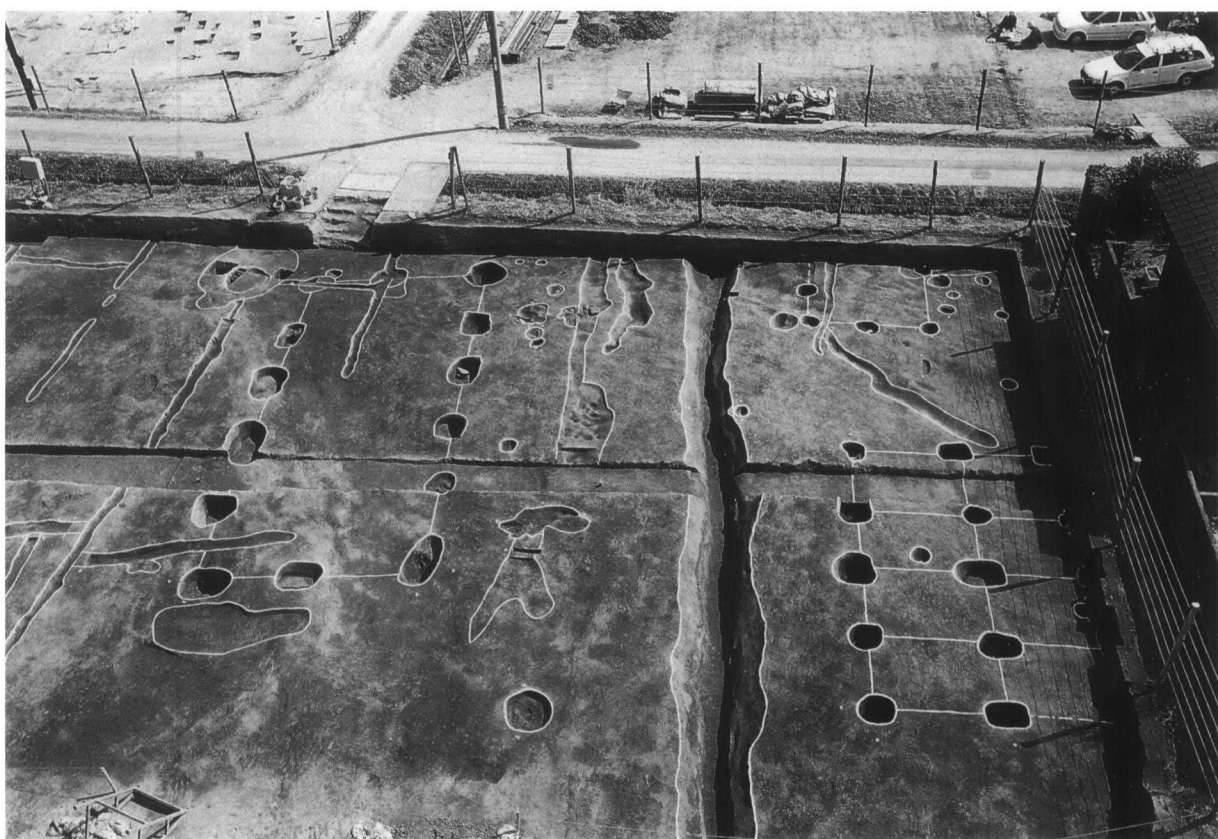
I区-③ 遺構検出状況 (東から)



I区-③ 北半部 全景 (西から)



I 区一③ 南半部 全景 (北西から)



I 区一③ 南半部 全景 (西から)



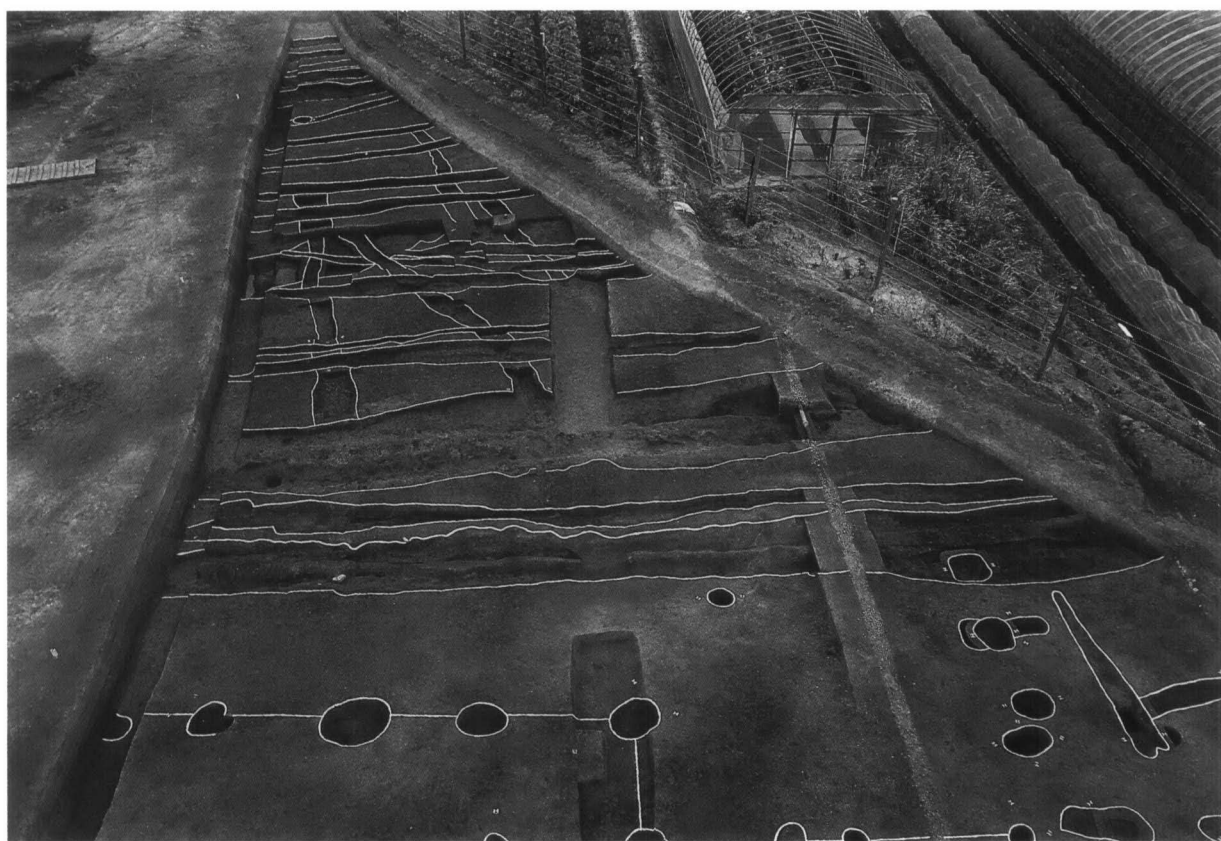
Ⅱ区一① 全景 (南から)



Ⅱ区一① 全景 (西から)



Ⅱ区一② 全景 (南上から)



Ⅱ区一② 北半部 全景 (南上から)



Ⅲ区 全景（西から）



Ⅲ区 全景（南西から）



Ⅲ区一② 全景（西から）



Ⅲ区一② 全景（南から）



I区一① 西壁土層（東から）



I区一① 西壁土層（東から）